

一般国道8号  
柏崎バイパス関係発掘調査報告書XV

丘江遺跡I

2018

新潟県教育委員会  
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道8号  
柏崎バイパス関係発掘調査報告書XV

おかえ  
丘江遺跡I

2018

新潟県教育委員会  
公益財團法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

## 序

一般国道8号は新潟市を起点とし、日本海沿いに北陸地方を縦断し、京都市に至る総距離561.2kmの主要幹線道路です。新潟県と北陸地方及び京阪神地方を結ぶとともに、新潟県の産業・経済・文化的交流・発展に大きな役割を果たしています。

しかし、現在の柏崎市域では、市街地化の進展及び交通需要の増加に伴い、慢性的な交通混雑を引き起こしています。柏崎バイパス建設事業は、このような問題を解決し、柏崎市内の安全で円滑な交通の確保と、地域開発の支援などを目的に計画されました。

本書は、この柏崎バイパスの建設に先立ち、2014年度に実施した丘江遺跡の発掘調査報告書です。

丘江遺跡は中世・近世の集落遺跡で、集落域に隣接して生産域（水田）も見つかりました。集落と水田が隣接する当時の景観がうかがえます。また中世の井戸からは、土師器の皿が17枚まとめて出土し、その多くが破損のない完形品でした。井戸を埋め戻す際の祭祀で使用した土師器の皿を、まとめて投げ込んだ可能性があります。そのほか破片ですが茶臼も出土しており、注目されます。

発掘調査で得られた資料や本報告書が、埋蔵文化財の理解や認識を深める契機となり、地域の歴史資料として広く活用されるものと期待しています。

最後に、この発掘調査で多大な御協力と御理解をいただいた柏崎市教育委員会、柏崎市都市整備部八号バイパス事業室、並びに地元の方々、また発掘調査から本報告書の作成まで、格別な御配慮をいただいた国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所に対して厚くお礼申し上げます。

2018年3月

新潟県教育委員会

教育長 池 田 幸 博

## 例　　言

- 1 本報告書は、新潟県柏崎市田塚3丁目丘江地内にかに所在する丘江道路の発掘調査記録である。
- 2 この調査は、一般国道8号柏崎バイパス建設事業に伴い、国土交通省から新潟県教育委員会（以下、県教委とする）が受託したもので、調査主体である県教委は公益財団法人新潟県埋蔵文化財事業団（以下、埋文事業団とする）に発掘調査を依頼した。
- 3 埋文事業団は、2014（平成26）年度に発掘調査、2017（平成29）年度に整理・報告書作成を株式会社吉田建設（以下吉田建設とする）に委託して実施した。
- 4 出土遺物及び調査・整理作業に係る各種資料（含観察データ）は、一括して県教委が保管している。データの有無や閲覧希望は、県教委に問い合わせ願いたい。
- 5 図書館等（著作権法第31条1項に規定する図書館等をいう。）の利用者は、その調査研究の用に供するために、本報告書の全体について、複製することができる。
- 6 遺物の注記は丘江道路の略記号「14オカエ」とし、出土地点や層位を続けて記した。
- 7 本書の図中で示す方位は、すべて真北である。
- 8 遺物番号は種別に圍わりなく通し番号とし、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて一致している。
- 9 本文中の注は脚注とし、頁ごとに番号を付した。また、引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。
- 10 出土遺物については、品田高志氏・伊藤啓雄氏（柏崎市教育委員会）、水澤幸一氏（胎内市教育委員会）から、種々御教示頂いた。
- 11 自然科学分析に係る各種分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、分析結果を掲載した。
- 12 本書の執筆は、今井昭俊（吉田建設 調査員）が担当した。執筆分担は以下のとおりである。なお、第Ⅰ章1については、山崎忠良（埋文事業団 総長）が執筆した。第Ⅳ章については、伊藤正志・田中万里子（以上、吉田建設）の原稿を基に今井が加筆・修整して掲載した。また、各種図面・写真図版の作成は、水野かおり（吉田建設 調査補助員）が作成した。編集は、春日真実（埋文事業団課長代理）の指導のもと、今井が行った。

第Ⅰ章1 .....	山崎
第Ⅰ章2、第Ⅱ～V章、第Ⅵ章 .....	今井
第Ⅶ章 .....	パリノ・サーヴェイ株式会社
要約 .....	春日
- 13 発掘調査から本書作成に至るまで、下の方々及び機関から多くの御教示・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼を申し上げる。（敬称略　五十音順）

相羽重徳　郷　実　中島義人　平吹　靖　柏崎市教育委員会
胎内市教育委員会　柏崎土地改良区　柏崎市都市整備部八号バイパス事業室
柏崎市ガス水道局　田塚農家組合　田塚町内会

## 目 次

第Ⅰ章 序 説	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査経過	2
A 試掘確認調査	2
B 本発掘調査	2
3 調査・整理体制	3
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	4
1 地理的環境	4
2 歴史的環境	6
第Ⅲ章 調査の概要	8
1 グリッドの設定と地区名	8
2 基本層序	8
第Ⅳ章 遺構	10
1 遺構の概要と記述の方法	10
A 概要	10
B 遺構の記述と表記方法	10
2 遺構各説	11
A 掘立柱建物	11
B 井戸	15
1) 1 区	15
3) 3 区	20
C 土坑	21
1) 1 区	21
3) 3 区	25
D 溝	25
1) 1 区	25
3) 3 区	27
E 道路状遺構	27
F 性格不明遺構	28
G ピット	28
H 下層	29

第V章 遺 物 .....	30
1 概 要 .....	30
2 遺 物 各 説 .....	30
A 土器・陶磁器 .....	30
B 石 製 品 .....	38
C 木 製 品 .....	40
D 土 製 品 .....	42
E 金 属 製 品 .....	42
第VI章 自然科学分析 .....	43
は じ め に .....	43
1 花 粉 分 析 .....	43
A 試 料 .....	43
B 分 析 方 法 .....	43
C 結 果 .....	44
D 考 察 .....	46
2 種 実 同 定 .....	47
A 試 料 .....	47
B 分 析 方 法 .....	47
C 結 果 .....	47
D 考 察 .....	50
3 樹 種 同 定 .....	60
A 試 料 .....	60
B 分 析 方 法 .....	60
C 結 果 .....	60
D 考 察 .....	63
第VII章 ま と め .....	68
1 丘江遺跡における土器・陶磁器の様相 .....	68
A 土器・陶磁器類の構成 .....	68
B 陶磁器の時期別推移 .....	68
C 共伴関係からみる土師質土器皿の年代 .....	71
2 遺構の変遷 .....	74
A 掘立柱建物 .....	74
B 区画溝 .....	75
C 周溝建物の可能性 .....	76
D 小 結 .....	77

3 文献史料からみる丘江遺跡とその周辺 .....	79
《要 約》 .....	80
《引用・参考文献》 .....	81
《観 察 表》 .....	83

### 挿図目次

第1図 柏崎バイパスの法線と丘江遺跡の位置 .....	1	第13図 種実遺体 .....	58
第2図 丘江遺跡の位置と周辺の微地形 .....	2	第14図 木材 .....	61
第3図 試掘確認トレンドと本調査範囲 .....	2	第15図 種別出土比率 .....	68
第4図 柏崎周辺の地形 .....	5	第16図 陶磁器の時期別出土量 .....	69
第5図 周辺の古代・中世の遺跡 .....	7	第17図 時期別器種組成グラフ .....	70
第6図 グリッド設定図 .....	8	第18図 土師質土器皿の構成 .....	71
第7図 基本層序柱状図 .....	9	第19図 丘江遺跡出土土師質土器皿類の編年試案1 .....	72
第8図 遺構の平面・断面形態、堆積状況の分類 .....	10	第20図 丘江遺跡出土土師質土器皿類の編年試案2 .....	73
第9図 柱穴の埋土堆積状況の分類 .....	11	第21図 掘建柱建物の軸方位 .....	74
第10図 土器・陶磁器類の分類 .....	31	第22図 丘江遺跡の遺構編年図 .....	78
第11図 花粉化石群集 .....	44	第23図 一遍上人絵巻に描かれる住居 .....	77
第12図 花粉化石 .....	46		

### 表 目 次

第1表 周辺の道路一覧表 .....	7	第5表 主な種実遺体の計測値 .....	51~57
第2表 花粉分析の試料一覧 .....	43	第6表 樹種同定結果 .....	62
第3表 花粉分析結果 .....	45	第7表 木器の器種別樹種構成 .....	64
第4表 種実同定結果 .....	49・50	第8表 陶磁器の器種別出土比率 .....	69

## 図版目次

### 【図面図版】

- 図版1 全体図  
図版2 1・2区全体図1  
図版3 1・2区全体図2  
図版4 2・3区全体図  
図版5 分割図1  
図版6 分割図2  
図版7 分割図3  
図版8 分割図4  
図版9 分割図5  
図版10 分割図6  
図版11 分割図7  
図版12 分割図8  
図版13 分割図9  
図版14 分割図10  
図版15 分割図11  
図版16 分割図12  
図版17 分割図13  
図版18 分割図14  
図版19 分割図15  
図版20 分割図16  
図版21 分割図17  
図版22 道構個別図1 据立柱建物1  
図版23 道構個別図2 据立柱建物2  
図版24 道構個別図3 据立柱建物3  
図版25 道構個別図4 据立柱建物4  
図版26 道構個別図5 据立柱建物5  
図版27 道構個別図6 据立柱建物6  
図版28 道構個別図7 据立柱建物7  
図版29 道構個別図8 据立柱建物8  
図版30 道構個別図9 据立柱建物9  
図版31 道構個別図10 据立柱建物10  
図版32 道構個別図11 据立柱建物11  
図版33 道構個別図12 据立柱建物12  
図版34 道構個別図13 井戸1  
図版35 道構個別図14 井戸2  
図版36 道構個別図15 井戸3  
図版37 道構個別図16 井戸4  
図版38 道構個別図17 井戸5  
図版39 道構個別図18 井戸6  
図版40 道構個別図19 井戸7  
図版41 道構個別図20 井戸8  
図版42 道構個別図21 土坑1  
図版43 道構個別図22 土坑2  
図版44 道構個別図23 土坑3  
図版45 道構個別図24 土坑4  
図版46 道構個別図25 土坑5  
図版47 道構個別図26 土坑6  
図版48 道構個別図27 溝1  
図版49 道構個別図28 溝2、道路状道構、性格不明道構、ビット1  
図版50 道構個別図29 ビット2  
図版51 下層全体図、道構個別図1  
図版52 土器・陶磁器類1  
図版53 土器・陶磁器類2  
図版54 土器・陶磁器類3  
図版55 土器・陶磁器類4  
図版56 土器・陶磁器類5  
図版57 土器・陶磁器類6、石製品1  
図版58 石製品2(砥石、磨製石斧・石臼)、木製品1(柱根)  
図版59 木製品2(柱根)  
図版60 木製品3(漆器椀・盤・箸・杓子・曲物)  
図版61 木製品4(曲物・柄杓・独楽・Y字状木製品・火薙臼・草塔婆)  
図版62 木製品5(下駄・農具)  
図版63 木製品6(板材はか)、金橘製品(鉢篇)、土製品(土鍤・羽口)、錢貨

### 【写真図版】

- 図版64 道跡遺景  
図版65 道跡位置、基本層序、SB4345元掘  
SE3764出土遺物  
図版66 1区据立柱建物1  
図版67 1区据立柱建物2  
図版68 1区据立柱建物3  
図版69 1区据立柱建物4  
図版70 2区据立柱建物1  
図版71 2区据立柱建物2  
図版72 2区据立柱建物3  
図版73 2区据立柱建物4  
図版74 2区据立柱建物5  
図版75 2区据立柱建物6、3区据立柱建物1  
図版76 3区据立柱建物2  
図版77 3区据立柱建物3、1区井戸1  
図版78 1区井戸2  
図版79 1区井戸3  
図版80 1区井戸4  
図版81 1区井戸5  
図版82 1区井戸6  
図版83 1区井戸7、2区井戸1  
図版84 2区井戸2

図版85	2区井戸3	図版101	2区溝2、3区溝、1区道路状遺構
図版86	2区井戸4	図版102	1区性格不明遺構、1区ピット1
図版87	2区井戸5	図版103	1区ピット2
図版88	2区井戸6、3区井戸1	図版104	1区ピット3、2・3区ピット
図版89	3区井戸2	図版105	3区ピット、1区下層遺構
図版90	3区井戸3	図版106	土器・陶磁器類1
図版91	3区井戸4、1区土坑1	図版107	土器・陶磁器類2
図版92	1区土坑2	図版108	土器・陶磁器類3
図版93	1区土坑3	図版109	土器・陶磁器類4
図版94	1区土坑4、2区土坑1	図版110	土器・陶磁器類5、石製品1
図版95	2区土坑2	図版111	石製品2、木製品1
図版96	2区土坑3	図版112	木製品2
図版97	2区土坑4	図版113	木製品3
図版98	2区土坑5、3区土坑1	図版114	木製品4
図版99	3区土坑2、1区溝1	図版115	木製品5、土製品、金属製品
図版100	1区溝2、2区溝1		

# 第Ⅰ章 序 説

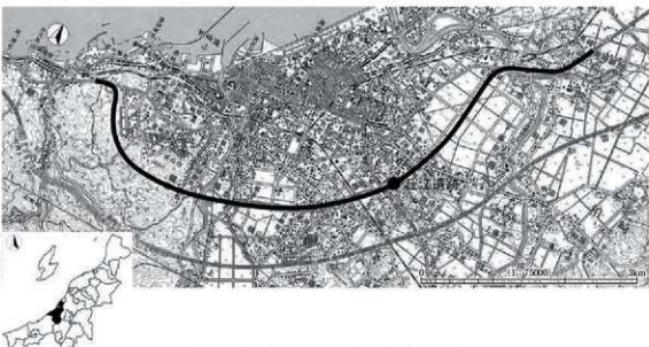
## 1 調査に至る経緯

一般国道8号柏崎バイパスは、柏崎市長崎を起点に同市鰐波に至る延長110kmの幹線道路である。柏崎市内の安全で円滑な交通の確保と、地域開発の支援などを目的に計画され、1987（昭和62）年度に事業化された。1991（平成3）年度から用地買取、1993（平成5）年度から工事に着手し、整備が進められている。

国土交通省（以下、国交省）は新潟県教育委員会（以下、県教委）に柏崎市東原町から茨日間の分布調査を依頼し、県教委の委託を受けた財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（現公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団）が2002（平成14）年7月に実施した。その結果、対象地域の広範囲で古代・中世・近世の遺物が採取でき、遺跡の存在する可能性が高いことから、道路法線のほぼ全について試掘確認調査が必要であると県教委に報告した。

丘江遺跡に係る試掘確認調査は、埋文事業団が2012（平成24）年10・11月に、県教委が2013（平成25）年7・8月、2014（平成26）年7月に、計73,909m<sup>2</sup>を対象に実施した。その結果、下層から弥生時代後期から古墳時代前期の遺構・遺物が、上層から中世・近世の遺構・遺物が検出された。そのため丘江遺跡として新規登録し、下層19,970m<sup>2</sup>、上層54,467m<sup>2</sup>、延74,437m<sup>2</sup>について本発掘調査（以下、本調査）が必要となった。

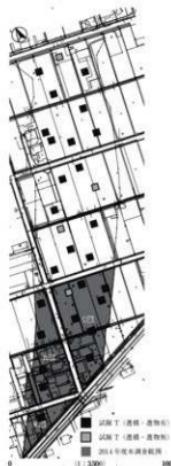
2014年度に、「平成26年3月31日付け国北整長調第77-2号」で国交省から県教委に本調査の依頼があり、県教委は「平成26年4月2日付け教文第494号の2」で埋文事業団に調査の実施を依頼した。



第1図 柏崎バイパスの法線と丘江遺跡の位置  
[国土地理院 2007（平成19）年発行「柏崎」「岡野町」1:50,000を縮小]



第2図 丘江遺跡の位置と周辺の微地形



第3図 試掘確認トレンチと本調査範囲

## 2 調査経過

### A 試掘確認調査

試掘確認調査は、2012（平成24）年10月1日から19日、並びに11月12日から16日にかけて、計19日間にわたって実施した。調査対象面積は53,300 m<sup>2</sup>、そのうち調査面積は1,130 m<sup>2</sup>で、試掘確認率は21%となる。調査方法は、事業予定地内に調査坑（トレンチ：略号T）を任意に設定し、重機（0.4級バックホー）及び人力による掘削・精査を行った。遺構・遺物の有無の確認をし、調査坑（T）の位置、土層の堆積状況等を図面・写真に記録保存した。

45か所（24・1T～45T）で試掘調査を実施したところ、23か所で遺構を検出、34か所で遺物が出土した。試掘調査の結果、丘江遺跡は弥生時代後期～古墳時代前期と中世の重層遺跡で、遺構検出面が2面あることが明らかとなった。これを受け、本発掘調査の面積は上・下層合わせて49,337 m<sup>2</sup>と決まり、内訳は上層が29,367 m<sup>2</sup>、下層が19,970 m<sup>2</sup>である。

なお、今回の調査範囲の南側には未買収地を含む未調査地が存在するが、丘江遺跡の調査範囲がさらに広がる可能性が高い。

### B 本発掘調査

本発掘調査は、2014（平成26）年4月14日から開始し、同年12月27日に終了した。調査面積は上・下層合わせて9,750 m<sup>2</sup>である。

初日から5月初頭までは、重機による暗渠掘削ならびに表土掘削を行った。5月15日より作業員を投入

し、1区から本格的に発掘調査を開始した。この時、調査員1名が重機に立ち会い、発掘調査と同時に現地の2・3区の表土掘削を進めた。本調査範囲の表土掘削が終了したのは6月25日である。これ以降は、3班体制で本発掘調査にあたった。基本は、3班ともに同一地区内の調査を行ったが、調査の進捗状況によって、班ごとに各地区を担当し、同時に作業にあたることもあった。

9月18日には、1回目の航空写真撮影及び高所作業車による写真撮影を行った。対象は1区南と2区南である。その後、9月20日に現地説明会を実施し、延べ74人が参加した。現地説明会以降も調査は継続して行い、11月22日に2回目の航空写真撮影及び高所作業車による写真撮影を行った。この時の対象は、2区北及び3区である。12月12日には、最後の高所作業車による写真撮影を行う。対象は、用水路下や重機足場下などの調査範囲の残存部である。そして、12月27日には遺構測量がすべて完了し、現地の後片付けをして撤収した。

### 3 調査・整理体制

試掘確認調査

年 度	2012(平成24)年
調査期間	2012年10月1日～2012年10月19日
調査主体	新潟県教育委員会(教育長 高井盛雄)
調査 施	財團法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
施 括	木村正昭(審査課長)
管 理	鷹倉宏二(施査課長)
務	仲川国博(施査課長)
調査 施 括	高橋 保(調査課長)
調査 指 導	渡邉裕之(試掘、確認担当課長代理)
調査 員	岡岡康政(調査課主任調査員)

本発掘調査

年 度	2014(平成26)年
調査期間	2014年4月14日～2014年12月27日
調査主体	新潟県教育委員会(教育長 高井盛雄)
調 査	公益財团法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
施 括	土肥 茂(審査課長)
管 理	鷹倉宏二(施査課長)
務	仲川国博(施査課長)
調査 施 括	高橋 保(調査課長)
調査 指 導	田海義正(調査課長代理)
調査 監 理	山崎忠良(調査課長)
阿部友晴(調査課主任調査員)	
支援組織	株式会社 吉田建設
調査 担 当	伊藤正志(株式会社 吉田建設)
現場代理人	渡木宏人(株式会社 吉田建設)
調 査 員	今井照徳(株式会社 吉田建設) 田中万里子(株式会社 吉田建設)

整理作業

年 度	2017(平成29)年
調査期間	2017年4月3日～2018年3月31日
調査主体	新潟県教育委員会(教育長 池田幸博)
調 査	公益財团法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
施 括	沼野一善(審査課長)
管 理	松田 祐(施査課長)
庶 務	星野美奈(施査課員)
整理 施 括	沢田 敦(調査課長)
整理 指 導	春日真実(調査課本調査担当課長代理)
整理 担 当	今井照徳(株式会社 吉田建設)
支援組織	株式会社 吉田建設
作 業 員	佐野栄子、齊原克紘、長沼直美、 中村美智子、木村かおり、山崎忠良、 矢部千栄子

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 1 地理的環境

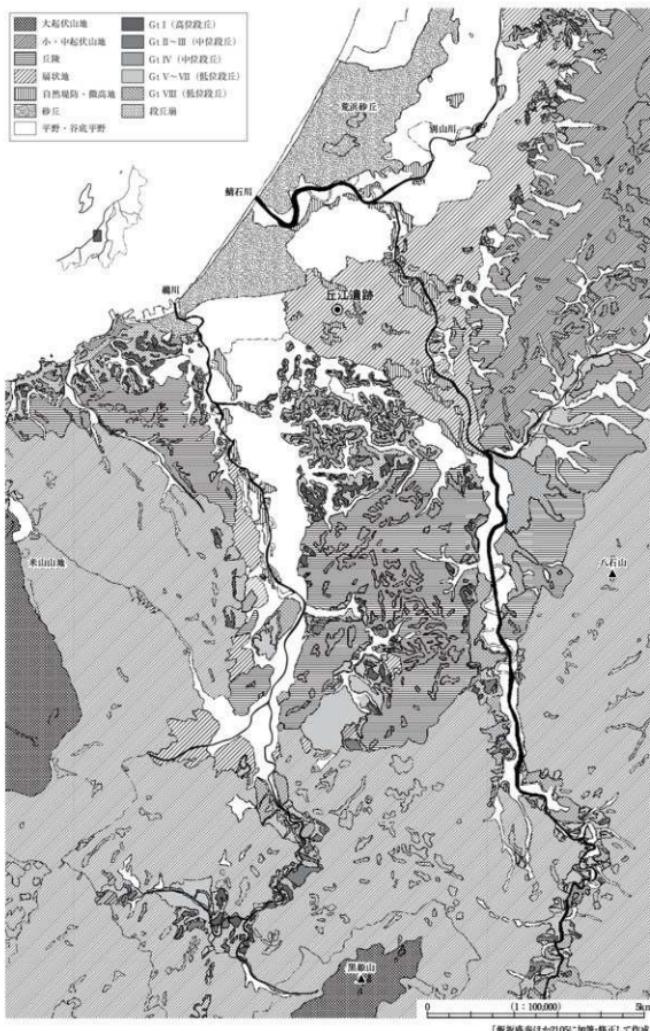
柏崎平野の地勢 柏崎平野は、主要河川である鶴川と鮎石川及びその支流の羽三山川によって形成された幅約7km、長さ約18kmの小規模な臨海冲積平野である。その南と東西の三方は「刈羽三山」を頂点とする山地や東頸城丘陵によって囲まれ黒姫山山頂付近は大起伏山地に地形区分され、頸城方面との分水嶺をなす。こうした山地・丘陵の縁辺や岸部には荒浜砂丘が発達し、その後背には湿地性の沖積地が展開する〔鈴木ほか1988・1989〕。砂丘形成の顕著な時期に河口部が閉ざされることにより湛水し、「鏡ヶ池」などと称される湖沼と化した〔石井1981、柏崎市1972〕。丘陵の縁辺は、中・高位の河岸段丘が分布している。

こうした柏崎平野周辺の地形的特徴は、平野を北流する鶴川・鮎石川によって西部・中央部・東部に三分される。東部は鮎石川以東の地域に相当し、丘陵や沖積地・砂丘が発達している。刈羽・三島丘陵などの丘陵地帯と別山川・長島川地域の沖積地、さらには日本海岸沿の砂丘が広く展開し、その軸はいずれも北北東→南南西方向を示している。こうした地形的特徴は新第三系以降の地質構造を反映したもので、褶曲構造の向斜・背斜方向と一致している〔鈴木ほか1988・1989、大野・徳間ほか1990〕。

中央部は鶴川・鮎石川流域に沿って黒姫山地や丘陵が南北方向に展開し、その縁辺では中位段丘地帯の発達が顕著である。中位段丘面は著しく樹枝状に開析され鶴川・鮎石川が生成した沖積地に接している。中央部以西では地形の軸が東部に比べて南北方向にずれているが、それは新第三系以降の地質構造の褶曲区の違いに由来するものと推測されている〔大野・徳間ほか1990〕。

西部は鶴川左岸地帯一帯を指し、米山から続く山地・丘陵が発達している。当地域では、米山山地が海岸に達して断崖をなし、その東側では狹小な中・高位段丘面を形成している。砂丘や沖積地の形成に乏しい地域であり、広範囲に発達した沖積地や砂丘が展開する東部や中央部とは対照的な様相を示している。

鮎石川流域の地形と遺跡の位置 丘江遺跡は柏崎平野西北部、鮎石川左岸に位置し、扇状地の中の微高地に所在する。標高は6~7mで、海岸線からは約3km内陸にある。遺跡の西側には柏崎の市街地が広がるほか、鮎石川支流の小河川が流れる。新潟県の河川は上流に地すべり地帯が多く、浸食・運搬作用が盛んである。さらに下流には灌漑用の取水施設が多いため、河川の流れが下流近くで緩やかになり、その結果天井川が形成されやすい。鮎石川もこの例にのらず、平野の形成、遺跡の形成に大きな影響を及ぼす。最上部柏崎面が完成された後も河川の下刻は続き、完成した柏崎面を侵食していった。また、洪水の際の蛇行により平野部では側方侵食が行われ、中流から下流にかけて柏崎面を破壊し、新たに鮎石川面と呼ばれる冲積面を作り出した。この鮎石川面は鮎石川流域の幅1kmの狭い範囲にのみ分布する面であるが、この面により鮎石川流域の氾濫原が形成され、両岸の自然堤防にはいくつかの古代及び中世の遺跡が立地している。さらに、鮎石川の蛇行が作り出しているものに荒浜砂丘の新砂丘が挙げられる。新砂丘は平安時代以降西山丘陵の南側、鮎石川右岸に大規模な砂丘を作り出し、土砂崩れをしばしば起こして河道の蛇行にさらに拍車をかけていた。合流部付近には荒浜砂丘により形成された丘があり、鮎石川と荒浜・柏崎砂丘により形成された後背湿地が広がる。両河川の合流部のため水が集中し、洪水により破堤するため、河道がしばしば替えられていた。このため近辺の遺跡は、河川の氾濫の影響を受けていた可能性がある。



第4図 柏崎周辺の地形

## 2 歴史的環境

11世紀末から12世紀中頃には「和名類聚抄」に記載される郡・郷は再編され、各地に荘園や郷・保を単位とする国衙領が成立した。中世の薊川流域は、古代の三鶴郡・三鶴郷をはじめ踏襲した薊川郡の庄域であった。古代の三鶴郡一帯は、中世では薊川莊・佐須莊・比角莊といった莊園名で表記され、3莊園のはかに原田保・赤田保など、わずかな資料に保名があることから、国衙領の存在が知られている。現状として、荘園・国衙領の所在は、薊河莊などの荘園を柏崎平野南部の薊川・鯖石川流域に、原田保などの国衙領を主に北部の別山川流域に比定するのが定説化している〔金子1976〕。史料として、「吾妻鏡」1186年(文治2年)3月12日条の「三箇國庄々未進注文」には、柏崎平野に比定される荘園として「宇河(薊川)莊・「佐橋(鯖石)莊・「比角莊」の三莊園が記載されている〔荻野1986〕。

中世の遺跡は、集落遺跡が丘陵裾部や自然堤防などの沖積地に分布し、墳墓や塚・経塚などが丘陵裾部や中位段丘などの台地上に立地する傾向が認められる〔品田1995〕。

本遺跡の周辺の遺跡には、宝田遺跡(3)、山崎遺跡(4)、小峯遺跡(5)、田塚山遺跡群(8)などがある。田塚山遺跡群は本遺跡から東へ約300mに立地し、仏堂とその関連施設が築造され、周間に墳墓が配置されている〔品田ほか1996〕。田塚山遺跡群から南側の丘陵上に立地する鯖石遺跡(40)は、中世全般に亘って墓地として機能し、磚石経・六道銭などが出土している〔品田ほか1991〕。山崎遺跡は、13世紀中頃から15世紀後半を主体とする集落遺跡で、掘立柱建物28棟や井戸141基が検出され、土師質土器や珠洲焼の他に鳳がや茶臼といったものも出土している〔白井2014〕。宝田遺跡は古代から断続的に水田耕作を行った生産遺跡である。多数の水田遺構のほか微高地に掘立柱建物や井戸が検出し、須恵器や土師質土器(9C後葉)、珠洲焼のほかに、15世紀中頃と推定されるおにぎり状炭化米が出土した〔飯坂ほか2015〕。

鯖石川と別山川の合流点付近には、東原町遺跡(2)、角田遺跡(16)などがある。両遺跡は自然堤防上に立地しており、河川交通などの物流関係を背景に成立したと考えられる。東原町遺跡は13世紀後半から14世紀が主体の集落遺跡で、掘立柱建物4棟、井戸28基、溝92条などが検出され、溝によって居住域と生産域が区画されている。居住城では、鍛冶関連の工房、費室に使用された土師質土器の一括発棄土坑があった。珠洲焼壺に1万枚以上の錢貨を入れた理納裁が出土した〔山崎ほか2005〕。角田遺跡は13世紀後半が主体の遺跡で、掘立柱建物13棟に多数の井戸と土坑が検出され、交通の要衝を押さえる目的で在地小領主が家屋敷を営んだとみられる。〔品田ほか1999〕。薊川流域の遺跡としては、鶴巻田遺跡(25)などがある。鶴巻田遺跡では、丘陵裾に素掘りの井戸や貯蔵穴が検出され、珠洲焼、青磁、製塙土器などのほかに鐵滓や錢貨などの製鉄関連の資料が出土している〔韋巻1988〕。薊川の河口に近い右岸城の柏崎砂丘では、現在の市街地と重複する柏崎町遺跡(21)が立地する。中世の柏崎は、比角莊域にあたり、15世紀にはすでに東本町まで開発がおよび、17世紀には現市街地の原形が形成されていく〔品田・伊藤2001〕。中世の柏崎は町人集団が支配する港湾都市であった可能性が指摘〔矢田1999〕されているが、それを示すように青花、青磁、白磁などの貿易陶磁器が柏崎平野のどの中世遺跡よりも多数出土している〔品田・伊藤ほか2001〕。

城館は、丘陵地に矢田城跡(49)、畔屋城跡(46)や佐橋莊の毛利氏が築城した北条城跡(37)、鯖石川を挟んで佐橋莊の毛利氏から分立した薊川莊の安田毛利氏の居城である安田城跡(31)などの要害が挙げられる。また、荒浜砂丘と刈羽山地の境界付近にも岩野城跡(12)や土合殿屋敷遺跡(11)といった城や館と関連した遺跡が存在している。



(原図 国土地理院2007(平成19)年発行[柏崎] 1:50,000)

第5図 周辺の古代・中世の遺跡

No	道 路 名	時 期	No	道 路 名	時 期	No	道 路 名	時 期
1	赤坂町	古墳・中世	18	扇屋町	中世	35	扇の坂	中世
	中食			古墳・平安・鎌倉			西御坂	平安～古墳
3	宝田町	古代・中世	19	上原	古墳・平安・鎌倉	36	今宿御坂御堂	中世
	圓蔵町			藏文・古墳・古代			吉田の坂御	平安
6	山崎町	平安・中世	20	初物町	古墳	37	北之坂御堂	安朝
	平安・中世			北之坂御堂	中世		藤原町	古墳・古文・平安・中世
7	新橋町	古代・中世	22	西谷	藏文	38	大根田町	中世
	生古・古文・中世			藏文			吉井水戸堀	古墳・平安・中世
8	扇町	藏文・古代・鎌倉	23	扇町	安朝	40	小石町	中世(・築堤)
	扇山			藏文			吉井水戸堀	中世
9	扇坂通御跡群	藏文・古代・鎌倉	24	扇山	藏文・古文・中世	41	不老寺	平安・中世
	扇山			藏文			日向日	古文・古代・中世
10	扇坂通御跡群	藏文・古文・中世	25	扇田町	古墳・平安	42	扇田町	古文・古代
	扇田			古墳			扇田町	古文・古代
11	扇坂通御跡群	中世・古文・扇坂	26	平坂	平安・中世	43	扇坂通御	古代・中世
	扇坂			藏文			扇田町	古文・古代
12	扇町	中世	27	千早の坂	中世	44	御坂町	中世
	扇町			藏文			扇田町	古文・平安・中世
13	西扇町	古文・中世	28	人見川	藏文・古代・中世	45	扇坂今押坂	中世
	扇町			藏文			扇田町	古文・平安・中世
14	上扇町	中世	29	大宮	藏文	46	八丁堀通	中世
	扇町			藏文			木本町	古文・中世
15	扇町通御跡群	不明	30	一本木の坂	中世	47	出の坂	中世
	扇町			藏文			扇田町	古文・平安
16	扇町通御跡群	古代・中世	31	扇坂通御	中世	48	扇の坂	中世
	扇町			藏文			扇田町	古文・平安
17	扇町通御跡群	古墳・平安	32	扇坂通御	中世	49	扇坂	安朝
	扇町			藏文			扇田町	古文・平安
18	扇町通御跡群	古墳・古文・中世	33	中道	平安・中世	50	吉井水戸堀	中世
	扇町			藏文			吉井水戸堀	中世
19	扇町通御跡群	古墳・古文・中世	34	門田	中世	51	江ノ下	中世
	扇町			藏文			扇田町	古文・古墳・平安・中世
20	扇町通御跡群	古墳・古文・中世	35	本木	中世	52	本木	中世

### 第1表 圖辺の遺跡一観表

## 第Ⅲ章 調査の概要

### 1 グリッドの設定と地区名

丘江遺跡は、2012年度の試掘調査で新たに発見された遺跡である。グリッドは、柏崎バイパスの法線に沿うよう、道路建設予定地内のセンター杭2点を基準とした。基準としたセンター杭は、No.198（X=151919.385, Y=7642954）とNo.213（X=151602.171, Y=7474344）である。この両センター杭を結んだ直線を縦軸とし、これに直交する線を横軸として設定した。グリッドの基準線方位は、横軸が真北から29度3分57秒東偏している。

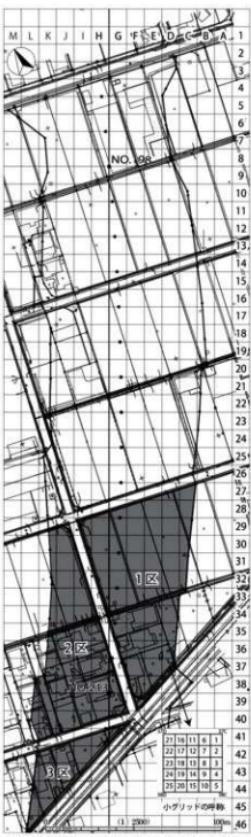
グリッドは大小2種類を用いた。大グリッドは縦横10m間隔に設置して、横列は算用数字を用いて、北東から南西に向かい「1、2、3、4…」列、縦軸はアルファベットを用いて、南東から北西に向かって「A、B、C、D…」とした。大グリッド名は、北東隅にある基準線の交点を「1A, 1B, 1C, 1D…」と呼称した。小グリッドは、大グリッド内を縦横2m間隔で25分割した。小グリッド北東隅を1として南西に数え南西隅を25とし算用数字で表した。グリッド表記は「7B 2」のように呼称した。

2014年度の本調査範囲内には市道がいくつか通るため、市道により分割し、南東隅のブロックから「1区、2区、3区」と呼称した。

### 2 基本層序

丘江遺跡は柏崎市田塚3丁目字丘江地内に所在し、鯖石川左岸に広がる沖積微高地に立地する。標高は6~7m前後で、現況は水田及び宅地跡となっている。地形は、南東から北西方向にかけて緩やかな傾斜を示す。1・2区の北側には、旧葦叢川が横断している。これは、明治45年に作成された柏崎の地図にも記載されていることから、測量された明治42年よりも以前から存在したことがわかる。

基本土層はI~IV層に大別した。同一の土層でも土質・色調に多少の差異があり、さらに2~4層に細分可能な層もある



(国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所作成した地図を使用)

第6図 グリッド設定図

る。このうちⅡ層が鎌倉・室町時代の遺物包含層であり、土質によりⅡa・Ⅱbに分層できる。上位のⅠ層からはⅡ層と同時期の遺物も含まれるが、近世の遺物も混在する。Ⅲ層は弥生時代後期～古墳時代の遺物包含層である。この土層は、1区の30ライン以北でのみ確認された土層であり、これより南には存在していない。

盛土：住宅造成時などに盛られた土

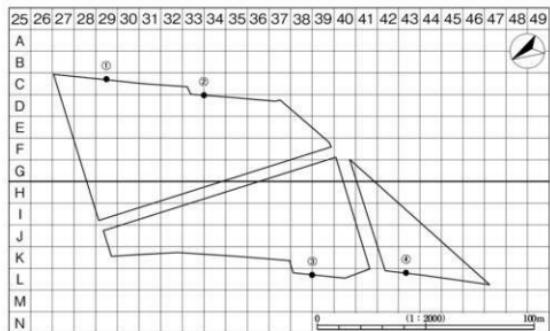
Ⅰ層：灰褐色粘土（7.5Y 4/2）粘性としまりが共に強い。近・現代の水田や畑の耕作土。地点により2～3層に細分される。

Ⅱa層：褐灰色シルト（10YR 4/1）粘性がやや強く、しまりが強い。中世～近世の遺物包含層。

Ⅱb層：灰色シルト（7.5Y 4/1）粘性がやや強く、しまりが強い。中世～近世の遺物包含層。

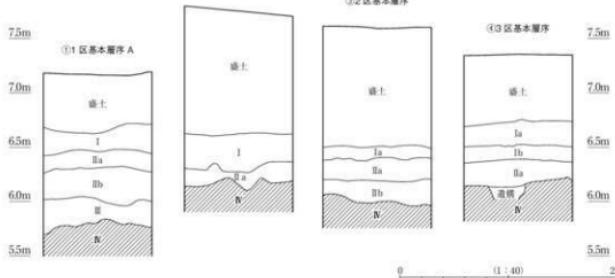
Ⅲ層：黒色シルト（7.5Y 2/1）弥生時代後期～古墳時代前期の遺物包含層。

Ⅳ層：灰色シルト（10Y 6/1）粘性としまりが共に強い。基盤土層であり、遺構検出面。



②1区基本層序 B

③2区基本層序



第7図 基本層序柱状図

## 第IV章 遺構

### 1 遺構の概要と記述の方法

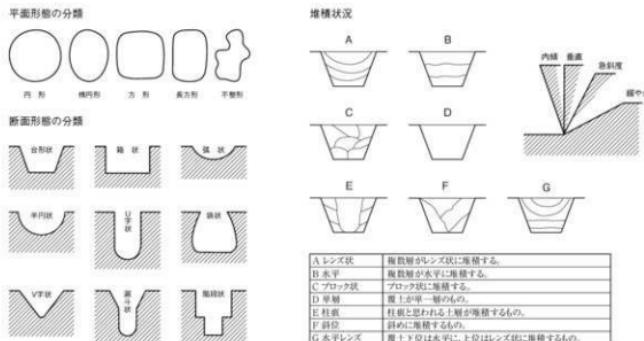
#### A 概 要

調査で検出した遺構は、掘立柱建物26棟、井戸174基、土坑152基、溝78条、性格不明遺構1基、ピット多数である。これらは出土遺物の時期や遺構埋土の特徴から、多くが中・近世の遺構であり、中でも14世紀中葉～14世紀後半、16世紀後半～17世紀初頭に主体となる時期があると判断した。

#### B 遺構の記述と表記方法

遺構の説明には、本文・観察表・図面図版・写真図版を用いる。図面図版は、遺構全体図：1/800、分剖図：1/300・1/100、個別図：1/80・1/40で構成する。掲載順については、種別ごとに各地区で遺構番号の若い順とした。しかし、図版の都合上、一部で遺構番号が前後する所がある。写真図版についても同様の基準で掲載をした。本文は個別図に掲載した遺構についてすべて記述している。

遺構名は、遺構種別の略号と番号を組み合わせて表記する。遺構種別の略号は、掘立柱建物：SB、井戸：SE、土坑：SK、溝：SD、性格不明遺構：SX、ピット：Pとした。番号は、遺構種別や検出層位に関係なく通しで付した。ただし、現場作業や整理作業の過程において欠番が生じている。そのため、遺構番号の数が、遺構の数を表しているわけではない。



(加藤1999・荒川ほか2001を改変)

第8図 遺構の平面・断面形態、堆積状況の分類

遺構の平面形及び断面形の表記は、和泉 A 遺跡〔荒川・加藤ほか 1999〕の分類基準（第8図）に準拠した。本文・観察表中の遺構の計測値については、遺構検出面での数値である。遺構の重複やカクラン等により計測が困難な遺構については、残存値で表記した。また、柱穴の理土の堆積状況を A～D 類に分類し、第9図に示す。柱痕が検出面で確認できるものを A 類、柱痕が検出面で確認できず、断面でレンズ状に堆積した層下で柱痕が確認できたものを B 類、レンズ状に堆積するものを C 類、単層のものを D 類とした。A・B 類は、柱を切り取った痕跡とし、C 類は柱を抜き取った痕跡、D 類は切り取り・抜き取りのどちらとも取れ、柱の遺存状況は不明である。

遺構の新旧関係については、本文中では、「切る」「切られる」、「新しい」「古い」という表現とし、観察表では、不等記号を用いて「新>古」として示した。遺構の方位は、長軸が真北を中心に東西に傾く角度を「N - ●° - E (W)」として表記する。土層断面図の色調は「新版標準土色帖」〔農林水産省農林水産技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所 2004〕を使用した。

## 2 遺構各説

### A 掘立柱建物

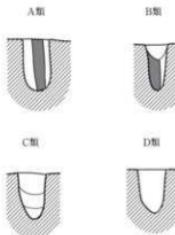
掘立柱建物については、柱間数の多い方向を桁行（長軸）、少ない方向を梁行（短軸）とした。軸方位は北に対して桁行が東西に何度傾くかを N - ●° - E (W) を示した。建物の面積は桁行と梁行で囲まれた部分を床とし、桁行 × 梁行で床面積を計算した。建物は26棟復元した。

SB4301（図版10・22・66）は1区37E・Fに位置する。桁行3間、梁間2間の側柱建物で、桁行方位はN - 8° - Wを示す。床面積は25.5m<sup>2</sup>である。建物を構成する9基の柱穴は柱間が1.7～3.5mである。柱穴の平面は円形または楕円形、断面の多くはU字状を呈する。規模は、径0.22～0.50m、深さ0.12～0.82mである。柱根や遺物は出土していない。

SB4306（図版10・22・66）は1区37・38E・Fに位置する。建物の北西側が調査区外へ延びるため規模は断定できないが、桁行5間、梁間2間以上の側柱建物で、桁行方位はN - 7° - Eを示す。床面積は残存部で37.9m<sup>2</sup>である。建物を構成する10基の柱穴は柱間が1.3～2.5mである。柱穴の平面は円形または楕円形、断面の多くはU字状を呈する。規模は、径0.16～0.38m、深さ0.24～0.87mである。柱根がP259・P321から出土した。

SB4309（図版10・22・67）は1区36・37Fに位置する。桁行3間、梁間1間の側柱建物で、桁行方位はN - 76° - Wを示す。床面積は18.4m<sup>2</sup>である。建物を構成する8基の柱穴は柱間が1.6～3.4mである。柱穴の平面は円形または楕円形、断面の多くはU字状を呈する。規模は、径0.21～0.57m、深さ0.33～0.70mである。柱根や遺物は出土していない。

SB4310（図版10・23・66・67・68）は1区36・37Fに位置する。桁行4間、梁間2間の側柱建物で、桁行方位はN - 76° - Eを示す。床面積は31.2m<sup>2</sup>である。建物を構成する12基の柱穴は柱間が1.6～4.1m



第9図 柱穴の理土堆積状況の分類

である。柱穴の平面は円形または梢円形、断面の多くはU字状を呈する。規模は、径0.26～0.62m、深さ0.19～0.72mである。柱根や遺物は出土していない。

**SB4314**（図版9・24・67）は1区34・35F・Gに位置する。柱穴がいくつか欠落しているため規模は断定できないが、桁行3間、梁間2間の総柱建物で、桁行方位はN-84°-Wを示す。床面積は残存部で25.1m<sup>2</sup>である。建物を構成する10基の柱穴は柱間が1.1～3.8mである。柱穴の平面は円形または梢円形、断面の多くはU字状を呈する。規模は、径0.27～0.46m、深さ0.25～0.57mである。柱根や遺物は出土していない。SB4314と重複関係にあるが、直接的な切り合いは見られないため新旧は不明である。

**SB4316**（図版9・24・68・69）は1区34・35Fに位置する。桁行5間、梁間2間の総柱建物で、桁行方位はN-3°-Wを示す。床面積は36.9m<sup>2</sup>である。建物を構成する17基の柱穴は柱間が1.1～3.4mである。柱穴の平面は円形または梢円形、断面の多くはU字状を呈する。規模は、径0.23～0.52m、深さ0.16～0.62mである。柱根や遺物は出土していない。SB4314と重複関係にあるが、直接的な切り合いは見られないため新旧は不明である。

**SB4325**（図版6・25・69）は1区33・34D・Eに位置する。柱穴がいくつか欠落しているため規模は断定できないが、桁行4間、梁間2間の側柱建物で、西側に廟を持つ。桁行方位はN-84°-Wを示す。床面積は推定で58.1m<sup>2</sup>である。建物を構成する10基の柱穴は柱間が2.1～3.7mである。柱穴の平面は円形または梢円形、断面はU字状やV字状を呈する。規模は、径0.29～0.67m、深さ0.20～0.72mである。柱根がP351(351)・P4079から、遺物はP356から青磁・唐津焼が出土している。SB4326と重複関係にあるが、直接的な切り合いは見られないため新旧は不明である。

**SB4326**（図版6・25・69）は1区34D・Eに位置する。桁行3間、梁間2間の側柱建物で、桁行方位はN-84°-Wを示す。床面積は15.1m<sup>2</sup>である。建物を構成する10基の柱穴は柱間が1.3～1.8mである。柱穴の平面は円形または梢円形、断面はU字状やV字状を呈する。規模は、径0.19～0.53m、深さ0.16～0.38mである。柱根や遺物は出土していない。SB4325と重複関係にあるが、直接的な切り合いは見られないため新旧は不明である。

**SB4345-1**（図版16・26・70）は2区39Gに位置する。建物の北西側が調査区外へ延びるため規模は断定できないが、桁行2間、梁間2間以上の建物で、桁行方位はN-13°-Wを示す。床面積は不明である。建物を構成するとみられる5基の柱穴は柱間が1.9～2.4mである。柱穴の平面は円形または梢円形、断面はU字状や台形状を呈する。規模は、径0.22～0.48m、深さ0.11～0.53mである。柱根や遺物は出土していない。SB4325-2と重複関係にあり、P1379とP1378が切り合っている。両遺構の切り合いから、SB4345-1はSB4345-2よりも古い。

**SB4345-2**（図版16・26・70）は2区39Gに位置する。建物の北西側が調査区外へ延びるため規模は断定できないが、桁行3間、梁間2間以上の建物で、桁行方位はN-3°-Wを示す。床面積は不明である。建物を構成するとみられる6基の柱穴は柱間が1.5～2.2mである。柱穴の平面は円形または梢円形、断面はU字状や漏斗状を呈する。規模は、径0.33～0.58m、深さ0.26～0.57mである。柱根や遺物は出土していない。SB4325-1と重複関係にあり、P1379とP1378が切り合っている。両遺構の切り合いから、SB4345-2はSB4345-1よりも新しい。

隣接するSD1380はL字状の溝である。桁行・梁行の軸が一致することから建物に付随する溝と考える。

**SB4348**（図版18・26・71）は2区39・40I・Jに位置する。桁行4間、梁間2間の側柱建物で、桁行方位はN-20°-Wを示す。床面積は21.0m<sup>2</sup>である。建物を構成する12基の柱穴は柱間が1.1～3.9mである。

柱穴の平面は円形または楕円形、断面はU字状や台形状などを呈する。規模は、径0.19～0.71m、深さ0.12～0.63mである。柱根はP1790から出土したが、遺物は出土していない。

**SB4351** (図版18・27・71) は2区39J・Jに位置する。桁行2間、梁間1間の側柱建物で、桁行方位はN-72°-Eを示す。床面積は15.8m<sup>2</sup>である。建物を構成する6基の柱穴は柱間が1.8～3.7mである。柱穴の平面は円形または楕円形、断面はU字状や漏斗状などを呈する。規模は、径0.30～0.44m、深さ0.18～0.50mである。柱根はP1449から出土したが、遺物は出土していない。SB4353と重複関係にあるが、直接的な切り合いは見られないため新旧は不明である。

**SB4353** (図版18・27・71・72) は2区38・39Jに位置する。桁行5間、梁間2間の側柱建物で西側に廟を持つ。桁行方位はN-73°-Eを示す。床面積は51.7m<sup>2</sup>である。建物を構成する15基の柱穴は柱間が1.6～2.7mである。柱穴の平面は円形または楕円形、断面はU字状や漏斗状などを呈する。規模は、径0.26～0.48m、深さ0.15～0.59mである。柱根はP1612から出土したが、遺物は出土していない。SB4351と重複関係にあるが、直接的な切り合いは見られないため新旧は不明である。

**SB4355** (図版18・28・71・72) は2区39Jに位置する。桁行2間、梁間2間の側柱建物で、桁行方位はN-14°-Wを示す。床面積は13.9m<sup>2</sup>である。建物を構成する7基の柱穴は柱間が1.6～3.5mである。柱穴の平面は円形または楕円形、断面は多くがU字状を呈する。規模は、径0.20～0.43m、深さ0.13～0.51mである。柱根はP2255から出土したが、遺物は出土していない。SB4353と重複関係にあるが、直接的な切り合いは見られないため新旧は不明である。

**SB4369** (図版15・28・72・73) は2区37Iに位置する。桁行3間、梁間2間の側柱建物で、桁行方位はN-72°-Eを示す。床面積は13.9m<sup>2</sup>である。建物を構成する9基の柱穴は柱間が1.4～3.6mである。柱穴の平面は円形または楕円形、断面は多くがU字状を呈する。規模は、径0.19～0.34m、深さ0.17～0.53mである。柱根はP2096から出土したが、遺物は出土していない。

**SB4396** (図版13・28・73) は2区31Jに位置する。桁行3間、梁間1間の側柱建物で、桁行方位はN-84°-Wを示す。床面積は17.8m<sup>2</sup>である。建物を構成する7基の柱穴は柱間が2.0～4.1mである。柱穴の平面は円形または楕円形、断面はU字状や台形状などを呈する。規模は、径0.25～0.68m、深さ0.23～0.53mである。柱根や遺物は出土していない。

**SB4397** (図版13・29・73) は2区31・32Jに位置する。桁行3間、梁間2間の側柱建物で、桁行方位はN-81°-Eを示す。床面積は24.1m<sup>2</sup>である。建物を構成する10基の柱穴は柱間が1.5～2.5mである。柱穴の平面は円形または楕円形、断面はU字状や半円状を呈する。規模は、径0.22～0.53m、深さ0.13～0.42mである。柱根や遺物は出土していない。SB4398・SB4399と重複関係にあるが、直接的な切り合いは見られないため新旧は不明である。

**SB4398** (図版13・14・29・73・74) は2区32I・Jに位置する。桁行3間、梁間2間の側柱建物で、桁行方位はN-86°-Eを示す。床面積は26.6m<sup>2</sup>である。建物を構成する12基の柱穴は柱間が1.0～3.0mである。柱穴の平面は円形または楕円形で、一部に方形もある。断面はU字状や台形状などを呈する。規模は、径0.27～0.52m、深さ0.19～0.71mである。柱根はP3428から出土したが、遺物は出土していない。SB4397・SB4399・SB4401と重複関係にある。SB4397は直接的な切り合いが見られないため、新旧は不明である。SB4399はP3185とP3184が切り合つたため、SB4398はSB4399よりも新しい。SB4401はP3193とP3194が切り合つたため、SB4398はSB4401よりも古い。

**SB4399** (図版13・30・74) は2区31・32Jに位置する。桁行2間、梁間2間の側柱建物で、桁行方位は

N - 68° - W を示す。床面積は 20.3 m<sup>2</sup>である。建物を構成する 8 基の柱穴は柱間が 1.7 ~ 3.3m である。柱穴の平面は円形または梢円形で、断面は U 字状や V 字状などを呈する。規模は、径 0.22 ~ 0.53m、深さ 0.13 ~ 0.57m である。柱根は P3190・P3410 から出土したが、遺物は出土していない。SB4397・SB4398 と重複関係にある。前者は直接的な切り合いが見られないため、新旧は不明で、後者は P3184 と P3185 が切り合う。そこから SB4399 は SB4398 よりも古い。

**SB4401** (図版 14・30・74・75) は 2 区 32I・J に位置する。桁行 3 間、梁間 2 間の側柱建物で、桁行方位は N - 71° - W を示す。床面積は 16.0 m<sup>2</sup>である。建物を構成する 10 基の柱穴は柱間が 1.2 ~ 2.2m である。柱穴の平面は円形または梢円形で、断面は U 字状や V 字状などを呈する。規模は、径 0.23 ~ 0.38m、深さ 0.16 ~ 0.35m である。柱根や遺物は出土していない。SB4398 と重複関係にあり、P3193 と P3194 が切り合う。そこから SB4401 は SB4398 よりも新しい。

**SB4420** (図版 19・31・75) は 3 区 42I・J に位置する。桁行 2 間、梁間 1 間の側柱建物で、桁行方位は N - 81° - E を示す。床面積は 13.4 m<sup>2</sup>である。建物を構成する 6 基の柱穴は柱間が 2.2 ~ 2.9m である。柱穴の平面は円形または梢円形で、断面は多くが U 字状を呈する。規模は、径 0.24 ~ 0.53m、深さ 0.17 ~ 0.74m である。柱根や遺物は出土していない。

**SB4427** (図版 20・31・75) は 3 区 42・43J・K に位置する。建物の北側が調査区外へ延びるため規模は断定できないが、桁行 7 間、梁間 2 間以上の建物で、桁行方位は N - 3° - W を示す。床面積は残存部で 59.4 m<sup>2</sup>である。建物を構成するとみられる 17 基の柱穴は柱間が 1.0 ~ 2.4m である。柱穴の平面は円形または梢円形で、断面は多くが U 字状を呈する。規模は、径 0.20 ~ 0.70m、深さ 0.19 ~ 0.66m である。柱根や遺物は出土していない。SB4428・SB4429 と重複関係にあるが、直接的な切り合いは見られないため新旧は不明である。

**SB4428** (図版 20・32・76) は 3 区 42・43J・K に位置する。桁行 4 間、梁間 2 間の側柱建物で、桁行方位は N - 8° - W を示す。床面積は 26.3 m<sup>2</sup>である。建物を構成する 12 基の柱穴は柱間が 1.4 ~ 2.4m である。柱穴の平面は円形または梢円形で、断面は U 字状や V 字状を呈する。規模は、径 0.26 ~ 0.44m、深さ 0.18 ~ 0.64m である。柱根や遺物は出土していない。SB4427 と重複関係にあるが、直接的な切り合いは見られないため新旧は不明である。

**SB4429** (図版 20・32・76) は 3 区 42・43J・K に位置する。建物の北西側の柱穴がいくつか欠落するため規模は断定できないが、桁行 4 間、梁間 2 間の総柱建物で、桁行方位は N - 16° - W を示す。床面積は推定で 22.1 m<sup>2</sup>である。建物を構成するとみられる 11 基の柱穴は柱間が 2.0 ~ 2.8m である。柱穴の平面は円形または梢円形で、断面は多くが U 字状を呈する。規模は、径 0.26 ~ 0.62m、深さ 0.16 ~ 0.79m である。柱根や遺物は出土していない。SB4427 と重複関係にあるが、直接的な切り合いは見られないため新旧は不明である。

**SB4438** (図版 20・33・76) は 3 区 43・44K に位置する。桁行 2 間、梁間 1 間の側柱建物で、桁行方位は N - 14° - E を示す。床面積は 12.1 m<sup>2</sup>である。建物を構成する 6 基の柱穴は柱間が 2.3 ~ 2.5m である。柱穴の平面は円形または梢円形で、断面は U 字状や V 字状、台形状を呈する。規模は、径 0.23 ~ 0.30m、深さ 0.07 ~ 0.46m である。柱根や遺物は出土していない。SB4439 と重複関係にあるが、直接的な切り合いは見られないため新旧は不明である。

**SB4439** (図版 20・33・76・77) は 3 区 43K に位置する。桁行 2 間、梁間 1 間の側柱建物で、桁行方位は N - 84° - E を示す。床面積は 12.8 m<sup>2</sup>である。建物を構成する 6 基の柱穴は柱間が 1.6 ~ 3.3m である。柱

穴の平面は円形または楕円形、断面は多くがU字状を呈する。規模は、径0.27～0.45m、深さ0.17～0.61mである。柱根や遺物は出土していない。SB4438と重複関係にあるが、直接的な切り合いは見られないため新旧は不明である。

## B 井 戸

今回の調査では、174基以上の井戸を検出した。平面は円形・楕円形が多く、少数ながら方形も見られる。断面形の大部分はU字状が占める。井戸側は、残骸や杭、礫などを含めて出土していない。すべて素掘りである。側壁は垂直から急斜度が多く、底面は平坦なものが多い。埋土はレンズ状堆積が大部分を占めるが、いくつかブロック状堆積なども見られる。井戸の時期は出土遺物などから判断して、おおむね中世の所産である。

### 1) 1 団区

SE99（図版11・34・77）は31H11に位置する。平面は楕円形、断面は台形状を呈する。規模は長軸0.75m、短軸0.62m、検出面からの深さは0.82mである。11層に分層された埋土は、炭化物を少量含み、中～下位は水平、上位は斜位に堆積することから人為的に埋め戻されたと考察する。遺物は出土していない。

SE150（図版10・34・77）は37F10に位置する。平面は楕円形、断面は、立ち上がりが中位からやや緩くなり、U字状を呈する。規模は、長軸0.91m、短軸0.73m、検出面からの深さは1.63mである。地山ブロックを多量に含む黒色土が堆積し、5層は腐植物が特に多い。4・5層から湧水があり、掘削中に崩落した。2層から唐津焼皿（1）、底面から焼襷が1点出土した。

SE151（図版10・34・77）は37F13に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりが直立なU字状を呈する。規模は長軸0.81m、短軸0.81m、検出面からの深さは1.42mである。埋土は4層に分層され、地山ブロックを多量に含む黒色土がレンズ状に堆積する。底面からは湧水を確認した。遺物は出土していない。

SE187（図版10・34・78）は37F 2・7に位置する。平面は楕円形、断面は、立ち上がりが直立なU字状を呈する。規模は、長軸0.74m、短軸0.60m、検出面からの深さは0.88mである。埋土は4層に分層され、地山ブロックを含む黒褐色土が水平レンズ状に堆積する。底面からは湧水を確認した。4層から珠洲焼の片口鉢（2）が出土した。

SE267（図版6・34・78）は32F20に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりがやや緩やかなU字状を呈する。規模は、長軸0.52m、短軸0.62m、検出面からの深さは0.64mである。埋土は黒褐色を基本とする粘土質で4層に分層される。青灰色粘土を多く含んでいる。底面からは湧水を確認した。遺物は曲物の底板（245）1点と襷2点が出土した。

SE272（図版6・34・78）は32F20に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりがやや緩やかな台形状を呈する。規模は長軸0.84m、短軸0.68m、検出面からの深さは0.80mである。埋土は4層に分層され、灰色粘土を含む黒褐色粘土がレンズ状に厚く堆積する。底面からは湧水を確認した。遺物は曲物の底板と4層から土師質土器の小皿（3・4）が出土した。

SE284（図版7・34・78・79）は37E 8・3に位置する。平面は楕円形、断面は、立ち上がりが上位から緩くなる漏斗状を呈する。規模は、長軸1.20m、短軸1.12m、検出面からの深さは1.44mである。埋土は灰黒色を基本とする粘土質で、6層に分層される。青灰色粘土を多量に含み、レンズ状に堆積する。底面からは湧水を確認した。新旧関係は、P443・SD283に切られる。遺物は、土師質土器の小皿（5）、珠洲

焼窯の底部（6）が出土した。

**SE383** (国版10・34・79) は37F12・13に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりがやや緩くなるU字状を呈する。規模は、長軸1.00m、短軸1.00m、検出面からの深さは1.58mである。埋土は、黒色土が堆積し、5層は腐植物を多量に含む。4層以下はしまりが弱く湧水が見られ、掘削途中で崩落した。新旧関係は、SD186を切る。底面から径20～30cmの縁が16個出土した。うち、被熱したものは14個を数える。縁の割れ口に、被熱による黒色化が見られることから、井戸への投入前から割れていたと考えられる。5層から唐津焼皿（7～11）、天目茶碗（12）が一括出土した。

**SE534** (国版10・34・79) は37F 6に位置する。平面形は円形、断面は、立ち上がりが垂直なU字状を呈する。規模は、長軸0.80m、短軸0.68m、検出面からの深さは0.96mである。埋土は黒色粘土を基本とし、5層に分層される。青灰色粘土を多量に含み、レンズ状に堆積する。土師質土器片と漆器碗、砥石（199）が出土した。

**SE670** (国版7・35・79) は36E 2に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりが大きく広がる台形状を呈する。規模は、長軸0.82m、短径0.72m、検出面からの深さは0.74mである。埋土は5層に分層され、灰色粘土と炭化物を含む黒褐色粘土がレンズ状に堆積する。遺物は珠洲焼、瀬戸焼、美濃焼平碗（13）などが出土した。

**SE687** (国版10・35・79) は37F 2に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりが垂直なU字状を呈する。規模は、長軸0.88m、短径0.80m、検出面からの深さは0.60mである。埋土は5層に分層され、レンズ状に堆積する。遺物は、砥石（200）が出土した。

**SE777** (国版10・35・80) は36E14・15に位置する。平面は楕円形、断面は、立ち上がりが緩やかに開くU字状を呈する。規模は、長軸1.32m、短軸1.04m、検出面からの深さは1.36mである。埋土は7層に分層され、レンズ状に堆積している。新旧関係は、P679に切られ、SD678・SD778を切る。遺物は底面から板材（275）が出土した。

**SE783** (国版6・9・35・80) は35E 17に位置する。平面は方形、断面は、立ち上がりが緩やかに開くU字状を呈する。規模は、長軸1.20m、短軸は1.20m、検出面からの深さは1.50mである。埋土は6層に分層され、レンズ状に堆積する。1～4層はしまりの強い褐灰色粘土で、4層を除き灰色粘土を少量含む。5・6層は多量の水気を含むために脆い。5層は炭化物や腐植物が混在している。最下層の6層はしまりのない褐灰色粘土で、自然堆積の様相をしている。セクションを撮影した直後に崩落した。底面に近いところから柄杓（257）が出土した。

**SE813** (国版10・35・80) は37F18に位置する。平面は楕円形、断面は、立ち上がりが垂直な箱状を呈する。規模は、長軸0.81m、短軸0.68m、検出面からの深さは0.98mである。埋土は5層に分層され、レンズ状に堆積している。3層から木材が出土した。

**SE832** (国版9・35・80・81) は35F14・15に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりが緩やかに開くU字状を呈する。規模は、長軸0.72m、短軸0.72m、検出面からの深さは0.81mである。埋土は7層に分層され、黒色土と地山近似の灰色土が交互にレンズ状に堆積する。7層から板材（276）が出土した。

**SE855** (国版6・35・81) は35D22・23に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりが緩やかに開くU字形を呈する。長軸0.64m、短軸0.64m、検出面からの深さは0.32mである。埋土は、砂粒を含むシルト寄りの褐灰色粘土で、3層に分層される。炭化物や灰色粘土を少量含む。レンズ状に堆積する。新旧関係は、SK647に切られる。底面付近から珠洲焼の片口鉢が出土した。

**SE860** (国版9・35・81) は35F17・18に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりが緩やかに聞くU字形を呈する。長軸0.99m、短軸0.90m、検出面からの深さは0.96mである。埋土は、4層に分層される。地山ブロックを多量に含む黒褐色土がレンズ状に堆積する。新旧関係は、P908に切られる。遺物は、4層から磨製石斧(210)、6層から焼繰り1点出土した。

**SE866** (国版9・35・81) は35F 9に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりが垂直な箱状を呈する。長軸0.76m、短軸0.76m、検出面からの深さは0.76mである。埋土は、6層に分層され、地山ブロックを含む黒褐色土がレンズ状に堆積する。3層から下位で焼繰りが多く見られる。3・6層から珠洲焼甕、6層から板材が出土した。

**SE936** (国版7・36・81・82) は36E13に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりが垂直な箱状を呈する。長軸0.92m、短軸 0.60m、検出面からの深さは0.76mである。埋土は5層に分層され、灰色粘土を多量に含み、レンズ状に堆積する。新旧関係は、SK970に切られ、P965を切る。遺物は土師質土器の皿(14)が出土した。

**SE953** (国版9・36・82) は35G 7に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりが垂直な箱状を呈する。規模は長軸0.76m、短軸 0.72m、検出面からの深さは0.84mである。埋土は8層に分層され、黒褐色粘土がレンズ状に堆積する。3層は炭化物や灰を多量に含む黒色土である。底面から珠洲焼の片口鉢(15)と焼繰りが出土した。

**SE1042** (国版7・36・82) は35D13・14に位置する。平面は楕円形、断面は、立ち上がりが垂直な台形状を呈する。規模は長軸0.90m、短軸0.44m、検出面からの深さ1.28mである。埋土は4層に分層され、黒色粘土と黒褐色粘土の層が互層し、1～4層とも炭化物を含むが下層へいくほど多量に含む。レンズ状に堆積する。新旧関係は、SE1045に切られる。遺物は1層から珠洲焼の片口鉢(16・17)が出土した。

**SE1045** (国版7・36・82) は35D13・14に位置する。平面は楕円形、断面は、立ち上がりが緩やかに聞くU字状を呈する。規模は長軸0.90m、短軸0.72m、検出面からの深さ0.92mである。埋土は4層に分層され、黒色粘土と黒褐色粘土の層が互層し、1～4層とも炭化物を含むが下層へいくほど多量に含む。レンズ状に堆積する。新旧関係は、SE1042を切る。遺物は出土していない。

**SE1160** (国版36・82) は34E24に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりが垂直なU字状を呈する。規模は長軸0.92m、短軸0.81m、検出面からの深さ0.80mである。埋土は3層に分層され、灰色粘土を多量含みレンズ状に堆積する。遺物は、砾石(201)が出土した。

**SE1384** (国版9・36・82) は35F 4に位置する。平面は円形、断面は立ち上がりが垂直な台形状を呈する。規模は、長軸0.60m、短軸0.56m、検出面からの深さ0.78mである。埋土は5層に分層され、1～5層とも炭化物を含むが、下層へいくほど多量に含む。レンズ状に堆積する。新旧関係は、P1395を切る。遺物は2層から珠洲焼の壺(18)が出土した。

**SE4067** (国版6・36・82・83) は33E3に位置する。平面は円形、断面は、上部に向かってやや聞くU字状を呈する。規模は長軸0.98m、短軸0.84m、検出面からの深さ1.97mである。埋土は9層に分層され、レンズ状に堆積する。埋土の下半部が水気を多く含んでいたため脆い。新旧関係は、SK4068を切る。遺物は8・9層から棒状木製品と曲物の底板(255)が出土した。

**SE4087** (国版6・37・83) は33D13に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりが垂直なU字状を呈する。規模は長軸0.70m、短軸0.64m、検出面からの深さ1.08mである。埋土は4層に分層され、地山粘土ブロックを少量含む褐灰色粘土がレンズ状に堆積する。遺物は3・4層の境目から瀬戸焼・美濃焼の皿

(19)、曲物の底板 (256)、下駄 (267)、繩 2 点が出土した。

SE4151 (図版6・37・83) は33E9に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりが垂直な箱状を呈する。規模は長軸0.70m、短軸0.60m、検出面からの深さ0.87mである。埋土は5層に分層され、地山粘土ブロックを少量含む黒褐色粘土がレンズ状に堆積する。新旧関係は、SD496に切られる。遺物は5層から唐津焼の皿 (20) が出土した。

## 2) 2 区

SE1205 (図版18・39・88) は40H17に位置する。平面は円形、断面は上部に向かって緩やかに聞くU字形を呈する。規模は、長軸0.52m、短軸0.48m、検出面からの深さ0.52mである。埋土は4層に分層され、褐灰色粘土と黒褐色粘土がレンズ状に堆積する。出土遺物は、4層から土師質土器の小皿(29)が出土した。土師質土器は15世紀後半の所産とみられる。したがって、井戸の時期は15世紀後半と考える。

SE1207 (図版18・37・83) は40H17に位置する。平面は不整形、断面は、上部に向かって緩やかに聞く台形状を呈する。規模は、長軸0.96m、短軸0.92m、検出面からの深さ1.40mである。埋土は6層に分層され、炭化物を少量含む褐灰色粘土がレンズ状に堆積する。底面から常に湧水する。新旧関係は、P1206を切る。遺物は、5層から珠洲焼の片口鉢 (21)、曲物の底板 (247)、板材 (277) が出土した。片口鉢はIV期の所産とみられる。埋没過程での混入と判断し、井戸の時期は14世紀代と考える。

SE1210 (図版18・37・84) は40H18に位置する。平面は円形、断面は上部に向かって聞く漏斗状を呈する。規模は、長軸は1.03m、短軸1.02m、検出面までの深さ1.08mである。埋土は3層からなり、灰白色粘土を多量に含む褐灰色粘土が水平状に堆積する。底面から湧水する。新旧関係は、SD1211に切られる。遺物は、2層から珠洲焼の片口鉢 (22) が出土した。埋没過程での混入と考える。

SE1212 (図版16・37・84) は39H5に位置する。平面は方形、断面は立ち上がりが垂直なU字状を呈する。規模は、長軸は0.88m、短軸0.82m、検出面までの深さ1.16mである。埋土は5層に分層され、褐灰色粘土がレンズ状に堆積する。4層以下は水分を多量に含む黒色粘土で脆い。底面から湧水する。遺物は、砥石が (202) が出土した。

SE1404 (図版18・37・84) は39H19に位置する。平面は梢円形、断面は上部に向かって緩やかに聞くU字形を呈する。規模は、長軸0.70m、短軸0.52m、検出面からの深さ0.72mである。埋土は6層に分層され、灰白色粘土や黒色粘土がブロック状に堆積する。5・6層が自然堆積した後、4層以上が埋戻し土だと考える。遺物は、2層から土師質土器の皿 (23) が出土した。土師質土器は13世紀中頃から14世紀の所産とみられる。したがって、井戸の時期は13世紀中頃から14世紀と考える。

SE1518 (図版16・37・84) は38H6に位置する。平面は梢円形、断面は、立ち上がりが垂直なU字状を呈する。規模は、長軸1.56m、短軸0.80m、検出面からの深さ1.60mである。埋土は6層に分層され、主に黒褐色土が水平に堆積する。5層は微細な炭化物、灰を多量に含む青黒色土、6層は腐植土層である。西側中位に幅約50cmのテラス状の段を持つ。井戸掘削時の足場か、崩落の痕跡かはわからない。底面から柄杓 (258・259) が出土した。

SE1563 (図版15・16・37・84・85) は37H20、38H16に位置する。平面は梢円形、断面は、立ち上がりが垂直な台形状を呈する。規模は、長軸1.00m、短軸0.84m、検出面からの深さ1.30mである。埋土は7層に分層され、灰白色粘土を多量に含む黒褐色粘土がレンズ状に堆積する。新旧関係は、P1564に切られ

る。底面から曲物の底板（248）、盤（240）、板材（278）が出土した。

SE1568（図版16・38・85）は38H21に位置する。平面は方形、断面は、立ち上がりが緩やかに聞く台形を呈する。規模は、長軸1.32m、短軸1.08m、検出面からの深さ1.88mである。埋土は6層に分層され、主に黒褐色土がレンズ状に堆積する。3層以下はしまりが弱く、6層は腐植物を多量に含む。遺物は4層から珠洲焼の甕、底面から木製鋤車か独楽（261）とU字状木製品（262）が出土している。

SE1982（図版16・38・85）は38H25に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりが垂直なU字形を呈すると推定する。規模は、長軸1.20m、短径1.08m、検出面からの深さ0.81mである。埋土は6層に分層され、ブロック状に堆積する。新旧関係は、SK2278・SD1428に切られる。遺物は、2層から珠洲焼の片口鉢の口縁部（24）、底部（25）、底面から木製鋤（270）が出土した。木製鋤は、柄を開口部に向いた状態で見つかった。SD1428から珠洲焼や瀬戸焼・美濃焼が出土したことから、井戸は溝より古い14世紀代の遺構と考える。

SE2007（図版15・38・85）は37I9・14に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりが垂直なU字形を呈する。規模は、長軸0.68m、短径0.64m、検出面からの深さ0.88mである。埋土は5層に分層され、灰白色粘土を多量に含む黒色土がレンズ状に堆積する。遺物は、底面から曲物の底板（249）が出土した。

SE2281（図版15・38・86）は37H16・17に位置する。平面は方形、断面は、立ち上がりが垂直な箱状を呈する。規模は、長軸1.08m、短径1.04m、検出面からの深さ1.84mである。埋土は9層に分層され、レンズ状に堆積する。1～3層は灰白色粘土を含む黒褐色土、4～9層は微細な炭化物・灰を含むオリーブ黒色土が堆積する。8層は腐植物を多く含む。遺物は3層から珠洲焼、8層から砥石（203）、漆器椀（233）、曲物底板（250・251）、曲物（252）が出土した。

SE2526（図版17・38・86）は37J1に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりが垂直な箱状を呈する。規模は、長軸0.76m、短径0.76m、検出面からの深さ1.20mである。埋土は12層に分層され、レンズ状に堆積する。新旧関係は、P2315・P2467に切られる。遺物は、漆器椀（234）が出土した。

SE2561（図版15・39・86）は36I14に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりが垂直なU字状を呈する。規模は、長軸0.93m、短径0.84m、検出面からの深さ1.24mである。埋土は4層に分層され、地山ブロックを含む黒色土がレンズ状に堆積する。4層は腐植物を多量に含む。4層から珠洲焼の片口鉢（26）が出土した。

SE2562（図版17・39・86）は36J10に位置する。平面は梢円形、断面は、立ち上がりが垂直なU字状を呈する。規模は、長軸0.80m、短径0.64m、検出面からの深さ1.44mである。埋土は6層に分層され、灰白色粘土を多量に含む黒褐色土がレンズ状に堆積する。6層は腐植物を多量に含む。遺物は、6層から珠洲焼の片口鉢（27）が出土した。

SE2984（図版13・39・87）は31J3・4に位置する。平面は方形、断面は立ち上がりが緩やかに聞くU字形を呈する。規模は、長軸0.72m、短軸0.68m、検出面からの深さ0.64mである。埋土は5層からなり、レンズ状に堆積する。3層が炭化層で、未分解腐植物や炭化物を非常に多く含む。遺物は、3層から曲物の底板（253）が出土した。

SE3150（図版13・39・87）は31J3・4に位置する。平面は円形、断面は立ち上がりが垂直なU字形を呈する。規模は長軸0.68m、短軸0.64m、検出面からの深さ0.76mである。埋土は6層からなり、レンズ状に堆積する。新旧関係は、SD2998・P3882を切る。遺物は6層から初鋳年1039年の皇宋通寶（291）が1枚出土した。

SE3178 (図版13・39・87) は31J14に位置する。平面は円形、断面は立ち上がりが緩やかに聞くU字形を呈する。規模は長軸0.81m、短軸0.76m、検出面からの深さ0.68mである。埋土は6層からなり、レンズ状に堆積する。3層以下は、灰白色粘土を多量に含む。遺物は5層から土師質土器の小皿(28)が出土した。

SE3900 (図版13・39・88) は、32J11・16に位置する。平面は円形、断面は立ち上がりが上部で急に聞くU字形を呈する。規模は、長軸1.20m、短軸1.12m、検出面からの深さ1.24mである。埋土は3層からなり、レンズ状に堆積する。埋土は、6層まで比較的しまりが強く、7層以下は水分を多く含むため脆弱である。底面から湧水が見られた。遺物は、9層から杓子(244)、底面から箸や曲物の底板(254)が出土した。遺物の出土層位が異なることから、ごみ棄て穴として二次利用していた可能性がある。

### 3) 3 区

SE3260 (図版20・39・88) は43J15・20に位置する。立構の半分が調査区外へ広がる。平面は円形と推測され、断面は立ち上がりが急に聞くV字形を呈する。規模は、長軸0.96m、短軸は残存値で0.60m、検出面からの深さ1.38mである。埋土は6層からなり、炭化物、灰白色粘土を多量に含む黒色土がレンズ状に堆積する。6層は地山に近似する灰色土。遺物は出土していない。

SE3261 (図版20・40・88) は、44J21に位置する。平面は方形、断面は立ち上がりが垂直な箱状を呈する。規模は、長軸0.80m、短軸0.72m、検出面からの深さ1.58mである。埋土は7層からなり、地山ブロックを含む黒色粘土がレンズ状に堆積する。6層は粉殻などを多く含む未分解腐植物を含む。7層は地山に近似する灰色土。遺物は、底面から漆器椀(235)、盤(241)が出土した。

SE3507 (図版20・40・88・89) は、44K7に位置する。平面は楕円形、断面は立ち上がりが垂直なU字状を呈する。規模は、長軸1.04m、短軸0.80m、検出面からの深さ1.16mである。埋土は6層からなり、黒色土がレンズ状に堆積する。5・6層は未分解腐植物を多量に含み水分も多い。新旧関係はSD3002を切る。遺物は6層から初鉄年1086年の熙寧元寶(286)が出土した。

SE3508 (図版20・40・89) は、43J24に位置する。平面は円形、断面は立ち上がりが垂直なU字状を呈する。規模は、長軸0.72m、短軸0.68m、検出面からの深さ1.28mである。埋土は9層からなり、黒色粘土がレンズ状に堆積する。9層は未分解腐植物を少量含む。遺物は、底面から土師質土器の皿(30)が出土した。

SE3623 (図版19・40・89) は、4II15に位置する。平面は円形、断面は立ち上がりが垂直なU字状を呈する。規模は、長軸0.92m、短軸0.88m、検出面からの深さ0.92mである。埋土は6層からなり、地山ブロックを含む黒褐色土がレンズ状に堆積する。新旧関係はSD3624を切る。魔棄されたとみられる人頭大の甕が、中位で2点、底面で15点出土。甕の約半数が被熱している。遺物は1層から珠洲焼の片口鉢(31)、底面から砥石(204)が出土した。

SE3704 (図版19・40・89) は、42II8に位置する。平面は円形、断面は立ち上がりが垂直な箱状を呈する。規模は、長軸0.68m、短軸0.68m、検出面からの深さ1.00mである。埋土は8層からなり、地山ブロックを含む黒色土がレンズ状に堆積する。新旧関係は、P4021・4022を切る。遺物は、7層から土師質土器の皿(32)、板材(279)が出土した。

SE3719 (図版19・41・90) は、42II8に位置する。平面は楕円形、断面は立ち上がりが緩やかに聞くU字状を呈する。規模は、長軸1.40m、短軸1.12m、検出面からの深さ1.74mである。埋土は11層からなり、1～7層は地山ブロックを含む黒色土、8～11層は未分解腐植物を含む黒褐色土がレンズ状に堆積する。新旧関係は、P3915・3916を切る。遺物は、9層から踏み跡(271)、底面から焼甕が1点出土した。

SE3726 (図版19・40・90) は、42I 7に位置する。平面は梢円形、断面は立ち上がりが少し歪なU字状を呈する。規模は、長軸1.00m、短軸0.80m、検出面からの深さ1.58mである。埋土は11層からなり、1～8層は黒色土、9・10層は未分解腐植物を含む黒褐色土がレンズ状に堆積する。遺物は、4層から珠洲焼の片口鉢、9層から瓢箪形の容器が出土した。瓢箪形の容器内からは多くの種子を検出した。しかし、土圧のためか、容器は原形を留めていない。

SE3764 (図版20・41・90) は、42J18・23に位置する。平面は円形、断面は立ち上がりが上部に開くU字状を呈する。規模は、長軸0.70m、短軸0.68m、検出面からの深さ1.36mである。埋土は7層からなり、主に黒色土がレンズ状に堆積する。6・7層は未分解腐植物を含み、湧水が著しい。底面近くから土師質土器の皿・小皿(33～49)が出土した。その内、10枚が正位で重なっており、すべて完形品である。

SE3940 (図版20・41・91) は、42J20に位置する。平面は円形、断面は立ち上がりが垂直なU字状を呈する。規模は、長軸1.20m、短軸1.08m、検出面からの深さ0.92mである。埋土は5層からなり、黒色土がレンズ状に堆積する。2層は炭化物と地山に近似する灰土色が互層をなす。新旧関係は、P4041に切れ、P4042・P4044を切る。遺物は5層から土師質土器の皿(50)、焼碟4点、五輪塔の地輪が出土した。

SE4030 (図版20・41・91) は、43J16に位置する。平面は円形、断面は立ち上がりが垂直なU字状を呈する。規模は、長軸0.84m、短軸0.80m、検出面からの深さ1.12mである。埋土は6層からなり、黒色土がレンズ状に堆積する。6層は水分を含み艶い。新旧関係はSD3383に切られる。6層から木本材が出土した。

SE4275 (図版20・41・91) は42J22に位置する。平面は方形、断面は、立ち上がりが垂直なU字状を呈する。規模は、長軸0.80m、短軸0.68m、検出面からの深さ0.76mである。埋土は5層からなり、レンズ状に堆積する。底面から湧水が見られる。遺物は、3層から珠洲焼の壺(51)、5層から珠洲焼の片口鉢が出土した。

## C 土 坑

土坑は32基検出した。平面は円形や梢円形が多く、長方形や方形も少数ながら存在する。側壁は、垂直から急斜度が多数を占め、底面は平坦なものが多い。埋土は、多くがレンズ状堆積で、ブロック状や斜位の堆積は少ない。時期は出土遺物などから判断して、おおむね中世の所産である。

### 1) 1 区

SK44 (図版12・42・91) は32G15・20、33G16・17に位置する。平面は長方形、断面は、南側が急斜で、北側はやや緩い立ち上がりの台形状を呈する。規模は、長軸4.00m、短軸1.96m、検出面からの深さ0.64mである。埋土は9層からなり、レンズ状に堆積する。しかし、埋土は地山ブロックを多量に含んでいる部分もあり、人為的に埋め戻しが行われた可能性がある。遺物は、1層から土師質土器の皿が出土した。

SK581 (図版6・42・92) は34D10に位置する。遺構の一部が調査区外へ広がる。平面は梢円形あるいは方形を呈すると思われる。断面は、立ち上がりが上部で緩やかに開く台形状を呈する。狭小な段を南側に持つ。規模は、長軸1.92m、短軸は残存値で1.80m、検出面からの深さは0.80mである。埋土は7層からなり、レンズ状に堆積する。1層は砂粒をわずかに含みよくしまる。2・5層は灰白色粘土や炭化物を多量に含み、壁面から土が流れ込む様子が見られるため、崩落土の可能性が高い。3・4層は混入物が少ないため自然堆積とみる。6層は水気を多く含み、鉄分の沈着が多い。また、中心部から円形状に集まつた未分解腐植物を検出した。新旧関係は、SD599に切られる。遺物は、土師質土器が出土した。

SK647 (図版6・43・92) は35D22・23、35E 2・3・8に位置する。平面は長梢円形、断面は立ち上

がりが緩やかな弧状を呈する。規模は、長軸3.88m、短軸2.84m、検出面からの深さ0.36mである。埋土は7層からなり、レンズ状に堆積する。1層は灰褐色土が多く混じるにぶい黄褐色砂である。4・6層に灰色・褐灰色粘土を比較的多く含む。層位の堆積が乱れているように見えるが、自然堆積と判断した。新旧関係はSE852・SE855、SK654、P1007・P2724・P2655・P2656・P2694・P2737・P2739・2740を切る。遺物は、2層から唐津焼の皿(52・53)・瀬戸焼・美濃焼の擂鉢(54)が出土した。

SK654(図版6・42・92)は35E 6・7・8、35D21に位置する。平面は方形、断面は立ち上がりが急斜度な台形状を呈する。規模は、長軸3.13m、短軸2.58m、検出面からの深さ0.48mである。埋土は8層からなり、レンズ状に堆積する。埋土は砂粒を含むシルト寄りの粘土で、灰色粘土ブロックを少量含む。1層は、SK647に近似する砂粒を多く含む。6・7層は灰色粘土を多量に含み、壁面から流れ込む様子がある。8層は砂粒と水気を含む黒褐色粘土で、未分解腐植物を検出した。新旧関係は、SK647、SD599に切られる。遺物は、底面から唐津焼の皿(55～57)・瀬戸焼・美濃焼の天目茶碗(58)が出土した。

SK688(図版10-43-92-93)は36F12に位置する。平面は円形、断面は立ち上がりが垂直な半円状を呈する。規模は、長軸1.00m、短軸0.96m、検出面からの深さ0.36mである。埋土は4層からなり、粘土とシルトがレンズ状に堆積する。シルト層はしまりが弱い。遺物は、2層から土師質土器の皿が出土した。

SK853(図版6・7・43・93)は35D 18に位置する。平面は楕円形、断面は立ち上がりが急斜度な台形状を呈する。規模は長軸0.72m、短軸0.60m、深さ0.36mである。埋土は3層からなり、レンズ状に堆積する。遺物は、底面から珠洲焼の片口鉢(91)が出土した。この遺物は、SD111・SD41・SD496で出土した破片と同一個体である。したがって、SD111・SD41・SD496と同時期に存在していたと推定する。

SK981(図版7・43・93)は36D21に位置する。平面は楕円形、断面は立ち上がりが垂直なU字状を呈する。規模は長軸1.04m、短軸0.88m、検出面からの深さ0.64mである。埋土は5層からなり、黒褐色土がレンズ状に堆積する。4・5層はしまりが弱い。遺物は2層から土師質土器の皿(59)が出土した。

SK1128(図版9・44・93)は34F14・15・19・20に位置する。平面は楕円形、断面は立ち上がりが急斜度で、中央部は深く崖み、階段状を呈する。規模は長軸1.86m、短軸1.32m、検出面からの深さ0.92mである。埋土は5層からなり、地山ブロックを多量に含む黒褐色土がレンズ状に堆積する。1つの遺構として記録したが、柱穴上に土坑が構築された可能性もある。遺物は、2層から土師質土器の皿(60)が出土した。

SK1168(図版9・44・93)は34F 4に位置する。平面は楕円形、断面は、立ち上がりが急斜度で半円状を呈する。規模は長軸1.08m、短軸0.80m、検出面からの深さ0.16mである。埋土は3層からなり、地山ブロックを含む黒色土がレンズ状に堆積する。遺物は、1層から土師質土器の皿が出土した。

SK1227(図版6-44-94)は34E14に位置する。平面は円形、断面は立ち上がりが急斜度な半円状を呈する。規模は、長軸0.48m、短軸0.44m、検出面からの深さは0.20mである。埋土は2層からなり、レンズ状に堆積する。遺物は、珠洲焼の片口鉢(61)が出土した。

SK4086(図版8・44・94)は33F21・22に位置する。平面は方形、断面は立ち上がりが垂直な箱状を呈する。規模は、長軸2.08m、短軸1.90m、検出面からの深さは0.48mである。埋土は10層からなり、レンズ状に堆積する。3層以上は灰白色粘土を多量に含む。遺物は唐津焼の皿(64・65)と珠洲焼の片口鉢(66)が出土した。

## 2) 2 章

SK1306(図版18・44・94)は40F22、40J2に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がりが急斜度なV字

状を呈する。規模は、長軸0.92m、短軸0.92m、検出面からの深さ0.64mである。埋土は5層からなり、レンズ状に堆積する。2・5層は灰白色粘土ブロックを多量に含む。新旧関係は、P1305を切る。遺物は、2層から土師質土器の皿(62)が出土した。

SK1359(図版16・44・94)は39G25に位置する。遺構の一部が調査区外に広がる。平面は円形と推定され、断面は、立ち上りが急斜度な台形状を呈する。西側に狹小なテラスを持つ。規模は、長軸1.40m、短軸は残存値で0.84m、検出面からの深さ0.60mである。埋土は7層からなり、地山ブロックを含む黒褐色土がレンズ状に堆積する。6・7層は炭化物を多く含む。新旧関係は、SD1380を切る。遺物は、2層から土師質土器の小皿(63)が出土した。

SK1435(図版16・44・94)は38I 2に位置する。平面は円形、断面は、立ち上りが急斜度なU字状を呈する。規模は、長軸0.84m、短軸0.84m、検出面からの深さ0.60mである。埋土は5層からなり、レンズ状に堆積する。検出時はSK1436と同一の遺構と捉えたが、断面観察による土質の違い、深さなどの形状の違いから、別遺構の重複と考えた。新旧関係は、SK1436を切る。両遺構とも黒褐色土が堆積するが、SK1435の黒味が強い。遺物は、2層から土師質土器の小皿(67)が出土した。

SK1436(図版16・44・94)は38I 2に位置する。平面は梢円形、断面は、立ち上りが急斜度な半円状を呈すると推定。規模は、長軸1.08m、短軸は残存値で0.60m、検出面からの深さ0.32mである。埋土は2層からなり、黒褐色土がレンズ状に堆積する。新旧関係はSK1435に切られ、P1437を切る。遺物は出土していない。

SK1515(図版16・45・95)は38H 2に位置する。平面は梢円形、断面は、立ち上りが急斜度な半円状を呈する。規模は、長軸2.40m、短軸1.96m、検出面からの深さ0.52mである。埋土は6層からなり、黒褐色土がレンズ状に堆積する。新旧関係はSD1428に切られる。遺物は、6層から珠洲焼の甕が出土している。

SK1760(図版16・45・95)は38I 8に位置する。平面は方形、断面は、立ち上りが急斜度な台形状を呈する。規模は、長軸2.00m、短軸1.58m、検出面からの深さ0.46mである。埋土は5層からなり、地山ブロックを含む黒褐色土がレンズ状に堆積する。方形の堅穴状土坑で、底面は平坦をなす。遺物は、2層から珠洲焼の片口鉢(68)が出土した。

SK1809(図版18・45・95)は、38I23に位置する。平面形は長梢円形、断面形は立ち上りが急斜度な半円形を呈する。規模は、長軸1.46m、短軸0.92m、検出面からの深さ0.30mである。埋土は5層からなり、炭化物や灰褐色土を多量に含む褐灰色粘土がブロック状に堆積する。堆積状況から人為的な埋戻しを行ったと推定する。遺物は、2層から初鎌年1068年の熙寧元寶(287)と初鎌年1004年の景德元寶(288)が1枚ずつ、4層から板材が出土した。

SK1834(図版15・17・45・95)は、36I18に位置する。平面は円形、断面は立ち上りが急斜度なU字状を呈する。規模は、径0.60m、検出面からの深さ0.38mである。埋土は4層からなり、1・2層は灰褐色土を含む黒褐色粘土、3層は褐色土、4層は青灰色粘土がレンズ状に堆積する。新旧関係は、SK2146を切る。遺物は、2層から越中瀬戸焼の擂鉢(70)と瀬戸焼・美濃焼の天目茶碗(69)、3層から石臼(213)が出土した。

SK1946(図版16・45・96)は、39H25に位置する。平面形は円形または梢円形と推定され、断面形は立ち上りが急斜度な台形を呈する。規模は、長軸0.94m、短軸は残存値で0.42m、検出面からの深さ0.32mである。埋土は4層からなり、レンズ状に堆積する。1・2層は炭化物を多く含まず、3cm大の灰褐色粘

土ブロックが多量に含まれる。新旧関係は、SD1540に切られる。遺物は、2層から土師質土器の皿(71)と5枚の錢貨が隣接して出土した。出土状況から墓坑の可能性が高いが、木棺などの痕跡は断面からは判断できなかった。出土した土師質土器は、15世紀後半の所産と見られる。また、錢貨は初鑄年1411年の永楽通寶(290)と初鑄年1008年の祥符元寶(289)の2枚が判別可能であった。

SK1947(図版16・45・96)は、39H24、39J4に位置する。平面は円形または楕円形と推定され、断面は立ち上がりが緩やかな弧状を呈する。規模は長軸1.12m、短軸は残存値で0.52m、検出面までの深さ0.18mである。埋土は2層からなり、レンズ状に堆積する。新旧関係は、SD1540に切られる。遺物は、1層から土師質土器の皿が出土した。

SK2062(図版17・45・96)は、37I19に位置する。平面は楕円形、断面は立ち上がりが垂直なU字状を呈する。規模は、長軸0.60m、短軸0.54m、検出面までの深さ0.66mである。埋土は5層からなり、地山に近似する灰色土と黒褐色土が交互にレンズ状に堆積する。遺物は、5層から初鑄年995年の至道元寶が1枚出土した。

SK2129(図版15・45・96)は、37H21、37I1・2に位置する。平面は円形、断面は立ち上がりが垂直なU字状を呈する。埋土は8層からなり、1~3層は黒褐色土、4~8層は黒色土がレンズ状に堆積する。遺物は、2層から珠洲焼の片口鉢(74)が出土した。

SK2030(図版17・46・97)37J23・24に位置する。平面は不整形、断面は、立ち上がりが北側は緩やか、南側は垂直な箱型を呈する。南に狹小なテラスを持つ。規模は、長軸3.04m、短軸2.30m、検出面からの深さ0.82mである。埋土は8層からなり、灰色粘土と炭化物を含む黒褐色粘土がレンズ状に堆積する。遺物は、土師質土器の皿(72)、青磁(73)、漆器椀、箸(243)が出土した。

SK2278(図版16・46・97)は38H24・25、38I4・5に位置する。平面は円形あるいは楕円形、断面は半円形を呈する。長軸1.60m、短軸は残存値で0.62m、検出面からの深さ0.60mである。埋土は4層からなり、レンズ状に堆積する。1・2層目に多量の灰色粘土を含む。新旧関係は、SD1428を切り、SD2276に切られる。遺物は出土していない。

SK2973(図版13・46・97)は31J9・14に位置する。平面は円形、断面は半円状を呈する。規模は、長軸0.74m、短軸0.70m、検出面からの深さ0.48mである。埋土は6層からなり、ブロック状に堆積する。底部から涌水が見られる。遺物は、2層から珠洲焼の甕(75)と片口鉢(76)口縁部片が出土した。

SK2894(図版14・46・98)は33J・33Kに位置する。遺構の一部が調査区外へと広がる。平面は楕円形と推定され、断面は、立ち上がりが緩やかな弧状を呈する。規模は、長軸4.50m、短軸3.70m、検出面からの深さ0.30mである。埋土は6層からなり、黒褐色粘土や褐灰色粘土がレンズ状に堆積する。新旧関係は、SK3593・P3571・P3596・P3597・P3598・P3654・P3655・P3589・P3590・P3591・P3592を切る。遺物は出土していない。

SK3447(図版14・47・98)は、33J1・2・6・7に位置する。平面は円形、断面は、立ち上がり緩やかな弧状を呈する。規模は、長軸2.10m、短軸2.06m、検出面からの深さ0.42mである。埋土は8層からなり、褐灰色粘土や黒褐色粘土がレンズ状に堆積する。遺物は、底部から土師質土器の皿(79)、瀬戸焼・美濃焼の皿(80)、襷、木が出土した。遺物や襷には、二次焼成の痕跡が見られるが、遺構自体に炭化層は存在しない。したがって、土坑に遺物を廻棄したと考える。

SK3641(図版15・47・98)は34J・Kに位置する。遺構の一部が調査区外に広がる。平面は不整形、断面形は立ち上がりが緩やかな弧状を呈する。規模は、長軸3.20m、短軸は残存値で2.60m、検出面からの

深さ0.10mである。埋土は褐灰色粘土の単層である。新旧関係は、P3565・P3656・P3658・P3659・P3660を切る。遺物は出土していない。埋土はごく浅く、底面も凹凸を有すため、包含層であるⅢ層が低地に堆積した窪みの可能性もある。

SK3652（図版14・47・98）は32I・J、33I・Jに位置する。平面は円形、断面は立ち上がりが緩やかな弧状を呈する。規模は、長軸3.44m、短軸3.00m、検出面からの深さ0.26mである。埋土は4層からなり、褐灰色粘土がレンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

### 3) 3 区

SK3259（図版20・47・98）は43K 7・12に位置する。平面は円形、断面は立ち上がりが垂直な箱状を呈する。規模は、長軸0.60m、短軸0.60m、検出面からの深さ0.40mである。埋土は6層からなり、地山ブロックを含む黒色土がレンズ状に堆積する。遺物は、底面から土師質土器皿、青磁碗（77）、こぶし大の環4個が出土した。

SK3354（図版20・47・99）は42K20に位置する。北西端が調査区法面にかかる。平面は方形、断面は立ち上がりが斜度な箱状を呈する。規模は、長軸2.44m、短軸2.30m、検出面からの深さ0.68mである。埋土は11層からなり、1～4層は黒色土、5～11層は黒褐色土がレンズ状に堆積する豊穴状土坑である。埋土に炭化物の塊などが見られることから、人為堆積と考えられる。底面は平坦を呈する。東側にわずかな突出部があり、立ち上がりがやや緩くなるため、階段などの施設を想定したが、検出しなかった。遺物は、7層から土師質土器の皿（78）、瀬戸焼・美濃焼の皿が出土した。

## D 溝

### 1) 1 区

SD41（図版9・11・48・99）は32Eに位置する。溝は直線的で、東西方向に延び、調査区外へ続く。断面は立ち上がりが緩やかな弧状を呈する。規模は長さ17.0m、幅2.00m、検出面からの深さ0.34mである。埋土は7層からなり、黒褐色粘土や灰白色粘土がレンズ状に堆積する。7層には、未分解植物を多量に含む。新旧関係は、SD496に切られる。遺物は、土師質土器の皿・小皿（81～83）、珠洲焼（85～87）、唐津焼の皿（84）、砥石（205）、曲物（260）、下駄（268・269）、下駄歯、板材（280）が出土した。

SD111（図版10・48・99）は38Eに位置する。溝は直線的で、東西方向に延び、調査区外へ続く。断面は、立ち上がりが緩やかな台形状を呈する。規模は、長さ10.4m、幅2.20m、検出面からの深さ0.70mである。埋土は4層からなり、黒褐色土がレンズ状に堆積する。遺物は、2層から土師質土器の皿（88）、2・3層から珠洲焼（89～94）が出土した。

SD281（図版7・48・99）は36・37Dに位置する。溝は直線的で、南北方向に延び、南側は調査区外へ続く。そのため、全容は把握できない。断面は立ち上がりが垂直な台形状を呈する。規模は、長さが残存値で42.0m、幅1.60m、検出面からの深さ0.24mである。埋土は2層からなり、黒褐色粘土が水平に堆積する。新旧関係は、P304・308・313・364・563・576・770・923・2615・2616・2670・2671、SE666を切り、SE765に切られる。遺物は、土師質土器の皿（95）、珠洲焼の片口鉢（96）が出土した。

SD282（図版7・48・99）は35～37Dに位置する。溝は直線的で南北方向に延び、南側は調査区外に続く。そのため、全容は把握できない。SD281が平行する。断面は、立ち上がりが急斜度な半円状を呈する。規

模は、長さが残存値で20.4m、幅2.04m、検出面からの深さ0.52mである。埋土は3層からなり、灰白色土を含む黒褐色粘土が、レンズ状に堆積する。新旧関係は、P316・768・1232、SK320・970・SK1338、SE297を切る。遺物は、土師質土器の皿(97)、珠洲焼の片口鉢(98)が出土した。

SD283 (図版7・48・100)は37Eに位置する。溝は直線的で南北方向に延びる。断面は、立ち上がりが緩やかな弧状を呈する。規模は、長さ1.60m、幅1.80m、深さ0.10mである。埋土は、灰白色粘土を含む黒褐色粘土の単層である。遺物は、唐津焼の碗(99)が出土した。

SD345 (図版6・48・100)は34Dに位置する。溝は直線的で東西方向に延びる。東側は調査区外に延び、西側はSK412に切られる。そのため、全容は把握できない。断面は、立ち上がりが緩やかな弧状を呈する。規模は、長さが残存値で4.4m、幅1.56m、検出面からの深さ0.32mである。埋土は3層からなり、灰白色粘土を含む黒色粘土や黒褐色粘土がレンズ状に堆積する。新旧関係は、P356・419・764・2779を切り、SK350・412を切る。遺物は、土師質土器、珠洲焼の甕(100)が出土した。

SD496 (図版2・48・100)は、34Eに位置する。溝は直線的で南北方向に延びる。断面は、立ち上がりが緩やかな弧状を呈する。規模は、長さ19.2m、幅9.60m、検出面からの深さ0.58mである。埋土は8層からなり、黒色粘土や黒褐色粘土がレンズ状に堆積する。遺物は、土師質土器の皿・小皿(101~104)、珠洲焼(107~110)、瀬戸焼・美濃焼の鉢皿(105)と大皿(106)が出土した。

## 2) 2 区

SD1211 (図版16・17・37・84)は、39・40Iに位置する。溝は直線的で南西から北東方向に延びる。南西側は調査区外へ、北東側はSD1540に切られる。断面は、立ち上がりが垂直な台形状を呈する。埋土は5層からなり、褐色粘土が斜位に堆積する。SD2462と埋土や断面形が近似することから、同一遺構の可能性がある。新旧関係は、SE1210を切り、SD1540・SD2276に切られる。遺物は、土師質土器皿、珠洲焼が出土した。

SD1380 (図版16・48・100)は39Gに位置する。溝はL字型に屈曲し、SB435-1・2を跨む。南側は調査区外に延びる。断面は、立ち上がりが急斜度な台形状を呈する。規模は、全長14.0m、幅1.50m、検出面からの深さ0.40mである。埋土は4層からなり、黒褐色土がレンズ状に堆積する。溝の東端は、意図的な立ち上りを見せる。仮に建物と溝が東側へ延伸するならば、この部分は土橋と推定される。また、本遺構周辺は遺構の空白域が見られるため、掘削土を利用した盛土などの構築を想定した。しかし、その痕跡は断面観察から見出せなかった。遺物は、1層から多数の土師質土器の皿(112~133)、瀬戸焼・美濃焼(134)、珠洲焼が出土した。

SD1428 (図版16・38)は39Jに位置する。溝は直線的で東西方向に延びる。東側は調査区外に延び、西側はSD2276に切られる。SD1380と平行する。規模は、長さが残存値で12.0m、幅2.87m、深さ0.60m、断面は立ち上がりが緩やかな台形状を呈する。埋土は8層からなり、黒褐色粘土などがレンズ状に堆積する。新旧関係は、SE1982を切り、SK2278、SD2276に切られる。遺物は、土師質土器皿(135・136)、3層から珠洲焼(137~141)、7層から瀬戸焼・美濃焼(142)が出土した。

SD2285 (図版15・48・100)は37Hに位置する。溝は南北方向に直線的に伸びる。断面は立ち上がりが急斜度な弧状を呈する。規模は、長さ3.00m、幅0.60m、検出面からの深さ0.10mである。埋土は黒色粘土の単層である。遺物は出土していない。

SD1540 (図版12~14・48・100)は、2区南の中心に位置する。溝は直線的に南北方向に延びる。南側

は調査区外へ延び、北側は旧葦叢川に切られる。断面は立ち上りが急斜度な台形状を呈する。規模は、長さが残存値で41.0m、幅2.16m、検出面からの深さ0.70mである。埋土は7層からなり、褐灰色粘土などがレンズ状に堆積する。埋土からは土師質土器の皿(143)、珠洲焼(153~161)、唐津焼(144~145)、瀬戸焼・美濃焼(147~148)、白磁(150~152)、志野焼(149)、越中瀬戸焼(146)、石臼(215)が出土した。SD1540が埋没した後に掘り直されている。掘り直し後の溝はSD2276である。

SD2276(図版12~14・48・100)は2区の南側の中心に位置する。溝は直線的で南北方向に延びる。南側は調査区外へ延び、北側は旧葦叢川に切られる。断面は急斜度な台形状を呈する。規模は、長さが残存値で41.0m、幅1.60m、深さ0.42mである。埋土は4層からなり、褐灰色粘土などがレンズ状に堆積する。遺物は1層から土師質土器の皿(162)が出土した。土師器質土器の内面には「南無阿弥陀口」と梵字(キリック)、底部外面にも「□妙蓮口」の墨書きがある。SK2278・SD1428・SD1540を切る。

SD2462(図版12~14・48・100)は38Iに位置する。溝は直線的で南北方向に延びる。南側はSD2276に、北側は旧葦叢川に切られる。断面は、立ち上がりが垂直な台形状を呈する。規模は、長さが残存値で19.6m、幅0.96m、深さ0.40mである。埋土は3層からなり、褐灰色粘土や灰白色粘土が水平に堆積する。新旧関係は、P2477に切れられ、SE2525・SK2461・P2314・P2523・P2568・P2478を切る。遺物は2層から土師質土器の皿(163)が出土した。

SD3991(図版20・21・48・100)は35H・I、36H・Iに位置する。溝はL字状に屈曲する溝である。断面は、立ち上りが緩やかな弧状を呈する。規模は、全長が残存値で15.0m、幅2.10m、検出面からの深さ0.30mである。埋土は4層からなり、褐灰色粘土がレンズ状に堆積する。SD4019を切り、SD3990に切られる。1層から土師質土器の皿(164~166)、珠洲焼の壺(167)、瀬戸焼・美濃焼の大皿(168)が出土した。

### 3) 3 区

SD3002(図版20・21・49・101)は43・44Kに位置する。溝は直線的で南北方向に延び、両側が調査区外へ続く。断面は、立ち上がりが急斜度な台形状を呈する。東側にテラス状の段を持つ所がある。規模は、長さが残存値で16.6m、幅1.74m、深さ0.44mである。埋土は7層からなり、地山ブロックを含む黒褐色土がレンズ状に堆積する。遺物は、1層から珠洲焼が出土した。

SD3305(図版20・49・101)は、43Jに位置する。溝は、直線的で南北方向に延びる。SD3002と同軸である。規模は、長さが残存値で16.7m、幅0.80m、検出面からの深さ0.48mである。埋土は5層からなり、地山ブロックを含む黒褐色土がレンズ状に堆積する。堰に近い印象を受ける。新旧関係はSD3383に切られる。遺物は1・3層から珠洲焼の壺が出土した。

SD3383(図版19・20・49・101)は42I・Jに位置する。溝は直線的で東西方向に延びる。SD3305と接した部分で途切れる。SD3551は南北方向に延びる溝である。42I8・23付近でT字状に合流する。断面観察からは両者に新旧関係は確認できないことや、平面規模と深さ、埋土の土質が似ていることから、同時期の遺構と推察する。炭化物と地山ブロックを含む黒色土が堆積する。遺構検出の際は、本遺構より新しいものは見出せなかった。SD3383・1層から陶器が出土した。

## E 道路状遺構(図版9・12・49・101)

33・34・35G・Fに位置する。溝は、やや弧状を呈しながら北から西方向へ延びる。西側は調査区外へと延び、一部が旧葦叢川に切られる。断面は、3つの溝で成り立ち、それぞれの立ち上がりは急斜度な

弧状を呈する。規模は、全長が残存値で28.0m、幅2.42m、検出面からの深さ0.24mである。埋土は4層からなり、黒褐色粘土がレンズ状に堆積する。新旧関係は、SD41を切る。遺物は、土師質土器の皿(169~171)、珠洲焼の片口鉢(177)、唐津焼(172・175・176)、天目茶碗(173)、瀬戸焼・美濃焼の大皿(174)が出土した。

#### F 性格不明遺構

SX300(図版7・10・49・102)は36・37Eに位置する。平面は長楕円形、断面は立ち上がりが急斜度な弧状を呈する。規模は、長軸7.12m、短軸4.20m、検出面からの深さは0.28mである。埋土は6層からなり、黒褐色粘土などがブロック状に堆積する。新旧関係は、SD258、SE661・680、P457・675・744・775を切る。遺物は、唐津焼の皿(178)が出土した。

#### G ピット

P61(図版11・49・102)は30H13・14に位置する。平面は楕円形、断面はU字状を呈する。規模は、長軸0.84m、短軸0.62m、検出面からの深さ0.62mである。埋土は5層からなり、柱根が残存する。埋土は4・5層が表込め土、1・2層は埋め土である。遺物は信楽焼の壺(179)が出土した。

P81(図版11・49・102)は30H14に位置する。平面は円形、断面は箱状を呈する。規模は、長軸0.82m、短軸0.80m、検出面からの深さ0.74mである。埋土は6層からなり、黒色粘土や褐灰色粘土がブロック状に堆積する。遺物は、土師質土器の皿(180)が出土した。

P136(図版7・10・50・102)は37E3に位置する。平面は楕円形、断面は漏斗状を呈する。規模は、長軸0.76m、短軸0.62m、検出面からの深さ0.60mである。埋土は6層からなり、黒色粘土やシルトがレンズ状に堆積する。遺物は、唐津焼の皿(181)が出土した。

P253(図版10・50・102)は38F11に位置する。平面は円形、断面はU字状を呈する。規模は、長軸0.40m、短軸0.32m、検出面からの深さ0.50mである。埋土は2層からなり、1層から柱根(217)が出土した。

P351(図版7・50・102)は37E3に位置する。平面は楕円形、断面はU字状を呈する。規模は、長軸0.30m、短軸0.22m、検出面からの深さ0.24mである。埋土は黒褐色粘土の単層で、1層から柱根(219)が出土した。

P361(図版7・50・102)は37E3に位置する。平面は楕円形、断面はU字状を呈する。規模は、長軸0.30m、短軸0.22m、検出面からの深さ0.24mである。埋土は黒褐色粘土の単層で、1層から柱根(219)が出土した。

P407(図版6・50・103)34D21に位置する。平面は円形、断面はU字状を呈する。規模は、長軸0.24m、短軸0.22m、検出面からの深さ0.40mである。埋土は2層からなり、灰色粘土と黒褐色粘土が堆積する。遺物は、天目茶碗(182)が出土した。

P509(図版7・50・103)は36D21に位置する。平面は方形、断面は漏斗状を呈する。規模は、長軸0.62m、短軸0.60m、検出面からの深さ0.64mである。埋土は4層からなり、黒褐色粘土やオリーブ灰色粘土が堆積する。3層から柱根(220)が出土した。

P520(図版10・50・103)は37F6に位置する。平面は円形、断面はU字状を呈する。規模は、長軸0.30m、短軸0.30m、検出面からの深さ0.40mである。埋土は4層からなり、黒褐色粘土や灰色粘土が堆積する。

P660(図版6・50・103)は35E13に位置する。平面は円形、断面はU字状を呈する。規模は、長軸0.32m、短軸0.30m、検出面からの深さ0.60mである。埋土は2層からなり、褐灰色粘土が堆積する。1層から柱根(223)が出土した。

P752 (図版10-50・103) は37F5に位置する。平面は円形、断面はU字状を呈する。規模は、長軸0.44m、短軸0.40m、検出面からの深さ0.40mである。埋土は4層からなり、黒色シルトや褐灰色粘土などが堆積する。2層から柱根(224)が出土した。

P912 (図版9-50・103) は35F18に位置する。平面は円形、断面はU字状を呈する。規模は、長軸0.28m、短軸0.28m、検出面からの深さ0.58mである。埋土は3層からなり、黒色粘土や灰色粘土が堆積する。2層から柱根(225)が出土した。

P1396 (図版50-103) は34E24に位置する。平面は楕円形、断面は漏斗状を呈する。規模は、長軸0.56m、短軸0.30m、検出面からの深さ0.24mである。埋土は3層からなり、黒褐色粘土や青灰色粘土が堆積する。2層から土師質土器の皿(183)が出土した。

P2622 (図版7-50-103) は36E8に位置する。平面は楕円形、断面は漏斗状を呈する。規模は、長軸0.56m、短軸0.30m、検出面からの深さ0.24mである。埋土は3層からなり、黒褐色粘土や青灰色粘土が堆積する。新旧関係は、P2623を切る。遺物は出土していない。

P2623 (図版7-50-103) は36E8に位置する。平面は楕円形、断面は漏斗状を呈する。規模は、長軸0.34m、短軸0.26m、検出面からの深さ0.10mである。埋土は単層で、黒褐色粘土が堆積する。新旧関係は、P2622に切られる。埋土から土師質土器の皿が出土した。

P2809 (図版5-51-104) は32D11に位置する。平面は円形、断面はU字状を呈する。長軸0.30m、短軸0.26m、検出面からの深さ0.32mである。埋土は2層からなり、黒褐色粘土と青灰色粘土がレンズ状に堆積する。遺物は、天日茶碗(185)が出土した。

P3221 (図版5-51-104) は32E24・25に位置する。平面は楕円形、断面は箱状を呈する。長軸0.84m、短軸0.50m、検出面からの深さ0.18mである。埋土は3層からなり、黒褐色粘土や青灰色粘土が水平状に堆積する。新旧関係は、P3220に切られる。遺物は、土師質土器の皿(187)が出土した。

P4164 (図版6-51-104) は33D23に位置する。平面は円形、断面はU字状を呈する。長軸0.20m、短軸0.16m、検出面からの深さ0.24mである。埋土は2層からなり、黒色粘土や灰色粘土がレンズ状に堆積する。2層から柱根(231)が出土した。

## H 下 層

SK4210 (図版51-105) は、29G8に位置する。平面は楕円形、断面は立ち上がり緩やかな弧状を呈する。規模は、長軸1.74m、短軸1.00m、検出面からの深さ0.13mである。埋土は2層からなり、黒色粘土や灰色粘土がレンズ状に堆積する。遺物は、2層から珠洲焼の片口鉢(192)が出土した。

SD4193 (図版51-105) は、30-31Dに位置する。溝は直線的で東西方向に延びる。溝の東側は調査区外に続き、西側は旧葦叢川に切られる。よって全容は把握できない。断面は立ち上がり緩やかな弧状を呈する。規模は、長さが残存値で363m、幅2.60m、検出面からの深さ0.64mである。埋土は6層からなり、黒色粘土や黒褐色粘土がレンズ状に堆積する。新旧関係は、水田3575・3580を切る。遺物は珠洲焼の片口鉢(193・194)が出土した。

SD4194 (図版51-105) は30-31Dに位置する。溝は直線的で東西方向に延びる。溝の東側は調査区外に続き、西側は旧葦叢川に切られる。よって、全容は把握できない。断面は立ち上がり緩やかな弧状を呈する。規模は、長さが残存値で2.00m、幅2.50m、検出面からの深さ0.70mである。埋土は5層からなり、黄灰色粘土や暗青灰色粘土がレンズ状に堆積する。遺物は珠洲焼の片口鉢(195)が出土した。

## 第V章 遺物

### 1 概要

今回の調査で出土した遺物は、土器・陶磁器類、石製品、木製品、土製品、金属製品などがある。出土量は浅箱（内法54cm×幅34cm×深さ10cm）換算で50箱にのぼる。内訳は土器・陶磁器23箱、木製品20箱、石製品5箱、金属製品1箱、自然科学分析用試料1箱である。遺物の多くは中世の所産である。しかしながら、出土遺物の中には弥生時代や古墳時代の遺物がわずかながら含まれる。ここでは、土器・陶磁器→石製品→木製品→土製品→金属製品→錢貨の順に報告する。なお、記述は図面図版の掲載順とし、土器・陶磁器類については造形ごとに、そのほかの遺物については種別ごとにまとめて記述した。

### 2 遺物各説

#### A 土器・陶磁器

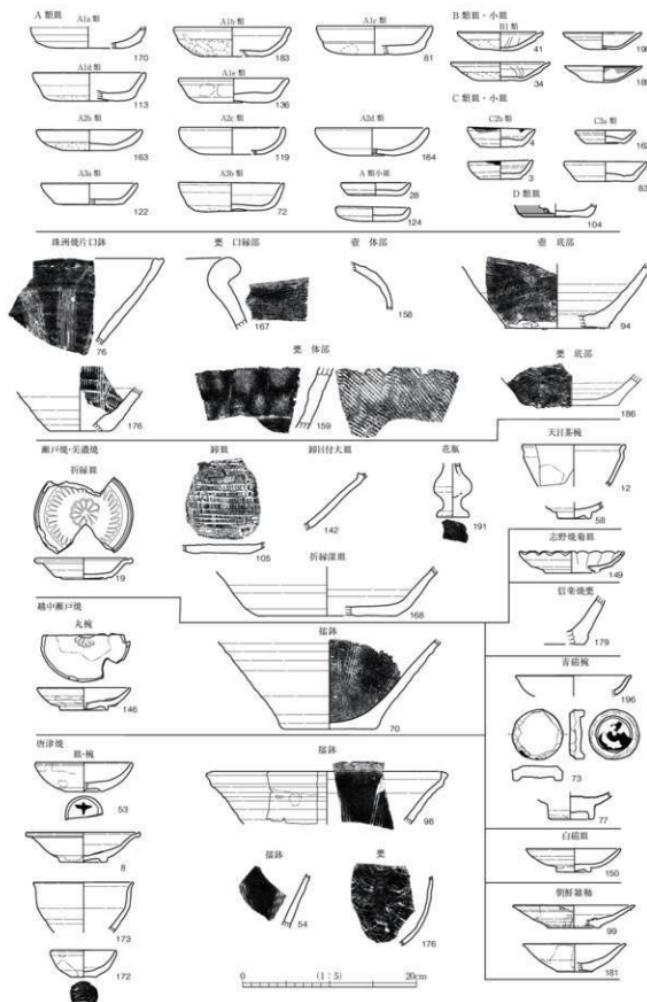
種別は、土師質土器、珠洲焼、瀬戸焼・美濃焼、肥前系陶器、輸入陶磁器などが確認できた。これらの分類・年代観については、珠洲焼が<sup>a</sup>【吉岡1994】、瀬戸焼・美濃焼が<sup>b</sup>【藤澤2008】、肥前系陶器が<sup>c</sup>【大橋1989】、輸入陶磁器が<sup>d</sup>【上田1982】・【森田1982】・【山本2000】に従った。土師質土器皿については、品田氏・水澤氏の論考<sup>e</sup>【品田1991・1999b・c】・【水澤2005】を参考に、製作技法の違いと器形により A ~ D 類の4つに分類を行った。

A 類：手づくね成形で、全体的に器壁が厚く、口縁部を2段ないし1段にヨコナデしている。口径11cmを境として、以上を皿、未満を小皿とした。皿は、口縁部と体部の境に後がつく1類、口縁部が内済する2類、器形が箱状となる3類に大別した。さらに、調整の差異で、口縁部を2段にヨコナデし、体部との境に明瞭な稜線が付くものを a 類、口縁部のヨコナデが1段で、体部との境に明瞭な稜線が付くものを b 類、口縁部を広めにヨコナデし、稜線が底部付近に下がるか沈線状になるものを A 1・2 c 類、稜線が不明瞭になり、底部と口縁部との境が窪むものを d 類、口縁部のヨコナデが粗雑で、稜線がないものを e 類とした。

B 類：手づくね土器で、器壁が薄く、口縁部を2段ないし1段にヨコナデするもの。口径11cmを境として、以上を皿、未満を小皿とした。B 類の皿・小皿は、どちらも口縁部を2段ないし1段ヨコナデしており、口縁端部を上方に摘み上げるもの（1類）と、口縁部を1段ヨコナデし、口縁端部に面を持たないものの（2類）がある。B 類の土師質土器は、SE3764から17枚（皿7枚、小皿10枚）が一括で出土しており、製作技法が皿と小皿で明らかに異なる。

C 類：ロクロ成形で底部にヘラ切り痕が残るもの。口径11cmを境として、以上を皿、未満を小皿とした。小皿は2種に細分し、体部が直線的に立ち上がるものを C2a 類、口縁端部を内側に屈曲させて面を持つ、内面中央がやや盛り上がるものを C3a 類とした。

D 類：ロクロ成形で底部にヘラ切り痕が残るもの。底部は平坦で、体部との境には面を持つ。A ~ C 類に比べて胎土が緻密で、印象を受ける。このタイプは SD496 から 1 点のみ出土した。



第10回 土器・陶磁器類の分類

SE150 (国版52・106 1)

1は唐津焼の皿で、底部内外面には胎土痕が4か所残存する。16世紀末～17世紀前半の所産である。

SE187 (国版52・106 2)

2は珠洲焼片口鉢の口縁部で、片口部が残存する。片口部の幅は人差し指2本分である。

SE272 (国版52・106 3・4)

3・4は土師質土器のC 2b類である。3・4の口縁部にはタールが付着する。そのため灯明皿としての利用が窺える。

SE284 (国版52・106 5・6)

5は土師質土器の小皿である。底部内面の中央には人為的な穿孔がある。6は珠洲焼甕の底部である。

SE383 (国版52・106 7～12)

7～11は唐津焼で、底部内面には砂目(7・8)または胎土目(9～11)の痕跡が3～4か所残存する。7・8は口縁端部をわずかに上方へつまみ上げられ面を形成する。10は口縁部が波状に加飾され、11は底部内面に鉄絵が描かれている。16世紀後半の所産と考える。12は瀬戸焼・美濃焼の天日茶碗で、後期様式IV期の所産と考える。

SE670 (国版52・106 13)

13は瀬戸焼・美濃焼の平椀である。内外面が施釉され、口縁端部には使用痕が残る。後期様式II・III期の所産と考える。

SE936 (国版52・106 14)

14は土師質土器のA 1e類である。

SE953 (国版52・106 15)

15は珠洲焼の片口鉢である。内面には1条11～12日の鉢目が施される。全体的に被熱しており、内面の摩耗が著しい。IV 1期の所産と考える。

SE1042 (国版52・106 16・17)

16・17は珠洲焼の片口鉢の口縁部である。17の胎土には混和材が多く入る。時期は16がIV 2期、17がIV 1期の所産と考える。

SE1384 (国版52・106 18)

18は珠洲焼の壺で、底部片である。底部には静止糸切り痕が残り、砂粒が付着する。

SE4087 (国版52・106 19)

19は瀬戸焼・美濃焼の折縁皿である。底部内面には菊花紋が刻印され、内側面には花弁を表すとみられる加飾が施される。高台には重ね焼きの痕跡が残る。被熱している。大窯様式IV期の所産と考える。

SE4151 (国版52・106 20)

20は唐津焼の皿である。底部内面には胎土目の痕跡が4か所残り、口縁部にはススやタールが付着する。器形は全体的に所丸みを帯びる。16世紀末～17世紀初頭(大徳編年I期)の所産と考える。

2区

SE1207 (国版52・106 21)

21は珠洲焼の片口鉢の口縁部である。IV 1期の所産と考える。

SE1210 (国版52・106 22)

22は珠洲焼の片口鉢の口縁部である。口縁部には片口部の痕跡が残る。V期の所産と考える。

**SE1404** (国版52・106 23)

23は土師質土器皿A 2c類である。内面にはススが付着する。

**SE1982** (国版52・106 24・25)

24・25は珠洲焼の片口鉢である。24は口縁部、25は底部である。25の体部外面には、底部外端を調整した時の指頭圧痕が明瞭に残る。24・25ともにIV 1期の所産と考える。

**SE2561** (国版52・106 26)

26は珠洲焼の片口鉢である。内面には1条10日の鉢目が4条以上施され、底部がわずかに摩耗する。IV 1期の所産と考える。

**SE2562** (国版52・106 27)

27は珠洲焼の片口鉢の底部である。底部内面には摩耗がみられる。IV 2期の所産と考える。

**SE3178** (国版52・106 28)

28は土師質土器のA 2類である。

**SE1205** (国版52・106 29)

29は土師質土器のC 1a類である。

**SE3508** (国版52・106 30)

30は土師質土器のB 2類である。底部外面にはススが付着する。

**SE3623** (国版52・106 31)

31は珠洲焼片口鉢の口縁部である。内面には1条7日の鉢目が施される。IV 1期の所産と考える。

**SE3704** (国版53・106 32)

32は土師質土器皿のC 類である。口縁部にはススが付着している。

**SE3764** (国版53・107 33~49)

33~49まで土師質土器で、埋土から一括で出土した。33~45がB 1類、残りは小皿である。32~42と43~48で胎土と作風が異なる。前者は器面が滑らかで胎土に砂粒などの含有物が少ない。作風は口縁部をしっかりとナデ、端部がわずかに立ち上がる。また、底部内面にはナデ抜いた痕跡がはつきりと残る。対して、後者は、胎土に砂粒などの含有物が多く、器面がざらつく。作風は、粗雑な調整で器形が大きく歪む。前者が京都の正品とした場合、後者は模造品の印象を受ける。

**SE3940** (国版53・107 50)

50は土師質土器皿のB 2類である。口縁部内面にはタール状の付着物がある。そのため、灯明皿としての使用が窺える。

**SE4275** (国版53・107 51)

51は珠洲焼甕の口縁部で、III期の所産と考える。

1区

**SK647** (国版53・107 52~54)

52・53は唐津焼の甕で、底部内面には胎土目の痕跡が残る。藁灰釉が内面から体部半ばまで掛かる。53の高台の内側には墨書きで「十」が書かれている。SK651に同一の墨書きを持つ唐津焼甕が出土している。16世紀末~17世紀初頭と考える。54は瀬戸焼・美濃焼の擂鉢である。内面には1条12日の鉢目が施される。加えて、摩耗がみられる。

SK654 (国版53・107 55~58)

55~57は唐津焼の皿で、底部内面には胎土目の痕跡が残る。56・57の高台内には「十」が墨書きで書かれている。SK647に同一の墨書きを持つ唐津焼皿が出土している。16世紀末~17世紀初頭の所産と考える。

58は瀬戸焼・美濃焼の天目茶碗で、大窓様式IV期の所産と考える。

SK981 (国版53・107 59)

59は土師質土器のA 2c類である。器面の摩耗が著しい。

SK1128 (国版53・107 60)

60は土師質土器皿のA 1e類である。

SK1227 (国版53・107 61)

61は珠洲焼の片口鉢である。IV 1期の所産と考える。

SK1306 (国版53・107 62)

62は土師質土器皿のA 2d類である。外面にはススが付着する。

SK1359 (国版53・107 63)

63は土師質土器 A 2類の小皿である。

SK4086 (国版53・107 64~66)

64・65は唐津焼の皿で、底部内面には胎土目痕が残る。64の底部外面には回転糸切り痕があり、墨書きで「十」が書かれている。65は削り出し高台で、高台の内側には64と同じく「十」の字がある。「十」の字がある唐津焼皿はSK647・SK651からも出土している。16世紀末~17世紀初頭の所産と考える。65は珠洲焼の片口鉢である。内面には1条10目の鉢目が施され、底部外面には静止糸切り痕が残る。底部外端はケズリ調整が施され、それに伴う指頭圧痕が体部側面に残存する。内外面にススが付着する。IV 1期の所産と考える。

2区

SK1435 (国版53・107 67)

67は土師質土器皿のC 1a類である。被熱したため、外面にはススが付着する。

SK1760 (国版53・107 68)

68は珠洲焼の片口鉢の口縁部である。体部内面には鉢目がわずかに残る。IV 1期の所産と考える。

SK1834 (国版53・107 69~70)

69は唐津焼の碗である。内面から体部には薙灰釉が掛かる。高台には砂目痕が3か所残る。16世紀末~17世紀前半の所産と考える。70は越中瀬戸焼の擂鉢である。底部外面には回転糸切り痕があり、立ち上がりは体部が直線的である。内面には1条10目の鉢目が施されているが、底部付近は鉢目が消滅するほど摩耗が著しい。

SK1946 (国版53・107 71)

71は土師質土器皿のB 1類である。内面にはナデ抜きの痕跡が明瞭に残る。口縁部から体部外面にかけてススが付着する。そのため、灯明皿としての利用が窺える。

SK2030 (国版53・107 72~73)

72は土師質土器皿のA 3a類である。器壁は厚く、体部が直線的に伸びる。底部中央にはやや凹むか所がある。72は青磁有台輪の底部である。高台の断面は方形を呈する。底部と体部の境目を意図的に打ち欠いており、高台の内側には墨痕が残る。破損した後、礎に転用したことが窺える。上田D類と考える。

## SK2129 (図版53・107 74)

74は珠洲焼の片口鉢である。内面には御目がわずかに残り、割れ口には漆が付着する。IV 1期の所産と考える。

## SK2973 (図版54・107 75・76)

75・76は珠洲焼である。74は壺の口縁部でⅢ期の所産と考える。75は片口鉢で、口縁端部がわずかに凹む面を持つ。内面には1条11目の御目が施される。IV 1期の所産と考える。

## SK3259 (図版54・108 77)

77は青磁の碗で被熱している。底部が厚く、高台の断面が方形を呈する。高台は内端接地である。上田B IV類で15世紀後半から16世紀前半の所産と考える。

## SK3354 (図版54・108 78)

78は土師質土器皿のA 3a類である。内外面にススが付着する。

## SK3447 (図版54・108 79・80)

79は瀬戸焼・美濃焼の皿で、器面が被熱している。割れ口にススが付着することから、破損後被熱したと考えられる。大窯様式IV期の所産と考える。80は土師質土器の小皿である。

## 1区

## SD41 (図版54・108 81~87)

81~83は土師質土器で、81・82は皿でA 1c類、83は小皿でC 1a類である。3点とも焼成が不良で、内面にはススが付着する。83のみ器面の摩耗が著しい。84は唐津焼の皿である。皿の内外面には薺灰釉が掛かり、底部内面に胎土目痕が残る。16世紀末~17世紀初頭の所産と考える。85~87は珠洲焼である。85・87は片口鉢、86は壺である。85はIV 2期、86・87はⅡ期の所産と考える。

## SD111 (図版54・108 88~94)

88は土師質土器皿のC 1a類である。89~94は珠洲焼で、89~91までが片口鉢、92~94が壺である。91は4つの破片から1個体を成すが、破片はすべて異なる遺構 (SK853, SD41・SD111・SD469) から出土した。92の表面には焼成時の降灰の痕跡が残る。89はIV 2期、90はVI期、91はV期、93はⅢ期の所産と考える。

## SD281 (図版54・108 95・96)

95は土師質土器皿のC 1a類である。口縁部にはタール状の付着物がある。そのため、灯明皿としての利用が窺える。96は珠洲焼の片口鉢である。内面には波状文を施した痕跡が残る。IV 2期~V期の所産と考える。

## SD282 (図版54・108 97・98)

97は土師質土器のA 1d類である。口縁部の内外面には多量のススが付着する。98は唐津焼の壺鉢である。口縁部にのみ鉄釉が掛けられ、体部の内外面は露胎である。16世紀末~17世紀初頭の所産と考える。

## SD283 (図版54・108 99)

99は朝鮮雜釉皿である。内面~豊付けまで釉が掛けられ、所々に灰釉が付着する。底部の内外面には砂目らしき痕跡が残るが不明瞭である。16世紀後半の所産と考える。

## SD345 (図版55・108 100)

100は珠洲焼の壺である。IV 2期の所産と考える。

## SD496 (図版55・108 101~111)

101~104は土師質土器皿である。101はA 2c類、102はA 3a類、103はC 1a類である。104は内外面に大量のススと炭化物が付着する。101~103の胎土とは全く異なり、104の胎土は非常に強く縮まっている。底部をヘラ切りしていることから阿賀北地方で制作されたとみる。105・106は瀬戸焼・美濃焼である。105は鉢皿で、皿底部に回転糸切り痕が残る。内面には灰釉が掛かるが、中央部の釉は使用によって摩耗している。中期様式IV期～後期様式I期の所産と考える。106は折縁深皿で、中期様式III期～IV期の所産と考える。107~111は珠洲焼である。107・108は片口鉢の口縁部で、どちらも片口部が残る。107の片口部は人指し指2本分の幅がある。107はIV 1期、108はIV 2期の所産と考える。109は壺の口縁部で、頭部から上方に直線的に延び、端部は折り返されやや肥厚する。110・111は壺である。110がIV 1期、111がIV 2期の所産と考える。

## SD1380 (図版55・108 112~134)

112~133は土師質土器で埋土内から一括で出土した。112・115・117・119はA 2d類、113・114・116・118・120・121はA 1d類、122はA 3a類である。遺物により底部外面の中央に意図的な窓みが施されている。123~133は小皿である。134は唐津焼の折縁皿で、内面から口縁部にかけて茎灰釉が掛かる。底部内面には胎土目痕が残る。16世紀末から~17世紀初頭の所産と考える。

## SD1428 (図版55・56・109 135~142)

135・136は土師質土器皿でA 1e類である。135の口縁部にはススが付着する。そのため、灯明皿としての利用が窺える。137~141は珠洲焼である。137・138は片口鉢の口縁部で、137のみ波状文が施される。137はV期、138はVI期の所産と考える。139は片口鉢の底部で、静止糸切りと外端ケズリの痕跡が残る。内面には鉢目が施されるが、使用による磨滅で、鉢目の単位は不明である。IV 2期の所産と考える。140・141は壺の口縁部で、IV 2期の所産と考える。142は瀬戸焼・美濃焼の鉢目付大皿である。体部の内面上半から外面下半にかけて灰釉が掛かる。口縁端部は破損して詳細は不明だが、断面形がYの字状になるとみられる。後期様式II期の所産と考える。

## SD1540 (図版56・109 143~161)

143は土師質土器皿のB 1類である。体部上半はナデにより外反し、口縁端部はやや上方を向く。器壁は薄く仕上げられ、内面にはナデ抜き痕が明瞭に残る。非常に丁寧な作りである。144・145は唐津焼である。144は清縁皿で、内面から口縁部の外面まで灰釉が掛かる。底部内面には砂目が3か所残る。151は天目茶碗で、削り出し高台の豊付けには胎土目が2か所残る。どちらも16世紀末~17世紀前半の所産と考える。146は越中瀬戸焼の皿である。体部内外面には緑釉が掛かり、底部内面の中央に菊花紋が刻印される。147・148は瀬戸焼・美濃焼である。147は丸碗で、削り出し高台の外縁まで緑釉が掛かる。148は大皿で、体部の内外面の半ばまで白釉が掛かる。149は志野焼の菊皿で、口縁に刻み目を施し花弁状に仕上げている。16世紀末の所産と考える。150~152は白磁皿でいずれも森田D類である。145の高台の内側は黒色であり、144の高台の内側には「×」のヘラ記号が刻まれている。15世紀前半の所産と考える。153~161まで珠洲焼である。153~155は片口鉢で、口縁部の形態から153がVI期、153がIV 2期、154がIV 1期の所産と考える。156・157・159・160が壺で、158・161が蓋である。156・157の口縁部形態からIII期とIV 1期の所産と考える。159~160は底部である。159は底部に近い体部片である。内面には底部と体部の接合部が明瞭で、接合時の指頭圧痕が指單位で列を為す。160は砂底で、底部外縁までタキが施される。また、一部にヘラによる傷が残る。161の内面はロクロ成形痕が明瞭である。底部外面には静止

糸切り痕が残り、外縁はケズリ調整を施す。

SD2276 (図版56・109 162)

162は土師質土器の小皿でC 3 a類である。内面には「南無阿弥□、キリーク（阿弥陀如来）」、外面に「□妙蓮□」の墨書きが記されている。SD2276が通る付近には、六文銭と土師質土器皿が出土したSK1946があることから、溝の周間に墓域が存在した可能性がある。

SD2462 (図版56・109 163)

163は土師質土器の皿でA 2 b類である。外面にはススが付着する。

SD3990 (図版56・109 164~168)

164~164は土師質土器である。164・165は皿でA 2 c類、166は小皿である。167は珠洲焼でIV 1期の所産と考える。168は瀬戸焼・美濃焼の折縁深皿で内外面に釉が掛かる。中期様式Ⅲ～Ⅳ期の所産と考える。

道路状遺構 (図版56・109 168~176)

168~170は土師質土器である。168・169は皿で、前者がA 2 e類、後者がA 1 a類である。168は被熱しており、器面の損傷が著しい。171は小皿でC 1 a類である。黒色処理からは不明であるが、全体が黒色である。また、内面には炭化物が付着する。172・173・175・176は唐津焼すべて器種が異なる。172は椀、173は天目茶碗、175は大皿、176は壺である。172の底部外面には墨痕が残る。175は底部の内外面に胎土痕が残り、同じく内面には鉄絵が描かれる。いずれも16世紀末～17世紀初頭の所産と考える。174は瀬戸焼・美濃焼の鉢で、内外面が施釉される。177は珠洲焼の片口鉢である。底部外面には静止糸切り痕が残り、内面には鉢目が施されるが、単位は不明である。V期の所産と考える。

SX300 (図版57・109 178)

178は唐津焼の皿である。内面から体部半ばに薙灰釉が掛かり、底部内外面には砂目が残る。16世紀末～17世紀前半の所産と考える。

P61 (図版57・109 179)

179は信楽焼の壺と考える。底部片のため全容を把握するのは困難である。被熱している。15世紀後半の所産と考える。

P81 (図版57・109 180)

180は土師質土器皿のA 2 c類である。内外面にはススが付着する。

P136 (図版57・109 181)

181は朝鮮雜釉の皿である。被熱しており、高台が著しく摩耗する。底部内面には砂目が3か所残る。15世紀後半の所産と考える。

P407 (図版57・109 182)

182は瀬戸焼・美濃焼の天目茶碗で、大窯様式Ⅲ期の所産と考える。P2809で出土した天目茶碗と同一個体の可能性がある。

P1396 (図版57・109 183)

183は土師質土器皿のA 1 b類である。内外面にススが付着する。

P2804 (図版57・110 184)

184は珠洲焼の片口鉢である。内面には1条10日の鉢目が施される。IV 1期の所産と考える。

P2809 (国版57・110 185)

185は瀬戸焼・美濃焼の天目茶碗で、大窯様式Ⅲ期の所産と考える。P407で出土した天目茶碗と同一個体の可能性がある。

P3221 (国版57・110 187)

186は珠洲焼の壺もしくは壺の底部である。底部外面は砂底で、外縁をケズり調整している。ケズり調整時に付いたとみられる指頭圧痕が体部外面に残る。内面にはロクロ成形の痕跡が明瞭に残り、ススや油煙が付着する。

P1570 (国版57・110 186)

187は土師質土器皿のA 2 b類で、内外面にススが付着する。

P3033 (国版57・110 188・189)

188・189は土師質土器皿のB 1類である。188は内外面が黒色である。黒色処理をした可能性がある。

189は内面にススもしくはタール状の付着物がある。そのため、灯明皿としての利用が窺える。

P3340 (国版57・110 190)

190は土師質土器皿のB 1類である。底部外面の中央部には凹みがあり、口縁部内面にはススが付着する。そのため、灯明皿としての利用が窺える。

P3995 (国版57・110 191)

191は瀬戸焼・美濃焼の花瓶である。体部下半がやや下彫れ気味な器形で、底面には回転糸切りが残る。

中期様式Ⅰ期の所産と考える。

下層

SK4210 (国版57・110 192)

192は珠洲焼の片口鉢で、片口部が残存する。幅は人指し指1本分である。片口部を正面から見た時の左側には、片口部を引き出した時に付いたとみられる指頭圧痕が残る。底部は静止糸切りで、外端をケズり調整している。Ⅲ期の所産と考える。

SD4193 (国版57・110 193・194)

193・194は珠洲焼の片口鉢である。193の内面には1条8~12日の卸目が施される。193・194はⅣ2期の所産であると考える。

SD4194 (国版57・110 195)

195は珠洲焼の片口鉢である。内面には1条8~12日の卸目が施される。195はⅣ2期の所産であると考える。

遺構外 (国版57・110 196・197)

196は青磁碗で、口縁部が玉縁状である。龍泉窯系で14世紀末後半の所産と考える。197は唐津焼の擂鉢である。内面には1条12日の卸目が施され、使用による摩耗がみられる。17世紀前半の所産と考える。

## B 石製品

出土した石製品の大部分は砥石である。次いで石臼が多い。加工痕などが特徴的なものを抽出し、19点を掲載し報告する。

## 砥石 (国版57・58・110 198~209)

198は凝灰岩製で、SB4401を構成するP3417から出土した。形は角柱状を呈し、上部が欠損する。砥面は表裏左右でそれぞれに刃砥ぎの線状痕が付く。特に表が使用による摩耗が著しい。199は凝灰岩製で、SE534から出土した。角柱状を呈し、上部が欠損する。砥面は表裏左右を使用している。使用により表がやや摩耗する。200は凝灰岩製で、SE687から出土した。角柱状を呈し、上下部が欠損する。砥面は表裏左右を使用している。使用により、左右が抉れ、表が摩耗する。201は凝灰岩製で、SE1160から出土した。角柱状を呈していたと思われるが、4分の1が欠損しているため定かでない。砥面は表裏左面をほぼ全面使用している。右面の残存部にも一部使用痕が残る。断面は長方形を成す。202は凝灰岩製で、SE1212から出土した。四角錐状を呈し、上部が欠損する。砥面は表裏左右をほぼ全面を使用している。特に、下部から上部にかけて、徐々に厚みが薄くなる。203は凝灰岩製で、SE2281から出土した。角柱状を呈し、上下部が欠損する。砥面は表裏左右をほぼ全面使用している。裏面と左面に刃砥ぎによる欠けが残る。204は凝灰岩製で、SE3623から出土した。角柱状を呈し、上下部が欠損する。砥面は表裏左右をほぼ全面使用している。それぞれに刃砥ぎの線状痕が不明瞭に付く。205は凝灰岩製で、SD41から出土した。角柱状を呈し、上下部が欠損する。砥面は表裏左右をほぼ全面使用している。それぞれに刃砥ぎの線状痕が付く。206は砂岩製で、SD345から出土した。角柱状を呈し、上下部が欠損する。砥面は表裏左右をほぼ全面使用している。それぞれに刃砥ぎの線状痕が付く。207は凝灰岩製で、P520から出土した。角柱状を呈し、上部が欠損する。砥面は表裏左右をほぼ全面使用している。それぞれに刃砥ぎの線状痕が付く。また、表が使用により摩耗し弧状を呈する。208は凝灰岩製で、遺構外から出土した。角柱状を呈し、上下部が欠損する。砥面は表裏左右をほぼ全面使用している。それぞれに刃砥ぎの線状痕が付く。また、左右面が使用により摩耗し大きな弧状を呈する。209は凝灰岩製で、遺構外から出土した。角柱状を呈し、上下部が欠損する。砥面は表裏左右をほぼ全面使用している。それぞれに刃砥ぎの線状痕と欠けが付く。

## 磨製石斧 (国版58・110 210)

210は緑色岩類製の扁平片刃石斧で、SE860から出土した。上部右隅にわずかな欠損が見られるがほぼ完形である。表裏左右のほぼ全面に加工時の線状痕が付く。

## 石皿 (国版58・110 211)

211はSE3260から出土した。破片のため詳細は不明であるが、上面は使用により摩耗し凹んでいること、対して下部には摩耗がみられないことから石皿と判断した。全体に被熱している。

## 石臼 (国版58・110 212~216)

212は安山岩製で、SE3623から出土した。大部分が欠損しているが、供給口、芯棒受けがみられるところから上臼である。擦り合せ部の溝は使用による摩耗で不鮮明のため、分画数は不明である。213は安山岩製で、SK1834から唐津焼梅(68)・越中瀬戸焼の擂鉢(69)と共に出土した。完形の上臼で、供給口、芯棒受け、側面に挽木受けがある。擦り合せ部の溝は鮮明で、6分画である。214は花崗岩製で、SD1428から出土した。大部分が欠損しているが、右下に芯棒孔と思われる痕跡が残るため下臼と判断した。擦り合せ部の溝は鮮明だが、分画数は不明である。215は安山岩製で、SD1540から出土した。大部分が欠損している。L字状の断面形から上臼と判断した。擦り合せ部は破損しており、分画数も不明である。216は砂岩製で、遺構外から出土した。茶臼の下臼の受け皿端部である。

## C 木製品

木製品は、主に柱根、曲物、漆器、下駄、板材などが出土している。このうち器種が分かるもの、用途不明のもののうち加工痕が特徴的なものを抽出し、41点掲載した。木製品の分類は、「木器集成図録 近畿古代編」・「木器集成図録近畿原始編」〔奈良国立文化財研究所1985・1993〕を参照した。

## 柱根（国版58・59・111・112 217～231）

柱根は15本が図示した。12本が心持ち丸材で、他に半截材、分割材あるいは分割角材がある。遺存状況から、立ち腐れ、もしくは柱を切断したことによる柱根の遺存と想定されるが、柱根を観察したものどちらかであったかは判断がつかなかった。柱根のいくつかは、工具による加工痕が接地面に明瞭に残る。特に222と231には他の柱根とは異なる加工が施される。222は、正面下部に直径4cm前後の円形孔、背面の半ばに方形孔を穿かれている。どちらの孔も貫通していない。加えて、円孔の直下には柱根を1周するV字状の溝が彫られている。231は、貫通する方形孔が開いている。222・231は、これに付随する部材が出土していないため、孔などの用途は不明である。柱材は樹種同定の結果、217・218・222・224～226、228～231がクリ、220がスギ、351がコナラ属、227がブナであった。クリ材が10点と他の樹種よりも優位を示す。新潟県内の調査事例では、中世においてクリやスギの利用が多いとされる〔伊藤・山田2012〕ことから、丘江遺跡もこの傾向に一致する。

## 漆器（国版60・112 232～239）

232～239は漆器椀で、234・239は内外面とも赤色漆地であり、それら以外のものは黒色漆地である。233・235・238は内面黒色漆地に赤色漆を用いて模様が描かれ、特に233は文様の残りが良く、円を用いた意匠が凝らされているのがみてとれる。樹種同定は235・236のみ行い、その結果、どちらも横木地柾目取で、235がブナ属、236がハリギリと同定された。どちらも加工性の高い木材である。新潟県内では、椀にはブナ属やケヤキを主に使用し、ハリギリも大武遺跡〔春日2000〕で利用例がある〔第Ⅳ章3D〕。

## 盤（国版60・112 240・241）

240・241は盤である。SE1563から240が、SE3261から241が出土した。240は、高台のような底部に、やや内湾気味の口縁部を持つ。241は、底部が平らで、外反気味の口縁部を持つ。また、内外外縁は中央部に比べて少し痩む。

## 箸（国版60・112 242・243）

242・243は箸である。SE783から242が、SK2030から243が出土した。どちらも周囲を面取りを施し、断面は隅丸方形を呈する。242は両端が同程度の太さであるが、243は片方のみ尖らせている。

## 杓子（国版60・112 244）

244は杓子である。SE3900から出土した。表に加工時の線状痕が多く付く。

## 曲物（国版60・61・112・113 245～256）

245～251、253～256は曲物の底板である。245は半月状に残存する。右側面には、木釘穴らしき痕跡が2か所あり、両端が炭化している。246は表面が一部炭化する。247は径が22cmで中央に方形の孔がある。表裏に加工時の線状痕が多数残る。紡錘車の可能性がある。248は径が16cmで、表面に加工時の線状痕が多数残る。249・250は半月状で、厚みは250の方がない。251は半月状に残り、厚みが2cm程ある底板で、左側面には木釘穴と思われる痕跡が4か所ある。252は側板である。径は18.1cmで、底板は残存しない。側板の継じ合せは2か所、正面は1列7段継じ、裏面は1列4段継じである。側板に木釘穴は見

当たらない。253は径が20cmで、表裏に加工時の線状痕が残る。また、外縁には径0.6cm程の穴が26か所空いている。254は径が18.9cmで表面に加工時の線状痕がわずかに残る。側面には本釘穴の痕跡が3か所ある。255は半月状で表面に加工時の線状痕が多数残る。256は半月状で表面に加工時の線状痕が多数残る。

柄杓 (国版61・113 257~259)

257は径が16cmで、側板の縫じ合わせは3か所である。正面が1列上外下内4段縫じと1列内2段縫じ、裏面は1列内5段縫じである。正面に2cm方形の柄孔が開き、相対する位置に径0.4cmほどの円形孔がある。258・259はセットである。258は曲物で1列上下3段縫じ、底板は残存しない。259は長さ56.2cmで、全面に面取りを施し、断面は隅丸長方形を呈する。片側を尖らせている。260は径が9.8cmで、側板の縫じ合わせは2か所である。正面は2列上5段縫じで、2列内2段縫じである。正面に径1cm、相対する位置に径0.4cmほどの円形の柄孔がある。

その他 (国版61・113・114 262~264)

261は独楽で、体部下半を削って円錐状に仕上げている。262はY字状木製品で、用途不明品である。263は火鉗臼で、正面右側に径1.8cmほどの半円が3か所残る。264は卒塔婆の先端部と考える。頭頂部を尖らせ、下部の両側には $\angle$ 字状の抉りが付く。

下駄 (国版62・114 265~269)

265・266は連齒下駄で、SK4086から出土した。265の形状は隅丸方形を呈し、天と裏に径3.4cmほどの円形の刻印がある。前穴と後穴の左が欠損する。266は梢円形で、前穴が欠損する。267は連齒下駄で、SK4087から出土した。形状は梢円形を呈し、前穴が欠損する。268・269は連齒下駄で、SD41から出土した。268は破損が著しく形状は定かでない。かろうじて後穴の痕跡が残る。出土した他の下駄よりも回り小さい。269の形状は隅丸方形を呈し、天と裏に径3.4cmほどの円形の刻印がある。加工時にいたと思われる線状痕が多く残る。前穴以降は欠損している。265と269には近似する円形の刻印が施されるところから2個で1対の可能性がある。

農具 (国版62・114 270~273)

270は鍬で、身に柄が差し込まれた状態でSE1982から出土した。身が極目状、柄が削出棒状であり、柄は身から直角に出て、前面側に25度屈折して延び、柄頭付近でさらに25度ほど前面に屈折する。柄は面取りされ、隅丸台形状の断面を呈する。材はブナ属を用いている。新潟県内における中・近世に属する鍬の出土例は、仲田遺跡 [加藤2003]・用言寺遺跡 [加藤2006] (上越市)、住吉遺跡 [高橋2006]・砂山中道下遺跡 [佐藤2006] (新発田市)などがある。271・272はSE4067から出土した。271は鍬の身で、エノキ属の心持材を用いている。厚い基部から刃部に向かい薄く削り出している。基部の端部には断面が方形となる溝が斜めに作られ、溝の途中には金属製の部品を刺した痕跡が残る。柄を斜めに嵌めて針などで固定したと考える。272は、横植と思われる。心持材を用いて、材の3分の2を削り細めて柄にしている。身と柄の境が頗著に表れている。

板材 (国版63・114~115 274~280)

274は方形の板材で、SE272から出土した。四隅には径0.2cm程の孔が穿かれている。275は板状木製品でSE777から出土した。正面左側の中央部に人為的な凹凸がみられるところから、井戸枠などの部材と考える。276は板状木製品でSE832から出土した。277は板状木製品でSE1207から出土した。台形状を呈し、穿孔が数か所に開く。278は板状木製品でSE1563から出土した。278は板状木製品でSE3704から出土した。長方形を呈し、両側に15×30cmの方形の穴が開く。井戸枠などの部材と考える。280はSD41から

出土した板状木製品である。表面右隅には径0.2cm程の穿孔が2か所あり、表裏面には加工時の線状痕が多数付く。

紡織具 (国版63・115 281)

281は紡錘車である。中央に径0.3cm程の穿孔が円形の板材である。

杭 (国版63・115 282)

282は杭でSD4182から出土した。先端から7cmほどを削り出して尖らせる。

## D 土 製 品

土鍤 (国版63・115 283)

283は土鍤で長さ5.0cm、最大径4.9cm、形状は梢円形を呈する。穴径2.0cmで製作時の指頭圧痕が表面に多数残る。SK4086から出土し、羽口が共伴する。

羽口 (国版63・115 284)

284は羽口で現長9.8cm、現幅7.0cmである。穴形は2.3cm前後と推定する。形状は半円状を呈する。外面は被然により赤変し、ガラス質の鉄滓が付着する。SK4086から出土し、土鍤が共伴する。

## E 金 属 製 品

鉄鍋 (国版63・115 285)

285は鉄鍋で、器面には脚部とみられる円柱状の突起が1.6cm程突き出る。SE179から出土した。

銭寶 (国版63・115 286~291)

SE3507

286は熙寧元寶（北宋銭）で、初鋳年は1068年である。文字は真書である。

SK1809 (国版62・105 287・288)

287は真書の熙寧元寶（北宋銭）で、初鋳年は1068年である。背調縁で、背面の左上に月文の可能性がある。288は景德元寶（北宋銭）で、初鋳年は1004年である。

SK1946 (国版62・105 289~291)

289は祥符元寶（北宋銭）で、初鋳年は1009年である。290は永樂通寶（明銭）で、初鋳年は1408年である。

SK3150 (国版62・105 288)

291は真書の皇宋通寶（北宋銭）で、初鋳年は1038年である。

# 第VI章 自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

## はじめに

丘江遺跡（新潟県柏崎市田坂3丁目字丘江地内）は、山崎遺跡の南側に隣接しており、本地域の地形分類図〔鈴木1989〕などを参考すると、鯖石川の左岸に分布する扇状地扇端付近に立地する。本遺跡の発掘調査では、上層（中世、近世）および下層（弥生、古墳時代）の遺物包含層が確認されており、これまでに13～15世紀および17世紀頃の集落の様相が明らかとされている。これらの中世や近世の集落に帰属する遺構は、とくに掘立柱建物に伴う柱穴や井戸跡が多く検出されるという傾向が明らかとされているほか、遺跡内でもやや標高の高い南側において密になるという特徴も確認されている。

本報告では、中世および近世の古植物や植物利用、さらには出土木製品の樹種および木材利用の検討などを目的として、花粉分析、種実同定、樹種同定を実施した。

## 1 花 粉 分 析

### A 試 料

試料は、中世および近世と考えられる井戸跡を埋積する堆積物より採取された土壌10点（1区南SE149：5層、1区SE1048、2区北SE2911：6層、SE2984：3層、2区南SE1518：6層・SE2546：7層、3区SE3020：4層・SE3507：6層・SE3704：7層・SE3726：10層）である。各遺構より採取された土壌試料の詳細（採取位置）や観察所見は、一覧として第2表に示したので参照されたい。

### B 分 析 方 法

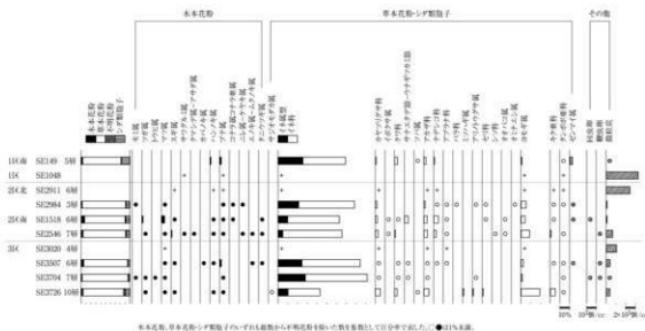
試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による無機物の除去、アセトトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してブ

地区	グリッド	遺構名	層名	備考	観察所見
1区	37F14	SE149	5	覆土最下層	砂分（礁粒砂）がわずかに混じる（暗）青灰色泥
1区	33D7	SE1048	-	-	黒色砂質泥～泥（炭化物主体か？）
2区	31J6	SE2911	6	覆土下層	炭化物が多量混じる暗（暗）灰色泥
2区	31J3	SE2984	3	覆土中・下層	植物遺体等が混じる暗灰色～暗褐色泥
2区	38H6	SE1518	6	覆土最下層	青灰色泥の偽縛が混じる暗灰色泥
2区	36H13	SE2546	7	覆土下層	炭化物が混じる暗（暗）灰色泥
3区	44K8	SE3020	4	覆土最下層	褐色泥の偽縛混じる黑色砂質泥～泥（炭化物主体か？）
3区	44K7	SE3507	6	覆土最下層	植物遺体等が混じる暗（暗）灰色泥
3区	42I8	SE3704	7	覆土下層	青灰色泥の偽縛が混じる黒色～黒灰色泥
3区	42I7	SE3726	10	覆土下層	植物遺体が多量混じる暗褐色～暗褐色泥

第2表 花粉分析の試料一覧

レバラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でレバラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や【島倉 1973】・【中村 1980a】・【藤本・小澤 2007】・【三好ほか 2011】等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の層位分布図として表示する。図表中で複数の種類を（ハイフン）で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉、および草本花粉・シダ類胞子のいずれも、总数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。なお、花粉总数が100個未満のものは、出現した種類を+で表示するに留めている。



第11図 花粉化石群集

## C 結 果

結果を第3表、第11図に示す。花粉化石の産状は、試料により大きく異なるが、保存状態は概ね類似し、いずれの試料もやや悪い傾向にある。また、分析に供された10試料のうち、SE1048、SE2911: 6層、SE3020: 4層の3試料は、花粉化石の産状が悪く、定量解析に有効な個体数は得られなかつたが、この他の7試料からは花粉化石が多く産出した。

花粉が多く産出した7試料の群集組成は、いずれも草本花粉が多産あるいは優占し、すべてイネ科の多産によって特徴付けられる。一方の木本花粉の出現率は極めて低率であり、モミ属、ツガ属、マツ属、スギ属、ハンノキ属、ブナ属、ニレ属-ケヤキ属などが、わずかに検出された程度である。

草本花粉では、多産したイネ科には、栽培種であるイネ属に形態が類似する個体が比較的多く認められた。とくに花粉化石が多く産出した7試料のイネ科花粉に占めるイネ属型の割合は、SE149: 5層が36.5%、SE1518: 6層が15.7%、SE2546: 7層が7.0%、SE2984: 3層が26.8%、SE3507: 6層が28.8%、SE3704: 7層が30.5%、SE3726: 10層が23.4%である。イネ科以外では、カヤツリグサ科、クワ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節、アカザ科、ナデシコ科、ヨモギ属、キク亞科などが認められる。また、上記したイネ属型以外の栽培種では、SE149: 5層、SE3726: 10層よりソバ属が検出される。この他、SE1518: 6層、SE2546: 7層、SE3507: 6層、SE3704: 7層からは、回虫卵や鞭虫卵などの寄生虫卵も検出される。

分類群	1区南		1区		2区北		2区南		2区		3区			
	SE149		SE1008		SE2911		SE2984		SE1518		SE2546		SE3020	
	5周	-	6周	3周	6周	-	7周	-	4周	6周	7周	-	10周	
<b>木本花粉</b>														
モク属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	
ツガ属	-	-	-	-	4	1	-	-	-	-	2	1	-	
トウヒ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
マツ属(板根樹種東亞属)	-	-	-	1	4	1	-	-	-	-	-	-	-	
マツ属(不明)	-	-	-	3	7	-	1	3	2	1	-	-	-	
スギ属	-	-	2	-	1	5	-	3	-	-	1	-	-	
サワグルミ属	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
クヌシシダ科-アサギ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
カバノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
ハコノキ属	2	-	1	-	1	1	-	-	-	1	-	-	1	
ブナ属	3	1	2	1	2	1	-	7	1	1	1	-	-	
コナラ属-ナラ属	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
ニレ属-ケヤキ属	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	
エノキ属-ムクノキ属	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	
タコツギ属	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	
<b>草本花粉</b>														
サンゴモグサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
イネ属	42	2	17	98	31	22	8	88	155	15	15	-	-	
イネ科	73	15	34	268	166	292	30	218	353	49	-	-	-	
カヤツリグサ科	2	-	3	9	7	15	1	1	1	1	8	-	-	
イネクサ属	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	
クワ科	5	-	-	-	-	1	5	-	3	3	4	-	-	
サザエナシ属-ウナギツカミ属	-	-	-	-	13	-	-	2	4	-	-	-	-	
ゾノ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
アラサ科	4	-	1	7	11	19	1	2	2	2	8	-	-	
ナンシコ科	2	-	1	2	16	14	-	3	-	-	-	-	-	
アラクナ科	-	-	-	2	1	3	3	1	-	-	-	-	-	
バラ科	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ミツハギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	
アソノトウグサ属	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	3	2	-	
セリ科	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	2	-	
シソ科	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	
オオバコ属	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	
オナシエン属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヨモギ属	2	7	1	24	13	43	1	9	9	9	29	-	-	
キク科	-	-	1	2	1	5	-	2	-	-	8	-	-	
タコボガ科	1	1	1	2	-	2	-	1	1	1	-	-	-	
<b>不明显花粉</b>														
不明花粉	1	3	3	3	3	5	-	2	4	4	6	-	-	
シダ類孢子	-	-	-	1	2	-	-	1	-	-	-	-	-	
ゼンマイ属	5	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
施のシダ類孢子	23	3	8	34	24	34	2	13	14	14	13	-	-	
合 计	5	2	5	9	21	16	1	17	8	5	-	-	-	
木本花粉	132	25	39	421	364	436	44	330	531	130	-	-	-	
草本花粉	1	3	3	3	3	5	0	2	4	6	-	-	-	
シダ類孢子	28	3	8	35	26	34	2	14	14	13	-	-	-	
合計(不明を除く)	165	30	72	465	311	476	47	361	553	148	-	-	-	
その他	-	-	-	-	1	-	-	-	8	-	-	-	-	
蝶虫卵	-	-	-	-	-	2	-	1	2	-	-	-	-	
壁虫卵	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
微粒炭粒(個/cc)	11000	663400	492300	24200	21700	132800	212900	85700	4600	82300	-	-	-	
寄生虫卵数(個/cc)	0	0	0	0	<100	<100	0	<100	<100	0	-	-	-	

第3表 花粉分析結果

なお、分析残渣は、多くの試料で炭化した微細な植物片（いわゆる微粒炭）が多く含まれる状況が確認されたが、SE2984：3層、SE3726：10層の2試料は微粒炭が少なく、未分解の植物残渣が多く含まれる状況が確認された。また、確認された微粒炭は、ほとんどが母材の推定が難しい不明型であったが、イネ科葉部に由来するとされる波状構造を持つタイプ〔小椋 2007: 2008など〕も確認された。とくに SE1048、SE2546：7層、SE2911：6層にはイネ科由来の微粒炭が多く認められる傾向にある。

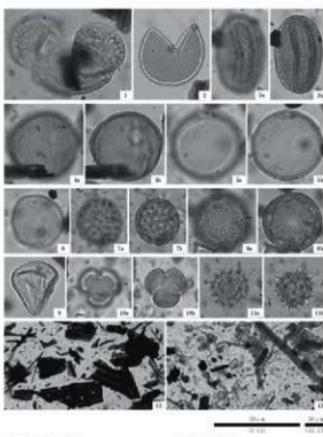
## D 考 察

井戸跡の埋植物を対象とした花粉分析の結果、花粉が多く産出した7試料における群集組成は、いずれも草本花粉が多産あるいは優占し、とくにイネ科の多産によって特徴付けられた。イネ科以外では、カヤツリグサ科、クワ科、アガザ科、ナデシコ科、ヨモギ属、キク亞科などが比較的多く産出する。これらは、いずれも開けた明るい場所に生育する人里植物を含む分類群であり、その他に認められる分類群の多くも、同様の生育環境を示す。このことから、遺構周辺や調査地内は開けた環境であったと推定され、周囲にはよって、これらの草本類からなる草地が分布していたと考えられる。

また、草本花粉のうち多産したイネ科には、栽培種のイネ属に類似するイネ属型の花粉が認められた。イネ科花粉中におけるイネ属型の割合は7~36%であるが、保存が悪く同定できなかったものもあるため本来の割合はそれ以上であったことが推定される。イネの花粉は、生産される花粉の1/4がもみ戻内に残留することが知られている〔中村 1980b〕ほか、II章の種実同定では花粉分析の対象とされた同一の試料よりイネの頬や胚乳などが検出されている。このことから、イネ科花粉中に認められたイネ属型花粉は、その多くは頬に残存していたものに由来する可能性が高いと判断される。また、イネ以外の栽培種では、SE149：5層、SE3726：10層よりソバ属が確認された。この結果から、井戸跡機能時あるいは覆土の埋植物の形成過程におけるソバ属の栽培や利用が考えられる。

また、わずかに検出された木本花粉についてみると、針葉樹のモミ属、ツガ属、マツ属、スギ属、広葉樹のハンノキ属、ブナ属、ニレ属-ケヤキ属などが検出された。隣接する山崎遺跡などの調査成果（未公表資料）なども参考とすると、モミ属、ツガ属、ブナ属などは周辺や後背の山地や丘陵に分布した森林に由来すると考えられ、スギ属、ハンノキ属、ニレ属-ケヤキ属などは扇状地扇端付近や河畔などに分布した林分に由来する可能性がある。

なお、各試料の分析残渣では、SE2984：3層、SE3726：10層は未分解の植物遺体が多く含まれることや、この2試料を除く試料では微粒炭が多く認められるという特徴が確認された。さらに、SE1048、



第12図 花粉化石

- 1. マツ属 (221±0.4層)
- 2. モミ属 (219±0.4層)
- 3. ツガ属 (219±0.4層)
- 4. ニレ属-ケヤキ属 (219±0.4層)
- 5. イネ属 (221±0.4層)
- 6. カヤツリグサ科 (221±0.4層)
- 7. クワ科 (221±0.4層)
- 8. アガザ科 (221±0.4層)
- 9. ナデシコ科 (221±0.4層)
- 10. ヨモギ属 (221±0.4層)
- 11. キク亞科 (221±0.4層)
- 12. ソバ属 (221±0.4層)
- 13. 木本花粉 (221±0.4層)
- 14. 木本花粉 (221±0.4層)
- 15. 木本花粉 (221±0.4層)

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1

2

3

SE2546：7層、SE2911：6層にはイネ科由来とされる波状構造を持つ微粒炭が多く認められ、堆積物中に含まれる微粒炭の形態に差異がある状況も確認された。土壌中に含まれる微粒炭は、人間活動と密接に関係していることが知られており、その変化は人為活動の変化を反映している場合が多く認められる（例えば安田、1987；山野井、1996；井上ほか、2002）。今回の場合、分析残渣中における植物遺体や微粒炭の産状は、試料の観察所見と概ね整合しており、さらにⅡ章における成果などを参考すると、埋植物の形成過程における人為活動の痕跡を示している可能性がある。

また、植物化石以外では、SE1518：6層、SE2546：7層、SE3507：6層、SE3704：7層などからは寄生虫卵が検出された。寄生虫卵は普通の土壌中にも含まれるが、トイレ造構などの堆積物で多産する調査事例も確認されている。本分析では絶対量による分析を実施していないため正確な含量は明らかとはならないが、経験的には分析処理残渣量やプレバート内の産状を見る限り、ある程度の人口密度を持つ集落などの汚染の範囲内と推測される。

## 2 種 実 同 定

### A 試 料

試料は、溝跡（1区北 SD41：5層）や井戸跡（1区北 SD41：5層、1区南 SEI49：5層、1区 SEI451：4層、2区南 SE2281：8層・SE2546：7層・SEI518：6層、3区 SE3507：6層・SE3726：9層（2点）、10層）より出土した種実遺体10試料である。なお、試料の状態は、3区 SE3726：9層が水浸の状態で保管されており、この他の9試料は全て乾燥した状態で保管された試料である。

種実同定は、全試料を対象に実施し、試料全体の種類組成の把握と、一部の種実を対象とした計測を実施した。なお、下記した工程において仕様を上回る個数なる状況が確認されたため、2区南 SEI518: 6層および3区 SE3726: 9層・10層の3試料については、分析目的なども踏まえ、栽培種以外の草本種実の抽出・同定数を調整している。

### B 分 析 方 法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実遺体を抽出する。同定は、現生標本および【柳原 1993】・【石川 1994】・【中山ほか 2000】・【小畠 2008/2011】・【鈴木ほか 2012】等を参考に実施し、部位・状態別の個数を数えて結果を一覧表で示す。実体顕微鏡下による区分が困難な複数種間は、-で結んで表示する。計測は、多量出土した栽培種のヒヨウタン類や、メロン類、ナスなどを対象として、保存状態が良好な一部の種実の長さ、幅、厚さ等をデジタルノギスで計測し、結果を一覧表で示す。欠損等で完全な計測値を得られない場合は、残存値に+で示す。分析後は、種実遺体を分類群別に容器に入れ、残渣は袋に戻して保管する。

### C 結 果

同定結果を第4表に示す。また、栽培種分類群の写真を第13図に、主な種実遺体の計測値を第5表に示して同定根拠とする。溝跡および井戸跡より出土した種実遺体は、全10試料を通じて、被子植物88分類群、イネ科、ミクリ属、アゼスク属、コウボウムギ近似種、スグ属、ハリイ属、ウキヤガラ、イヌホタルイ近似種、ホタルイ近似種、ホタルイ属、フトイ近似種、サンカクイ近似種、カナムグラ、アサ、ギシギシ属、イヌタデ近似種、

ヤナギタデ近似種、ポンクタデ近似種、サナエタデ近似種、タデ属、ソバ、アカザ属、ヒユ属、ムラサキケマン属、マメ科、クサネム、エノキグサ、スミレ属、カラスウリ、ゴキブル、ヒヨウタン類、トウガン、雜草メロン型、マクワ・シロウリ型、モモルディカメロン型、メロン類、アリノトウグサ、セリ科、ミツガシワ、ハマヒルガオ、シソ属、シソ属・イヌコウジユ属、ウツボグサ属、ナス、ナス属、ゴマ、ヒシモドキ、オナモミ属、ゴボウ近似種、タカサブロウ、メナモミ属、キク科) 3242個の種実遺体が同定された。5個は同定ができなかったが、同一種・部位と考えられる炭化4個を不明Aとしている。分析残渣は、漆器片、木材、炭化材、植物片、苔苔類の茎・葉、虫類、動物遺存体、岩片、土粒などが確認された。

種実遺体の出土個数は、SD41：5層が84個、SE149：5層が109個、SE4151：4層が370個、SE2281：8層が792個、SE2546：7層が66個、SE1518：6層が317個、SE3507：6層が125個、SE3726：9層が407個、同9層が523個、同10層が449個であった。1試料のみ木本主体で、3試料・10層)は栽培種と他の草本が多く、残りの6試料は栽培種主体の組成を示す。

種実遺体群は、栽培種が2020個と全体の約6割を占め、その他の草本が次いで多く、木本は158個と少ない。栽培種は、イネが567個、オオムギが74個、コムギが29個、ヒエが5個、キビが1個、アワが19個、アサが196個、ソバが6個、ヒヨウタン類が561個、トウガンが2個、メロン類が67個、シソ属が131個、ナスが231個、ゴマが26個と、栽培の可能性が高いナシ属が3個、マメ科が4個、マメ科が20個、シソ属・イヌコウジユ属が74個、ゴボウ近似種が4個確認された。イネ、オオムギ、コムギ、ヒエ、キビ、アワ、マメ科は炭化しており、穀類のイネ、オオムギ、コムギ、ヒエ、キビ、アワは穎(穎)が残る個体が多い。とくにSE3726より出土したイネの塊状炭化物には、複数の穎・胚乳と表面に付着する單子葉類の植物片が同方向に配列する小穗(稈穂)の状態が確認された。

栽培種の出土状況は、遺構間で大きく異なる。SE2281：8層とSE3726は分類群数が比較的多く、SE149：5層はアサ、SE4151：4層はナス、SE2281：8層はイネとアサ、SE2546：7層はアワとシソ属、SE1518：6層およびSE3507：6層はイネ、SE3726：9層はヒヨウタン類が多産する。このうちSE3726の9層試料は全てヒヨウタン類から成り、果実片の大半が緩やかな丸みを帯び、1個に基部が確認された。また、多量出土した種子のうち、各試料100個の計測値は、水没試料では長さが最小14.3～最大17.4mm、幅が5.3～7.1mm、厚さが2.3～3.7mm、乾燥試料では長さが13.0～16.9mm、幅が5.0～7.8mm、厚さが2.3～5.3mmであり、乾燥試料は小型の傾向を示す。また、SE4151：4層より多産したナスの種子100個の計測値は、長さが最小2.1～最大3.0mm、幅が2.5～3.7mm、厚さが0.5～1.2mmであった。

栽培種やその可能性がある分類群以外は、木本は主にSD41：5層、SE2281：8層より確認され、全て落葉広葉樹から成る。高木になるエノキ属、カラスザンショウ、ヤマボウシ、小高木のエゴノキ、低木のキイチゴ属、イヌサンショウ、サンショウ、キブシ、クサギ、ニワトコ、藤本のサンカクヅル近似種、ヤマブドウ近似種、ブドウ属、ノブドウが確認された。これらの分類群は、林縁等の明るく開けた場所に生育する陽樹を主体とし、エノキ属、エゴノキ、キブシ等はやや湿った場所に生育する樹種が含まれる。なお、ヤマボウシは炭化しており、サンショウの一部には外種皮が残る状態が確認された。

一方の草本は、海岸の砂地に生育するコボウムギ近似種、ハマヒルガオや、浮葉植物のヒシモドキ、抽水植物のオモダカ属、サジオモダカ属、イボクサ、ミクリ属、ウキヤガラ、イスホタルイ近似種、ホタルイ近似種、ホタルイ類、フトイ近似種、サンカクイ近似種、ミツガシワ、湿生植物のアゼスゲ類、スケ属、ハリイ属、ヤナギタデ近似種、ポンクタデ近似種、クサネム、ゴキブル、タカサブロウ、乾いた場所にも生育可能な中生植物のフユクサ、イヌビエ属、エノコログサ属、イネ科、カナムグラ、ギギ

第4表 種家同定結果(1)

## 2 種 実 同 定

分類群	種別	形態	区分別										備考
			SD41	SE149	SE151	SE2281	SE2346	SE23507	SE3158	SE3206	SE3276	10 層	
アザモ(根状茎有)	草実	不定	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
アザモ(根状茎無)	草実	不定形	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
アザモ(根状茎無)	草実	不定形	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
アザモ(根状茎無)	草実	不定形	-	-	-	1	-	1+	-	-	1+	1+	-
アカヤシロ	種子	不定形	-	-	-	1	-	-	-	-	1+	1+	-
ヒコケ	種子	不定形	-	-	-	1	-	1+	-	-	1+	3+	-
ムラサキケマン型	種子	不定形	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
マメ科(アズギ類)	種子	不定形	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
マメ科(アズギ類)	種子	不定形	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
マメ科	種子	不定形	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
マメ科	種子	不定形	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-
マメ科	種子	不定形	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-
マツモ	種子	不定形	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
マツモ	種子	不定形	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-
マツモ	種子	不定形	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-
クサネム	小切葉	不定形	-	-	28	-	3	-	96	148	-	-	9種の可能性
ムクダギ	種子	不定形	-	-	-	28	-	1	-	64+	25+	-	-
スズノリ属	種子	不定形	-	-	-	4	-	1+	-	-	1+	-	-
キカラスウリ	種子	不定形	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-
ゴクサ	種子	不定形	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-
ゴクサウグサ	種子	不定形	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-
セリ科	草実	不定形	-	-	-	1	-	1+	-	-	1+	1+	-
ミツバシワ	種子	不定形	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-
ハマヅルガサ	種子	不定形	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-
ハマヅルガサ	種子	不定形	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-
アヌ属	種子	不定形	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-
ヒシタケドキ	種子	不定形	-	-	-	1	-	1	-	-	2	-	-
ナヂマ属	種子	不定形	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-
ナヂマロウ	種子	不定形	-	-	-	2	-	2	-	-	1+	1+	-
メナモニ属	草実	不定形	-	-	-	9	-	-	-	-	1	-	-
キク科	草実	不定形	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-
本邦 A	種子?	不定形	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-
種実合計			7	102	205	321	36	255	76	407	315	133	21 1917 99
栽培種			2	1	-	32	16	9	14	-	21	9	37 104 99
栽培の可能性			70	1	3	43	8	1	-	5	2	41 136 99	
その他の本種			5	1	123	257	14	40	30	-	183	285	
不明			-	-	-	-	-	2	2	-	-	37 4 99	
種実合計(不明を除く)			84	108	321	703	96	318	128	407	524	149	21 3214 99
分類別			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1348 99
漆樹科(木製品)			-	-	-	*	-	*	-	*	*	*	-
木村			-	-	-	*	-	*	-	*	*	*	-
葛麻科			2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	-
植物界			-	-	-	*	-	*	-	*	*	*	-
被子植物(被子、裸子)			-	*	*	*	*	*	*	*	*	*	-
被子植物(裸子、被子、裸子)			-	*	*	*	*	*	*	*	*	*	-
裸子植物			-	*	*	*	*	*	*	*	*	*	-
苔類			-	*	*	*	*	*	*	*	*	*	-

第4表 種実同定結果(2)

シ属、イヌタデ近似種、サナエタデ近似種、タデ属、アカザ属、ヒユ属、ムラサキケマン型、マメ科、エノキグサ、スミレ属、キカラスウリ、アリノトウガサ、セリ科、ウツボグサ属、ナス属、オナモミ属、メナモミ属、キク科などが確認された。エノコログサ属(大型)、ミクリ属A、マメ科は炭化している。草本の出土状況は、SE3726はクサネムなどの水湿地生植物が多産し、SE2281: 8層はイヌタデ近似種、SE1518: 6層はサナエタデ近似種などの中生植物もやや多い。SE4151: 4層は抽水植物のウキヤガラと中生植物のギシギシ属を主体とする。一方、SD41: 5層、SE149: 5層、SE2546: 7層、SE3507: 6層は少量であり、SE3726: 9層(水浸試料)からは1個も確認されなかった。

## D 考 察

溝跡や井戸跡より採取された試料における種実遺体群は、栽培種(可能性含む)が全体の約6割を占め、他の草本が3~4割と次いで多く、本種は約5%と少ない組成を示した。栽培種は、イネ、オオムギ、コムギ、ヒエ、キビ、アワ、アサ、ソバ、ヒヨウタン類、トウガン、メロン類、シソ属、ナス、ゴマと、栽培の可能性が高いナシ属、マメ科、シソ属-イヌコウジユ属、ゴボウ近似種が確認された。また、これらの栽培種などの出土状況は遺構間で異なっており、SE149はアサ、SE4151はナス、SE2281はイネとアサ、SE2546はアワとシソ属(エゴマ)、SE1518、SE3507はイネ、SE3726の9層はヒヨウタン類が多産するという特徴が確認された。

第5表 主な種実遺体の計測値(1)

## 2 種 実 同 定

第5表 主な種実遺体の計測値(2)

第5表 主な種実遺体の計測値(3)

## 2 植 実 回 定

施設	ゲリット	直根	根状茎	分根部	根叢	状態	番号	入込寸 (mm)			測定 条件	備考
								直根	根叢	根状茎		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	80	36.0	6.0	3.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	81	35.9	5.8	3.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	82	35.9	5.9	3.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	83	36.4	6.2	3.1	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	84	35.8	6.6	3.1	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	85	36.0	6.0	3.0	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	86	35.2	6.4	3.1	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	87	36.1	6.4	3.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	88	35.8	5.9	3.1	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	89	34.4	5.8	3.1	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	90	36.0	6.0	3.0	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	91	35.3	5.9	3.1	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	92	35.9	5.9	3.0	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	93	36.6	6.2	3.9	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	94	35.7	6.4	3.1	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	95	35.8	6.5	3.9	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	96	35.3	6.3	3.1	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	97	35.5	6.2	3.1	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	98	36.5	6.5	3.9	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	99	35.9	6.3	3.0	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	100	35.2	6.8	3.0	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	1	34.8	6.0	2.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	2	35.0	6.0	2.9	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	3	34.6	5.8	2.8	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	4	35.1	5.7	2.6	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	5	36.0	6.9	3.5	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	6	35.0	6.0	2.9	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	7	34.7	7.1	2.9	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	8	34.9	5.8	2.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	9	35.0	6.0	2.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	10	35.2	5.4	2.8	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	11	35.7	5.6	2.6	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	12	35.2	6.2	2.6	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	13	35.5	6.5	2.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	14	34.9	5.3	2.6	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	15	36.0	6.5	2.8	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	16	35.9	6.5	2.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	17	35.4	5.5	2.6	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	18	35.1	6.1	2.6	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	19	35.4	6.4	2.9	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	20	34.7	5.7	2.6	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	21	33.0	6.3	3.2	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	22	34.6	6.1	2.8	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	23	34.4	5.8	2.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	24	34.6	5.4	2.5	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	25	35.6	6.3	2.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	26	35.0	6.5	2.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	27	35.0	6.5	2.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	28	35.0	6.5	2.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	29	34.1	5.3	2.6	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	30	34.2	5.8	2.6	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	31	33.8	6.9	2.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	32	34.3	6.0	2.8	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	33	34.9	6.0	2.8	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	34	35.3	5.8	2.6	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	35	35.3	5.8	2.6	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	36	36.9	6.4	3.0	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	37	37.0	6.5	3.0	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	38	34.6	7.3	3.3	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	39	35.1	7.2	3.1	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	40	34.8	7.2	3.1	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	41	33.4	5.0	2.4	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	42	33.9	7.1	2.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	43	35.3	6.6	2.6	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	44	34.9	6.3	2.5	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	45	34.6	7.0	2.9	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	46	34.9	6.0	2.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	47	35.0	6.7	2.9	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	48	34.4	5.8	2.6	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	49	35.1	7.0	3.1	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	50	35.0	6.5	2.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	51	34.7	6.2	2.9	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	52	34.0	6.9	3.8	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	53	35.2	5.7	2.6	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	54	34.2	6.0	2.9	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	55	35.8	6.2	2.5	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	56	34.0	6.0	2.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	57	35.6	5.7	2.4	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	58	35.0	5.5	2.5	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	59	35.6	5.4	2.6	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	60	34.9	5.7	2.5	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	61	35.3	5.5	2.5	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	62	33.7	5.9	3.3	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	63	34.2	5.4	2.5	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	64	34.0	6.0	2.8	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	65	34.2	5.8	2.6	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	66	34.7	6.3	2.9	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	67	34.4	6.7	2.9	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	68	34.4	6.4	2.8	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	69	35.2	5.9	2.8	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	70	34.2	5.1	2.5	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	71	34.5	5.4	2.5	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	72	34.5	5.8	2.7	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	73	35.3	6.0	2.6	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	74	34.8	6.2	2.0	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	75	34.8	6.2	2.0	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	76	34.5	6.2	2.8	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	77	34.0	5.7	2.8	-		
SE3726	998	本根	ヒヨウタン類	根子	完形	78	34.0	5.9	2.0	-		

第5表 主な種実遺体の計測値(4)

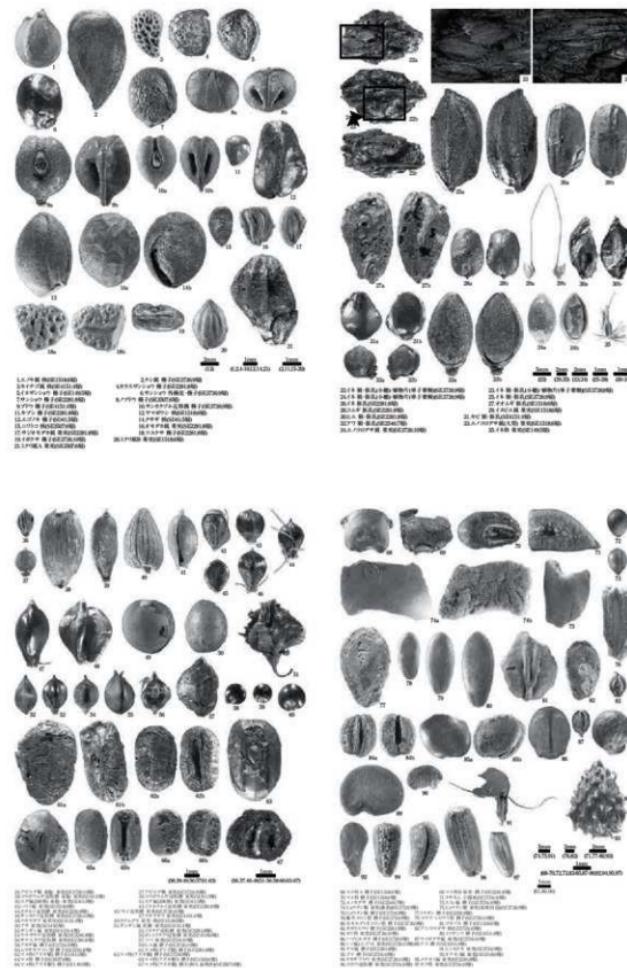
第5表 主な種実遺体の計測値(5)

## 2 植 実 回 定

種子	ゲリット	直根	胚状	分類群	部状	状態	番号	大きさ(mm)			個数 各々
								長さ	幅さ	厚さ	
25X.直 27H16	SE238	88	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	10	1.8	1.5	1.3	-
25X.直 27H16	SE228	88	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	11	2.1	1.8	1.4	-
25X.直 27H16	SE230	88	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	12	1.9	1.7	1.3	-
25X.直 SE246	79	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	1	1.8	1.5	1.4	-	
25X.直 SE246	79	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	2	2.1	1.9	1.6	-	
25X.直 SE246	79	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	3	2.0	1.8	1.4	-	
25X.直 SE246	79	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	4	1.9	1.5	1.4	-	
25X.直 SE246	79	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	5	1.7	1.4	1.3	-	
25X.直 SE246	79	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	6	1.8	1.4	1.3	-	
25X.直 SE246	79	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	7	2.0	1.6	1.4	-	
25X.直 SE246	79	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	8	2.3	2.2	1.4	-	
25X.直 28H6	SE1518	68	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	1	2.0	1.8	1.5	-
25X.直 28H6	SE1518	68	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	2	2.1	1.8	1.5	-
25X.直 4467	SE3507	68	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	3	1.9	1.6	1.5	-
25X.直 4467	SE3507	68	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	4	2.3	2.3	2.0	-
25X.直 4467	SE3507	68	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	5	2.0	1.7	1.5	-
25X.直 4467	SE3507	68	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	6	2.0	1.7	1.4	-
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	1	2.0	1.7	1.6	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	2	1.9	1.7	1.5	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	3	2.0	1.7	1.6	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	4	2.3	2.1	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	5	2.0	2.0	1.9	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	6	2.0	1.8	1.6	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	7	2.0	2.1	1.5	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	8	2.0	1.9	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	9	2.0	1.9	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	10	1.9	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	11	1.9	1.6	1.3	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	12	2.3	2.1	1.5	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	13	2.0	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	14	2.3	2.0	1.5	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	15	1.9	1.7	1.3	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	16	2.0	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	17	1.9	1.6	1.3	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	18	1.9	1.6	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	19	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	20	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	21	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	22	2.3	2.3	1.6	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	23	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	24	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	25	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	26	1.9	1.6	1.3	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	27	2.0	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	28	1.9	1.6	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	29	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	30	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	31	2.1	1.9	1.5	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	32	2.2	1.9	1.2	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	33	1.9	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	34	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	35	1.9	1.7	1.3	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	36	1.8	1.6	1.3	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	37	1.9	1.6	1.3	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	38	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	39	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	40	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	41	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	42	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	43	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	44	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	45	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	46	1.9	1.7	1.3	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	47	2.2	1.9	1.5	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	48	2.2	1.9	1.5	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	49	2.1	1.8	1.4	-	
25X.直 SE3726	99	胚根	シソ属(スズメ)	葉状	完熟	50	1.9	1.7	1.3	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	1	2.6	3.4	0.6	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	2	2.7	3.4	0.7	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	3	2.7	3.4	0.9	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	4	2.6	3.3	1.1	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	5	2.5	3.2	0.9	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	6	2.5	3.2	0.9	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	7	2.4	3.0	0.7	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	8	2.5	3.4	0.9	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	9	2.5	3.4	0.9	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	10	2.5	3.4	0.9	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	11	2.6	3.3	1.0	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	12	2.5	3.3	1.0	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	13	2.5	3.3	1.0	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	14	2.6	3.4	0.6	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	15	2.5	3.4	1.0	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	16	2.5	3.4	1.0	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	17	2.6	3.3	0.9	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	18	2.5	3.0	0.9	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	19	2.5	3.4	1.0	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	20	2.5	3.4	1.0	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	21	2.5	3.0	0.7	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	22	2.6	3.1	0.9	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	23	2.5	3.1	0.9	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	24	2.5	3.1	0.8	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	25	2.6	3.2	1.1	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	26	2.5	3.1	1.1	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	27	2.7	2.9	0.8	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	28	2.6	3.1	1.0	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	29	2.6	3.1	1.0	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	30	2.7	2.9	1.0	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	31	2.5	3.1	1.1	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	32	2.5	3.1	1.1	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	33	2.5	3.1	1.0	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	34	2.5	3.1	1.0	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	35	2.5	3.1	1.0	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	36	2.5	3.3	0.9	-	
25X.直 SE4154	49	胚根	ナラ	種子	未熟	37	2.7	3.3	0.9	-	

第5表 主な種実遺体の計測値(6)

1) 計測は記録を／折るを指す。次回は既存前に「」を、書き割れや瑕難等は計測前に「」です。



第13図 種実遺体

これらの栽培種は、当時利用された植物質食料と考えられ、出土状況などによる検証が必要であるが、遺構内への廻棄や祭祀などに関わる人間に由来するものも含まれる可能性がある。また、イネ（穂の一部を除く）、オオムギ、コムギ、ヒエ、キビ、アワ、マメ科は炭化しており、穀類のイネ、オオムギ、コムギ、ヒエ、キビ、アワには穎が残る個体が多いことから、脱皮（穎稃）前の穎がついた状態で火を受けたことが示唆され、とくにSE3726のイネについては小穂の状態で火を受けたことが窺える。

また、SE3726：9層より多産したヒヨウタン類は、少なくとも果実1個体分に相当すると考えられ、果実の形状は頂部がわずかに尖る球体状と推定される。また、多量の種子も出土果実に由来する可能性が高い。なお、種子の計測値は、水浸試料よりも乾燥試料が小型の傾向を示したが、これは試料の状態を反映しており、乾燥による収縮と考えられる。

栽培種やその可能性がある分類群以外は、草本主体の組成を示した。このような産状はI章の花粉化石群集組成においても確認されており、当時の調査地周辺は明るく開けた草地環境と推定される。木本は全て落葉広葉樹で、高木になるエノキ属、カラスザンショウ、ヤマボウシ、小高木のエゴノキ、低木のキイチゴ属、イヌザンショウ、サンショウ、キブシ、クサギ、ニワトコ、藤本のサンカクヅル近似種、ヤマブドウ近似種、ブドウ属、ノブドウなどの、河畔や林縁等の明るく開けた場所に生育する樹種が確認された。これらは遺跡周辺の林内や林縁等に生育していたと考えられる。なお、SE3726：9層より出土したサンショウは、外種皮が残る良好な保存状態であったことから、現地性の高さが窺える。また、SE1518より炭化した状態で出土したヤマボウシは、果実が甘く食用可能であることから、人が食用に利用した後の残滓の可能性がある。その他、サンショウは果実や種子が香辛料等として食用可能であり、サンカクヅル近似種、ヤマブドウ近似種などのブドウ属も果実が食用可能である。

次に、草本類についてみると、海岸の砂地に生育するコウボウムギ近似種、ハマヒルガオや、浮葉植物のヒシモドキ、抽水植物のオモダカ属、サジオモダカ属、イボクサ、ミクリ属、ウキヤガラ、イスホタルイ近似種、ホタルイ近似種、ホタルイ類、フトイ近似種、サンカクイ近似種、ミツガシワ、湿生植物のアゼスクゲ類、スゲ属、ハリイ属、ヤナギタデ近似種、ポンクトクタデ近似種、クサネム、ゴキヅル、タカサブロウ、中生植物のフユクサ、イヌビエ属、エノコログサ属、イネ科、カナムグラ、ギシギシ属、イヌタデ近似種、サナエタデ近似種、タデ属、アカザ属、ヒユ属、ムラサキケマン型、マメ科、エノキグサ、スミレ属、キカラスウリ、アリノトウグサ、セリ科、ウツボグサ属、ナス属、オナモミ属、メナモミ属、キク科などが確認された。エノコログサ属、ミクリ属A、マメ科は、炭化していることから、火を受けたとみなされる。とくにエノコログサ属と栽培種のアワ、アズキの原種とされるヤブツルアズキ類？とアズキ類、ダイズの原種とされるツルマメ類？とダイズ類は、上述した栽培種などと関連して利用の可能性が考えられ、今後の検討を要する。

その他の分類群は、人里植物を主体とし、多くの水湿地性植物と海浜植物を含むことから、沿海地に立地する本遺跡周辺域の明るく開けた草地環境に生育していたと考えられる。また、砂地に生育するコウボウムギ近似種やハマヒルガオ、水湿地に生育するヒシモドキ（水深約2m以内）や抽水植物（水深約1m以内）の出土から、調査地付近にはこのような環境の存在も推定される。なお、SE3726：9層より出土したヒシモドキは現在絶滅危惧種とされており、当時の分布を示す貴重な考古資料と言える。

### 3 樹種同定

#### A 試料

試料は、柱穴から出土した柱根、井戸跡や土坑、溝跡などから出土した木製品50点である。このうち、SE783とSE2281の曲物は二重の側板と底板から構成されており、SD41の曲物は側板と底板からなる。また、SE1982の鍵は身と柄が別材で製作されていることが確認されたため、これらの試料については、各部材より試料を採取している。SE1563の盤は、全面が炭化しており切片の採取が困難であったため、炭化部分より破片を採取している。

なお、本分析の対象とされた木製品の詳細は、同定結果と併せて第6表に示したので参照されたい。

#### B 分析方法

木製品は資料の木取りを観察した後、剃刀を用いて木口・極目・板目の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。また、SE1563の盤は、端部から小片を採取し、自然乾燥させる。3断面の削断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察する。各試料で観察された特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、[島地・伊東 1982]・[Wheeler 他 1998]・[Richter 他 2006]を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、[林 1991]・[伊東 1995-1999]を参考にする。

#### C 結果

同定結果を第7表に示す。木製品には、針葉樹3分類群と広葉樹5分類群に同定された。以下に、同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

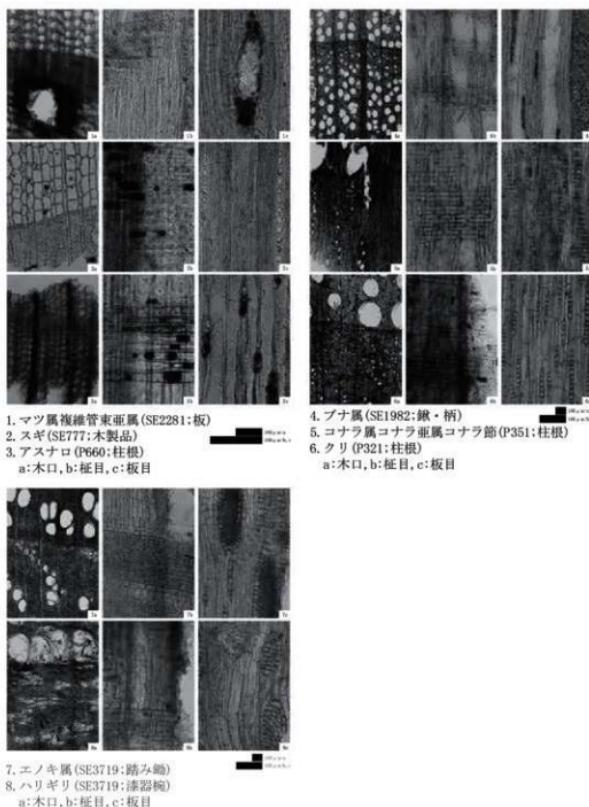
##### ・マツ属複雑管束亜属 (*Pinus subgen. Diploxylon*) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直树脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直树脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平树脂道、エビセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には隔壁状の突起が認められる。放射組織は單列、1-15細胞高。

・スギ (*Cryptomeria japonica* D. Don) スギ科スギ属 軸方向組織は仮道管と树脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。树脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は單列、1-10細胞高。

##### ・アスナロ (*Thujopsis dolabrata* Sieb. et Zucc.) ヒノキ科アスナロ属

軸方向組織は仮道管と树脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。树脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、内壁には茶褐色の树脂が頭著に認められる。分野壁孔はヒノキ型で、1分野に1-4個。放射組織は單列、1-10細胞高。



第14図 木材

・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科

散孔材で、道管は単独または放射方向に2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は單穿孔および階段穿孔を有し、櫻孔は対列状-階段状に配列する。放射組織はほぼ同性、單列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・コナラ属コナラ亞属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圈部は1-2列、孔圈外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、櫻孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1-20細胞高のものと複合放射組織

## 3 樹種同定

ゲリッフ	遺構	部位	報告番号	種類	部位	本取り	種類 (分類群)
37F9	P321	1層	218	柱根	-	心持(丸木)	クリ
36F14	P555	2層	222	柱根	-	心持丸木	クリ
37F15	P253	1層	217	柱根	-	心持丸木	クリ
33F23	P1164	1層	231	柱根	-	心持丸木	クリ
33F22	P912	2層	225	柱根	-	手乾状	クリ
37F5	P752	2層	224	柱根	-	心持丸木	クリ
39F8	P2263	1層	227	柱根	-	分割角材	ブナ属
32F・13	P3428	2層	230	柱根	-	心持丸木	クリ
35E8	P660	1層	223	柱根	-	分割材	アスナロ
43K20・25	P3007	3層	229	柱根	-	心持丸木	クリ
39F13	P1449	1層	226	柱根	-	心持丸木	クリ
32J1	P3119	-	-	柱根	-	心持丸木	クリ
37E3	P361	1層	219	柱根	-	心持丸木	アスナロ
36G21	P509	3層	220	柱根	-	分割角材	スギ
34G21	P381	1層	221	柱根	-	心持丸木	コナラ属コナラ栗属コナラ属
31J7	P2966	1層	228	柱根	-	心持丸木	クリ
32F・19	SE272	4層	274	四面板	-	板目	スギ
36H12	SE777	7層	275	木製品	-	板目板	スギ
35H17	SE783	5層	257	曲物 (板弓)	腰	腰板(外側)	板目
					底板	腰板(内側)	スギ
					-	分割角棒	スギ
40J7	SE1207	5層	247	円形板	-	腰板	スギ
					-	底板	スギ
					-	側板	スギ
38H6	SE1518	6層	258	曲物	腰	腰板	スギ
					実状	側板	スギ
					-	側面棒	スギ
38H16	SE1563	7層	240	腰(腰方)	-	腰板	ブナ属
					-	板目	スギ
					-	底板	スギ
38H21	SE1568	6層	261	板束	-	腰板	クリ
					-	心持丸木	クリ
					-	底板	ブナ属
38H25	SE1982	3層	270	腰	身	腰板	ブナ属
					柄	側面棒	ブナ属
					底板	腰板	スギ
37H14	SE2007	5層	249	曲物	底板	腰板	スギ
					-	腰板(外側)	スナロ
					-	腰板(内側)	アスナロ
37H16	SE2281	8層	252	曲物	底板	底板	アスナロ
					-	腰板	アスナロ
					-	底板	アスナロ
37H16	SE2281	8層	251	曲物	底板	板目-腰板	マツ属板根苔束亞属
					-	板目	スギ
31J7	SE2984	3層	253	円形板	-	腰板	スギ
					-	底板	スギ
45H21	SE3261	7層	241	腰	-	腰板	ブナ属
					-	底板	ブナ属
42J18	SE3704	7層	279	部材	-	腰板	スギ
					-	底板	スギ
42J18	SE3719	9層	271	腰み塵	身	心持材	エノキ属
					-	腰板	ハリギリ
32J11	SE3900	5層	254	底板	-	腰板	スギ
					-	腰板	スギ
33E5	SE4067	8層	244	釣子	-	腰板	スギ
					-	底板	スギ
33E5	SE4067	8層	255	底板	-	腰板	スギ
					-	腰板	スギ
33E7	SD41	2層	280	板材	-	腰板	スギ
					-	底板	スギ
33E18	SD41	2層	260	曲物	-	腰板	スギ
					-	底板	スギ
SD4193		4層	264	竿略婆	-	板目	スギ
37E	SX300	2層	281	絆縫車	-	腰板	アスナロ
37K4	SK2030	F層	243	著	-	分割角棒	スギ
32F22	SK4086	9層	265	逆面下駄	-	台面が逆板	スギ
33D13	SK4087	4層	266	逆面下駄	-	台面が腰板	スギ
33D13	SK4087	4層	266	底板	-	腰板	スギ

第6表 樹種同定結果

とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は3-4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1-15細胞高。

・エノキ属 (*Celtis*) ニレ科

環孔材で、孔圈部は1-3列、孔圈外で急激に径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高で精細胞が認められる。

・ハリギリ (*Kalopanax pictus* Nakai) ウコギ科ハリギリ属 環孔材で、孔圈部は1-2列、孔圈外で急激に径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に帶状あるいは紋様状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状または対列状に配列する。放射組織は異性～同性、1-5細胞幅、1-30細胞高。柔組織はターミナル状および周囲状。

## D 考 察

今回の分析に供された木製品の樹種同定の結果、マツ属複雜管束亜属、スギ、アスナロなどの針葉樹と、ブナ属、コナラ属コナラ亜属コナラ節、クリ、エノキ属、ハリギリなどの広葉樹の計8分類群が認められた。

これらの分類群のうち、針葉樹のマツ属複雜管束亜属は、本州にはアカマツとクロマツの2種があるが、いずれも二次林や海岸などに生育する、あるいは植栽される常緑高木である。スギは、谷筋や扇状地端部の湧水地などの適湿地に生育する、あるいは植栽される常緑高木であり、アスナロは山地等に生育する、あるいは植栽される常緑高木である。広葉樹のブナ属は、山地の冷温帶性落葉広葉樹林の主要な構成種となる落葉高木であり、コナラ節は二次林や山地の落葉広葉樹林の主要な構成種となる落葉高木であり、クリは二次林等に生育する落葉高木である。エノキ属やハリギリは、谷筋や河畔等に生育する落葉高木である。

また、各分類群の木材の材質は、マツ属複雜管束亜属は針葉樹としては比較的重硬な部類に入り、強度や保存性が比較的高い。スギやアスナロは、いずれも木理が直であり、割裂性や耐水性が比較的高い。コナラ節やクリは、いずれも重硬で強度が高く、とくにクリは耐朽性が高いとされる。ブナ属やエノキ属は、比較的重硬～やや重硬とされるが、ブナ属は加工が容易あるものの保存性は低いとされる。一方、ハリギリは軽軟であり、強度や保存性が低い。

今回の分析対象の木製品は、[伊東・山田 2012] の木器分類を参考にすると、農耕具(鍬、踏み鶴?)、紡織具(紡錘車)、服飾具(連尚下駄)、容器(漁物、底板、漆器椀、盤)、調理加工具(杓子)、食事具(箸)、遊戯具(鞆奈)、建築部材(柱根)、その他(四角板、板、板棒状、部材、尖棒状、木製品、不明)から構成される。木器分類ごとの樹種構成(第7表)についてみると、農耕具は、鍬と踏み鶴?がある。鍬は身に柄が装着された状態で出土している。身が極目状、柄が削出棒状であり、柄は身から直角に出た後、やや屈折して伸びる。いずれもブナ属が用いられており、比較的重硬な木材が利用される。新潟県内における中世・近世の鍬を対象とした調査事例[伊東・山田 2012]は、仲田遺跡、用言寺遺跡、住吉遺跡、砂山中道下遺跡の4例があり、用言寺遺跡と砂山中道下遺跡の資料がコナラ節、仲田遺跡の資料がトチノキ、住吉遺跡の資料がスギとされている。このうち、砂山中道下遺跡の鍬身は木取りと形状が今回の資料に似ている。ま

## 3 樹種同定

	農耕具		紡織		服飾		容器		
	鍤	踏踏車	下駄	曲物	-	漆器	盤		
	身	柄	身	通商	側板	底板	底板	椀	-
<b>針葉樹</b>									
マツ属複雜束葉属									
スギ				2	4	3	5		
アスナロ			1		2	1			
<b>広葉樹</b>									
ブナ属	1	1					1	2	
コナラ属コナラ亜属コナラ節									
クリ									
エノキ属			1						
ハリギリ							1		
合計	1	1	1	1	2	6	4	5	2
<b>調理</b>									
<b>食事</b>		<b>遊戲</b>		<b>建築</b>		<b>その他</b>			
杓子		箸	独楽		柱根		板材	部材	尖棒
	-	-	-	心持	手鉢	分割	-	-	不明
合計	1	2	1	1	1	4	1	1	3
<b>針葉樹</b>									
マツ属複雜束葉属							1		1
スギ	1	2					1		27
アスナロ			1		1				6
<b>広葉樹</b>									
ブナ属						1			6
コナラ属コナラ亜属コナラ節			1						1
クリ			1	10	1		1		13
エノキ属									1
ハリギリ									1
合計	1	2	1	12	1	3	5	2	1

*円形板は底板を含む。また、板材は四角板・板・板材・板状を、不明は不明・木製品を含む。
第7表 木器の器種別樹種構成

た、利用樹種についてみると、重硬およびやや重硬な種類、軽軟な種類が利用されるなど材質に幅がある。踏み跡は、心持材を利用しておらず、厚い基部から一本で薄く長い刃を削り出す。基部の端部には断面が方形となる溝が斜めに作られており、溝の途中には金属製の部品を刺した痕跡が認められることから、柄を斜めに嵌めて、金属の部品で固定したと考えられる。足を掛ける部分が無く、現代のものとはやや形状が異なるが、足を掛ける部分は別部材で作られていた可能性もあり、全体的な形状から踏み跡の可能性が高いと考えられる。樹種はエノキ属であったことから、やや重硬な木材の利用が窺える。鍤と同様に鉄刃を装着すれば、本部の材質が必ずしも重硬である必要はないため、利用可能な強度を持つ木材の中より加工が容易な木材を選択している可能性がある。踏み跡の出土例は、土生遺跡の弥生時代中期の資料が知られているが、その形状は現在のものとは大きく異なる。江戸末期の万延元年に描かれたとされる豊年万作図襖絵には、現在民具として残る資料に近い形態の踏み跡が描かれている〔町田市立博物館 1993〕。ただし、中世・近世の資料は出土品をはじめ伝承品なども殆ど無く、樹種を明らかにした例も知られていない。そのため、今回の資料は、当該期の形態や木材利用を知る上でも重要な資料となる可能性がある。

紡織具は、紡錘車が1点ある。紡錘は、回転運動によって纖維に撲りをかける道具であり、回転軸とこれにはめ込む円盤状の弾み車で構成されており、弾み車が紡輪あるいは紡錘車と呼ばれている〔東村

2011]。今回の資料は、中央に穿孔が認められる円形（径7cm）を呈する柾目板であり、針葉樹のアスナロが認められた。この結果から、加工性の高い木材の選択が推定される。中世や近世の納鎌車の調査事例は、一之口遺跡の資料にクリ、大武遺跡や寺前遺跡の資料にスギが確認されている。今回の結果はスギの利用例に近い木材選択と考えられる。

服飾具は、下駄が2点ある。いずれも台と歯を一本で作る連衝下駄であり、台表が柾目になる資料と、樹心に近い部分を使い、台表が追徴状になる資料がある。このうち追徴状になる資料は、台表のかかと付近と台裏の歯と歯の間に円形の刻印が認められる。樹種は2点ともスギであったことから、加工性の高い木材の利用が推定される。新潟県内では、これまでにも多くの遺跡で連衝下駄の樹種同定が実施されている。このうち、本遺跡周辺における事例についてみると、下沖北遺跡ではヤマグワ、大武遺跡ではスギ、ヒノキ、モミ属、クリ、ケヤキ、キハダ、寺前遺跡ではスギ、ヒノキ科、モクレン属、ケヤキ、カツラが確認されている。このように下駄には多くの種類の木材が利用されていたことが明らかとなっているが、今回確認されたスギはこれまでの調査事例では最も多く確認されており、当該期の下駄材として一般的な樹種であったことが窺える。

容器は、曲物、漆器、盤および所属不明の底板がある。曲物は、二重の側板と底板から構成される資料と、側板と底板から構成される資料、さらに側板のみ（SEI518）および底板のみの資料がある。これらのうち、SE783とSD41の曲物は、側面2カ所に孔が確認されることから、柄を通して柄杓として利用された可能性がある。樹種同定の結果、SE2281の資料にアスナロが認められたほかは全てスギであった。この結果から、薄い板の製作が比較的容易な割裂性が高い樹種が選択・利用されたことが推定される。新潟県内における調査事例では、スギの利用が多く、サフラ、ヒノキ、サフラ、カラマツ等が確認されており、今回の資料のスギの利用は既存の木材利用とも調和する結果と言える。一方、アスナロは、新潟県内では出土事例は知られていない。アスナロや変種のヒノキアスナロの現在の分布〔倉田 1971〕をみると、アスナロは富山県、群馬県、福島県の県境付近、ヒノキアスナロは佐渡島と群馬県、福島県、山形県との県境付近に分布するとされ、柏崎市周辺には分布していない。そのため、これらの分布する地域からの木材あるいは製品の搬入なども想定する必要がある。

底板は、曲物や結物等の底板と考えられる。全てスギに同定されており、曲物の底板と同様の木材利用が推定される。

漆器椀は2点ある。SE3261から出土した資料は、高台が低く、内外面とも黒色で内面の底面に朱漆で円形の模様が描かれる。一方のSE3719から出土した資料は、高台が高く、内面が赤色、外表面が黒色に朱漆で模様が描かれており、木取りはいずれも横木地柾目取である。樹種は、SE3261がブナ属、SE3719がハリギリに同定された。ブナ属とハリギリは材質がやや異なるものの、比較的加工が容易であることから、加工性の高い木材の利用が推定される。新潟県内の調査事例では、椀にはブナ属やケヤキを中心多く樹種の利用が確認されており、ハリギリも大武遺跡で利用例が確認できる。今回の結果は既存の調査結果とも調和的といえる。

盤は、いずれも薄い柾目板状を呈しており、SE1563の資料は全面が炭化している。樹種はいずれもブナ属であり、椀と同様の木材が盤にも利用されたと考えられる。

調理加工工具は、杓子の1点があり、スギに同定された。柾目板状を呈する資料であり、曲物などと同様に加工性を考慮した木材利用が推定される。

食事具では、箸が2点ある。いずれも分割棒状あるいは分割角棒状を呈しており、スギに同定された。

箸のような小径の製品は、木材分割時に生じる端材などからも製作可能と考えられ、これまでに明らかとされている箸の樹種 [伊東・山田 2012]についてみると、それぞれの地域の板状などを呈する木製品が多く利用される針葉樹材が箸にも利用されている傾向が見られる。本遺跡では、スギが全体の約半数を占めており、スギの加工時の端材を箸に利用したことが推定される。

遺載具は、独楽の1点がある。径4cmの心持丸木を円錐状に削り出して製作されている。広葉樹のクリが利用されることから、強度の高い木材を利用したことが推定される。新潟県内における独楽あるいは独樂の可能性があるとされる木製品の調査事例は、下沖北遺跡と寺前遺跡の2例があり、下沖北遺跡の資料がブナ属、寺前遺跡の資料がモクレン属に同定されている。これらの結果を踏まえると、樹種は複数であり、木材の材質も幅があることが窺える。

建築部材は、柱材16点からなり、心持丸木、半截材、分割材あるいは分割角材を呈する資料に分けられる。その内訳は、心持丸木資料が16点中12点と最も多く、半截材が1点、分割材あるいは分割角材が3点である。柱材のうち心持丸木の資料12点は、クリが10点と最も多く、この他にアスナロとコナラ節が1点ずつ認められた。この結果から、強度や耐久性が高いクリを主とする木材利用が示唆され、このような木材利用は半截材の資料についても指摘できる。また、コナラ節は強度、アスナロは耐水性が利用の背景に考えられる。一方、分割材および分割角材には、針葉樹のスギとアスナロ、広葉樹のブナ属が確認された。のことから、心持丸木や半截材の柱材とは異なる木材利用が推定される。なお、ブナ属の柱材は、地中部と考えられるか所に抉りや貫通しない孔が認められることから、本来は別の用途の器種であった可能性があり、後に柱材に転用された可能性がある。新潟県内の調査事例では、中世や近世の資料には多くの樹種が利用されているが、とくにクリやスギの利用が多い傾向がある。本遺跡における柱材の木材利用は、これまでの結果と調和する傾向と言える。

その他とした用途・器種不明の木製品は、板状を呈する資料が多く、スギを主体として分割加工が容易な種類が利用される。なお、SE4067の部材は、一本で身と柄を削り出し、身が板目状、柄が削出丸木状を呈する。クリが利用されることから、強度や耐久性を要する用途や部位が推定される。

#### <引用文献>

- 藤木利之・小澤智生 2007 「琉球列島産植物花粉図鑑」アカコーラ企画,155p.
- 林 昭三 1991 「日本産木材 路微鏡写真集」京都大学木質科学研究所,
- 東村純子 2011 「考古学からみた古代日本の労働」六一書房 205p
- 井上 淳・吉川周作・千々和一豊 2002 「琵琶湖周辺域に分布する黒ボク土中の黒色木片について」『日本第四紀学会講演要旨集』32.74-75p
- 石川茂雄 1994 「原色日本植物種子写真図鑑」石川茂雄国圖刊行委員会 328p
- 伊東隆夫 1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載I」「木材研究・資料.31」京都大学木質科学研究所 81-181p
- 伊東隆夫 1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載II」「木材研究・資料.32」京都大学木質科学研究所 66-176p
- 伊東隆夫 1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載III」「木材研究・資料.33」京都大学木質科学研究所 83-201p
- 伊東隆夫 1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載IV」「木材研究・資料.34」京都大学木質科学研究所 30-166p
- 伊東隆夫 1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載V」「木材研究・資料.35」京都大学木質科学研究所 47-216p
- 伊東隆夫・山田昌久 2012 「出土木製品用材データベース」「木の考古学」海青社 449p
- 金原正明・金原正子 1992 「花粉分析および寄生虫、藤原京跡の便所遺構 -右京七条一坊西北坪-」奈良国立文化財研究所 12-15.
- 金原正明・金原正子 1993 「史跡松江城二ノ丸番所跡 SK-04 内堆積土の分析」「史跡松江城発掘調査報告書」松江市

- 教委区委員会 51-56p
- 金原正明・金原正子・中村亮仁 1995 「大宮坊跡における自然科学的分析」「史跡石動山環境整備事業報告Ⅱ」石川県鹿島町教育委員会 51-70p
- 倉田 健 1971 「原色日本林業樹木図鑑 第1巻」地球出版社株式会社 331p
- 町田市立博物館 1993 「農耕と農耕具展」107p
- 三好教夫・藤本利之・木村裕子 2011 「日本産花粉図鑑」北海道大学出版会 824p
- 中村 純 1980a 「日本産花粉の標微Ⅰ」「大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12.13集」91p
- 中村 純 1980b 「花粉分析による植作史の研究」「自然科学的手法による遺跡・古文化財等の研究 -総括報告書-」文部省科費特定期刊研究「古文化財」総括班 87-204p
- 中山至大・井口希秀・南谷忠志 2000 「日本植物種子図鑑」東北大出版会 678p
- 小畠弘巳 2008 「マメ科種子同定法」「伊東先史古代の雜穀3」日本学術振興会平成16~19年度科学研究費補助金「雜穀資料からみた極東地域における農耕受容と拡散過程の実証的研究」研究成果報告書、小畠弘巳編、熊本大学埋蔵文化財調査室 225-252p
- 小畠弘巳 2011 「東北アジア古民族植物学と繩文農耕」同成社 309p
- 吉崎昌一 1992 「古代雜穀の検出」『月刊考古学ジャーナル』No.355 2-14p
- 小椋純一 2007 「微粒級の母材植物特定に関する研究」「植生史研究」15J 85-95p
- 小椋純一 2008 「側路溝原北東跡地における微粒級分析」「日本植生史学会第23回大会講演要旨集」46-4p
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz L. and Gasson P.E. 2006 「針葉樹材の識別」[IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト] 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz L. and Gasson P.E. 2004 IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 鳥島 謙・伊東隆夫 1982 「図説木本組織」地球社 176p
- 鳥俞巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」「大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集」60p
- 鈴木信夫 1989 「I 地形分類図、土地分類基本調査 柏崎・出雲崎 5万分の1」 國土調査、新潟県農地部農村総合整備課 13-27p
- 鈴木庸夫・高橋 冬・安延尚文 2012 「ネイチャーウォッキングガイドブック 草木の種子と果実-形態や大きさが一日でわかる植物の種子と果実 638種-」誠文堂新光社 272p
- 柏坂恭代 1993 「アワ・ヒエ・キビの同定」「吉崎昌一先生退居記念論集「先史学と関連科学」」261-281p
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. 1998 「広葉樹材の識別」「IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト」伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩・海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. 1989 IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].
- 山野井徹 1996 「黒土の成因に関する地質学的検討」「地質学雑誌」102 526-544p
- 安田喜彦 1987 「文明は緑を食べる」談文新聞社 227p.

## 第VII章 ま と め

### 1 丘江遺跡における土器・陶磁器の様相

#### A 土器・陶磁器類の構成

出土した土器・陶磁器類は、総点数1580点に上る。種別には土師質土器、珠洲焼、瀬戸焼・美濃焼、肥前系陶器、輸入陶磁器などがあり、これらの数量を比率で表すと第15図となる。珠洲焼が最多で、土師質土器がこれに次ぐ。この2種が、出土した土器・陶磁器類の7割を占める状況で、これら以外の瀬戸焼・美濃焼などが占める割合は高くなない。しかし、その中でも唐津焼は瀬戸焼・美濃焼などに比べ、出土した土器・陶磁器に占める割合が19%と比較的高い値を示している。唐津焼が多量に出土したことは、丘江遺跡の特徴と言えよう。

それに対して、輸入陶磁器は青磁・白磁・朝鮮雜釉が出土しているが、3種類を合わせても割合は1.7%と低い数値である。以上のように、土器・陶磁器類を点数比率の面から求めた結果、丘江遺跡では土師質土器と珠洲焼が中心となり、そこに唐津焼が一定量加わり、珠洲焼・唐津焼以外の国産陶磁器及び輸入陶磁器が少量混在する組成であることが明らかとなった。

周辺で類似する土器・陶磁器の組成を持つ遺跡は、東原町遺跡、下沖北遺跡、小峰遺跡などがあるが、これらと比較しても、唐津焼の出土量を除けば、大きな差異はみられない。よって、丘江遺跡の土器・陶磁器の構成は、当該地域において一般的な組成と言えよう。

#### B 陶磁器の時期別推移

国産陶磁器は、珠洲焼、瀬戸焼・美濃焼、唐津焼など854点が出土した。以下では、定量出土した珠洲焼、瀬戸焼・美濃焼、唐津焼を中心として、丘江遺跡において主体となる時期の検討を行う。

珠洲焼は415点出土し、壺・壺・片口鉢の基本3器種が揃う。器種別の比率では、壺・壺類が64%、片口鉢が36%で、壺・壺類が片口鉢に比べ1.7倍ほど優位である。ただし、壺・壺類と片口鉢の一個体から生じる破片数の差は考慮しなければならない。器種別比率からみた場合、珠洲焼は貯藏具の占める割合が調理具よりも大きいことが分かった。出土した415点中79点は時期の比定が可能で、吉岡編年のⅢ～V期の所産とみる。次に瀬戸焼・美濃焼である。43点が出土し、器種は折線皿、折線深皿、鉢、花瓶、天目茶碗など器種に渡る。時期の比定が可能なものは30点で、これらは藤澤編年の古瀬戸中期様式Ⅲ期～大室Ⅲ期まで連続して存在する。最後に唐津焼である。302点が出土し、皿、碗、擂鉢などの器種がある。中でも皿の出土量が碗や擂鉢に比べて多い。皿の底部には胎土目や砂目の痕跡が残存するものもある。302点



第15図 種別出土比率

珠洲焼	415
土師質土器	699
唐津焼	302
瀬戸焼・美濃焼	36
その他の国産陶器	101
輸入陶磁器	27
合計	1580

(出典: 佐々木義之「丘江遺跡の土器・陶磁器」)

中59点の時期比定が可能で、これらは大橋編年のI～II-2期の所産とみられる。

その他の国産陶磁器については、志野焼、越前焼、越中瀬戸焼、信楽焼が出土したが、いずれも出土量は少なく、それぞれの所産は15世紀後半以降と判断した。

出土した輸入陶磁器は27点で、内訳は白磁7点、青磁8点及び朝鮮陶器2点である。器種は、白磁が森田D類の皿、青磁が皿・碗・腰折皿、朝鮮雜軸が皿である。時期は、白磁と青磁が14世紀後半～15世紀前半、朝鮮陶器が15世紀後半～16世紀前半の所産とみられる。

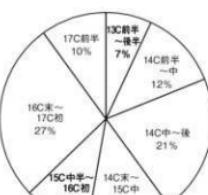
以上のことを踏まえ、時期を7期に区分し、陶磁器類の出土量の推移を第16・17図に示した。

丘江遺跡では、13世紀前半に陶磁器が出現し始め、時代が下るにつれて出土量が増加し、14世紀中葉～後半に最盛期を迎える。この時の組成は珠洲焼、瀬戸焼・美濃焼、青磁である。14世紀後半以降は徐々に出土量が減少していき、16世紀初頭を最後に空白期間が生まれる。再び遺物の出土がみられるのは16世紀末であるため、それまでの間は遺物の様相が不明である。16世紀末～17世紀前半では、陶磁器の組成が唐津焼、瀬戸焼・美濃焼、志野焼、越中瀬戸焼へと変化している。

陶磁器の出土量の推移から判断した結果、13世紀前半から丘江遺跡では集落の開発が始まったとみられる。そして、16世紀前半～後半は集落が衰弱もしくは廃絶していた可能性が高い。この期間を経て、再び集落が構築されるのが16世紀末で、以後17世紀前半まで集落が存続したと想定する。その中で、14世紀中葉～後半、16世紀末～17世紀初頭の2時期が集落の主体となる時期である。陶磁器の面から見ると、16世紀前半～後半の空白期間を境として、珠洲焼が消滅、それに代わって唐津焼が台頭してくることから、丘江遺跡では、16世紀前半～後半の空白期間が陶磁器の両期となることが明らかとなった。

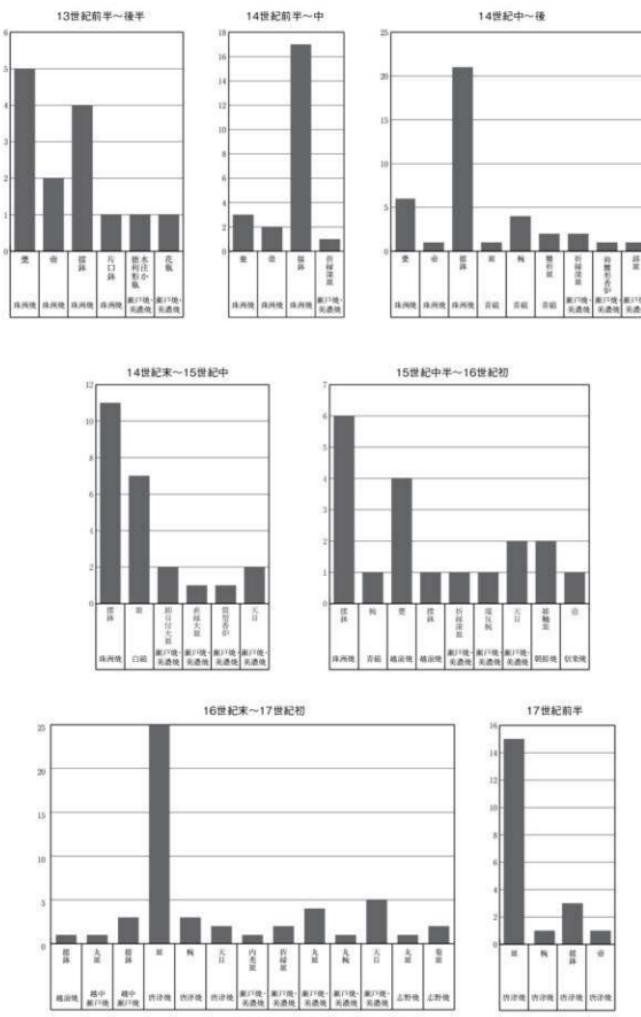
	13C前半 ～後半	14C前半 ～中	14C後 ～後	14C末～ 15C中	15C中半 ～16C初	15C末～ 17C初	17C 前半	時期別 比率
須磨焼	5	3	6					18%
信楽	2	2	1					6%
磁器	4	17	21	11	6			75%
片口鉢	1							1%
皿			1					12.5%
碗			4	1				62.5%
腰折皿			2					25%
白磁				7				100%
美濃					4			67%
福井					1	1		33%
丸皿						1		33%
磁器						3		75%
皿						25	15	80%
碗						3	1	8%
腰折							3	6%
天目						2		4%
信楽							1	2%
御日付大皿					2			7%
内壳皿						1		3%
直線大皿					1			3%
折線皿						2		7%
折線深皿	1	2			1			13%
丸皿						4		13%
端反碗					1			3%
花瓶						1		3%
扇型香炉					1			3%
持懸形香炉			1					3%
鉢				1				3%
天目					2	2	5	30%
丸皿						1		33%
菊皿						2		67%
難波皿						2		100%
皿						1		100%
時期別比率	7%	12%	21%	13%	10%	27%	11%	100%
数量	14	23	39	24	19	51	20	190

第8表 陶磁器の器種別出土比率



第16図 陶磁器の時期別出土量

# 1 丘江遺跡における土器・陶磁器の様相



第17図 時期別器種組成グラフ

### C 共伴関係からみる土師質土器皿の年代

土師質土器は699点が出土した。器種はすべて皿であり、その分類方法は第Ⅳ章で述べたとおりである。699点中220点の分類が可能で、その構成比率が第18図である。A類70%、B類14%、C類14%、D類1%である。

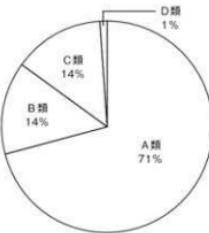
A類の出土量が153点と多く、分類した中でも器形や形状が異なることから、時期的な変化が窺える。A類は、器形でA 1～A 3類に分かれ、最大でa～e類への変遷を想定した。それぞれについてみていく。まず、A 1類では、浅身で陵が明瞭なa類から口径が縮小し、深身となり、陵が不明瞭となるe類へ変化していく。次に、A 2類は浅身なb類から、深身のe類へと変化する。最後に、A 3類では口縁が面取りされ器形が台形状を呈するa類から、深身で器形が内湾気味な形状を呈したb類へ変化する。13～14世紀における手づくね土器皿の形態変化については、水澤氏が述べている〔水澤2005〕。

いくつかの遺構でA 1～A 3類と陶磁器の共伴が確認できる。SD3991では、A 1c・A 2c・A 3a類にIV 1期の珠洲焼窯と中期様式III～IV期の瀬戸焼・美濃焼の大皿が、SD282では土師質土器皿 A 1d類にIV 2期の珠洲焼窯がそれぞれ伴う。また、SD496では、A 1e・A 3b類、C類、D類にIV 2～IV 3期の珠洲焼片口鉢・壺ならびに瀬戸焼・美濃焼の中期様式IV～後期様式I期の御皿・中期様式III～IV期の大皿が伴っている。そして、SD1428では、A 1e・A 3b類にV期の珠洲焼擂鉢が伴う。

これらを基にして土師質土器皿を整理し、まとめたものが第19・20図の編年試案である。この試案では、A類の初現期を13世紀中葉～後期に比定し、14世紀末には消滅すると考えた。

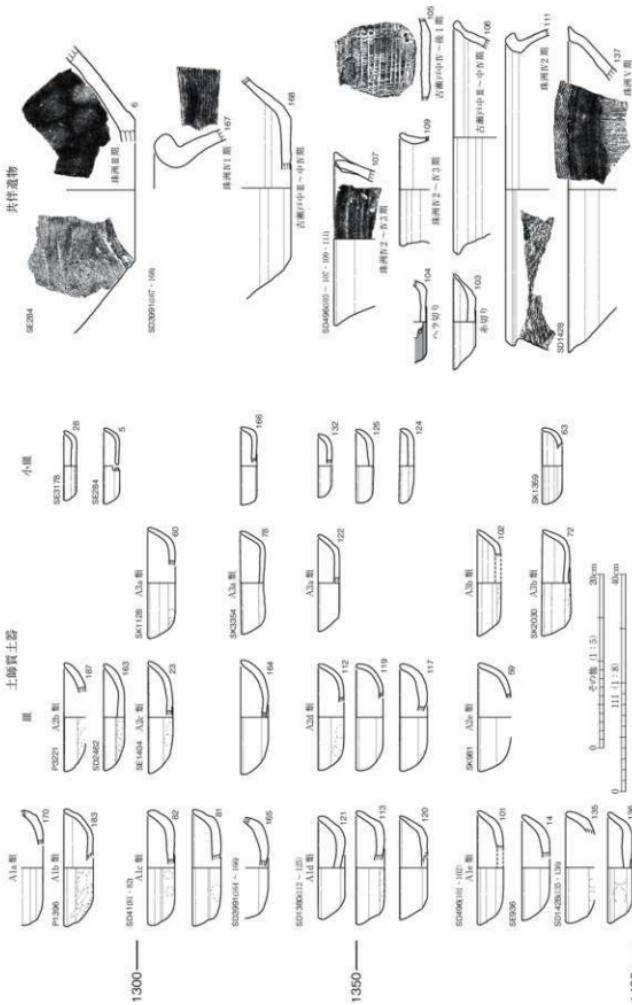
周辺遺跡の東原町遺跡や下沖北遺跡では丘江遺跡の土師質土器皿に近似・補完する資料が出土している。東原町遺跡では、SK106からA 1a類に白磁IV類が伴う。また、下沖北遺跡ではSK445からA 3c類に青磁B 1' とIV期の珠洲焼窯・擂鉢、SK81からA 1Cに白磁IV類が伴う。加えて、SE435及びSK187ではC類にV期の珠洲焼が伴う。この両遺跡の共伴関係は、丘江遺跡の共伴関係と比べても大きな齟齬は感じない。そこで、東原町遺跡・下沖北遺跡の年代観に丘江遺跡を組み込むと、1300年前後にA 1C・A 2C類が加わるとみられる。山崎氏は、土師質土器皿の形状の変換点が13世紀後半～14世紀前半にあることを指摘しており〔山崎2003・2005〕、今回、丘江遺跡で出土したA 1C・A 2C類が形状の変換点を補完する可能性がある。

土師質土器の変遷をまとめると、A 1a b類・A 2b類(13世紀末)、A 1c類・A 2c類・A 3a類(14世紀前半～中葉)、A 1d類・A 2d類(14世紀中葉)、A 1e類・A 2e類・A 3b(14世紀中葉～末)、C類(15世紀)、B 1類(15世紀中葉)、B 2・B 3類(15世紀後半)となる。以上のような結論となつたが、今回提示した土師質土器の編年試案は、既存の年代観と若干の齟齬がみられる。しかしながら、今回は共伴関係からA類が14世紀後半まで下ると判断した。

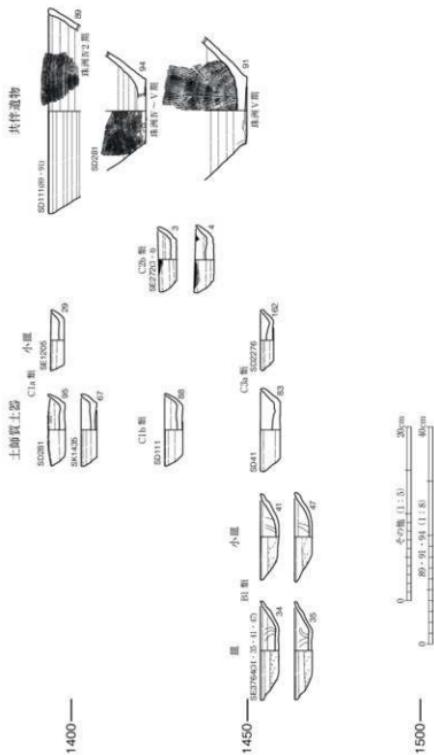


第18図 土師質土器皿の構成

1 丘江道路における土器・陶磁器の様相



第19図 丘江道路出土土器類・陶器皿類の編年試案 1



丘江遺跡出土土師質土器皿類の編年試案2  
図20

## 2 遺構の変遷

今回の調査で検出した遺構は、総数が4000基を超える。出土遺物から、13世紀前半から17世紀前半まで断続的に存続した集落であることが明らかとなった。主体となる時期は14世紀中葉～後半及び16世紀後半～17世紀前半の2時期である。集落は区画溝を用いて屋敷地を設定し、その中に掘立柱建物群などを構築している。遺構配置などから、調査区内には複数の屋敷地が存在することが判明した。また、これらは遺構の規模、軸方位、切り合い関係、出土遺物などから、おおよその時期の比定が可能であり、その変遷が追えそうである。以下では、掘立柱建物と区画溝を検討材料として集落の変遷を見てみる。

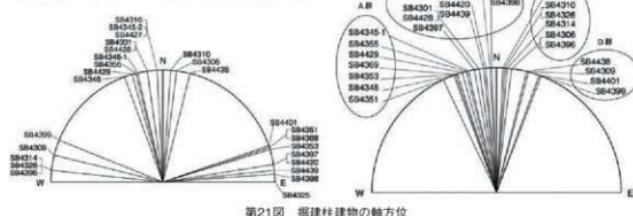
### A 掘立柱建物

丘江遺跡では遺構配置などを検討した結果、26棟の掘立柱建物を報告した。なお、柱穴は抽出した以外にも多数認められ、実際にはより多くの建物が存在すると考えられる。

26棟の掘立柱建物は方角を意識して建てられており、建物方向から南北棟と東西棟に大別できる。これらの桁行方向の軸方位を求めてみたところ、第21図左の結果が得られた。大きく3つに分かれる様相となった。しかし、東西棟の中には、桁行が南北棟の梁行と平行を成す建物が見受けられることから、東西棟の梁行方向の軸が南北方向にどれだけ傾いているかを求め、南北棟の軸方位と照合したところ第21図右の結果が得られた。この図を見ると、多少のズレはあるものの建物は、南北方向を意識して建てられていることがわかる。その中で、軸方位が近似する単位がいくつか認められることから、それらをA～D群の4つに分類した。分類方法は以下のとおりである。西偏する建物で11度以上をA群、11度未満をB群とし、東偏する建物で10度未満をC群、10度以上の建物をD群とした。26棟の内訳は、A群7棟、B群9棟、C群6棟、D群4棟である。軸方位が近似する建物同士は同時性が高く併存していた可能性が強いとされるが、同分類内でも重複関係が存在することから、短期間で建て替えが行われたものと想定する。

これを基に各分類の年代について検討する。年代を推定する手がかりは、2区南東隅に位置するSB4345-2とSD1380である。遺構配置から両遺構がセットであると提えた。SD1380からは土師質土器皿A 1 d類が出土したことから、14世紀中葉～後半に位置付けた。SB4345-2は軸方位による建物の分類においてB群に属す。よって、B群内の掘立柱建物は同様の時期に位置付けできよう。

14世紀中葉～後半と位置付けた建物以外の遺構としてSD496がある。SD496は大型の竪穴状土坑で、軸方位がB群と近似する。SD41・SD786・SD203と重複関係にあり、これらを切る。出土遺物にも



第21図 掘立柱建物の軸方位

相違は見られないことから、B群と併存していた可能性が高い。規模や遺物の出土量から、溜め池などの機能を想定する。

B群を14世紀中葉～後半と位置付けた場合、A群は必然的にそれ以前の建物群となる。B群であるSB4345-2はA群であるSB4345-1と重複し、明確な新旧関係を示す。SB4345-1は、柱穴の切り合いからSB4345-2よりも古い。そのため、SB4345-1が属するA群が14世紀中葉以前の建物となる。A群には他にSB4348・SB4355があり、この両建物にはSD1211・SD2462が平行する。SD1211とSD2462は、遺構配置、規模、埋土から同一遺構と判断した。その場合、平面形がL字状を呈する溝となり、SB4348・SB4355などの建物群が内側に収まることから、溝が建物群に付随すると判断した。SD2462から土師質土器皿A 2 b類が出土したことから、A群を13世紀後半～14世紀初頭と位置付けた。

C群には、SB4307とSD111の関係を挙げる。SB4307はSD111と東西方向の軸が一致し平行することから、併存した可能性が高い。また、SD111は同一個体の珠洲焼が出土したSD786やSD41と同一遺構とみられ、溝は調査区外へと延伸するが、平面図上では方形区画が想定できる。おそらくSD3203も同一遺構であることから、屋敷地が2つ存在したことは確かである。SD111から14世紀前半～中葉の遺物が出土しており、SD786やSD41でも同様の遺物が複数出土したことから、C群は14世紀前半～14世紀中葉の建物群と位置付けた。

D群については、時期を判断できる材料が乏しいために年代の位置付けが行えなかった。

以上のようにA～C群については、出土遺物からある程度の年代に位置付けた。これを時系列順にまとめるにA→C→Bという流れとなる。軸方位でみると、13世紀末～14世紀初頭は $10^{\circ}$ 以上西偏したA群が、14世紀前半～中葉になるとその傾きが西偏から東偏へと変化し、C群が形成される。しかし、14世紀中葉～後半になると再び西偏するB群が形成される。この時、傾きは $2^{\circ} \sim 10^{\circ}$ と13世紀末～14世紀初頭に比べると弱くなる。

## B 区 画 溝

丘江遺跡では区画溝がいくつか存在する。ほとんどが調査区外もしくは旧河川に壊されるなどするため、全容は判然としない。しかしながら、残存部からおおよその屋敷地の検討が可能で、推定で6つの屋敷地が形成される。また、規模、重複関係、出土遺物の傾向から溝の変遷が追える。

まず、SD41・SD111・SD786・SD3203・SD3991である。これらは、規模や軸方位が近似することから同一遺構であると考える。特に、SD41・SD111・SD786は珠洲焼亮の同一個体が出土したことから間違いないと判断した。遺構平面図で確認すると、SD41・SD786・SD3203・SD3991が方形区画を呈すると推測できる。また、SD786を境として東西に屋敷地が2つ形成される。それぞれの溝からは13世紀後半～15世紀後半までの遺物が出土した。遺物を検討した結果、主体となる時期は14世紀前半～中葉と比定した。掘立柱建物群C類が付随すると考える。この区画溝の北東側は遺構が希薄となっており、地形的に見ると北へ向かうにつれて標高が低くなる。また、区画溝に近い場所では、いくつかの畦畔及び水田を検出したが、旧草叢川が調査区内を東西方向に横断することから詳細は不明である。しかしながら、区画溝より北東側には生産域が広がっていた可能性が高いと言える。

話は変わるが、2013（平成25）年には柏崎市教育委員会が同遺跡の調査を実施している。調査は1区南東隅から約50 mで行われ、13～15世紀後半と16世紀末～18世紀前半の遺構を検出している。その中に、水路や区画溝を想定したSD88がある。この遺構は断面から掘り直しを行っていることが確認されてお

り、道構上半部が近世、下半部が中世に比定される〔土屋・松本2016〕。双方の調査区を平面図上で合成したところ、両道構の規模や軸方位、出土物には大きな相違が見られないことから、断定はできないが同様の区画溝であった可能性がある。

次にSD1428・SD1540である。両溝は、規模や軸方位が近似することから同一道構であると考える。SD1428は幅3m前後の東西方向に延びる溝で、西端はSD1540にはば垂直に接続する。遺物はV・VI期の珠洲焼や後期様式II期の瀬戸焼・美濃焼などが出土した。SD1540は2区を南北に縱断する溝で、北端を旧草薙川に切られ、南端は調査区外へ延伸する。当初はSD1540を単独の溝として扱っていた。しかし、断面を確認したところ複数回にわたって掘り直した痕跡が残っており、明確に確認できた痕跡をSD2276として追加した。遺物は13世紀後半～17世紀前半のものが出土した。SD1540は単体でも掘り直しが複数回行われていることから、機能していた時期が他の溝に比べて長期になると推測する。その中でも主体となる時期は、他の溝との関係性を踏まえると14世紀中頃～15世紀後半と考える。

最後にSD2462・SD1211である。SD2462とSD1211はSD1540・SD2276に切られる幅1m前後の溝である。両道構とも埋土や形状が近似するため同一道構と考えた。溝は、391付近で南西方向に屈曲し、平面形がL字状を呈する。遺物はSD2462から土師質土器のA 2 b類が出土したことから、道構は13世紀後半と判断する。

以上が丘江遺跡における3条の区画溝である。3条の区画溝はそれぞれ軸方位が若干異なる。これは掘立柱建物の軸方位と同様に、時間的な相違を示す可能性が高い。これらの区画溝を年代ごとに並べると、SD2462・SD1211(13世紀末～14世紀初頭)→SD41・SD263・SD786・SD3203・SD3990(14世紀前半～後半)→SD111・SD1428・SD1540(14世紀中葉～14世紀後半)となる。区画溝は、13世紀末の段階では幅1m前後と狭小であった、14世紀前半～後半に入るとSD41・SD3203・SD3990などの幅が1.5～2m前後に拡張する。さらに14世紀後半以降になるとSD1428・SD1540のように幅が3m前後へと変化していく様子が窺える。

### C 周溝建物の可能性

SB4345-2とSD1380の全容は不明である。ただし、SB4345-2の外縁をSD1380がコの字状に巡るものと想定している。SD1380の北側にはSD1428、西側にはSD1540が3.5mほどの道構空白域を挟んで平行しており、建物の周縁を2重に溝が巡る可能性がある。この道構空白域は周囲の道構密集度と一線を画す。また、SD1380からは土師質土器皿が一括で出土したこともあり、他の屋敷地とは違う意味合いがあったのかもしれない。

このような建物について、水澤氏は「周溝建物」と呼称し集成を行っている。例として宝積寺館跡(新発田市)、下町・坊城遺跡B地点(新潟市)、片桐塚群遺跡(見附市)、三ツ塚遺跡、保坂遺跡(上越市)を挙げている〔水澤2001〕。この他に境塚遺跡(阿賀野市)〔荒川2016〕でも同様の建物が見受けられる。境塚遺跡以外の遺跡では、この周溝建物を宗教関連施設の可能性を示唆している。宝積寺館跡では二重の方形周溝道構の西側に火葬墓が集中する。丘江遺跡においても建物の北西に墓坑らしき道構をいくつか検出しており、SK194からは土師質土器と六文鏡が共伴し、SD2276からは「南無阿弥陀□・□妙蓮□」と墨書きされた土師質土器が出土するなど、付近に墓があったことを示す遺物が出土している。このようなことから、一連の道構は、有力者層の館や宗教関連施設などの可能性を示唆する。

## D 小 結

掘立柱建物、区画溝、年代を比定できそうな遺構をまとめ、丘江遺跡における集落の変遷を示したもののが第22図である。丘江遺跡には時期の異なる区画溝が混在し、それぞれが屋敷地を形成していた。屋敷地内には軸方位が一致する複数の掘立柱建物が建ち、建物の周辺には井戸や土坑が存在する。自然科学分析の結果から、建物の柱根はクリ材の心持丸木が多用されていたようである。井戸や土坑内からは、イネ、キビ、アワといった栽培種とされる種実を検出した。また、SE1518・SE2546・SE3507・SE3704では寄生虫卵を一定量検出しており、第Ⅳ章1Dにおいて、ある程度の人口密度を持つ集落であった可能性が示唆されている。そして、居住域と生産域を分ける SD41・SD3203といった溝も存在しており、今回の調査区は集落の縁辺部にあたる。集落の本体は地形的に高くなる南側に広がり、反対の北側には生産域が広がるものと推定する。集落周辺の環境は明るく開けた草地環境であったと自然科学分析から想定される。

丘江遺跡の様に区画溝を作り集落形態を持つ遺跡は県内にいくつも事例がある。例えば、下沖北遺跡〔山本・山崎はか2005〕、東原町遺跡〔山本・山崎はか2005〕、馬場・天神腰遺跡〔品田1991〕などが同じ柏崎市内にあり、市外に目を向けると古渡路遺跡〔土橋2011〕、境塚遺跡〔阿賀野市〕、住吉遺跡〔新潟市〕、寺前遺跡〔出雲崎町〕、桶田遺跡〔旧吉川町〕、下削遺跡〔上越市〕などの遺跡がある。提示した遺跡は、いずれも集落の主体となる時期が13世紀～14世紀前半であり、溝などで居住域を区画しているが、堀や土塁を作わない。この時点の区画溝はあくまでも境界としての性格が強いとみられ、後世に出現する至徳寺遺跡や江上館跡などのように明確な堀と土塁を作り防御色の強い方形居館とは性格が異なる。したがって、このような区画溝を作り集落形態は、後世の方形居館へと繋がる前段階と考えられる。

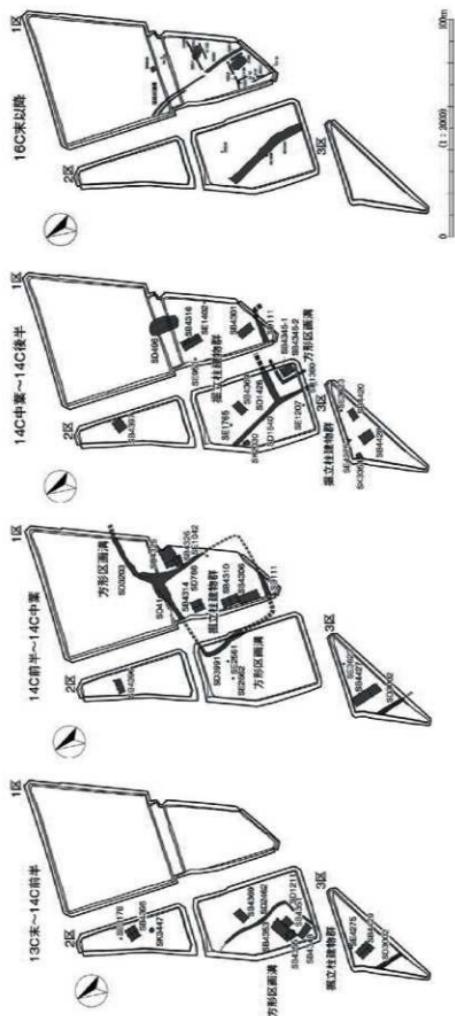
15世紀末に絶滅を迎える丘江遺跡の集落は、北陸地方の様相と近似する。北陸地方の中世集落は加賀を除いて12世紀中葉あるいは後半に一齊に出現するとされ、比較的低い扇状地、微高地、自然堤防上に立地する。集落同士の間隔は300～500mとされ、周囲を区画溝で囲む場合もある。集落の付近では新田開発を行うとされる〔前川1996〕。このような集落を吉岡康暢氏は「新聞型村落」と呼称しており〔吉岡1988〕、14世紀前半まで発展してくるが、14世紀後半～15世紀前半になるとその数は減少ていき、16世紀前半には消滅する。「新聞型村落」が減少すると共に、標高50m以上で城館周辺に立地する集落が増加する。しかし、この集落形態は長くは続かず<sup>16</sup>16世紀末になると徐々に衰退を始める。そして、再び比較的低い扇状地、微高地、自然堤防上に集落を構える傾向にある〔前川1996〕。丘江遺跡の集落の消長と「新聞型村落」及び16世紀後半以降の動向はおおむね一致する。加えて、付近には毛利安田氏の居城である安田城が存在することから、柏崎地域でも他の北陸地方同様の動きがあった可能性は高い。

最後に参考として13世紀後半の様子を描いている「一遍上人絵巻」(第23図)を挙げる。1299年に作成された絵巻には風景や屋敷などが写実的に描写されており、屋敷には簡易的な生垣と排水溝らしき設備がある。描かれている地域は異なるが、丘江遺跡の屋敷地も絵巻で描かれた屋敷に近いものと想定する。



第23図 一遍上人絵巻に描かれる住居

(国立国会図書館デジタルコレクション 一遍上人絵伝[1]部分)



第22図 丘江遺跡の遺構編年図

### 3 文献史料からみる丘江遺跡とその周辺

今回の発掘調査の結果、丘江遺跡が13世紀～14世紀後半・16世紀末～17世紀前半に主体を持つ集落であることが明らかとなった。ここでは、当該期の時代背景がどのようなものであったか文献史料を使い見ていく。主に参考とした文献史料は、「毛利安田氏文書」〔矢田後文ほか2009〕、「白川風土記」〔早稲田大学1996〕である。この他に参考とした文献史料については、その都度明記する。「毛利安田氏文書」は、鶴川荘安田条を拠点として活動した毛利安田氏の書状をまとめたもので、14世紀後半～17世紀前半までの書状が収載される。書状には実年代が表記されるもの多く、当時の様子が如実に表れている。もうひとつの「白川風土記」は、高田藩主松平越中守定賢の命によって領内の村々について書かれた19世紀前半の史料である。資料には、柏崎の67箇村の様子が詳細に記述されており、過去の事柄などについては伝聞を記載している。

丘江遺跡が立地する田坂、茨目地区は「白河風土記」ではどちらも村とされる。田坂村は旗本安藤内蔵助の領地であり詳細は記載されていないが、茨目村については、古くは新田家一族の里見島山氏の領地と伝わる。それが貞治年中（1362～1368年）に上杉家の領地へと代わり、上杉景勝が会津へ転封される慶長3年（1598）までの間、上杉家の領地として存続した。上杉家の領地以降は、堀氏、松平忠輝と領主層が短期間に度々交代していくことが記されている。茨目村の起源については不明であるが、茨目地区に近い上田尻・下田尻地区は、村の起こりが承元3年（1209年）という記述があり、13世紀前半には周辺で開発が始まっていたことが窺える。

13世紀後半になると、佐橋荘の地頭に毛利経光が付き、ここを拠点として活動し発展する。毛利経光は越後毛利氏の始祖であり、当地域を支配していた有力氏族とされる。後世では、安田氏、北条氏といった諸派に分裂する。丘江遺跡と毛利氏との直接的な関係性を示す史料はないが、この毛利氏の活動に呼応するかのように丘江遺跡の遺物量は増加し、最初の主体となる時期である14世紀中～後半を迎える。しかし、この頃になると毛利一族のひとつ安田毛利氏と安国寺との間で鶴川荘安田条上方をめぐり対立関係が起ころ。室町幕府から越後守護である上杉憲宗に毛利安田氏の排除命令が出るなど、安田条の周辺が緊迫した状況となる。15世紀代には、上杉房朝による毛利刑部少輔の討伐（柏崎市史76号）や不退寺との争論といったこともあり、14世紀後半以降と同様に情勢が不安定であったことが史料から判断できる。その影響が、16世紀初頭における集落の衰退、もしくは廃絶に繋がった一因と考える。

2度目の主体となる時期である16世紀末～17世紀前半は、上杉景勝の会津転封、堀氏の春日山入城及び福島城の築城、松平忠輝による高田城の築城といった出来事が起ころ。この頃は、領主層が短期間に交代する時期でもあり、時を同じくして村々の再開発が始まつたと言える。高田平野の城下町以外の遺跡では、駄土目や砂目といった唐津焼の出土が目立ち、17世紀中葉から後半にかけて減少する様相を見せる（小島2003）。この傾向は丘江遺跡も同様で、特にⅠ・Ⅱ期の唐津焼が多いことからも、この時期に再開発が行われた可能性が高い。『白川風土記』には、刈羽郡内16箇村の大胆煎を務めた坂井段兵衛という人物がいたことが記載されている。この人物は、大胆煎を上杉謙信が存命時から務め始め、福島城の築城時に刈羽郡の人夫の手配を行っており、新田開発も精力的に行っていたとされる。16世紀末～17世紀前半の段階で、丘江遺跡の周辺に有力な大胆煎が存在していたことは確かである。

## 要 約

- 1 「丘江遺跡Ⅰ」は、国道8号柏崎バイパスの建設に伴い、2014年度に実施した丘江遺跡の発掘調査報告書である。2014年度の調査面積は9,033m<sup>2</sup>である。
- 2 丘江遺跡は柏崎市田塚3丁目ほかに所在する。遺跡は蜻石川左岸の沖積地微高地に所在し、旧状は水田・宅地であった。
- 3 調査の結果、鎌倉時代から室町時代と安土桃山時代から江戸時代初めの集落跡が検出され、土器・陶磁器・石製品・木製品・金屬製品が出土した。
- 4 道構は掘立柱建物26、井戸174、土坑152、溝78のほか多数のピットを検出した。
- 5 鎌倉時代～室町時代の土器・陶磁器には土師質土器・青磁・白磁・朝鮮陶器・瀬戸焼・美濃焼・珠洲焼・越前焼・信楽焼がある。土師質土器皿には南無阿弥陀□・□妙蓮□と記したもの(図版56-162)がある。共伴した陶磁器を参考に、13～15世紀の土師質土器の編年案を示した。
- 6 安土桃山時代の土器・陶磁器には唐津焼・志野焼・瀬戸焼・美濃焼の大窯製品、越中瀬戸焼がある。
- 7 木製品は漆器椀・皿・箸・杓子・曲物・柄杓・下駄・卒塔婆・独楽・鈴・鉢・柱根などが出土した。  
鉢は柄・鉢先がほぼ完存している(図版62-270)。石製品は砥石・石臼・茶臼・石鉢のほか弥生時代の扁平片刃石斧などが出土した。
- 8 建物の柱穴や建物を区画する溝から出土した土器・陶磁器の年代、建物・溝の主軸方位を参考にして13世紀から17世紀前半の集落の変遷を検討した。検討の結果、①13世紀末～14世紀前半に区画溝を作った建物跡が出現すること、②14世紀前半～中葉に一辺40mの方形区画を持つ区域が成立すること、③14世紀中葉から後半には方形区画を南に移動すること、④14世紀末以降2014年度の調査区内では集落は衰退し15世紀末には集落は一旦廃絶すること、⑤1世紀近くの空白期間を経て16世紀末に再び集落が営まれること、⑥13世紀末から14世紀の区画溝は規模を拡大しており当初幅1mであったものが14世紀後半には幅3m(以上)となること、などを明らかにした。
- 9 8で示した集落の動向は北陸地方の中世集落の動向とおおむね一致すること、鎌倉・室町時代の集落の変化は毛利安田氏と関連する可能性が高いこと、16世紀末の集落の再興は上杉氏の会津転封と堀氏の入府との関連する可能性が高いこと指摘した。
- 10 自然科学分析は花粉分析・種実同定・樹種同定を行った。花粉分析は、木本花粉に比べ草本花粉が卓越し草本花粉の中ではイネ科の植物の花粉が多く検出されている。種実同定ではイネ・ナス・シソ属・ヒヨウタン属・アサなどを多く検出したほかオムギ・コムギ・ソバ・マメ科(アズキ属・ダイズ属)なども検出した。花粉分析・種実同定の結果から集落周辺には水田や畑地などが広がり、多様な植物が栽培されていたことが推測できる。樹種同定では柱根はクリが多く、鉢は柄・鉢先ともブナ属が使用されたことなどが明らかになった。

## 引用・参考文献

- 秋山真好ほか 2015 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第264集 宝田遺跡Ⅱ」新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 荒川隆史 2012 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第133集 青島遺跡」新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 荒川隆史ほか 2012 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第232集 境塚遺跡」新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 荒川隆史ほか 2016 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第262集 境塚遺跡Ⅱ」新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 荒川隆史・加藤麻由子ほか 1999 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第93集 和泉A遺跡」新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石井二郎 1981 「宮川四郎兵衛」「農業土木を支えてきた人々」公益社団法人農業農村工学会
- 石井 降 1997 「第2章 越前」「中・近世の北陸」－考古学が語る社会史－ 北陸中世土器研究会
- 飯坂盛泰ほか 2015 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第252集 宝田遺跡」新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川智紀ほか 2012 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第241集 山崎遺跡」新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 伊東隆夫・山田昌久 2012 「木の考古学」海青社
- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類」「貿易陶磁研究」No.2 日本貿易陶磁研究会
- 大野隆一郎・徳間正一ほか 1990 「大地」「柏崎市史」上巻 柏崎市教育委員会
- 大橋康二 1989 「肥前陶磁」ニュー・サイエンス社
- 萩野正博 1986 「莊園と国断領」「新潟県史 通史編I 原始・古代」新潟県
- 小野正敏 1982 「15～16世紀の染付碗、皿と分類と年代」「貿易陶磁研究会」No.2
- 柏崎市史編さん委員会 1982 「柏崎市史資料集」考古編2
- 柏崎市史編さん委員会 1987 「柏崎市史資料集」考古編1
- 柏崎市教育委員会 1972 「柏崎市伝説集」
- 春日真実ほか 2000 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第97集 大武遺跡Ⅰ」新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 2015 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第254集 莺輪遺跡Ⅱ」新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 金子祐男 1976 「第6章 第3節 三島郡の分立、第5節 交通と交通路、第6節 延喜式内神社」「柏崎市史」上巻 新潟県柏崎市史編さん委員会
- 小池邦明 1999 「第5章 中世 第2節 陶磁器の組成と変遷 第1項 中世前期」「新潟県の考古学」新潟県考古学会編 高志書院
- 小島幸雄 2003 「第1節 時代概況」「土越市叢書8 考古 中・近世資料」土越市専門委員会考古部会
- 坂井秀弥 1997 「第5章第8節 中・近世の越後国」「中・近世の北陸」北陸中世土器研究会編 桂書房
- 品田高志ほか 1991a 「小見石」柏崎市埋蔵文化財調査報告書第15 柏崎市教育委員会
- 品田高志 1991b 「越中の中世土器」「新潟考古学講話会報」第8号 新潟考古講話会
- 品田高志 1995 「越括」「柏崎市内遺跡発掘調査報告書(柏崎市の遺跡V)」(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第20集) 柏崎市教育委員会
- 品田高志ほか 1999a 「柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第32集 角田」柏崎市教育委員会
- 品田高志 1999b 「第5章 第3節 中世土器」「新潟県の考古学」新潟県考古学会編 高志書院

- 品田高志 1999c 「越後における中世後期の土師器Ⅲ -京都系土師器第2派の流入と展開-」『中世土師器の基礎研究』XIV 日本中世土器研究会
- 品田高志 1996 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第21集 田塚山遺跡群』柏崎市教育委員会
- 品田高志 2004 「越後国佐倉城の中世古道と町並み」「中世の道を探る」 高志書院
- 品田高志・伊藤啓雄 2001 「柏崎町」柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第38集 新潟県柏崎市教育委員会
- 白井雅人 2014 「山崎遺跡Ⅲ」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成27年度』財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木信夫ほか 1988 『土地分類基本調査 国野町』新潟県
- 鈴木信夫ほか 1988 『土地分類基本調査 柏崎・出雲崎』新潟県
- 高橋 保ほか 2002 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第109集 芦輪遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鶴巻康志ほか 1999 「第5章 中近世 第2節 中世後期」『新潟県考古学』高志書院
- 土屋崇夫・松本吉弘 2016 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第81集 丘江』柏崎市教育委員会
- 土橋由理子 2011 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第221集 古渡波遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 水井久美男 1994 「中世の出土銭 -出土銭の調査と分類」兵庫県埋蔵調査会
- 水井久美男 1996 『日本中世出土銭叢覧』兵庫県埋蔵調査会
- 中野 純・平吹 靖ほか 2006 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第47集 与三』柏崎市教育委員会
- 中野 純ほか 2009 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第48集 角田II』柏崎市教育委員会
- 奈良国立文化財研究所 1985 「木器集成図録 近畿原始編」奈良国立文化財研究所
- 奈良国立文化財研究所 1993 「木器集成図録 近畿古代編」奈良国立文化財研究所
- 農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所 2004 『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社
- 藤沢直祐 1993 『漸戸市陶磁史編』愛知県瀬戸市
- 藤沢直祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- 藤巻正信 1988 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第27集 西田・鶴巻田遺跡群』新潟県教育委員会
- 北陸中世土器研究会 1997 「中・近世の北陸」中世土器研究会編
- 前川 要 1996 「中世の家族と住居」「考古学による日本歴史15(家族と住まい)」雄山閣
- 水澤幸一 2001 「越後の特異な建物群」「掘立と堅穴」東北中世考古学会 高志書院
- 水澤幸一 2005 「越後の中世土器」『新潟考古』第16号 新潟県考古学学会
- 森田 勉 1982 「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会
- 矢田俊文 1999 「戦国越後の守護と守護代」「中世の越後と佐渡」 高志書院
- 山崎忠良ほか 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第140集 東町原遺跡・下沖北遺跡II』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山本信夫 2000 『太宰府多伎石跡XV -陶磁器分類編-』太宰府市の文化財第49集 太宰府市教育委員会
- 山本信夫 2010 『貿易陶磁の分類・編年研究の現状と課題』『貿易陶磁研究』30 日本貿易陶磁研究会
- 山本 雄ほか 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第125集 下沖北遺跡I』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 吉岡康暢 1988 「北東日本海域における集落の移動に関する一考察」『国立歴史民俗博物館研究報告』第16集
- 吉岡康暢 1994 「中世須恵器の研究」吉川弘文館
- 早稲田大学 1996 『白川風土記 卷之15-33』早稲田大学図書館

## 観察表

## 掘立柱建物(SB)

造営番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(m <sup>2</sup> )	柱行(m)	梁行(m)	新旧関係	
SB4301	1区	37E-F	N-S-E-W	3間×2間 長方形	23.5	7.2	3.7		
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	堆積状況	柱穴開削(m)	
P471	37F3-25	円形	U字形	0.44	0.30	0.82	A	P471-P271 35	
P371	37E13	円形	U字形	0.34	0.28	0.61	C	P371-P263 24	
P2631	37E18	円形	漏斗形	0.30	0.28	0.29	A	P2631-P744 24	
P744	37F2	円形	U字形	0.25	0.23	0.18	D	P744-P742 24	
P742	36F4	円形	U字形	0.28	0.25	0.44	A	P742-P736 17	
P295	37F2	円形	U字形	0.23	0.22	0.56	D	P295-P232 20	
P332	37F8	円形	漏斗形	0.22	0.22	0.12	D	P332-P736 24	
P380	37F3	円形	U字形	0.50	0.48	0.57	C	P380-P742 23	P380-P744 3.5
P622	37E24	円形	漏斗形	0.28	0.25	0.15	-	P622-P731 22	P622-P730 3.5

造営番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(m <sup>2</sup> )	柱行(m)	梁行(m)	新旧関係
SB4306	1区	37-38E-F	N-S-E-W	4間×2間 長方形	27.9	9.7	4.0	
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	堆積状況	柱穴開削(m)
P2586	38E11	円形	U字形	0.24	0.23	0.87	-	P2586-P136 22
P138	38F6	方形	半円形	0.31	0.28	0.27	C	P138-P711 1.8
P114	37F10	円形	U字形	0.28	0.24	0.37	C	P114-P721 2.5
P221	37F9	円形	半円形	0.38	0.37	0.35	A	P221-P248 2.5
P428	37F8	円形	U字形	0.31	0.28	0.66	D	P428-P438 1.7
P438	37F13-12	円形	U字形	(0.16)	(0.16)	0.47	C	P438-P758 1.3
P518	37F12-11	円形	U字形	0.25	0.25	0.43	D	P518-P720 1.7
P294	37F6	円形	U字形	0.24	0.22	0.24	D	P294-P721 1.9
P521	37F16	楕円形	U字形	0.37	0.33	0.52	C	P521-P738 9.8
P239	37F5	円形	V字形	0.21	0.17	0.28	A	P239-P2586 24

造営番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(m <sup>2</sup> )	柱行(m)	梁行(m)	新旧関係	
SB4309	1区	36-37F	N-S-E-W	3間×1間 長方形	18.4	5.7	3.4		
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	堆積状況	柱穴開削(m)	
P205	37F6	円形	U字形	0.32	0.29	0.56	C	P205-P265 2.0	
P285	37F6	円形	U字形	0.30	0.28	0.35	-	P285-P516 2.0	P285-P535 3.2
P516	37F6	円形	U字形	0.21	0.21	0.41	B	P516-P738 1.6	P516-P538 3.2
P838	37F1	円形	U字形	0.30	0.29	0.35	D	P838-P754 3.1	
P554	36F4	楕円形	U字形	0.53	0.41	0.52	C	P554-P758 1.9	
P538	36F10	円形	U字形	0.33	0.29	0.70	A	P538-P755 1.9	
P535	36F14-10	円形	漏斗形	0.57	0.50	0.33	B	P535-P750 1.9	
P530	36F20	楕円形	漏斗形	0.40	0.31	0.48	B	P530-P726 3.4	

造営番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(m <sup>2</sup> )	柱行(m)	梁行(m)	新旧関係	
SB4310	1区	36-37F	N-S-E-W	4間×2間 長方形	31.2	7.9	4.0		
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	堆積状況	柱穴開削(m)	
P531	37F17	楕円形	U字形	0.35	0.30	0.40	B	P531-P726 1.9	
P206	37F11	円形	U字形	0.26	0.22	0.39	D	P206-P742 2.1	P206-P548 3.9
P542	37F10	円形	漏斗形	0.33	0.33	0.56	B	P542-P755 4.1	
P555	36F14	不整	漏斗形	0.62	0.36	0.58	B	P555-P760 2.2	P555-P548 1.8
P620	36F18-13	楕円形	U字形	0.61	0.30	0.34	C	P620-P766 1.6	
P694	36F17	楕円形	漏斗形	0.48	0.37	0.72	B	P694-P712 1.9	
P712	36F23	円形	U字形	(0.35)	(0.35)	0.67	B	P712-P726 2.0	P712-P548 4.0
P728	36G3	楕円形	U字形	0.50	0.40	0.50	A	P728-P769 2.9	
P619	36F25	楕円形	U字形	0.45	0.43	0.60	B	P619-P724 2.4	P619-P548 2.0
P524	37F16	楕円形	漏斗形	0.32	0.20	0.19	A	P524-P753 1.6	
P548	36F19-14	楕円形	U字形	0.50	0.34	0.64	B		

造営番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(m <sup>2</sup> )	柱行(m)	梁行(m)	新旧関係	
SB4314	1区	34-35F-G	N-S-E-W	3間×2間 長方形	25.1	4.9	5.0		
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	堆積状況	柱穴開削(m)	
P1099	35G3	楕円形	U字形	0.36	0.30	0.34	A	P1099-P1102 2.2	
P1102	35F22	円形	U字形	0.35	0.33	0.50	A	P1102-P752 2.6	
P952	35F17	楕円形	U字形	0.46	0.40	0.50	-	P952-P796 2.0	
P1991	35F16	楕円形	U字形	0.35	0.32	0.57	B	P1991-P710 1.9	P1991-P726 2.7
P1110	34F25	円形	台形	0.41	0.30	0.28	C	P1110-P710 2.8	
P1102	35G1	円形	U字形	0.31	0.20	0.50	B	P1102-P726 2.2	
P1250	35G6	円形	漏斗形	0.32	0.20	0.55	B	P1250-P769 3.8	
P1103	35G4	円形	漏斗形	0.27	0.25	0.25	D	P1103-P710 1.1	
P950	35F23	楕円形	漏斗形	0.28	0.22	0.28	D	P950-P710 2.3	P1102-P560 1.4
P1260	34F22	円形	U字形	0.34	0.34	0.30	C		

観察表

## 掘立柱建物(SB)

遺構番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(m <sup>2</sup> )	桁行(m)	梁行(m)	新旧関係
SB4216	1区	24+25E	N-2°-W	四面柱+木柱+梁柱	36.9	9.2	4.4	
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	堆積状況	柱穴開闢(m)
P192	35F8	円形	U字形	0.31	0.29	0.33	A	P192-P193 L2
P191	35F9	円形	U字形	0.23	0.21	0.62	D	P191-P192 2.1
P1383	35F3-4	円形	漏斗状	0.48	0.39	0.33	D	P1383-P191 1.5
P1100	35F2	円形	(漏斗状)	(0.37)	(0.37)	0.23	-	P1100-P133 L4
P1130	34F10	円形	U字形	0.30	0.20	0.61	B	P1130-P1100 3.4
P1190	34F14	円形	U字形	0.31	(0.23)	0.69	B	P1190-P1133 2.1
P1125	34F13	円形	弧状	0.36	0.30	0.25	B	P1125-P1190 2.3
P1157	34F14	円形	台形	0.36	0.36	0.58	C	P1157-P1132 1.8
P1111	34F25	円形	U字形	0.49	0.69	0.58	C	P1111-P1132 1.6
P1117	34F26	円形	U字形	0.30	0.28	0.34	-	P1117-P1111 2.1
P1992	35F16	楕円形	U字形	0.33	0.31	0.41	C	P1992-P1117 1.8
P1919	35F12	円形	U字形	0.32	0.29	0.36	C	P1919-P192 2.0
P1883	35F18	楕円形	U字形	0.39	0.31	0.33	C	P1883-P1919 2.0
P1132	34F14	楕円形	U字形	0.37	0.31	0.25	C	P1132-P1131 2.0
P1131	34F16	円形	漏斗状	0.48	0.46	0.58	B	P1131-P1101 2.2
P1101	35F7	楕円形	V字形	0.52	0.38	0.30	B	P1101-P2231 1.8
P2231	35F7	円形	半円形	0.30	0.26	0.18	D	P2231-P193 1.1

遺構番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(m <sup>2</sup> )	桁行(m)	梁行(m)	新旧関係
SB4325	1区	33-34D-1-N-8-E-W	4周×2間 長方形	58.1	8.8	6.8		
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	堆積状況	柱穴開闢(m)
P491	34D18-23	楕円形	弧状	0.45	0.36	0.48	A	P491-P1600 2.0
P600	30D13E21	円形	U字形	0.32	0.27	0.21	C	P600-P256 2.3
P256	34D2	円形	U字形	0.67	0.59	0.60	C	
P1053	33D3	楕円形	U字形	(0.33)	(0.30)	0.72	-	P1053-P1059 2.1
P1059	33D13	円形	U字形	0.30	0.26	0.37	-	P1059-P1063 2.2
P1063	33D18-19	円形	漏斗状	0.40	0.40	0.37	-	P1063-P1064 2.3
P1084	33D23,33E2	円形	漏斗状	0.47	0.38	0.53	-	P1084-P1079 2.2
P1079	33E9-5	円形	U字形	0.43	0.42	0.44	A	P1079-P236 3.1
P258	34E1	円形	断面形(0.29)	(0.29)	0.27	0.37	C	P258-P196 3.7
P251	34D21	円形	V字形	0.40	0.40	0.32	A	

遺構番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(m <sup>2</sup> )	桁行(m)	梁行(m)	新旧関係
SB4326	1区	34D-E-W	N-8-E-W	3周×2間 長方形	15.1	4.6	3.2	
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	堆積状況	柱穴開闢(m)
P595	34D18	円形	半円形	0.42	0.36	0.27	D	P595-P183 1.8
P1481	34D23	円形	半円形	0.34	0.32	0.30	C	P1481-P196 1.5
P1486	34D14	楕円形	台形	0.33	0.29	0.20	A	P1486-P193 1.3
P1481	34D15	円形	U字形	0.23	0.21	0.20	D	P1481-P193 1.5
P1419	34D17	円形	V字形	0.36	0.30	0.30	A	P1419-P190 1.8
P500	34D18	不整	U字形	0.30	0.27	0.38	D	P500-P2274 1.5
P2274	34D17	楕円形	U字形	0.23	0.14	0.16	A	P2274-P405 1.5
P405	34D22	円形	V字形	0.29	0.20	0.34	A	P405-P195 1.6
P245	34E2	楕円形	台形	0.53	0.33	0.29	D	P245-P276 1.6
P2562	34E3	円形	U字形	0.19	0.19	0.19	A	Z52-Z195 1.6

遺構番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(m <sup>2</sup> )	桁行(m)	梁行(m)	新旧関係
SB4345-1	2区	39G	○-3'-W	四面柱+木柱+梁柱	-	4.23±1.3	3.9±1.1	< SB4345-2
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	堆積状況	柱穴開闢(m)
P1379	39G16	円形	台形	0.48	(0.28)	0.41	D	P1379-P1366 2.4
P1366	39G22	楕円形	U字形	0.22	0.17	0.18	D	P1366-P1350 1.9
P1350	39G23	円形	半円形	0.32	0.30	0.13	D	P1350-P1287 2.0
P1297	39G23	楕円形	漏斗状	0.43	0.35	0.53	B	P1297-P1291 1.9
P1291	39G20-19	楕円形	弧状	0.35	0.28	0.11	A	

遺構番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(m <sup>2</sup> )	桁行(m)	梁行(m)	新旧関係
SB4345-2	2区	39G	○-3'-W	四面柱+木柱+梁柱	-	6.0以上	4.1以上	> SB4345-1
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	堆積状況	柱穴開闢(m)
P1378	39G16	楕円形	漏斗状	0.53	0.42	0.57	B	P1378-P1364 2.1
P1364	39G22	楕円形	半円形	0.58	0.45	0.35	B	P1364-P1365 2.0
P1345	39H2	楕円形	漏斗状	0.39	0.33	0.30	-	P1345-P1362 2.2
P1342	39G23	楕円形	漏斗状	0.48	0.42	0.33	C	P1342-P1285 2.2
P1296	39G24	円形	U字形	0.42	0.36	0.53	B	P1296-P1363 1.5
P1343	39G20	円形	U字形	0.33	0.30	0.26	D	

## 観察表

## 掘立柱建物(SB)

造営番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(ef)	軒行(m)	梁行(m)	新旧関係
SB0246	2区	29-409-3	N-28°-W	調×2間 台形柱・隅柱建物	21.0	6.9	3.4	
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	柱邊状況	柱穴開削(m)
P1279	40J3	円形	U字状	0.21	0.20	0.28	D	P1279-P1276
P1270	40H22-23	円形	台形状	0.25	0.22	0.22	A	P1270-P1262
P1262	40H17	円形	台形状	0.29	0.25	0.25	D	P1262-P1264
P1264	40E22	円形	U字状	0.30	0.20	0.43	D	P1264-P1261
P1261	40J6	円形	U字状	0.19	0.19	0.40	D	P1261-P1262
P1262	39J1	円形	U字状	0.24	0.21	0.39	B	P1262-P1235
P1235	40J11	円形	U字状	0.27	0.26	0.35	B	P1235-P1236
P1236	40J11	扇円形	手字状	0.27	0.19	0.12	D	P1236-P1235
P1235	40J	円形	U字状	0.31	0.27	0.26	A	P1235-P1311
P1311	40J	円形	V字状	0.32	0.30	0.30	A	P1311-SK1304
SK1304	40J3	扇円形	扇状	0.71	0.50	0.21	C	SK1304-P1279
P1790	40J6	円形	台形状	0.23	0.20	0.63	A	P1325-P1276

造営番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(ef)	軒行(m)	梁行(m)	新旧関係
SB0251	2区	39-39J	N-72°-E	2間×1間 四方形	15.8	4.4	3.7	
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	柱邊状況	柱穴開削(m)
P1452	39J12-19	扇円形	手字状	0.28	0.28	0.21	D	P1452-P1449
P1449	39J18	円形	U字状	0.43	0.36	0.27	A	P1449-P1417
P1417	39J12	扇円形	扇状	0.42	0.30	0.45	A	P1417-P1305
P1555	39J16	円形	U字状	0.30	0.29	0.50	A	P1555-P1546
P1546	39J16	扇円形	扇状	0.44	0.34	0.36	C	P1546-P1416
P1484	39J3	扇円形	U字状	0.33	0.27	0.18	-	P1484-P1452

造営番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(ef)	軒行(m)	梁行(m)	新旧関係
SB0253	2区	39-39J	N-72°-E	調×2間 台形柱・隅柱建物	51.7	10.5	5.1	
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	柱邊状況	柱穴開削(m)
P1481	39J9	扇円形	扇状	0.43	0.32	0.44	A	P1481-P1459
P1459	39J4-3	円形	扇状	0.44	0.37	0.52	A	P1459-P1600
P1600	39J3	円形	U字状	0.29	0.26	0.45	A	P1600-P1544
P1544	39J22	扇円形	手字状	0.44	0.34	0.30	A	P1544-P1533
P1533	39H16	円形	V字状	0.29	0.29	0.40	-	P1533-P1530
P1530	38J15	円形	U字状	0.37	0.30	0.28	A	P1530-P1796
P1796	38J20	円形	手字状	0.24	0.21	0.17	D	P1796-P1612
P1925	38J23/34	円形	U字状	0.27	0.24	0.19	A	P1925-P1608
P1608	38J5	扇円形	U字状	0.37	0.32	0.15	C	P1608-P1613
P1613	38J13	円形	U字状	0.29	0.27	0.35	B	P1613-P1602
P1612	39J11	円形	U字状	0.48	0.41	0.46	A	P1612-P2511
P2511	39J12	円形	手字状	0.32	0.28	0.15	C	P2511-P1989
P1989	39J18	円形	U字状	0.26	0.21	0.24	A	P1989-P1993
P1993	39J13	方彌	扇状	0.31	0.30	0.59	A	P1993-P1481
P2268	39J8	円形	U字状	0.28	0.25	0.58	A	P2268-P1609

造営番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(ef)	軒行(m)	梁行(m)	新旧関係
SB0255	2区	29-1	N-72°-E	調×2間 台形柱・隅柱建物	12.9	3.9	3.8	
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	柱邊状況	柱穴開削(m)
P2504	39J15	扇円形	U字状	0.28	0.23	0.51	-	P2504-P1460
P1460	39J9	円形	U字状	0.27	0.24	0.13	-	P1460-P1608
P1458	39J3	円形	U字状	0.22	0.19	0.21	A	P1458-P1309
P1589	39J7	扇円形	扇状	0.43	0.33	0.49	A	P1589-P2253
P2253	39J13	円形	U字状	0.38	0.33	0.27	B	P2253-P1410
P1410	39J13	円形	U字状	0.20	0.18	0.24	B	P1410-P1407
P1407	39J14	円形	扇状	0.21	0.20	0.27	D	P1407-P2504

造営番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(ef)	軒行(m)	梁行(m)	新旧関係
SB0259	2区	37J	N-72°-E	調×2間 台形柱・隅柱建物	20.9	6.0	3.6	
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	柱邊状況	柱穴開削(m)
P2382	37J14	円形	扇状	0.27	0.24	0.53	A	P2382-P2304
P2094	37J13	円形	U字状	0.19	0.14	0.22	-	P2094-P2306
P2096	37J7	扇円形	U字状	0.34	0.29	0.49	A	P2096-P2232
P2332	37J2	扇円形	U字状	0.33	0.27	0.31	D	P2332-P2307
P2337	36J10	円形	台形状	0.20	0.19	0.20	D	P2337-P2406
P2406	37J11	円形	U字状	0.26	0.24	0.25	C	P2406-P2301
P2331	37J17	円形	手字状	0.33	0.31	0.34	A	P2331-P2250
P2250	37J17	円形	U字状	0.06	0.02	0.24	C	P2250-P2206
P2216	37J18	円形	手字状	0.24	0.17	0.17	D	P2216-P2302

## 観察表

## 掘立柱建物(SB)

地番番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(㎡)	柱行(m)	梁行(m)	新旧関係
SII326	2区	31J	N-84°-W	2階+1階+平屋建物	17.8	4.6	3.0	
柱六	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(㎡)	堆積状況	柱穴開発(m)
P2586	31J25	方形	偏平状	0.42	0.35	0.23	A	P2586-P2781 2.6
P3104	31J14	円形	台形状	0.35	0.32	0.29	A	P3104-P288 4.1
P2580	31J9	扇円形	U字状	0.27	0.20	0.27	A	P2580-P3104 2.0
P3103	31J7-8	扇円形	台形状	0.68	0.52	0.45	B	P3103-P286 3.0
P2972	31J11	円形	台形状	0.45	0.25	0.23	A	P2972-P3103 2.4
P3145	31J14	扇円形	V字状	0.44	0.29	0.49	A	P3145-P282 2.0
P2781	31J14	円形	台形状	0.45	0.40	0.53	A	P2781-P3145 2.2

地番番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(㎡)	柱行(m)	梁行(m)	新旧関係
SII327	2区	31J-32J	N-83°-E	2階+1階+平屋建物	24.1	5.6	4.6	
柱六	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(㎡)	堆積状況	柱穴開発(m)
P3132	32J6	扇円形	U字状	0.29	0.23	0.18	C	P3132-P3126 1.6
P3126	32J6	円形	U字状	0.22	0.17	0.25	A	P3126-P2891 1.5
P2891	32J2	扇円形	U字状	0.22	0.21	0.27	-	P2891-P2865 2.1
P2983	31J24-25	扇円形	台形状	0.51	0.39	0.17	D	P2983-P3000 2.2
P2920	31J3-4	円形	半円形	0.22	0.20	0.15	D	P2920-P2953 2.2
P2953	31J3	円形	U字状	0.26	0.25	0.23	C	P2953-P2954 2.1
P2974	31J8	扇円形	U字状	0.30	0.23	0.35	C	P2974-P2862 2.0
P2872	31J14	円形	V字状	0.53	0.57	0.42	B	P2872-P3155 1.5
P3155	31J14	扇円形	半円形	0.36	0.30	0.24	C	P3155-P2946 2.5
P2946	31J15	扇円形	偏平状	0.24	0.19	0.13	A	P2946-P3132 2.1

地番番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(㎡)	柱行(m)	梁行(m)	新旧関係
SII328	2区	32J-1J	N-86°-E	2階+1階+平屋建物	26.6	5.6	4.6	> SII329-SII401
柱六	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(㎡)	堆積状況	柱穴開発(m)
P3430	32J9	円形	偏平状	0.33	0.33	0.56	A	P3430-P3430 2.8
P2925	32J3	扇円形	台形状	0.36	0.21	0.19	A	P2924-P2898 2.7
P3194	32J22	扇円形	U字状	0.37	0.27	0.21	A	P3197-P3194 1.2
P3177	32J22	円形	偏平状	0.36	0.35	0.59	A	P3179-P3177 2.0
P3119	32J11	円形	V字状	0.28	0.27	0.58	A	P3139-P3119 1.8
P3150	31J5	方形	半円形	0.32	0.49	0.31	D	P3159-P3152 2.6
P3137	32J6-11	円形	U字状	0.27	0.25	0.29	D	P3084-P3137 3.0
P2891	32J17	方形	半円形	0.50	0.47	0.26	C	P2891-P2861 1.8
P2403	32J12-13	扇円形	U字状	0.30	0.20	0.20	A	P2403-P2423 1.9
P2428	32J8-13	扇円形	U字状	0.43	0.25	0.71	B	P2428-P2420 1.0
P2844	32J7	円形	U字状	0.27	0.26	0.50	-	P2844-P2850 2.0
P2450	32J2-3-8-9	円形	U字状	0.40	0.38	0.55	A	P3130-P3188 1.0

地番番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(㎡)	柱行(m)	梁行(m)	新旧関係
SII329	2区	31J-32J	N-83°-E	2階+1階+平屋建物	20.5	5.0	4.1	< SII328
柱六	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(㎡)	堆積状況	柱穴開発(m)
P3449	32J17	扇円形	U字状	(0.31)	0.23	0.48	D	P3449-P3405 3.3
P2405	32J11	円形	半円形	0.28	0.22	0.16	-	P3085-P3115 1.7
P3185	32J7	円形	半円形	0.32	0.28	0.13	-	P3090-P3141 1.8
P3141	32J6	円形	U字状	0.30	0.28	0.28	A	P3141-P3190 1.7
P3190	31J10	扇円形	偏平状	0.53	0.43	0.50	A	P3190-P3110 2.5
P3110	31J15	扇円形	U字状	0.41	0.32	0.57	B	P3110-P2879 2.4
P2789	31J10-25	円形	V字状	(0.22)	0.21	0.25	C	P2789-P2863 2.2
P3863	32J16	円形	V字状	0.22	0.20	0.14	C	P3863-P3948 1.9

地番番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(㎡)	柱行(m)	梁行(m)	新旧関係
SII401	2区	32J-1J	N-71°-E	2階+1階+平屋建物	16.0	5.7	2.8	> SII406
柱六	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(㎡)	堆積状況	柱穴開発(m)
P3437	32J5-10	円形	U字状	0.30	0.29	0.22	C	P3437-P3422 1.7
P3422	32J4	扇円形	V字状	0.33	0.28	0.23	-	P3422-P3189 2.1
P3199	32J23-24	円形	U字状	0.38	0.34	0.35	A	P3199-P3439 1.8
P3439	32J22	扇円形	V字状	0.32	0.28	0.16	A	P3439-P3193 1.3
P3193	32J22	円形	U字状	0.24	0.23	0.32	A	P3193-P3165 1.5
P3165	32J2	円形	偏平状	0.31	0.31	0.27	C	P3165-P3169 1.9
P3099	32J3	不整	U字状	0.35	0.23	0.33	-	P3099-P3469 2.2
P3149	32J8	扇円形	台形状	0.37	0.30	0.22	A	P3149-P3167 1.6
P3417	32J14	扇円形	半円形	0.31	0.28	0.18	C	P3167-P3108 1.2
P3418	32J9	円形	偏平状	0.23	0.21	0.25	C	P3418-P3427 1.6

観察表

## 掘立柱建物(SB)

地番番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(m <sup>2</sup> )	軒高(m)	梁行(m)	新旧関係
SH4420	3区	43-1-2	N-83°-E	2階+屋上台形脚柱建物	12.6	4.9	2.9	
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	柱穴開削(m)	
P3613	4224	円形	台形状	0.53	0.40	0.36	A	P3613-P3609
P3689	42119	円形	漏斗状	0.24	0.22	0.26	A	P3689-P3607
P3637	42113	円形	U字形	0.27	0.23	0.17	A	P3637-P360
P3780	42117	円形	U字形	0.35	0.33	0.74	A	P3780-P3657
P3657	42124	円形	U字形	0.25	0.23	0.58	B	P3657-P4252
P4232	4213	円形	U字形	0.47	0.45	0.49	-	P4232-P4013
29								

地番番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(m <sup>2</sup> )	軒高(m)	梁行(m)	新旧関係
SH4427	3区	42-431-3	(Y-9)	2階+屋上台形脚柱建物	39.4	13.5	4.1	
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	柱穴開削(m)	
P3268	43119-24	円形	漏斗状	0.36	0.31	0.34	C	P3268-P3255
P3525	43118	円形	U字形	0.20	0.17	0.19	-	P3525-P3309
P3309	43113	円形	U字形	0.25	0.23	0.42	C	P3309-P3330
P3330	43112	円形	漏斗状	0.35	0.25	0.22	B	P3330-P3204
P3024	43112-17	円形	U字形	0.42	0.38	0.22	C	P3024-P3209
P3039	43111	円形	U字形	0.47	0.28	0.27	B	P3039-P3369
P3599	42125	円形	漏斗状	0.51	0.37	0.55	A	P3599-SK368
SK3482	42124	不整	台形状	0.70	0.69	0.36	C	SK3482-P3375
P3375	42823	円形	U字形	0.36	0.28	0.66	B	P3375-P3499
P5600	42823	円形	U字形	0.29	0.20	0.28	B	P5600-P2469
P3499	42814	円形	漏斗状	0.25	0.21	0.24	A	P3499-P3332
P3332	42810	円形	U字形	0.49	0.41	0.49	B	P3332-P3335
P3235	43K1-6	円形	U字形	0.43	0.25	0.39	A	P3235-P2362
P3382	43K2	円形	漏斗状	0.46	0.41	0.39	C	P3382-P3368
P3389	43123	円形	半V字形	0.30	0.27	0.20	-	P3389-P3694
P3494	43123-24	円形	U字形	0.28	0.22	0.25	-	P3494-P3268
P4031	43121	円形	U字形	0.21	0.19	0.34	-	P4031-P2309
1.6								

地番番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(m <sup>2</sup> )	軒高(m)	梁行(m)	新旧関係
SH4428	3区	42-431-3	N-16°-W	2階+屋上台形脚柱建物	26.3	6.2	4.6	
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	柱穴開削(m)	
P2505	43118-23	円形	V字形	0.27	0.25	0.22	-	P2505-P3255
P2596	43113-16	円形	V字形	0.31	0.28	0.18	B	P2596-P3203
P2023	43112	円形	U字形	0.30	0.20	0.29	C	P2023-P2304
P3664	43111	円形	漏斗状	0.29	0.27	0.34	B	P3664-P2024
P4034	43116	円形	半V字形	0.35	0.30	0.18	-	P4034-P2461
P4041	42120	円形	U字形	0.27	0.24	0.62	B	P4041-P2741
P3744	42124-19	円形	U字形	0.30	0.29	0.48	B	P3744-P2336
P2356	43122	方型	U字形	0.26	0.23	0.43	A	P2356-P3333
P3333	43K1	円形	漏斗状	0.44	0.39	0.64	B	P3333-P2355
P3355	43K1	円形	U字形	0.32	0.30	0.27	B	P3355-P2385
P3599	43123	円形	漏斗状	0.37	0.29	0.33	B	P3599-P2384
P2481	43122	円形	漏斗状	0.40	0.33	0.50	B	P2481-P2305
1.4								

地番番号	地区	グリッド	方位	構造	面積(m <sup>2</sup> )	軒高(m)	梁行(m)	新旧関係
SH4429	3区	42-431-3	N-16°-W	2階+屋上台形脚柱建物	22.1	7.2	4.8	
柱穴	位置	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	柱穴開削(m)	
P3389	43123	円形	U字形	0.31	0.27	0.62	B	P3389-P2003
P4045	43117	円形	U字形	0.26	0.25	0.56	A	P4045-P2005
P4035	43116	円形	U字形	0.33	0.31	0.49	C	P4035-P2379
P3707	42120-25	円形	漏斗状	0.62	0.37	0.27	C	P3707-P2387
P3367	42124	円形	U字形	0.27	0.23	0.37	C	P3367-P2311
P5511	42823	円形	U字形	0.32	0.29	0.45	C	P5511-P2334
P3334	42829	円形	台形状	0.33	0.30	0.34	B	P3334-P2388
P3496	42825	円形	漏斗状	0.53	0.36	0.29	C	P3496-P2383
P4035	43121	円形	漏斗状	0.39	0.33	0.79	-	P4035-P2003
P2381	43K2	円形	漏斗状	0.44	0.33	0.16	-	P2381-P2389
2.2								

## 観察表

掘立柱建物(SB)

遺構番号	地区	方位	構造	面積(m <sup>2</sup> )	軒行(m)	梁行(m)	新旧関係
SH4428	2区	43°-44°N N-14°-E	2間×1間 柱主材複数材	12.1	4.8	2.5	
柱穴	位置	平面形	断面形 長径(m) 短径(m)	面積(m <sup>2</sup> )	柱高(m)	柱穴開削(m)	出土遺物
P2515	44°17'-12'	円形	手平穴 0.24	0.20	0.07	-	P2515-P307
P2070	44K1	円形	V字穴 0.30	0.27	0.26	A	P2070-P230
P2520	43K10	円形	台形状 0.23	0.21	0.19	-	P2520-P234
P2284	43K8	円形	箱状 0.28	0.28	0.39	C	P2284-P2069
P2049	43K14	扇円形	U字穴 0.28	0.27	0.27	A	P2049-P2058
P2078	43K15	円形	U字穴 0.25	0.22	0.46	B	P2078-P2055

遺構番号	地区	方位	構造	面積(m <sup>2</sup> )	軒行(m)	梁行(m)	新旧関係
SH4429	3区	N-9°E-E	2間×1間 長方柱	12.8	4.1	3.1	
柱穴	位置	平面形	断面形 長径(m) 短径(m)	面積(m <sup>2</sup> )	柱高(m)	柱穴開削(m)	出土遺物
P3099	43K25	扇円形	U字穴 0.43	0.34	0.32	B	P3099-P3084
P2084	44K21	円形	U字穴 0.28	0.25	0.45	C	P2084-P2109
P2249	43K20	円形	U字穴 0.29	0.20	0.43	A	P2249-P2302
P2082	43K14-15	扇円形	U字穴 0.29	0.20	0.43	A	P2082-P2300
P2030	43K18	円形	U字穴 0.45	0.37	0.55	A	P2030-P2030
P2030	43K19-24	円形	手平穴 0.27	0.27	0.23	0.17	-
P2099	43K25	扇円形	U字穴 0.33	0.38	0.61	B	P2099-P2097

井戸(SE)

遺構番号	種類	位置	地区	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形	断面形	壁上(壁下)	切り合い	出土遺物	時期	所見・備考
99	SE	Ⅳ	1区	3H11H	0.75	0.62	-	橢円形	台形状	レinz状	-	-	-	-
150	SE	Ⅳ	1区	37F10	0.91	0.73	1.63	橢円形	U字状	レinz状	-	滑溜燒 鐵鏈	16C-後17C	前
151	SE	Ⅳ	1区	37F13	0.81	0.81	1.42	円形	U字状	レinz状	-	-	-	-
187	SE	Ⅳ	1区	37F2-7	0.74	0.60	0.88	橢円形	U字状	水平 レinz状	>P326	珠胸鏡	-	-
267	SE	Ⅳ	1区	32F20	0.64	0.52	0.64	円形	U字状	レinz状	-	曲物灰瓦	-	-
272	SE	Ⅳ	1区	32F20	0.84	0.68	0.8	円形	台形状	レinz状	-	曲物灰瓦	15C	-
284	SE	Ⅳ	1区	37F2-3	1.20	1.12	1.44	橢円形	漏斗状	レinz状	<P443, SD263	工具土器 錆鉄頭	13-14C	-
383	SE	Ⅳ	1区	37F12-13	1.10	1.00	1.58	円形	U字状	レinz状	>SD392	滑溜鏡 天目	16C-後17C	前
534	SE	Ⅳ	1区	37F6	0.80	0.68	0.96	円形	U字状	レinz状	>P542	土器質土器 漆器	-	-
670	SE	Ⅳ	1区	36E2	0.82	0.72	0.74	円形	台形状	レinz状	-	珠胸鏡 白銀組 圓筒形美鏡	-	-
685	SE	Ⅳ	1区	37F2	0.88	0.8	0.60	円形	U字状	レinz状	-	-	-	麻薺
777	SE	Ⅳ	1区	36E14-15	1.32	1.04	1.36	橢円形	U字状	レinz状	<P259 >SD777, SD268 SD278	板材	-	-
783	SE	Ⅳ	1区	35E17-12	1.20	1.20	1.50	方形	U字状	レinz状	-	土器質土器 陶器芯、柄杓	-	-
813	SE	Ⅳ	1区	37F18	0.81	0.68	0.99	方形	箱状	レinz状	<P834	木材	-	-
832	SE	Ⅳ	1区	35F19-10	0.72	0.72	0.81	円形	U字状	レinz状	-	板材	-	-
855	SE	Ⅳ	1区	35D22-23	0.64	0.64	0.32	円形	U字状	レinz状	<S8547	珠胸鏡	-	-
860	SE	Ⅳ	1区	35F17-18	0.99	0.90	0.96	円形	U字状	レinz状	<P908	剪刀石斧 鐵鑿	-	-
866	SE	Ⅳ	1区	35F9	0.76	0.76	0.76	円形	箱状	レinz状	-	珠胸鏡 鐵鑿	-	-
936	SE	Ⅳ	1区	36E7-8 -12-13	0.92	(0.60)	0.76	円形	箱状	レinz状	<SK1070 >P965	土器質土器	14C	-
933	SE	Ⅳ	1区	36G2-7	0.75	0.72	0.84	円形	箱状	レinz状	-	珠胸鏡、燒鐵	-	-
1042	SE	Ⅳ	1区	32D13-14	0.90	(0.44)	1.28	橢円形	台形状	レinz状	<SE1045	珠胸鏡	后-V期	-
1045	SE	Ⅳ	1区	35D13-14	0.90	0.72	0.92	橢円形	U字状	レinz状	>SE1042	-	-	-
1160	SE	Ⅳ	1区	34E24	0.92	0.81	0.80	円形	U字状	レinz状	-	-	-	-
1205	SE	Ⅳ	2区	40H7	0.52	0.48	0.52	円形	U字状	レinz状	-	土器質土器	15C	-
1207	SE	Ⅳ	2区	40F7	0.96	0.92	1.40	不整形	台形状	レinz状	>P1206	珠胸鏡、曲物灰板	-	-
1210	SE	Ⅳ	2区	40H8	1.03	1.02	1.08	円形	漏斗状	レinz状	<SD1211	珠胸鏡	-	-
1212	SE	Ⅳ	2区	39H5	0.88	0.82	1.16	方形	U字状	レinz状	-	-	-	-
1384	SE	Ⅳ	1区	35F3-4	0.60	0.56	0.78	円形	台形状	レinz状	>P1295	珠胸鏡	-	崩落
1404	SE	Ⅳ	2区	39H9	0.70	0.52	0.72	橢円形	U字状	レinz状	-	土器質土器	14C	-
1518	SE	Ⅳ	2区	38H6	1.56	0.80	1.60	橢円形	U字状	水平	-	柄杓	-	-

## 観察表

## 井戸(SE)

遺物 番号	種別 別名	地層	グリッド 長幅(m)	長幅(m)	短幅(m)	深さ (m)	平面形	断面形	覆土 (覆土)	切り合い	出土遺物	時期	所見・備考
1563	SE	Ⅱ 区	37H20・ 38H16	1.00	0.84	1.30	楕円形	台形状	レンズ状	< P1564	曲輪底板・整板材	-	
1568	SE	Ⅱ 区	38H121	1.32	1.08	1.88	方形	台形状	レンズ状	-	珠ぬれ・焼窯 Y字状木製品	-	
1982	SE	Ⅱ 区	38H125	(1.20)	(1.08)	(0.84)	円形	U字状	アロック状	< SK2278 SD1428	珠ぬれ・灰	-	
2007	SE	Ⅱ 区	37V19・14	0.68	0.64	0.88	円形	U字状	レンズ状	-	曲輪底板	-	
2281	SE	Ⅱ 区	37H16・ 17	1.08	1.04	1.84	方形	箱状	レンズ状	-	珠ぬれ・砾石 (漆塗陶・骨物)	B期	
2336	SE	Ⅱ 区	37J1	0.76	0.76	1.2	円形	箱状	レンズ状	< P2215・ P2267	漆塗陶	-	
2561	SE	Ⅱ 区	36H14	0.93	0.84	1.24	円形	U字状	レンズ状	-	珠ぬれ	古期	
2562	SE	Ⅱ 区	36H10	0.80	0.64	1.14	楕円形	U字状	レンズ状	-	珠ぬれ	-	
2684	SE	Ⅱ 区	31J3	0.72	0.68	0.64	方形	U字状	レンズ状	-	曲輪底板	-	
3130	SE	Ⅱ 区	31J3・4	0.68	0.64	0.76	円形	U字状	レンズ状	> P3882・ SU2998	鐵貨	-	
3178	SE	Ⅱ 区	31J14	0.81	0.76	0.68	円形	U字状	レンズ状	-	土器質土器	-	
3290	SE	Ⅲ 区	43H15・ 20	0.97	(0.60)	1.38	円形	V字状	レンズ状	-	土器質土器	15C後	
3291	SE	Ⅲ 区	44J21	0.8	0.72	1.58	方形	箱状	レンズ状	-	漆塗陶・盤	-	
3507	SE	Ⅲ 区	44K7	1.04	0.80	1.16	楕円形	U字状	レンズ状	> SD3002	鐵貨	-	
3508	SE	Ⅲ 区	43J24	0.72	0.68	1.28	楕円形	U字状	レンズ状	-	土器質土器	15C後	
3623	SE	Ⅲ 区	41H15	0.92	0.88	0.92	円形	U字状	レンズ状	> SD3624	鐵貨・ 漆塗陶	-	
3704	SE	Ⅲ 区	42H18	0.68	0.68	1.00	円形	箱状	レンズ状	> P4021・ P4022	土器質土器・ 板材	15C	
3719	SE	Ⅲ 区	42H8	1.40	1.12	1.74	楕円形	U字状	レンズ状	> P3915・ P3916	漆塗・燒埋	-	
3726	SE	Ⅲ 区	42G7	1.00	0.80	1.58	楕円形	U字状	レンズ状	-	珠ぬれ・ 木筒容器	-	
3764	SE	Ⅲ 区	42H18・ 23	0.70	0.68	1.36	円形	U字状	レンズ状	-	土器質土器	15C後	17枚土器
3900	SE	Ⅱ 区	32H11・ 16	1.20	1.12	1.24	円形	U字状	レンズ状	-	木・杓子・ 曲輪底板	-	
3940	SE	Ⅲ 区	42J20	1.20	1.08	0.92	円形	U字状	レンズ状	> P4941・ P4942・ P4944	土器質土器・埴輪・ 燒埋	15C	
4030	SE	Ⅲ 区	43J16	0.84	0.80	1.12	円形	U字状	レンズ状	< SD3383	木材	-	
4067	SE	Ⅰ 区	33E3	0.98	0.84	1.97	円形	U字状	レンズ状	> SK4067	柳条木製品 曲輪底板	-	
4087	SE	Ⅰ 区	33D13・ 14	0.70	0.64	1.08	円形	箱状	レンズ状	-	漆塗・美濃焼 下皿・盤	-	
4151	SE	Ⅰ 区	33E9	0.70	0.60	(0.87)	円形	箱状	レンズ状	-	吉津焼	16C後-17C 前	
4275	SE	Ⅲ 区	42J22	0.80	0.68	0.76	方形	U字状	レンズ状	-	珠ぬれ	-	

## 土坑(SK)

遺物 番号	種別 別名	地層	グリッド 長幅(m)	長幅(m)	短幅(m)	深さ (m)	平面形	断面形	覆土 (覆土)	切り合い	出土遺物	時期	所見・備考
44	SK	Ⅰ 区	32G15・ 20 33G16・ 17	4.00	1.96	0.64	長方形	台形状	レンズ状	-	土器質土器	-	
583	SK	Ⅰ 区	34D10	1.92	(1.80)	0.80	楕円形	台形状	レンズ状	< SD599	-	-	
647	SK	Ⅰ 区	35D22・ 23 35E2・3- 8	3.88	2.84	0.36	長方形	弧状	レンズ状	> SES52・ SES53・ SK464 P1007	漆塗地・美濃焼 骨器	-	
654	SK	Ⅱ 区	33E6-8 33Q23	3.13	2.58	0.48	方形	台形状	レンズ状	< SK647・ SD599	漆塗地・美濃焼 漆付陶・日目	16C後- 17C前	
688	SK	Ⅰ 区	36F12	1.00	0.96	0.36	円形	半円状	レンズ状	-	土器質土器	14C	
853	SK	Ⅰ 区	35D18	0.72	0.60	0.36	楕円形	台形状	レンズ状	-	珠ぬれ	-	
961	SK	Ⅰ 区	36Q23	1.04	0.88	0.64	楕円形	U字状	レンズ状	-	土器質土器	14C	
1128	SK	Ⅰ 区	34F14- 15・19・ 20	1.86	1.32	0.92	楕円形	側斜状	レンズ状	-	土器質土器	14C	
1168	SK	Ⅰ 区	34F4	1.08	0.8	0.16	楕円形	半円状	レンズ状	-	土器質土器	-	
1227	SK	Ⅰ 区	35E14	0.48	0.44	0.20	円形	半円状	レンズ状	-	珠ぬれ	B期	
1306	SK	Ⅱ 区	40Z22	0.92	0.92	0.64	円形	V字状	レンズ状	> PI305	土器質土器	14C	
1399	SK	Ⅱ 区	39K25	1.40	0.84	0.60	台形状	レンズ状	> SD1390	土器質土器	14C		
1435	SK	Ⅱ 区	38E2	0.84	0.84	0.60	円形	U字状	レンズ状	> SK1430	土器質土器	15C	

観察表

土坑(SK)

遺構番号	種別	地層	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形	断面形	塵土(塵土)	切り合ひ	出土遺物	時期	所見・備考
1436 SK	N	2区	3802	1.08	0.60	0.32	楕円形	半円状	レンズ状	<SK1435 >P1437	-	-	
1515 SK	N	2区	3812	2.40	1.96	0.52	楕円形	半円状	レンズ状	<SD1428	珠西境	-	
1760 SK	N	2区	3808	2.00	1.58	0.46	方形	台形状	レンズ状	-	珠西境	N期	
1809 SK	N	2区	3823	1.46	0.92	0.3	長楕円形	半円状	プロック状	-	板材・鉢貨	17C	昔晩元賀 昭和元賀
1834 SK	N	2区	3618	0.60	0.60	0.38	円形	U字状	レンズ状	>SK2146	埴輪(馬頭・ 天日・右口)	-	
1946 SK	N	2区	39125	0.94	0.42	0.32	(円形)	台形状	レンズ状	<SD1540	土師質土器・ 鐵貨	15C 前	昇晩元賀 水素道遺
1947 SK	N	2区	39124 3944	1.12	0.52	0.18	(円形)	弧状	レンズ状	<SD1540	土師質土器	15C 前	
2062 SK	N	2区	37119	0.60	0.54	0.66	楕円形	U字状	レンズ状	-	鉢貨	-	至道元賀
2129 SK	N	2区	37121 3711-2	0.70	0.58	0.67	方形	梯状	水平 レンズ状	-	珠西境	-	
2030 SK	N	2区	37123- 24	3.04	2.30	0.82	不整形	梯状	レンズ状	-	土師質土器・ 音祖・漆器柄・ 移装木製品	14C	軒用鏡芯
2278 SK	N	2区	38H24- 25 384-5	1.60	(0.62)	0.60	(円形)	半円状	レンズ状	<SD2276 >SD1428	-	-	
2894 SK	N	2区	33J9- K	4.50	3.70	0.30	円形	半円状	プロック状	>SK3590	-	-	
2973 SK	N	2区	31J9-14	0.74	0.7	0.18	円形	半円状	プロック状	-	珠西境	-	
3447 SK	N	2区	33J1-2, 6-7	2.10	2.06	0.42	円形	弧状	レンズ状	-	土師質土器 繩文後・美濃燒 罐・木	14C	
3691 SK	N	2区	34J- K	3.20	(2.60)	0.10	不整形	弧状	平刷	>P3665- P3656 P3658- P3660	-	-	
3652 SK	N	2区	32 I - J 33 I - J 32 J 5 32 J 16 21 33 J 1	3.44	3.00	0.26	円形	弧状	水平状	-	-	-	
3259 SK	N	3区	43K7-12	0.60	0.60	0.40	円形	梯状	レンズ状	-	土師質土器・ 音祖・稚	14C	
3354 SK	N	3区	42K30	2.44	2.3	0.68	方形	梯状	レンズ状	-	土師質土器 繩文後・美濃燒 罐	14C 未	
4210 SK	N	1区	29G8	1.74	1.00	0.13	楕円形	弧状	レンズ状	-	珠西境	II	

溝(SD)

遺構番号	種別	地層	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形	断面形	塵土(塵土)	切り合ひ	出土遺物	時期	所見・備考
41 SD	N	1区	32E	(17.0)	2.0	0.34	-	弧状	レンズ状	<SD496	土師質土器・ 珠西境・唐津燒 鐵石・陶物・ 板材	14-15C	
111 SD	N	1区	38E	(10.4)	2.2	0.7	-	弧状	レンズ状	<SD110 SD125 SD146 >P133 P474	土師質土器・ 珠西境	-	SD116- SD125
281 SD	N	1区	36-37 D	(42.0)	1.60	0.24	-	弧状	水平状	>SE666 <SE763	土師質土器・ 珠西境	15C 後	
282 SD	N	1区	35-37 D	(20.4)	2.04	0.52	-	半円状	レンズ状	>SE297 SK230- SK970- SK1338	土師質土器・ 珠西境	13C-14C 16C-17C	
283 SD	N	1区	37 E	6.10	1.80	0.10	-	弧状	平刷	-	唐津燒	17C 中	P136と同 個体
345 SD	N	1区	34D	(4.40)	1.56	0.32	-	弧状	レンズ状	<SK350- SK412	土師質土器・ 珠西境	B期	
496 SD	N	1区	34E	19.2	9.6	0.58	-	弧状	レンズ状	-	土師質土器・ 珠西境・ 繩文後・美濃燒 器物不明品	B-V期	

## 観察表

## 溝(SD)

番号	種別	樹齢	地区	グリッド	長径 長軸(m)	短径 幅(m)	深さ (m)	平面形	断面形	覆土 (覆土)	切り合い	出土遺物	時期	所見・備考
1211	SD	N	2区	39+40 I	(12.8)	1.10	0.41	-	台形状	調査	> SE1210 < SD1540 SD2276	土師質土器、 珠母鏡、瓦邊鏡、 珠母鏡	15C II~III期	
1280	SD	N	2区	39J	14.00	1.50	0.40	-	台形状	レンズ状	-	土師質土器 珠母鏡、瓦邊鏡、 珠母鏡	-	
1428	SD	N	2区	38 G~H	(32.1)	3.30	0.70	-	台形状	レンズ状	-	土師質土器 珠母鏡、瓦邊鏡、 珠母鏡	14C	
2285	SD	N	2区	37 H	3.00	0.60	0.10	-	弧状	單層	-	-	-	
1540	SD	N	2区	37J, 38L 39H+I	(41.0)	2.36	0.70	-	台形状	レンズ状	< SD2276	土師質土器、 珠母鏡、白磁。 圓片鏡、瓦邊鏡、 珠母鏡、 志野燒、越中繩目 燒、石臼	15C~V~VI	
2276	SD	N	2区	37J, 38~J	(41.0)	1.60	0.42	-	台形状	レンズ状	> SK2278 SD1428 SD1540	土師質土器 珠母鏡	15C後	里見(飯塚 阿波丸)
2462	SD	N	2区	38I	19.60	0.96	0.4	-	台形状	水平状	< P2477 > SE2325 SK3461	土師質土器	-	
3391	SD	N	2区	35 H~L, 36 H~I	(15.0)	2.30	0.30	-	弧状	レンズ状	> SD1019 < SD3990	土師質土器、 珠母鏡、 圓片燒、瓦邊鏡	-	
3002	SD	N	3区	43K, 44K	16.6	1.74	0.44	-	台形状	レンズ状	-	珠母鏡	-	
3305	SD	N	3区	43J	(16.7)	0.80	0.48	-	弧状	レンズ状	< SD3383	珠母鏡	-	
3383	SD	N	3区	42I~J	-	1.88	0.10	-	弧状	單層	-	-	-	
4193	SD	N	1区	30~31D	36.30	2.60	0.64	-	弧状	レンズ状	> 水田3075 水田3380	珠母鏡	N~VI期	
4194	SD	N	1区	30~31D	20.0	2.50	0.70	-	弧状	レンズ状	-	珠母鏡	-	

## 道路状構造

番号	種別	樹齢	地区	グリッド	長径 長軸(m)	短径 幅(m)	深さ (m)	平面形	断面形	覆土 (覆土)	切り合い	出土遺物	時期	所見・備考
1	SRK	N	1区	33G, 34~ 35G~F 35G~F	(28.0)	2.42	0.24	-	弧状	レンズ状	> SD41	土師質土器、 珠母鏡、 皆伊燒、 圓片燒、 瓦邊鏡、 珠母鏡、 美濃燒、 糸日月	13C~17C 前	

## 性格不明遺構(SX)

番号	種別	樹齢	地区	グリッド	長径 長軸(m)	短径 幅(m)	深さ (m)	平面形	断面形	覆土 (覆土)	切り合い	出土遺物	時期	所見・備考
300	SX	N	1区	36~37E	7.12	4.20	0.28	長径円形	弧状	ブロック状	> SE961, SE980, SD228	滑津燒	16C後~17C 前	

## ピット(P)

番号	種別	樹齢	地区	グリッド	長径 長軸(m)	短径 幅(m)	深さ (m)	平面形	断面形	覆土 (覆土)	切り合い	出土遺物	時期	所見・備考
61	P	N	1区	30H13~ 14	0.84	0.62	0.62	橢円形	U字状	B	-	信楽燒	15C後	
81	P	N	1区	30H14	0.82	0.80	0.74	円形	箱状	ブロック状	-	土師質土器	14C	
136	P	N	1区	37 E 3	0.76	0.62	0.60	橢円形	漏斗状	C	> P125~ P323	滑津燒	16C後	
233	P	N	1区	38Y11	0.40	0.32	0.50	円形	U字状	A	-	柱根	-	
353	P	N	1区	37E3	0.12	0.12	0.24	橢円形	U字状	A	-	柱根	-	
361	P	N	1区	37E3	0.24	0.24	0.46	円形	U字状	A	-	柱根	-	
407	P	N	1区	34D21	0.21	0.21	0.23	円形	U字状	A	> SK412	圓片燒、 美濃燒	大室 I	P2809と同 個体
509	P	N	1区	36D21	0.61	0.60	0.63	方形	漏斗状	B	< P580	柱根	-	
530	P	N	1区	37F6	0.29	0.29	0.42	円形	U字状	B	-	-	-	
628	P	N	1区	34E24	0.46	0.31	0.48	橢円形	U字状	單層	-	唐津燒	16C後~17C 前	
660	P	N	1区	35E13	0.30	0.30	0.45	円形	U字状	A	-	柱根	-	
752	P	N	1区	37F5	0.43	0.41	0.4	円形	U字状	B	-	柱根	-	
912	P	N	1区	35Y22	0.30	0.27	0.59	橢円形	U字状	B	-	柱根	-	
1206	P	N	1区	34D24	0.66	0.30	0.13	橢円形	漏斗状	A	-	-	-	
2809	P	N	1区	32D11	0.30	0.27	0.32	不整形	箱状	C	-	圓片燒、 美濃燒	-	

## 観察表

土器・陶器観察表

No.	種類	形様	出土点	大きさ(cm)	色調	成形技法	施上	焼成	分類	備考				
グリッド	構造	幅	厚	底	外面	内面	外面	底面	施上	焼成				
1	直筒	圓	1区 37730	SE150	2	-	36 (32)	オリーブ黄	クロナデ	削り出し 高台	-	直好		
2	直筒	圓	1区 37177	SE087	4	-	-	オリーブ灰	クロナデ	削り出し 高台	-	直好		
3	土師質土器	小瓶	1区 32919	SE272	4	7.3	4.8 (2.3)	に赤い黄褐	クロナデ	クロナデ	赤切り (右斜板)	直好		
4	土師質土器	小瓶	1区 32919	SE272	4	7.8	5.0 (2.2)	に赤い黄褐	クロナデ	クロナデ	赤切り (右斜板)	直好		
5	土師質土器	小瓶	1区 37153	SE284	2	8.5	6.0 (1.9)	褐	ヨコナデ	ヨコナデ	削り出し 削面压板	-		
6	直筒	圓	1区 37153	SE284	3	-	16.0	-	直	あて具直	タキ	移底 直筒外端 タキ	直好	
7	直筒	圓	1区 37712-13	SE833	5	12.2	3.7 (3.4)	褐	クロナデ	クロナデ	削り出し 高台	-	直好	
8	直筒	圓	1区 37712-13	SE833	5	13.0	5.4 (3.4)	褐黄	クロナデ	クロナデ	削り出し 高台	-	直好	
9	直筒	圓	1区 37712-13	SE833	5	12.8	3.6 (3.9)	褐灰	クロナデ	クロナデ	削り出し 高台	-	直好	
10	直筒	圓	1区 37712-13	SE833	5	11.8	3.7 (4.0)	に赤い橙	クロナデ	クロナデ	削り出し 加熱	-	直好	
11	直筒	圓	1区 37712-13	SE833	5	-	5.8	-	直	クロナデ	クロナデ	削り出し 高台	-	直好
12	直筒	天井柄	1区 37712-13	SE833	5	11.8	- (4.8)	に赤い黄褐 暗赤	クロナデ	クロナデ	-	-	直好	
13	直筒	平底	1区 36810	SE870	5	12.8	-	浅黄	クロナデ	クロナデ	-	-	直好	
14	土師質土器	圓	1区 35613	SE806	-	12.0	5.6 (3.2)	に赤い黄褐	ヨコナデ	ヨコナデ	削面压板	-	美- 直好	
15	直筒	圓	1区 3552-7	SE863	8	-	15.0	-	直	クロナデ	削り出し 削面压板 →脚目	削り出し 高台	-	直好
16	直筒	圓	1区 35019-19	SE1042	1	35.6	-	直	クロナデ	クロナデ	-	-	直好	
17	直筒	圓	1区 35020	SE1042	1	-	-	直	クロナデ	クロナデ	-	-	直好	
18	直筒	圓	1区 3574	SE1384	2	-	7.3 (5.0)	褐白	クロナデ	クロナデ	静手切引 削面压板	直- 好	直好	
19	直筒	圓	1区 35033	SE0974	4	10.8	5.0 (2.4)	褐色オーブ 灰青	ヨコナデ	ヨコナデ	削り出し 削面压板 →脚目	削り出し 高台	-	直好
20	直筒	圓	1区 33313	SE1451	5	11.2	4.5 (3.7)	尾モチエ	クロナデ	クロナデ	削り出し クロナデ	-	直好	
21	直筒	圓	2区 4007	SE1307	5	-	(5.1)	オリーブ灰	クロナデ	クロナデ	-	-	直好	
22	直筒	圓	2区 4018	SE1210	2	25.2	- (29)	直	クロナデ	クロナデ	-	-	直好	
23	土師質土器	圓	2区 29119	SE1401	2	12.6	6.0 (2.7)	灰白	ヨコナデ	ヨコナデ	削面压板	-	直好	
24	直筒	圓	2区 38015	SE1982	2	-	-	直	クロナデ	クロナデ	削り出し 削面压板 →脚目	削り出し 高台	-	直好
25	直筒	圓	2区 38015	SE1982	2	-	14.0	-	直	クロナデ	クロナデ	静手切引 削面压板 →脚目	-	直好
26	直筒	圓	2区 38019	SE2501	4	22.0	7.8 (6.8)	直	クロナデ	クロナデ	静手切引 削面压板 →脚目	-	直好	
27	直筒	圓	2区 38019	SE2502	6	-	13.4	-	オリーブ灰	クロナデ	クロナデ	静手切引 削面压板 →脚目	-	直好
28	土師質土器	小瓶	2区 3174	SE3178	5	7.9	5.8 (1.5)	に赤い黄褐	ヨコナデ	ヨコナデ	削面压板	-	直好	
29	土師質土器	小瓶	2区 40012	SE1065	3	7.0	5.2 (1.6)	黄褐	クロナデ	クロナデ	赤切り (右斜板)	-	直好	
30	土師質土器	圓	3区 43203	SE3508	9	10.7	5.6 (2.1)	灰白	ヨコナデ	ヨコナデ	削面压板	-	直好	
31	直筒	圓	3区 41115	F9263	1	-	-	直	クロナデ	クロナデ	削り出し 削面压板 →脚目	-	直好	
32	土師質土器	楕	3区 42118	SE3704	7	13.4	7.6 (3.5)	に赤い黄褐	クロナデ	クロナデ	赤切り (右斜板)	直好	直好	
33	土師質土器	圓	3区 42128	SE3764	7	11.4	5.2 (2.3)	に赤い黄褐	ヨコナデ	ヨコナデ	削面压板	-	直好	
34	土師質土器	圓	3区 42128	SE3764	7	11.4	5.1 (2.1)	に赤い黄褐	ヨコナデ	ヨコナデ	削面压板	-	直好	
35	土師質土器	圓	3区 42128	SE3764	7	11.2	4.9 (2.0)	に赤い黄褐	ヨコナデ	ヨコナデ	削面压板	-	直好	
36	土師質土器	圓	3区 42128	SE3764	7	11.5	5.5 (2.1)	に赤い黄褐	ヨコナデ	ヨコナデ	削面压板	-	直好	
37	土師質土器	圓	3区 42128	SE3764	7	11.4	5.7 (2.0)	に赤い黄褐	ヨコナデ	ヨコナデ	削面压板	-	直好	

観察表

## 土器・陶器観察表

No.	種類	器種	出土点	大きさ(cm)	色調	成形技法	断面	底面	分類	備考
38	土器質土器	皿	グリード 遺構 層位 口徑 底径 高さ	3 16 42158 SE3764	7 11.6 5.4 20	に赤い黄橙	ヨコナメ 指捺印压板	ヨコナメ 指捺印压板	-	長・美 良好 BI類
39	土器質土器	皿	グリード 遺構 層位 口徑 底径 高さ	3 16 42158 SE3764	7 11.6 5.3 19	に赤い黄橙	ヨコナメ 指捺印压板	ヨコナメ 指捺印压板	-	長・美 良好 BI類
40	土器質土器	小皿	グリード 遺構 層位 口徑 底径 高さ	3 16 42158 SE3764	7 9.6 3.6 23	に赤い黄橙	ヨコナメ 指捺印压板	ヨコナメ 指捺印压板	-	長・美 良好 BI類
41	土器質土器	小皿	グリード 遺構 層位 口徑 底径 高さ	3 16 42158 SE3764	7 9.9 3.5 21	に赤い黄橙	ヨコナメ 指捺印压板	ヨコナメ 指捺印压板	-	長・美 良好 BI類
42	土器質土器	皿	グリード 遺構 層位 口徑 底径 高さ	3 16 42158 SE3764	7 10.0 2.8 20	に赤い黄橙	ヨコナメ 指捺印压板	ヨコナメ 指捺印压板	-	長・美 良好 BI類
43	土器質土器	皿	グリード 遺構 層位 口徑 底径 高さ	3 16 42158 SE3764	7 10.0 4.2 19	に赤い黄橙	ヨコナメ 指捺印压板	ヨコナメ 指捺印压板	-	長・美 良好 BI類
44	土器質土器	皿	グリード 遺構 層位 口徑 底径 高さ	3 16 42158 SE3764	7 10.0 4.0 20	に赤い黄橙	ヨコナメ 指捺印压板	ヨコナメ 指捺印压板	-	長・美 良好 BI類
45	土器質土器	皿	グリード 遺構 層位 口徑 底径 高さ	3 16 42158 SE3764	7 9.9 3.7 20	に赤い黄橙	ヨコナメ 指捺印压板	ヨコナメ 指捺印压板	-	長・美 良好 BI類
46	土器質土器	皿	グリード 遺構 層位 口徑 底径 高さ	3 16 42158 SE3764	7 9.8 3.9 20	に赤い黄橙	ヨコナメ 指捺印压板	ヨコナメ 指捺印压板	-	長・美 良好 BI類
47	土器質土器	皿	グリード 遺構 層位 口徑 底径 高さ	3 16 42158 SE3764	7 10.2 2.6 20	に赤い黄橙	ヨコナメ 指捺印压板	ヨコナメ 指捺印压板	-	長・美 良好 BI類
48	土器質土器	皿	グリード 遺構 層位 口徑 底径 高さ	3 16 42158 SE3764	7 10.2 4.4 21	に赤い黄橙	ヨコナメ 指捺印压板	ヨコナメ 指捺印压板	-	長・美 良好 BI類
49	土器質土器	皿	グリード 遺構 層位 口徑 底径 高さ	3 16 42158 SE3764	7 9.8 3.7 20	に赤い黄橙	ヨコナメ 指捺印压板	ヨコナメ 指捺印压板	-	長・美 良好 BI類
50	土器質土器	皿	グリード 遺構 層位 口徑 底径 高さ	3 16 42158 SE3940	5 10.8 (2.1)	に赤い黄橙	ヨコナメ 指捺印压板	ヨコナメ 指捺印压板	-	長・美 良好 BI類
51	海流域	甕	グリード 遺構 層位 口徑 底径 高さ	3 16 4225 SE4275	3 5.0 -	-	赤	赤	赤	直筒 13 手
52	海流域	甕	1区 3587	SK647	2 11.5 3.8 3.5	青	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	直筒	- 良好
53	海流域	甕	1区 3583	SK647	2 11.0 4.0 3.4	灰黄	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	直筒	- 良好
54	關門橋、 尾根跡、 尾根跡	甕	1区 3582	SK647	2 - - (6.2)	灰赤	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	-	- 良好
55	海流域	甕	1区 3587	SK651	3 11.3 3.4 3.3	に赤い黄橙	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	直筒	- 良好
56	海流域	甕	1区 3586	SK651	2 12.3 4.6 3.4	灰白	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	直筒	- 良好
57	海流域	甕	1区 3585	SK651	3 11.3 4.5 4.0	灰白	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	直筒	- 良好
58	瀬戸内、 尾根跡、 尾根跡	甕	1区 3587	SK651	3 14 (1.9)	淡黄	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	直筒	- 良好 1手
59	土器質土器	甕	1区 36021	SK3801	2 12.0 - (3.6)	に赤い橙	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	-	長・美 不良 A3類
60	土器質土器	甕	1区 36014	SK1128	2 12.4 8.8 3.2	に赤い橙	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	-	長・美 良好 A3類
61	海流域、 尾根跡、 尾根跡	甕	1区 36343	SK1227	2 29.1 - (6.8)	灰	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	-	長・美 良好 14C 手
62	土器質土器	甕	2区 4022	SK1306	- 12.0 - (3.4)	淡黄褐	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	-	長・美 良好 A20類
63	土器質土器	小甕	2区 39265	SK1359	1 6.8 - 2.3	浅黄褐	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	-	長・美 良好 A2類
64	海流域	甕	1区 33232	SK4086	2 12.9 4.9 4.2	に赤い橙	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	直筒	- 良好
65	海流域	甕	1区 33925-22	SK4086	4 - - 3.8 (2.6)	に赤い赤褐	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	直筒	- 良好
66	海流域	甕	1区 33925-22	SK4086	7 - - 10.7 -	オリーブ灰	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	直筒	- 良好
67	土器質土器	小甕	2区 3825	SK1355	3 8.4 6.2 1.8	黑	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	直筒 (右側)	- 不良 C1類
68	海流域	甕	1区 3882	SK760	2 - - -	灰	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	-	長・美 良好
69	海流域	甕	2区 36318	SK1834	2 - 4.5 -	浅黄	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	直筒	- 良好
70	越中嶺(標) 尾根跡、 尾根跡	甕	2区 36318	SK1834	2 - 10.4 -	明赤褐	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	直筒 (右側)	- 良好
71	土器質土器	甕	2区 3982	SK1946	2 12.1 6.1 2.3	に赤い黄橙	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	-	長・美 良好 BI類
72	土器質土器	甕	2区 37614	SK3600	8 12.2 7.3 3.4	青	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	直筒	- 良好 A3類
73	海流域	有台梅	2区 37614	SK3030	8 - 5.3 -	浅黄褐	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	直筒	- 良好
74	海流域	尾根跡、 尾根跡	2区 3410	SK2129	1 22.9 - -	灰	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	-	長・美 良好
75	海流域	甕	2区 3019	SK2973	2 7.0 - -	灰	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	-	長・美 良好 14C 手
76	海流域	甕	2区 3019	SK2973	2 - - -	灰	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	-	長・美 良好 14C 手

## 観察表

土器・陶器器観察表

No.	種類	器種	出土位置	大きさ(c.m.)	色調	成形技法	地上	底面	分類	備考	
77	青磁	瓶	3区 GK12	SK3259 6 - 45	-	底せり一縫	クロナード	割れ出し 高台	白-青 良好	上回 黒熱 柱脚付 13C後半-14C初	
78	土器質土器	皿	3区 GK20	SK3354 7 11.6 8.4 29	にぶい青	ヨコナード	ハラタケナリ 高台	美-青 良好	A1a類	内底面にスス付着	
79	刷毛目-板 大浅甌	小瓶	2区 201	SK347 2 11.2 6.0 21	灰白	ヨコナード	ハラタケナリ 高台	-	良好	黒熱 大浅甌 14C後半 内底面にスス付着 黒熱付	
80	土器質土器	小瓶	2区 301	SK347 1 8.3 - (20)	にぶい青褐	ヨコナード	ハラタケナリ 高台	-	良-青 良好	14C後半 内底面にスス付着 黒熱付	
81	土器質土器	皿	1区 302	SDH1 3 11.0 11.0 33	青	ヨコナード	ハラタケナリ 高台	-	長-青 青 不良	A1c類 口縁部有目付 内底スス付着	
82	土器質土器	皿	1区 303	SDH1 3-4 13.0 9.0 31	青灰青	ヨコナード	ハラタケナリ 高台	-	長-青 青 不良	A1c類 口縁部有目付 内底スス付着	
83	土器質土器	小瓶	1区 304	SDH1 5 9.4 6.4 23	灰白	ヨコナード	ヨコナード (底凹合)	赤堀り 高台	青-白 不良	C1a類 黒熱付	
84	青瓷	皿	1区 307	SDH1 2 10.5 3.1 29	明黄褐	ヨコナード	ヨコナード ヨコナード	割れ出し 高台	-	良好	内底面に黒熱 乳頭状の突起付 14C後半-15C前半
85	青瓷	盤	1区 308	SDH1 2 29.0 - (32)	灰	ヨコナード	ヨコナード	-	長-青 青 良好	14C後半	
86	青瓷	器	1区 325	SDH1 2 11.0 - (30)	灰白	ヨコナード	ヨコナード	-	青-長 青 良好	14C後半	
87	青瓷	盤	1区 332	SDH1 6 - 16.8 (5.2)	灰	ヨコナード	ヨコナード ハラタケナリ 高台	静かに切り落 テナリ 青-白 良好	内底擦 14C後半		
88	土器質土器	小瓶	1区 332	SDH1 1-2 8.3 5.9 21	浅黄褐	ヨコナード	ヨコナード ハラタケナリ 高台	-	青-白 良好	C1a類 14C後半	
89	青瓷	盤	1区 379	SDH1 3 37.0 - (6.0)	灰	ヨコナード	ヨコナード	-	長-青 青 良好	14C後半	
90	青瓷	盤	1区 380	SDH1 2 23.8 - (6.5)	灰	ヨコナード	ヨコナード	-	長-青 青 良好	14C後半	
91	青瓷	盤	1区 382	SDH3 3 6 - 12.4 (8.4)	灰	ヨコナード	ヨコナード ハラタケナリ 脚付	静かに切り落 テナリ 青-白 良好	14C後半		
92	青瓷	器	1区 387	SDH1 2 - - (3.6)	灰	青-白共通 ヨコナード	ヨコナード ハラタケナリ 脚付	-	長-青 青 良好	青熱に残る外輪の白化	
93	青瓷	器	1区 388	SDH1 2 - 15.0 (6.5)	灰	あて共通	タタキ 青-白共通 ハラタケナリ	静かに切り落 テナリ 青-白 良好	内底擦 14C後半		
94	青瓷	器	1区 389	SDH1 2 - 12.0 (7.1)	灰	ヨコナード	ヨコナード タタキ ハラタケナリ	静かに切り落 テナリ 青-白 良好	14C後半		
95	土器質土器	小瓶	1区 392	SDH1 1 8.1 6.2 20	浅黄褐	ヨコナード	ヨコナード	赤切り 青-白 良好	14C後半		
96	青瓷	盤	1区 393	SDH1 2 37.0 - (2.9)	灰	ヨコナード	ヨコナード ハラタケナリ 液波状 液波状	ヨコナード ハラタケナリ 青-白 良好	14C後半		
97	土器質土器	皿	1区 395	SDH2 3 12.4 - (3.7)	灰黄褐	ヨコナード	ヨコナード ハラタケナリ 脚付	ヨコナード ハラタケナリ 青-白 良好	14C後半		
98	青瓷	盤	1区 398	SDH2 3 26.4 - (6.1)	にぶい青褐	ヨコナード	ヨコナード ハラタケナリ 脚付	-	青-白 良好	14C後半	
99	朝鮮制	器	1区 377	SDH3 2 11.8 5.9 26	頬頬	ヨコナード	ヨコナード	割れ出し 高台	-	良好	内底面に丸に輪がかかる 14C後半
100	青瓷	器	1区 399	SDH5 2 31.4 - (8.0)	灰	あて共通	タタキ 青-白共通 ハラタケナリ	青-白 良好	14C後半		
101	土器質土器	小瓶	1区 398	SDH6 - 12.8 4.6 (3.6)	浅黄褐	ヨコナード	ヨコナード ハラタケナリ 脚付	-	青-長 青-白 不良	A2c類 内底スス付着	
102	土器質土器	皿	1区 399	SDH6 - 12.0 (6.2) (2.5)	にぶい青	ヨコナード	ヨコナード ハラタケナリ 脚付	-	青-長 青-白 良好	A1a類	
103	土器質土器	皿	1区 401	SDH6 2 11.0 5.5 26	浅黄褐	ヨコナード	ヨコナード	赤切り 青-白 良好	C1a類 口縁部2段ナラ		
104	土器質土器	皿	1区 398	SDH6 - - -	浅黄褐	ヨコナード	ヨコナード	ヘラ切り 青 良好	内底擦 外輪物 内底スス付着		
105	刷毛目-板 大浅甌	調査	1区 341	SDH6 7 6.4 12.0	灰白	ヨコナード	ヨコナード ハラタケナリ (右斜傾)	赤切り 青-白 良好	14C後半		
106	刷毛目-板 大浅甌	器	1区 336	SDH6 7 26.0 - -	灰白	ヨコナード	ヨコナード	-	白-黑 良好	中段-14C後半	
107	青瓷	盤	1区 3320	SDH6 8 - - -	灰	ヨコナード	ヨコナード ハラタケナリ 脚付	-	青-白 良好	14C後半 14C後半	
108	青瓷	盤	1区 3320	SDH6 6 26.0 (4.7)	灰	ヨコナード	ヨコナード ハラタケナリ 脚付	青-白 良好	14C後半		
109	青瓷	器	1区 3325	SDH6 8 11.0 (3.6)	青	ヨコナード	ヨコナード	-	青-長 青-白 良好	14C後半	
110	青瓷	器	1区 3328	SDH6 6 25.0 (8.9)	灰	あて共通 ヨコナード	タタキ ヨコナード	-	青-長 青-白 良好	14C後半	
111	青瓷	器	1区 3411	SDH6 4-5 37.6 - (8.0)	灰	あて共通 ヨコナード	タタキ ヨコナード	-	青-長 青-白 良好	14C後半	
112	土器質土器	皿	1区 3988	SDH80 - 13.4 6.4 30	橙	ヨコナード	ヨコナード ハラタケナリ 脚付	-	青 良好	A1a類	
113	土器質土器	皿	1区 3981	SDH80 - 13.2 8.0 33	青	ヨコナード	ヨコナード ハラタケナリ	-	青-長 青-白 不良	A1a類 口縁部2段ナラ	
114	土器質土器	皿	1区 3984	SDH80 - 13.0 - (3.0)	にぶい青	ヨコナード	ヨコナード ハラタケナリ	-	青 良好	A1a類	
115	土器質土器	皿	1区 3987	SDH80 - 12.5 7.5 31	にぶい青	ヨコナード	ヨコナード ハラタケナリ	底外側に青 柄付	青-白 良好	A1a類	

観察表

## 土器・陶器観察表

No.	種類	器種	出土点	大きさ(cm)	色調	成形技法	動土	焼成	分類	備考		
116	土器質土器	瓶	2区 3981	SD1380	-	12.4 6.3 3.4	青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	底面 青白地に光 澤仕上げ	美-移 不良 A1d類 外部に工具痕あり	
117	土器質土器	瓶	2区 3982	SD1380	-	12.4 5.8 3.2	黄青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	底面 青白地に光 澤仕上げによる 凹み	美-移 不良 A2d類 口縁部2段ナテ	
118	土器質土器	瓶	2区 3987	SD1380	-	12.0 6.8 2.9	青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	-	美-移 不良 A1d類	
119	土器質土器	瓶	2区 3987	SD1380	-	12.0 6.4 (3.1)	口-青-青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	-	美-移 良好 A2d類 内側にスズ留着	
120	土器質土器	瓶	2区 3988	SD1380	-	12.0 6.8 3.3	青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	-	美-移 良好 A1d類 口縁部2段ナテ	
121	土器質土器	瓶	2区 3988	SD1380	-	11.8 6.7 3.1	青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	底面 青白地に光 澤仕上げによる 凹み	美-移 不良 A2d類	
122	土器質土器	瓶	2区 3988	SD1380	-	11.2 6.4 2.5	青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	-	美-移 不良 A3a類	
123	土器質土器	小瓶	2区 3988	SD1380	-	8.7 5.9 1.8	青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	-	美-移 良好	
124	土器質土器	小瓶	2区 3987	SD1380	-	8.6 6.2 1.6	青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	-	美-移 良好	
125	土器質土器	小瓶	2区 3988	SD1380	-	8.4 5.1 2.0	口-青-青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	-	美-移 不良	
126	土器質土器	小瓶	2区 3988	SD1380	-	8.4 5.0 2.0	青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	-	美-移 良好	
127	土器質土器	小瓶	2区 3988	SD1380	-	8.2 5.7 1.6	青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	-	美-移 不良	
128	土器質土器	小瓶	2区 3988	SD1380	-	8.0 5.2 1.6	青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	-	美-移 良好	
129	土器質土器	小瓶	2区 3984	SD1380	-	7.7 5.1 1.6	青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	-	美-移 不良	
130	土器質土器	小瓶	2区 3985	SD1380	-	7.6 5.7 1.3	口-青-青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	-	美-移 不良	
131	土器質土器	小瓶	2区 3984	SD1380	-	7.6 5.4 1.0	青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	-	良-美 良好	
132	土器質土器	小瓶	2区 3987	SD1380	-	7.4 5.1 1.3	青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	-	美-移 不良	
133	土器質土器	小瓶	2区 3987	SD1380	-	7.2 5.0 1.6	青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	-	良-美 良好	
134	土器質土器	瓶	2区 3981	SD1380	-	11.6 - (1.6)	灰黑	ヨコナメ	ヨコナメ	-	良好 内面-外縁に黒化粧 付し、口-底 HC	
135	土器質土器	瓶	2区 3982	SD1428	3	12.4 3.3	口-青-青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	-	良-美 良好 A1e類 口縁部2段ナテ	
136	土器質土器	瓶	2区 3989	SD1428	3	12.5 9.1 2.8	浅黄青	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	底面 青白地に光 澤仕上げによる 凹み	良-美 不良 A1e類	
137	土器質	瓶-片口	2区 3981	SD1428	-	37.2 - (5.6)	オーバーブ	→脚目 口縁部直腹压板 底面状況	ヨコナメ	-	良-美 良好 V面 1SC 前半	
138	土器質	瓶-片口	2区 3981	SD1428	3	32.0 - (6.0)	灰白	ヨコナメ	ヨコナメ	-	良-美 良好 B面 1SC 非手	
139	土器質	瓶-片口	2区 3981	SD1428	-	11.3 (4.1)	明オーバー 底	ヨコナメ ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	静子-水切り 灰白-外縁 ナマケ	此面内外にスズ付着 内壁は青白地 口-底 HC 非手	
140	土器質	瓶	2区 3983	SD1428	-	-	青	あく抜 ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	-	良-美 良好 B1上 1SC 非手	
141	土器質	瓶	2区 3984	SD1428	-	-	青	あく抜 ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	-	良-美 良好 B2上 1SC 非手	
142	土器質-直曲底	瓶	2区 3982	SD1428	7	-	(6.5)	灰白	ヨコナメ ヨコナメ	-	良-美 良好 係縫の上から 外縁下に黒化粧 付し、口-底 HC	
143	土器質土器	瓶	2区 3983	SD1420	2	14.4 6.4 2.6	浅黄	ヨコナメ 直腹压板	ヨコナメ 直腹压板	-	長-美 良好 B1類 口縁部2段ナテ	
144	土器質	瓶	2区 3981	SD1540	3	13.2 4.0 3.4	明黄	ヨコナメ	ヨコナメ ヨコナメ	脚引出 高台	- 良好	
145	土器質	天日茶碗	2区 3980	SD1540	1-2	- 2.6	-	サハラ	ヨコナメ	脚引出 高台	- 良好	
146	土器質-境	丸碗	2区 3981	SD1540	5	10.6 5.2 2.6	浅黄	ヨコナメ 削削	ヨコナメ 削削	脚引出 高台	- 良好	
147	土器質-境	丸碗	2区 3981	SD1540	1	10.6 5.2 2.6	浅黄	ヨコナメ 削削	ヨコナメ 削削	脚引出 高台	- 良好	
148	土器質-境	丸碗	2区 3982	SD1540	2	- -	-	灰白	ヨコナメ	ヨコナメ 削削	- 良好	
149	土器質	有根	2区 3983	SD1540	1-2	12.0 6.0 2.5	灰白	ヨコナメ 文様付加	ヨコナメ 文様付加	脚引出 高台	- 良好	
150	土器質	瓶	2区 3981	SD1540	2	10.7 3.4 2.7	灰白	ヨコナメ	ヨコナメ ハラカズリ	- 良好 D類	高付文子で施 青白地に黒化粧 付し、口-底 HC	
151	白磁	瓶	2区 3989	SD1540	1-2	-	3.8	-	ヨコナメ	ヨコナメ	- 良好 D類	高付文子で施 青白地に黒化粧 付し、口-底 HC
152	白磁	瓶	2区 3983	SD1540	1-2	-	(1.6)	灰白	ヨコナメ	ヨコナメ	- 良好 D類	高付文子で施 青白地に黒化粧 付し、口-底 HC
153	白磁	瓶-片口	2区 3983	SD1540	1-2	25.0 -	-	灰	ヨコナメ →脚目	ヨコナメ	- 良-美 良好 U面 1SC 前半	

## 観察表

土器・陶器観察表

No.	種類	器種	出土位置	大きさ(cm)	色調	成形技法	断上	底上	分類	参考		
154	陶器	壺・口部	2区 30H22	S01540 1 - 24.8 -	灰黄	ロクロナデ →脚目	ロクロナデ	-	長・直 脚・直	良好		
155	陶器	壺・口部	2区 30H23	S01540 5 - 23.4 -	灰黄	ロクロナデ →脚目	ロクロナデ	-	長・直 脚・直	不良		
156	陶器	壺	2区 30H24	S01540 5 - 36.0 -	灰黄	あてて直 →コロナ	タタキ	-	長・直 脚	良好		
157	陶器	壺	2区 30H24	S01540 2 - -	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	-	長・直 脚	良好		
158	陶器	壺	2区 30H28	S01540 5 - -	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	-	長・直 脚	良好		
159	陶器	壺	2区 29H1	S01540 3 - -	灰	あてて直 →コロナ	タタキ	-	長・直 脚	良好		
160	陶器	壺	2区 29H5	S01540 1 - -	灰	あてて直 →コロナ	タタキ	移底	長・直 脚	良好		
161	陶器	壺	2区 30H3	S01540 1-2 - 6.0	灰黄	ロクロナデ	ロクロナデ 脚手付切 底外露 ケズリ	長・直 脚	良好	V-足		
162	土器買土器	小器	2区 30H8	S02276 1 6.6 4.5 1.5	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ 脚手付切 〔右脚軸〕	長・直 脚	良好	Clan 内:「直角切口」 右:「脚軸」		
163	土器買土器	壺	2区 31H2	S02162 2 12.0 6.0 2.4	灰白	ロコナデ 脚手付底	ロコナデ	-	脚	良好	Aba類	
164	土器買土器	壺	2区 31H3	S03990 1 12.8 5.4 3.2	灰黑	丸具底	-	長・直 脚	良好	Aba類		
165	土器買土器	壺	2区 35H3	S03990 - - 5.0 (2.7)	灰白	ロコナデ 脚手付底	ロコナデ 脚手付底	-	長・直 脚	不良	Aba類 内:「直角切口」 左:「土器」	
166	土器買土器	小瓶	2区 35H2	S03990 1 9.0 6.8 1.9	灰黑	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切削	長・直 脚	良好	同上	
167	陶器	壺	2区 35H3	S03990 1 - - 0.3?	灰黑	ロコナデ	ロコナデ 脚手付底	-	長・直 脚	良好	Clan 内:「直角切口」 右:「脚軸」	
168	陶器・ 漆器	漆桶深腹	-	S03990 1 - - 15.9 (5.6)	灰白	ロクロナデ ロコナデ	ロクロナデ 脚手付底	脚手付底	-	良好	Clan 内:「直角切口」 中:「直角」	
169	土器買土器	壺	1区 34H2	S12.4 - (2.4)	明褐色	ロコナデ	ロコナデ	-	脚	不良	Aba類 内:「直角切口」 右:「脚軸」	
170	土器買土器	壺	1区 35H4	4 13.2 7.6 (2.5)	灰白	ロコナデ 脚手付底	ロコナデ 脚手付底	-	脚	良好	Aba類 内:「直角切口」 左:「脚軸」	
171	土器買土器	小器	1区 34H20	4 - 4.7 (0.9)	灰黑	ロクロナデ	ロクロナデ ヘラ切削	-	直	不良	Clan 内:「直角切口」 右:「脚軸」	
172	陶器	壺	1区 34H20	4 7.4 3.0 3.1	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ 〔右脚軸〕	-	直	良好	Clan 内:「直角切口」 右:「脚軸」	
173	陶器	天日茶碗	1区 34H20	4 11.2 -	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	-	白・黑	良好	IC-4 - 17C 前	
174	陶器	碗	1区 35H3	2 - -	オリーブ	ロクロナデ	ロクロナデ	-	直	良好	内:「直角」	
175	陶器	壺	1区 28G1	3 - 11.0 (5.1)	灰	ロクロナデ	ロクロナデ 脚手付底	脚手付 高台	-	直	良好	Clan 内:「直角切口」 右:「脚軸」
176	陶器	壺	1区 34H20	4 - -	灰黑	あく瓶	ロクロナデ	-	直	良好	IC-直付	
177	陶器	壺・ 口部	-	近鉄状 道遺	4 - 7.2 -	灰	ロクロナデ →脚目	ロクロナデ 脚手付	脚手付 高台	-	直・直 脚	V期 17C 前
178	陶器	壺	1区 37H1-20	S3000 3 11.4 (9.2)	灰	モロソーピ	ロクロナデ	ロクロナデ 脚手付 高台	-	直	良好	内:～直付は「基盤 乳頭付付」の付付 右:「直付」
179	信楽焼	壺	1区 30H13	P61 1 - -	白	ロクロナデ	ロクロナデ	-	直	良好	無記 13C 前	
180	土器買土器	壺	1区 30H14	P81 4 14.8 - (3.5)	黄褐	ロコナデ 脚手付底	ロコナデ 脚手付底	-	直・移	良好	Clan 内:「直角切口」 右:「脚軸」	
181	信楽焼	壺	1区 30H16	P136 3 11.6 4.0 3.2	灰黒	ロクロナデ	ロクロナデ 脚手付 高台	-	直	良好	Clan 内:「直角切口」 右:「脚軸」	
182	陶器・ 漆器	天日茶碗	1区 34H20	P407 1 - -	黑	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	良好	No.178 内:「直角」	
183	土器買土器	壺	1区 34H25	P3296 1 13.2 7.0 3.4	灰黄	ロコナデ 脚手付底	ロコナデ 脚手付底	-	長・直 脚	良好	Aba類 内:「直角」	
184	陶器	壺・ 口部	1区 35H23	P2804 1 32.0 - (10.9)	灰	ロクロナデ →脚目	ロクロナデ	-	長・直 脚	良好	前10月 17C 前	
185	陶器	天日茶碗	2区 32H16	P2809 1 - -	黑	ロクロナデ	ロクロナデ 脚手付底	脚手付 高台	-	直	良好	No.178 内:「直角」
186	陶器	壺	2区 38H11	P1570 1-2 - 16.8 (3.6)	灰	ロクロナデ	ロクロナデ 脚手付底	脚底 ケズリ	直・移	良好	大根葉型 IC-4 - 17C 前	
187	土器買土器	壺	1区 32H25	P2221 1 12.2 - (2.4)	灰黒	ロコナデ	ロコナデ	-	直・直 脚	良好	内:「直角」	
188	土器買土器	小瓶	1区 40K2	P3033 1 9.4 - (2.0)	黑	ロコナデ 脚手付底	ロコナデ 脚手付底	-	直	良好	内:「直角」	
189	土器買土器	小瓶	1区 40K2	P3033 4 9.0 2.0 1.9	灰白	ロコナデ 脚手付底	ロコナデ 脚手付底	-	直	良好	内:直・小・直付	
190	土器買土器	小瓶	1区 40K2	P3579 1 9.0 2.0 1.9	浅黄	ロコナデ	ロコナデ 脚手付底	-	直	良好	BT類 内:「直角」	
191	陶器	花瓶	2区 30H23	P2995 1 - 3.6 (6.2)	灰	-	ロクロナデ	ロクロナデ 脚手付底 ケズリ	-	直	良好	前10月 13C-4 - 17C 前
192	陶器	壺・ 口部	1区 34H2	S6210 1 23.7 12.6 10.8	灰黑	ロクロナデ	ロクロナデ 脚手付底 ケズリ	-	長・直 脚	良好	前10月 13C-4 - 17C 前	
193	陶器	壺・ 口部	-	S04193 - 28.2 - (4.2)	灰白	ロクロナデ →脚目	ロクロナデ	-	直	不良	前10月 13C-4 - 17C 前	

## 観察表

## 土器・陶器観察表

No.	種類	器種	出土地点	大きさ(cm)		色調	成形技法	胎上	焼成	分類	備考	
				グリッド	通標	幅	厚					
194	直筒甌	足跡・片口跡	-	SD4193	-	36.0	-	(4.6)	灰	ロクロナド	-	長・灰・薄 良好
195	直筒甌	足跡・片口跡	-	SD4193	3	32.0	-	(4.4)	灰白	ロクロナド →削目	-	美 不良
196	青磁	甌	1区 2735	-	II	13.0	-	(2.4)	オリーブ灰	ロクロナド	-	- 良好
197	青磁	足跡・片口跡	1区 3520	-	II	-	-	-	灰	ロクロナド →削目	-	長・灰・薄 良好
283	土器皿	鉢	1区 33721-22	SK4086	4	-	-	-	灰白	-	-	青 良好
284	土器皿	土鉢	1区 33721-22	SK4086	8	4.6	-	5.0	に赤い模様	ナド	粗面粗粒	- 良好

## 石器・石製品観察表

No.	種類	地区	出土地点	大きさ				石材	遺存状況	備考			
				グリッド	通標	幅(cm)	厚(cm)						
198	砥石	2区	SD218	P5417	I	10.1	3.3	2.4	90	磨研石	上部欠	使用表面真右左	
199	砥石	1区	3776	SE534	1	(5.3)	2.7	1.6	50	磨研石	上部欠	使用表面真右左(ほぼ全面)	
200	砥石	1区	3773	SE687	5	6.4	3.0	2.3	55	磨研石	下部欠	使用表面真右左(ほぼ全面)	
201	砥石	1区	34617	SI1160	-	9.6	4.7	3.9	145	磨研石	片面欠	使用表面真右左(ほぼ全面)	
202	砥石	2区	3895	SE1212	2	5.4	3.8	2.2	45	磨研石	上部欠	使用表面真右左(ほぼ全面)	
203	砥石	2区	37716	SE2281	8	14.2	4.5	4.0	655	磨研石	下部欠	使用表面真右左(ほぼ全面)	
204	砥石	3区	41115	SE3623	6	6.9	4.0	1.4	55	磨研石	下部欠	使用表面真右左(ほぼ全面)	
205	砥石	1区	37717	SD41	4	10.2	3.2	2.9	155	磨研石	下部欠	使用表面真全面、右前面	
206	砥石	1区	34012	SD345	3	6.6	5.6	4.1	250	砂岩	下部欠	使用表面真右左(ほぼ全面)	
207	砥石	1区	3776	F530	5	8.4	3.1	2.0	85	磨研石	上部欠	使用表面真右左(ほぼ全面)	
208	砥石	2区	3222	-	II	8.5	5.4	2.1	105	磨研石	下部欠	使用表面真右左(ほぼ全面)	
209	砥石	1区	37722	-	II	5.1	3.9	3.4	110	磨研石	下部欠	使用表面真右左(ほぼ全面)	
210	研磨石斧	1区	35717	SE860	4	7.4	4.9	1.4	105	蛇紋岩	上部欠	使用表面真右左(ほぼ全面)	
211	石鏟?	3区	43120	SE3260	6	-	-	-	945	磨研石	上・下部欠	使用表面真右左(ほぼ全面)	
212	白	3区	41115	SE3623	-	-	-	-	9.9	4460	安山岩	大部分欠	使用面無
213	白	2区	36118	SK1834	3・4	29.9	20.6	8.6	9650	安山岩	-	使用面無	
214	白	2区	38623	SD1428	5	-	-	-	520	花崗岩	大部分欠	使用面無	
215	白	2区	36921	SD1540	2	-	-	-	7.5	1150	安山岩	大部分欠	使用面無
216	石臼?	2区	45821	-	II	-	-	(4.6)	165	砂岩	下部欠	-	

## 木製品観察表

No.	種類	地区	出土地点	量(㌘)				本取	樹種	備考
				グリッド	通標	幅	厚			
217	柱根	37715	P223	1	67.0	19.2	16.0	心持丸木	クリ	
218	柱根	37719	P321	1	38.2	5.8	5.7	心持丸木	クリ	
219	柱根	37733	P261	1	38.2	13.2	11.7	心持丸木	アヌラ	
220	柱根	36021	P1609	3	46.8	12.6	11.1	分側角材	スギ	
221	柱根	34021	P351	1	54.9	18.6	14.8	心持丸木	コナラ属	コナラ属
222	柱根	36F14	P355	2	66.4	13.4	12.8	心持丸木	クリ	
223	柱根	35E8	P1660	1	66.1	15.6	13.4	分側角材	アヌラ	
224	柱根	37715	P732	2	34.4	15.1	10.3	心持丸木	クリ	
225	柱根	26722	P912	2	36.3	13.5	9.5	平砍材	クリ	
226	柱根	36113	P1449	1	49.0	19.9	17.8	心持丸木	クリ	
227	柱根	3918	P2263	1	25.2	13.7	11.2	分側角材	ブナ属	
228	柱根	31J7	P2966	1	43.8	7.7	7.7	心持丸木	クリ	
229	柱根	43E	P3097	3	67.5	14.2	12.8	心持丸木	クリ	
230	柱根	32J8・13	P3428	2	50.8	14.5	10.9	心持丸木	クリ	
231	柱根	32D26	P1614	1	59.4	17.0	14.1	心持丸木	クリ	
232	漆器柄	37712	SE383	5	-	5.6	(3.0)			内:赤 外:黒
233	漆器柄	37716	SE2281	8	14.0	7.9	(6.0)			高台矢
234	漆器柄	37711	SE2536	4	-	(9.0)	(3.5)			内:赤 外:黒
235	漆器柄	45221	SE2261	7	14.7	7.0	6.0	横木地板	ブナ属	内:赤 外:黒
236	漆器柄	4218	SE3719	9	-	8.5	(6.7)	横木地板	ハリギリ	内:赤 外:黒 背外面に印
237	漆器柄	33E18	SE1451	1	-	5.8	(4.2)			内:赤 外:黒
238	漆器柄	-	-	II	12.3	6.1	5.0			内:赤 外:黒
239	漆器柄	33J3	暗渠	-	11.0	5.3	4.0			内:赤 外:黒 高台内:黒 背外面に印

観察表

木製品観察表

No.	器種	出土地点		法量(cm)		本取	樹種	備考
		グリッド	遺構	幅・口径	高さ・基高			
240	盤	38816	SE1563	7	基高: 29.2	27.6	高さ: 1.7	縦目 ブナ属
241	盤	4522	SE2361	7	302	(15.2)	5.5	縦目 ブナ属
242	箸	36417	SE783	高: 7 厚: 2.3	23.3	0.6	0.6	分岐角棒 スギ
243	箸	3784	SK2030	7	19.7	-	0.6	分岐棒状 スギ
244	杓子	32111	SE7000	5	24.5	6.8	0.8	縦目 スギ
245	曲物成板	32120	SE267	4	33.2	7.8	1.4	
246	曲物成板	35179	SE866	6	9.9	6.1	0.7	
247	円形板	403	SE1207	5	21.9	15.9	1.2	縦目 スギ
248	曲物成板	38816	SE1563	7	-	16.0	0.5	
249	曲物成板	37114	SE2007	5	19.7	10.1	1.0	縦目 スギ
250	曲物成板	37116	SE2281	5	20.7	9.5	0.6	
251	曲物成板	37116	SE2281	8	31.7	8.6	2.0	板目～縦目 マツ属 櫛齿管束 審属
252	曲物	37116	SE2281	8	18.4	-	厚: 5 : 0.2 基高: 15.0	縦目～横目 板目～縦目 アヌナロ
253	円形板	3117	SE2984	3	20.3	20.5	0.8	縦目 スギ
254	直板	32111	SE3900	5	19.3	18.8	0.8	縦目 スギ
255	直板	3315	SE4067	8	25.1	12.6	1.3	縦目 スギ
256	直板	32013	SK4087	4	20.9	7.2	0.9	縦目 スギ
257	直板(削付)	25117	SE783	5	16.0	縦: 16.0 底: 15.0	厚: 0.3 基高: 10.1	縦板 板目 スギ
258	直板(削付)	3893	SE1518	6	10.8	8.9	厚: 0.2 基高: 8.9	縦板 縦目 スギ
259	直板(削付)	3895	SE1518	6	56.5	1.6	1.0	削出形 スギ
260	直板(削付)	32121	SD41	2	9.6	9.0	厚: 0.2 基高: 9.2	縦板 板目 スギ
261	直板	38916	SE1568	6	-	4.2	1.4	心持丸木 クリ
262	木製品	38921	SE1568	6	-	-	厚: 0.2 基高: 8.7	焦げてスズ化
263	板棒状	37116	SE2281	8	31.6	20	1.0	板目 スギ
264	平手板	SD1492	4	19.1	8.8	0.9	板目 スギ	
265	F板	22122	SK4086	9	19.5	10.3	5.9	面面 直板 スギ
266	F板	22122	SK4086	9	20.9	10.2	5.7	面面 直板 スギ
267	F板	32013	SK4087	4	21.3	9.2	1.3	面面 直板 スギ
268	F板	32022	SD41	4	(18.1)	8.1	1.2	面面 直板 スギ
269	F板	32118	SD41	2	19.8	10.3	7.1	面面 直板 スギ
270	直板	38915	SE1568	3	7.5	22.3	縦: 2.6 厚: 1.4	身: 直板 ブナ属
271	直板	4218	SE2719	9	60.8	11.7	納: 4.2	心持材 エノキ属
272	直具	3385	SE4067	7	61.5	5.9	3.7	身: 直板 クリ
273	直具	3211	P2119	1	64.5	83	7.5	柄: 開出丸 クリ
274	四角板	32119	SE272	4	14.6	14.3	0.9	縦目 スギ
275	木製品	36612	SE777	7	125.0	10.6	1.9	板目板 スギ
276	木製品	35179	SE8832	7	34.9	7.2	1.2	
277	板	403	SE1207	5	36.7	8.0	0.7	縦目 スギ
278	板材	38816	SE1563	7	34.8	12.4	1.5	縦目 スギ
279	板材	4218	SE3704	7	28.9	7.5	1.6	縦目板 スギ
280	木製品	3317	SD41	2	32.5	6.1	0.8	縦目 スギ
281	結縄車?	37E	SX300	2	7.3	6.7	0.7	縦目 アヌナロ
282	杭	34G16	SD4182	-	57.2	6.1	3.8	

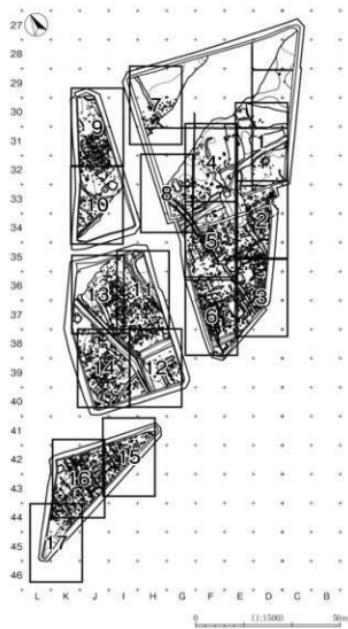
金属製品観察表

No.	器種	出土地点		大きさ		備考	
		グリッド	遺構	幅(cm)	長さ(cm)		
285	鉄劍	1区	3205	SE179	1	(6.9) (1.7) (2.3)	鉄劍頭部

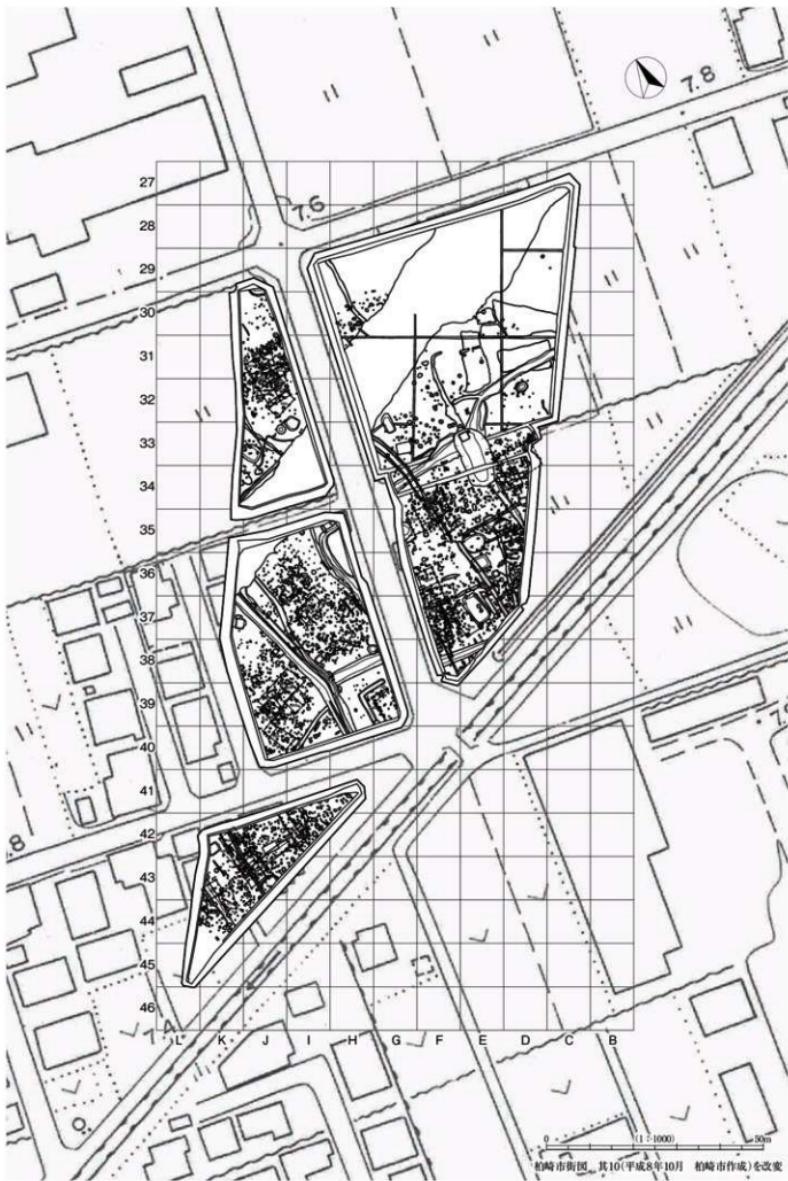
金貨観察表

No.	器種	出土地点		大きさ		重量(g)	備考
		グリッド	遺構	外径(mm)	穿孔(mm)		
286	熊本元貢	3区	44K7	SE3507	6	24.04	6.21 1.42 2.08 北宋 1068 貢書
287	熊本元貢	2区	38123	SK1869	2	23.80	6.44 1.28 1.59 北宋 1068 貢書。背説様。背左上月文？
288	足利元貢	2区	38123	SK1869	2	24.32	5.84 1.38 2.64 北宋 1064
289	坪井元貢	2区	390125	SK1996	2	22.72	6.22 1.04 (1.24) 北宋 1069
290	永宗元貢	2区	390125	SK1996	2	25.12	5.56 1.26 (2.50) 明 1408
291	早末元貢	2区	3141	SE3150	6	24.56	6.30 1.01 3.29 北宋 1038 貢書

# 図 版



遺構平面分割模式図



図版 2

1・2区全体図



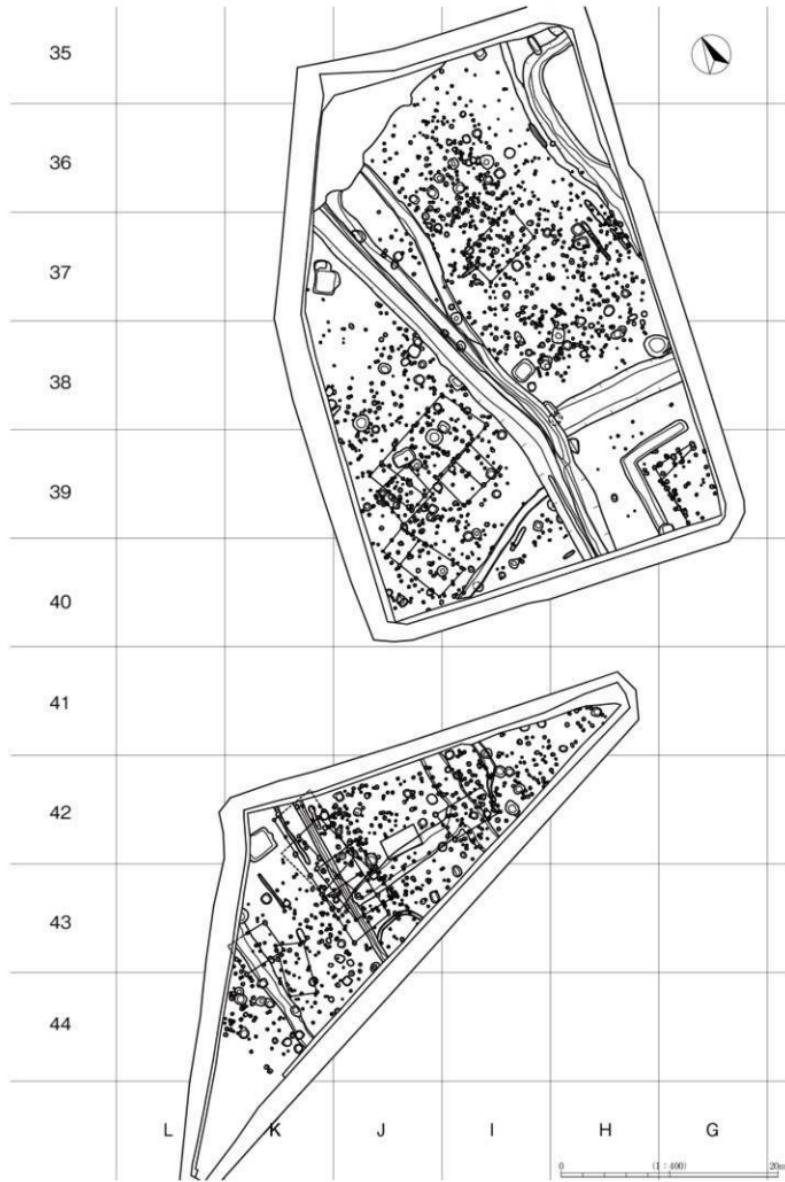
1・2区全体図2

図版3



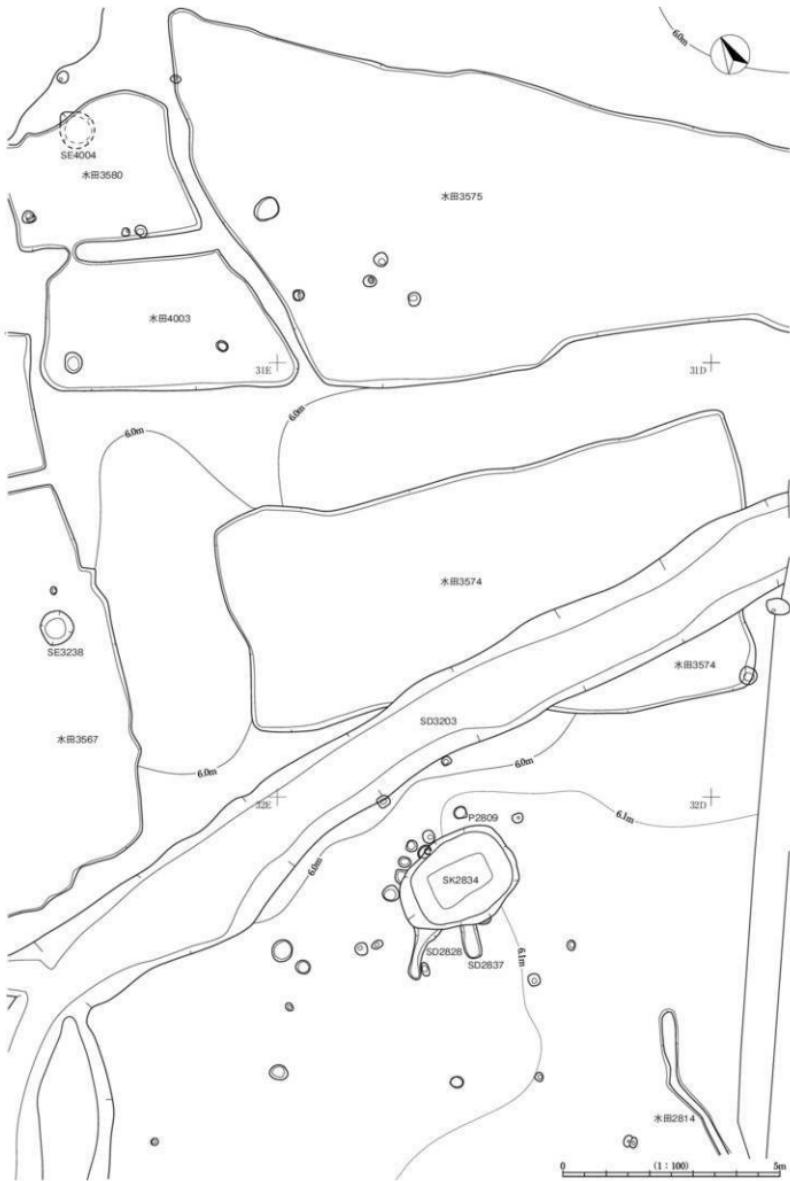
図版4

2・3区全体図



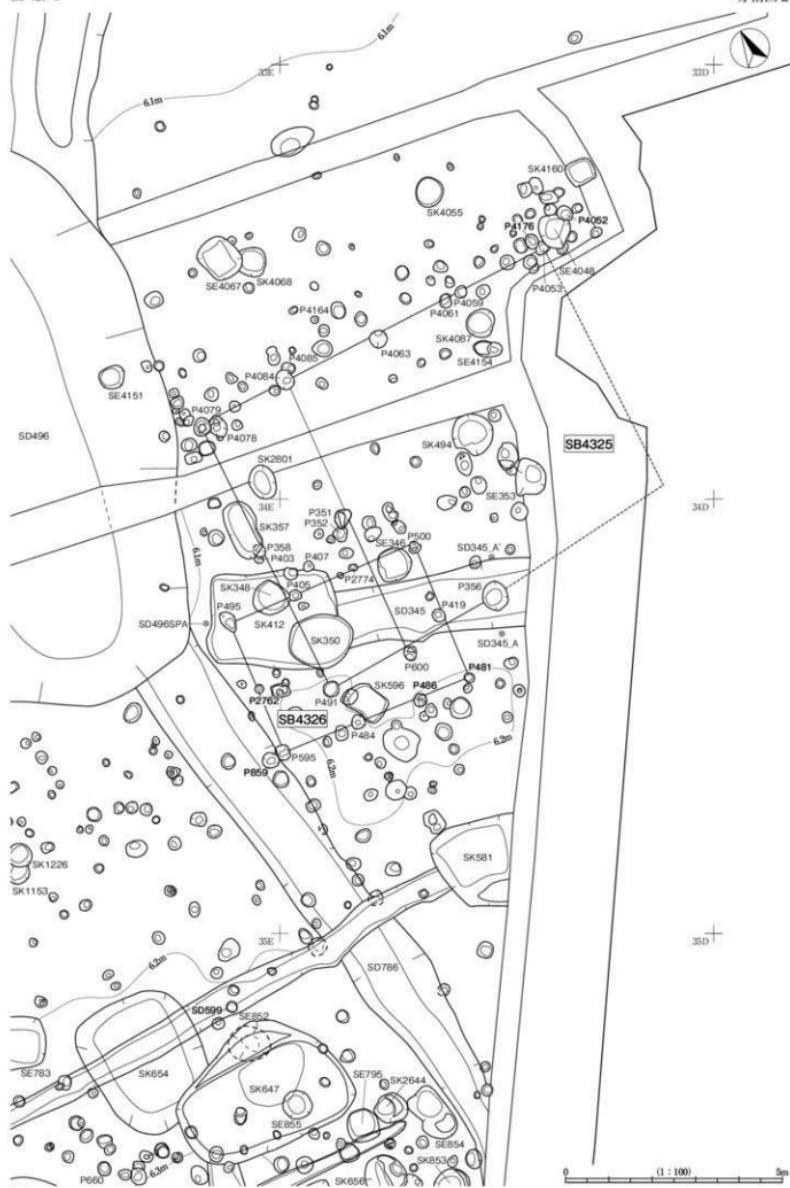
分割図1

図版5



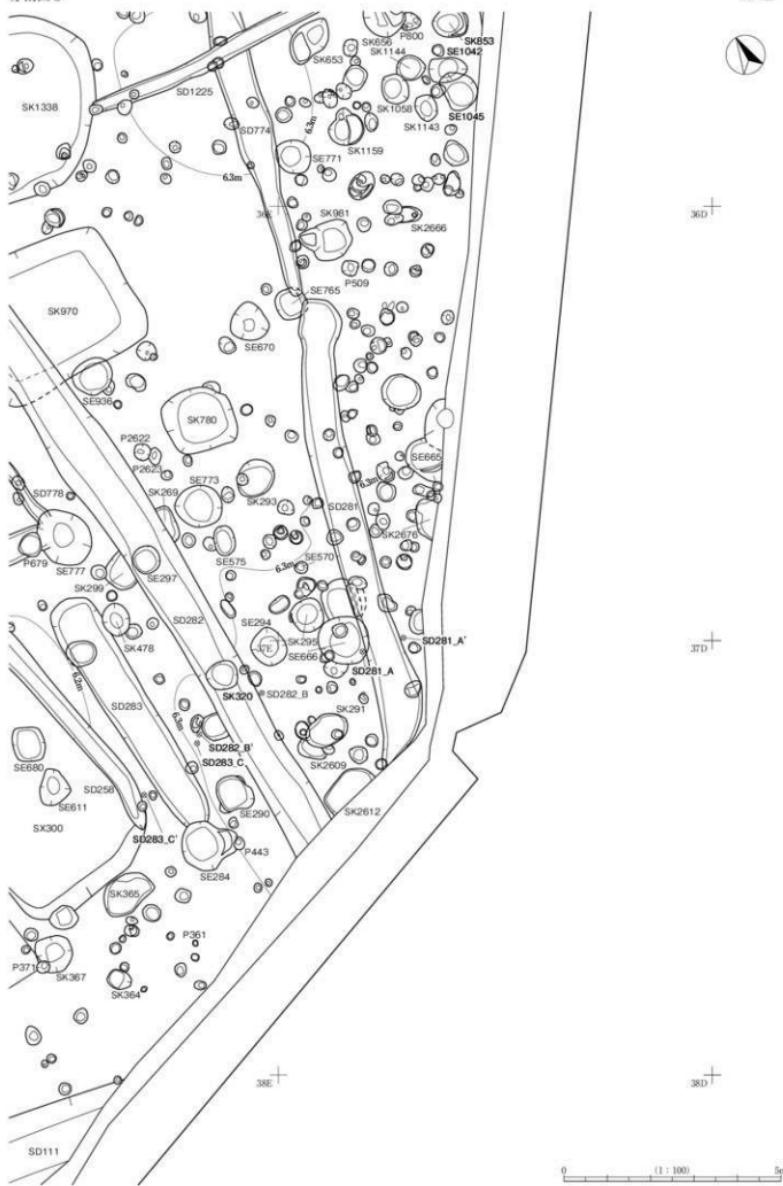
圖版 6

分割図2



分割圖 3

図版 7



図版 8



分割図 4

分割圖 5

圖版 9

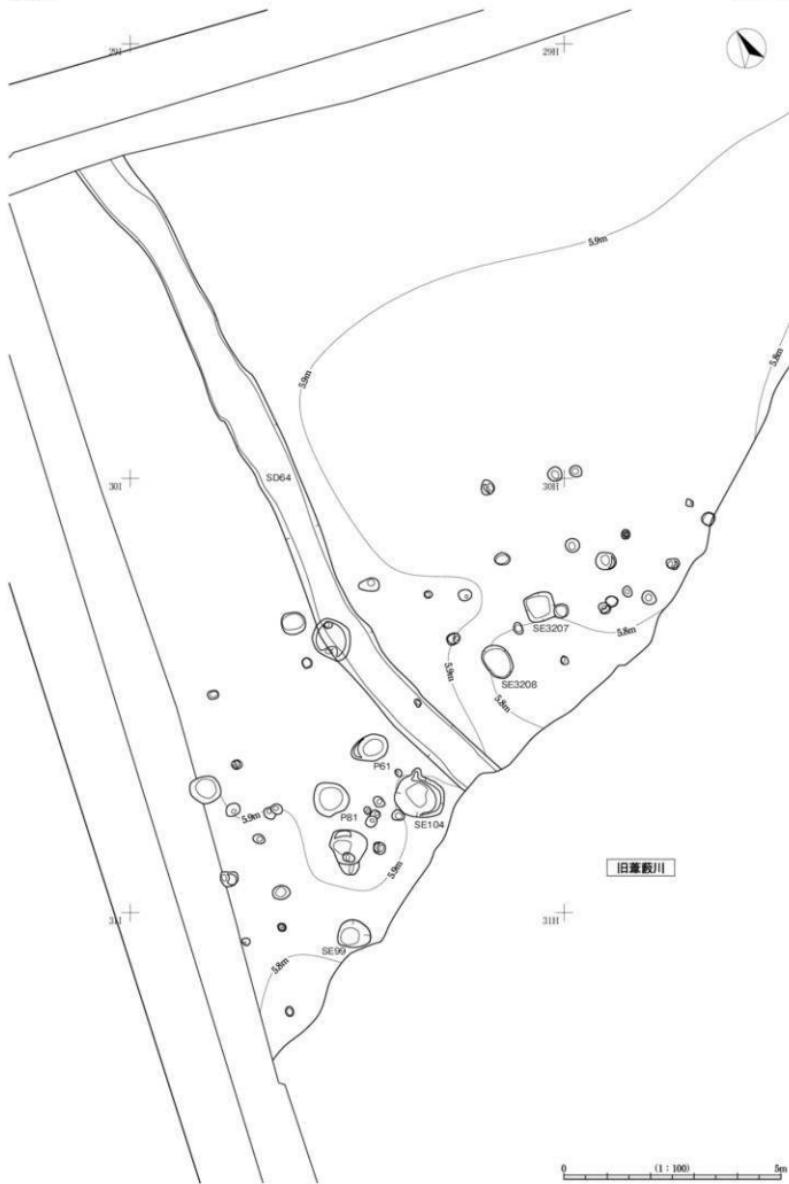


圖 版 10



分割図7

図版11



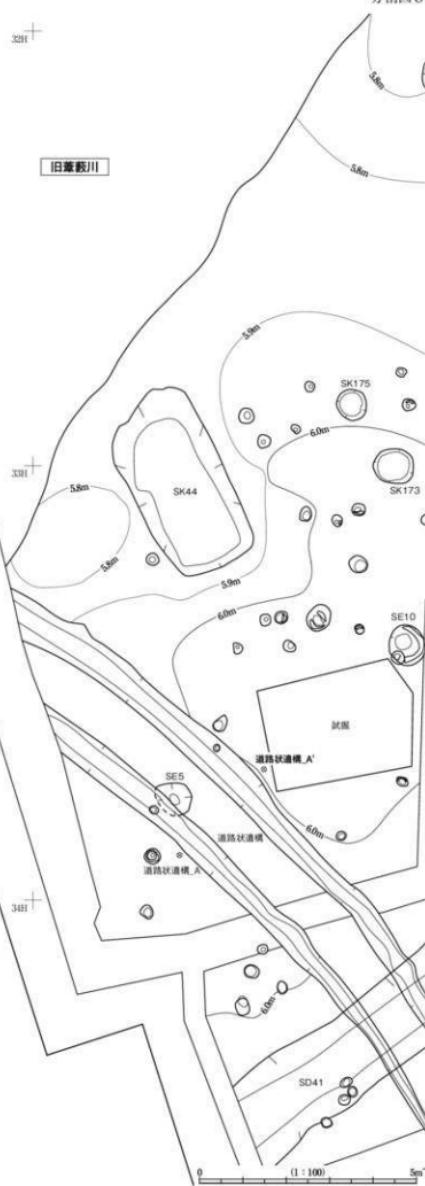
圖版 12



225

旧薙萩川

分割図 8



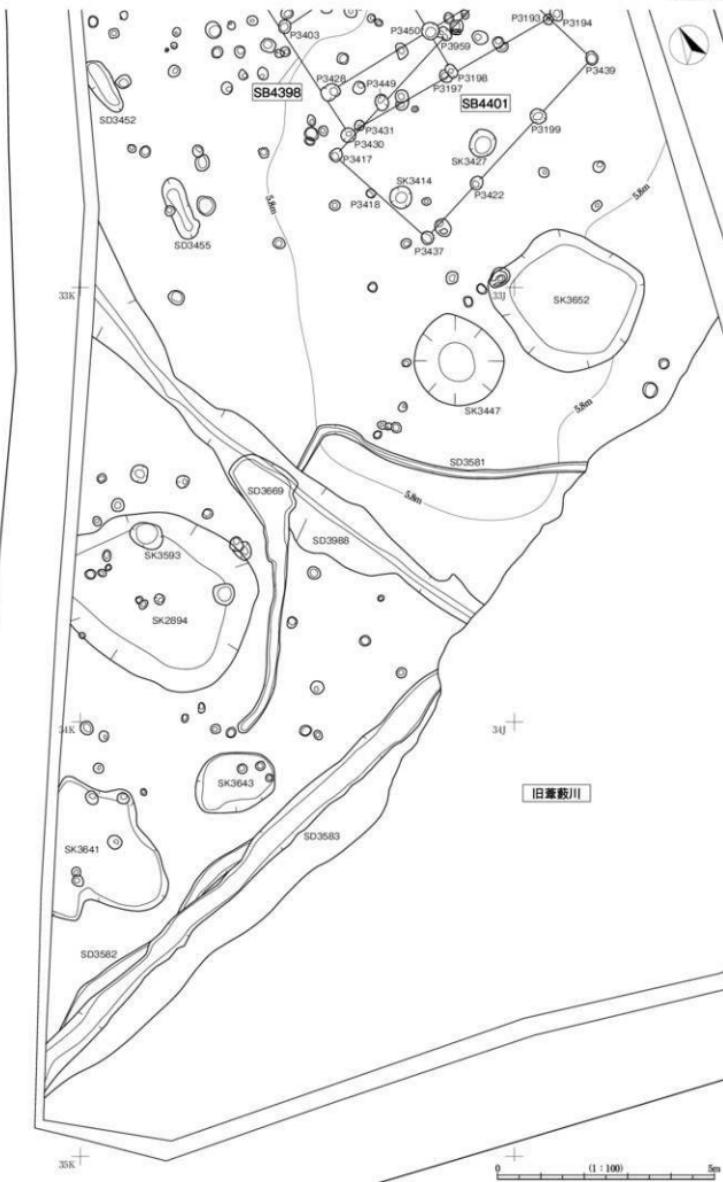
分割圖 9

圖版 13



図版 14

分割図10



分割图11

图版 15

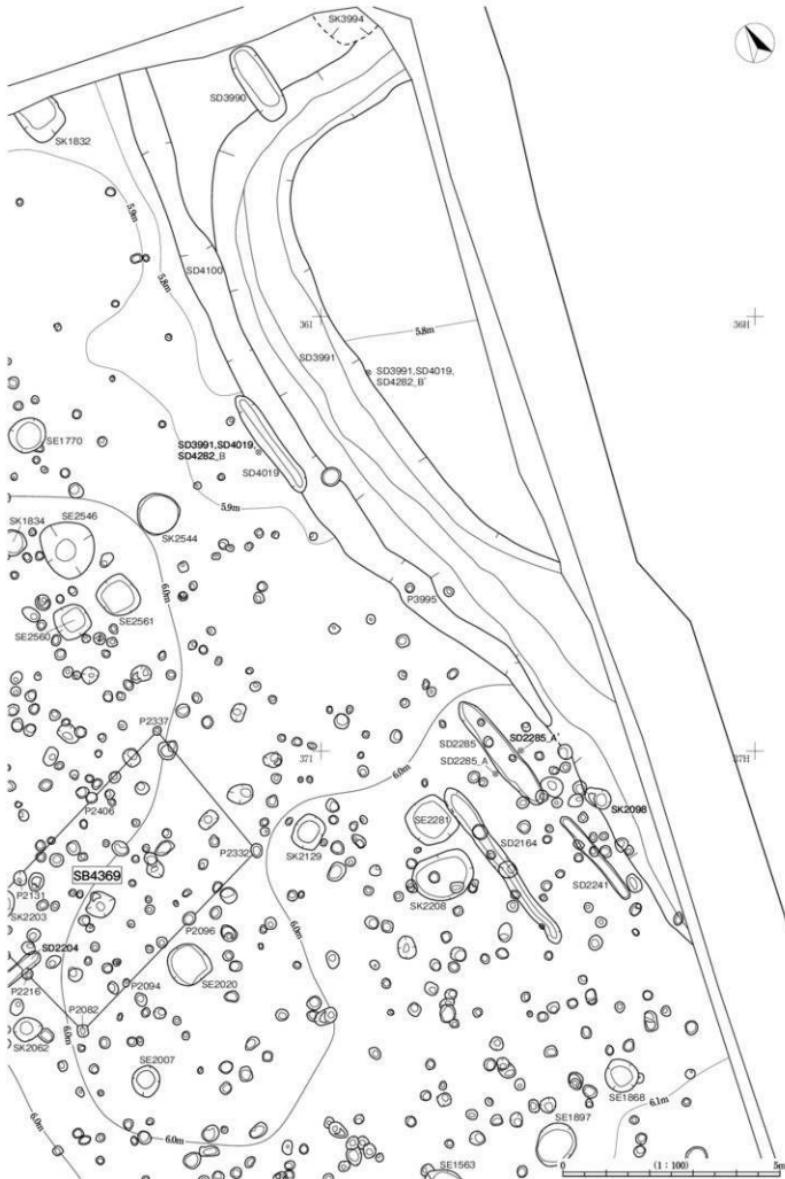


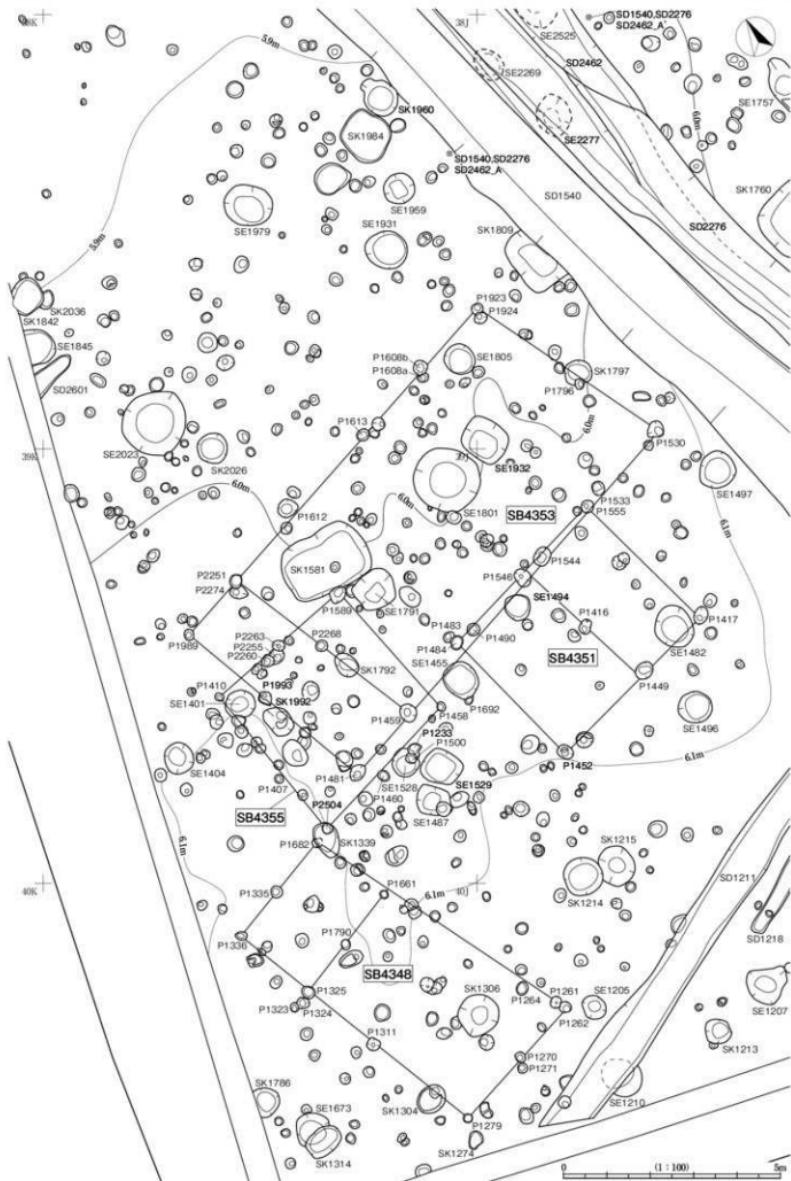
圖 版 16





図版 18

分割図14



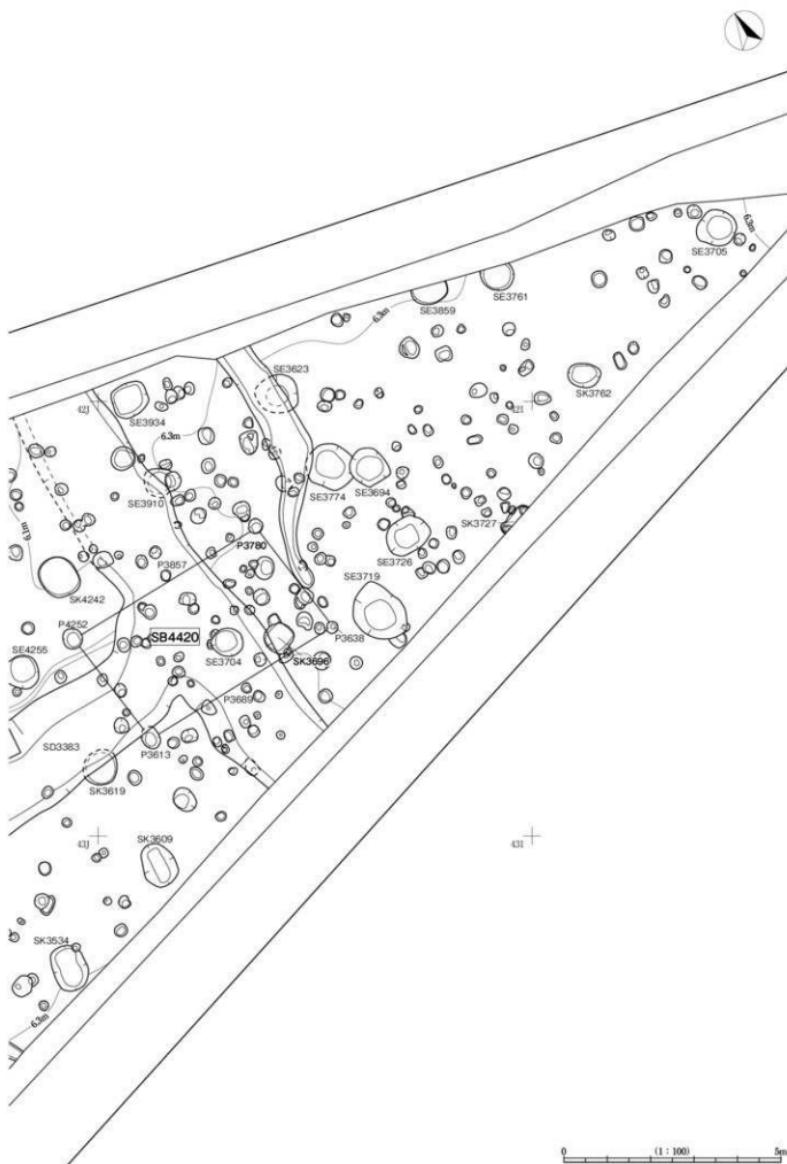


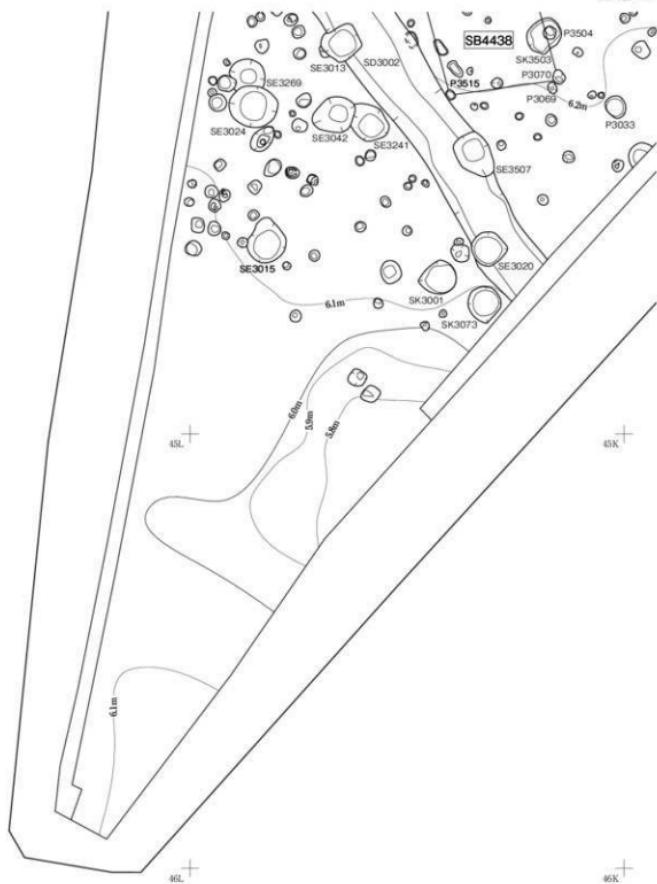
圖 版 20

分割圖16



分割图17

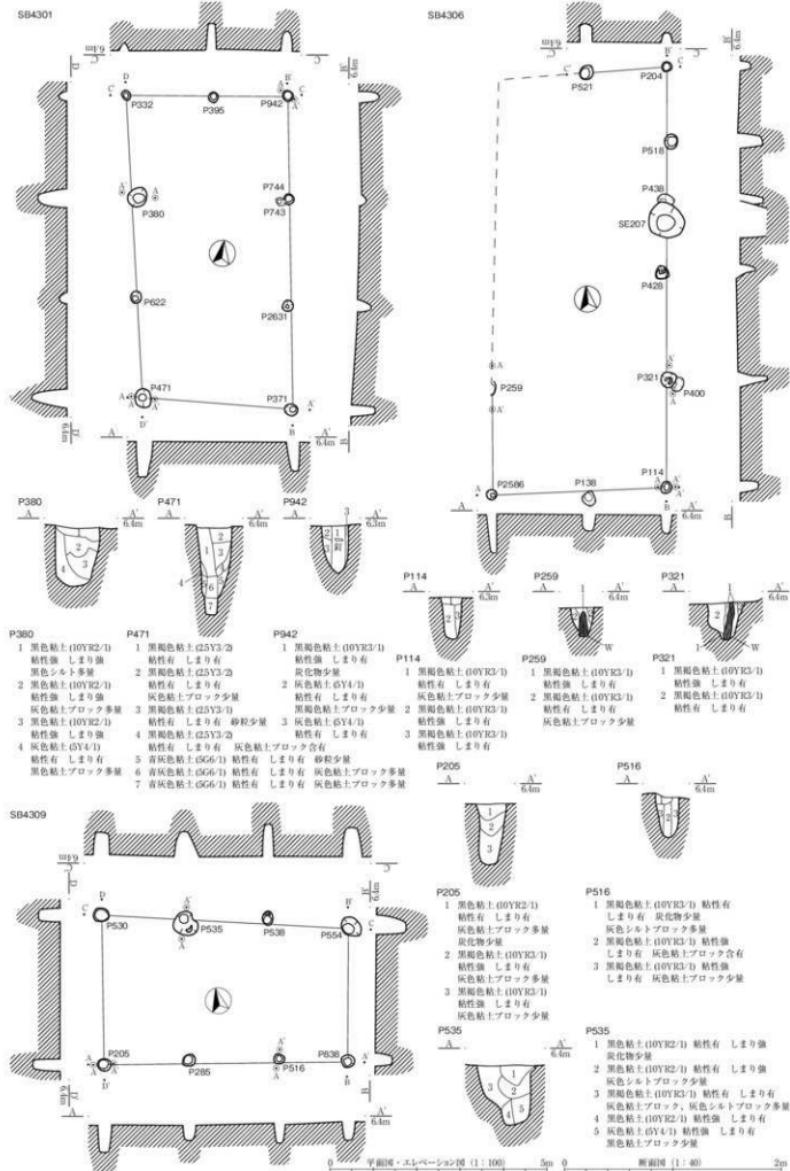
图版 21



0 (1 : 100) 5m

図版 22

造構個別図 1 挖立柱建物 I



遺構個別図2 捕立柱建物2

図版 23

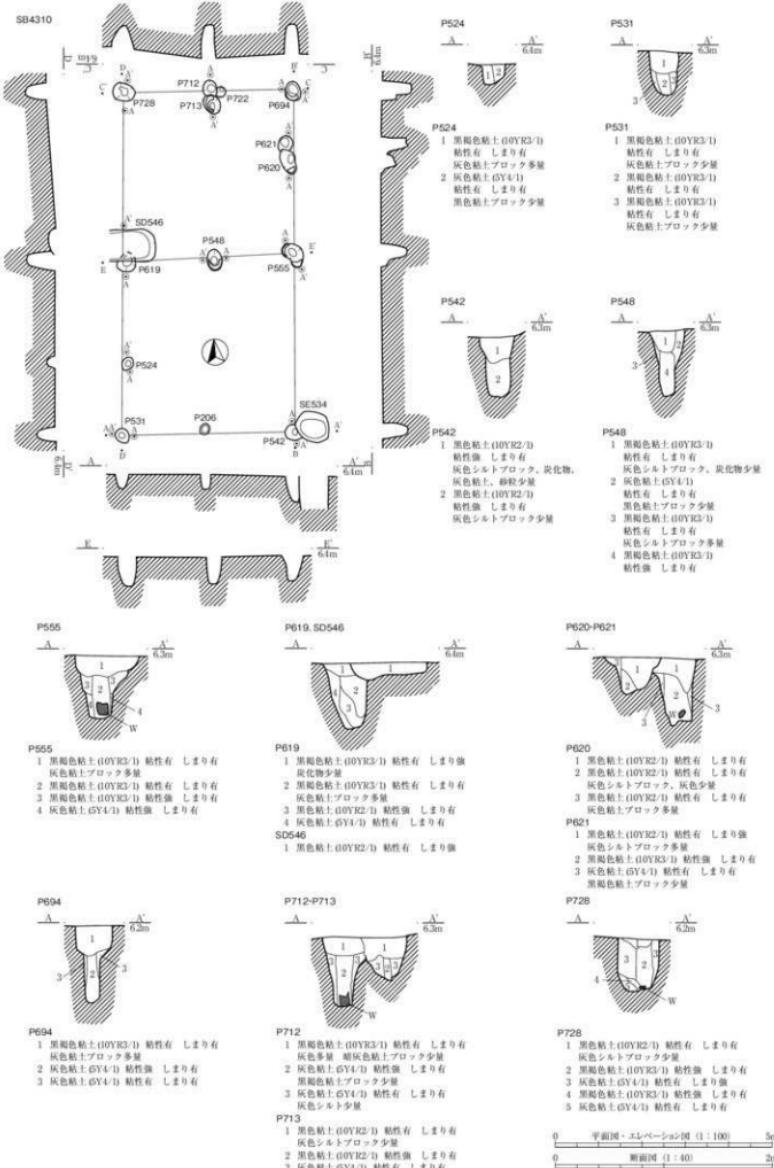
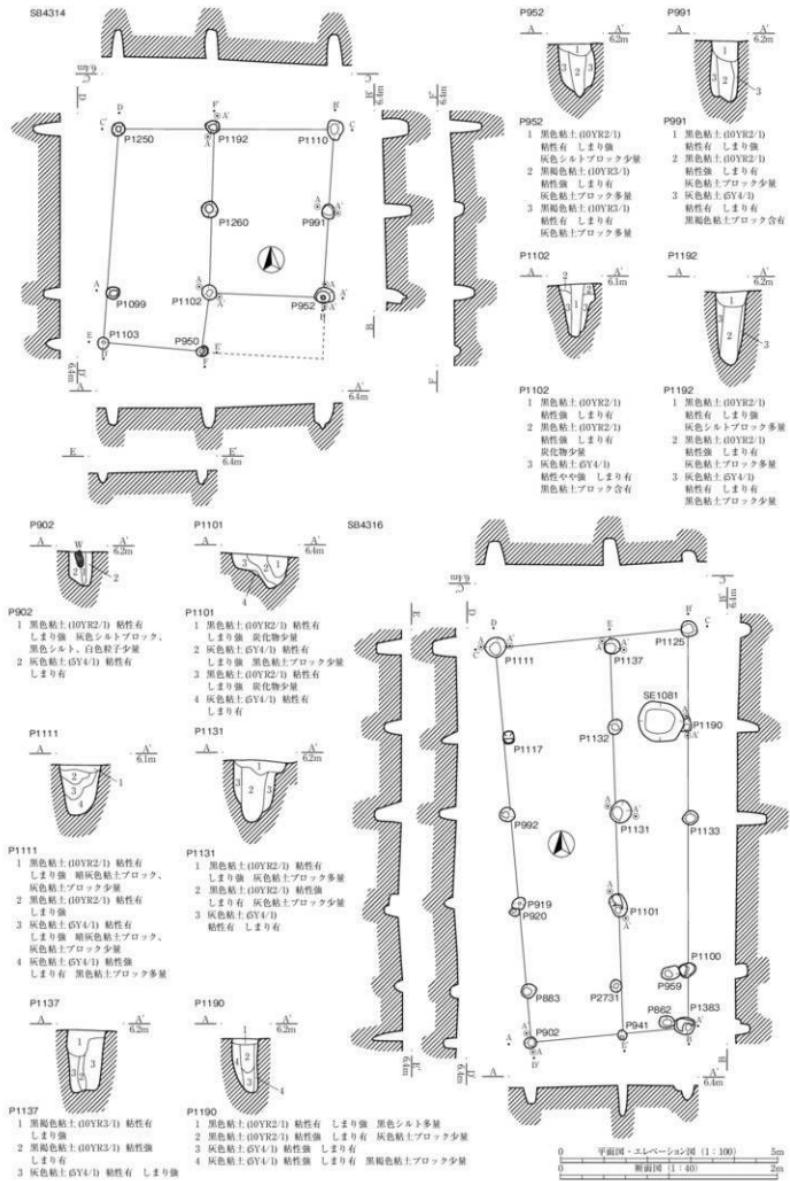


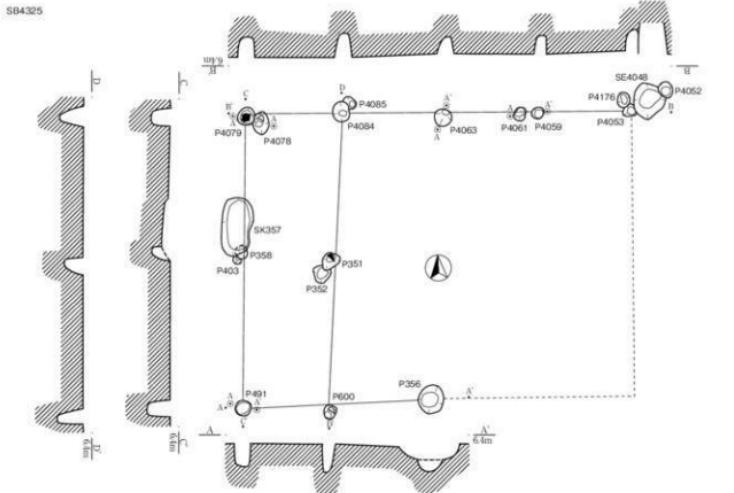
圖 版 24



圖版 25

遺構個別図4 捩立柱建物4

SB4325



P491

P491  
 1 開灰色粘土(10YR4/1) 粘性強  
 しまり強 開灰色粘土ブロック多量  
 軟化物少量  
 2 開灰色粘土(10YR5/1) 粘性強  
 しまり強 開灰色粘土ブロック多量  
 軟化物少量  
 3 青灰褐色粘土(10RG6/1) 粘性強  
 しまり強 開灰色粘土ブロック多量

P4061·P4059

P4061-P4059	
A	4
1	2
2	2
	6.3%
059	
黒色粘土 (0YR2/1) 粘性強 しまり 灰色粘土 (GY4/1) 粘性有 しまり	
061	
黒色粘土 (0YR2/1) 粘性有 しまり 黒色粘土 (0YR2/1) 粘性強 しまり 灰色粘土 (0YR2/1) 粘性強 しまり 灰色粘土 (GY4/1) 粘性強 しまり 灰色粘土 (GY4/1) 少量 灰色粘土 (GY4/1) 黏土有 しまり	

P40

P4078-P4079

29420

The diagram illustrates the spatial distribution of eleven seismic stations (P495, P405, P2774, P500, P2762, P419, P505, P484, P486, P481, P489, P487) across a geological cross-section. The top part shows a topographic profile with a wavy pattern representing elevation. The bottom part is a schematic representation of the subsurface, featuring two vertical columns of jagged lines representing different geological layers or faults. The stations are plotted as small circles along these features. A north arrow is located in the center of the schematic area.

B41D

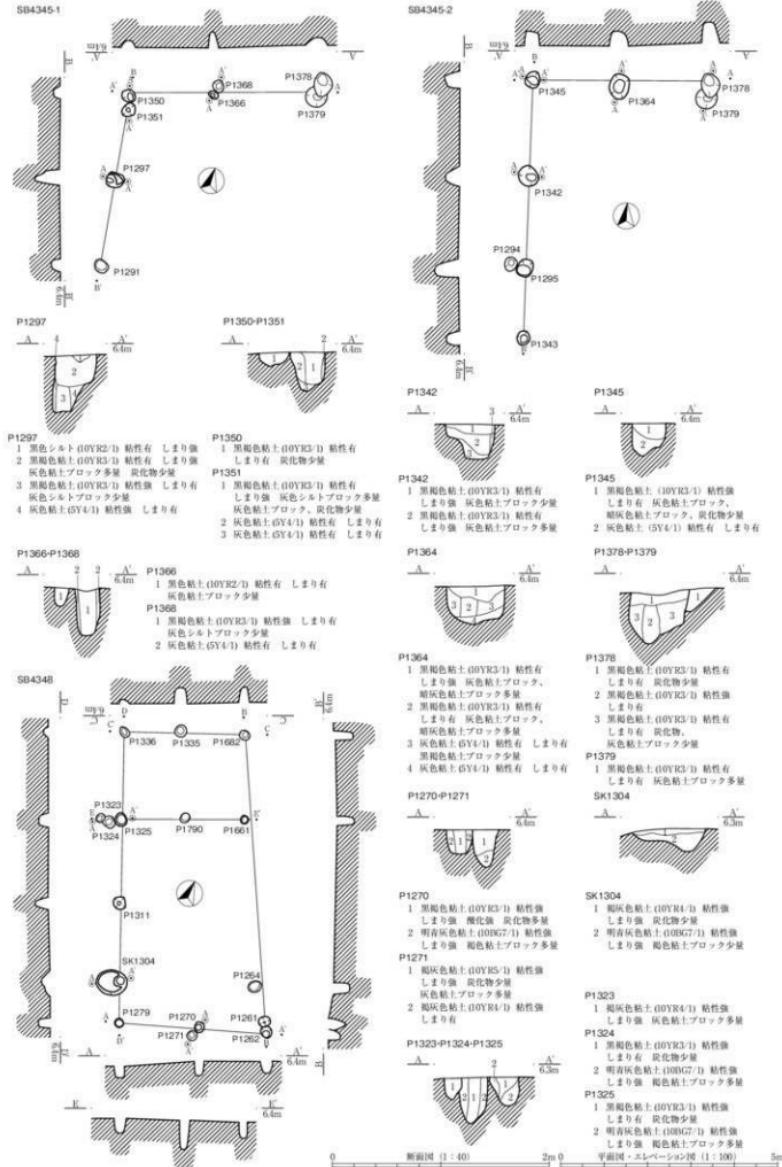
• 1968-19

## 灰色粘土ブロック多量

赤色粘土ブロック多量  
P495  
  
赤色粘土 (10YR2/1) 粘性有 しまり強  
赤色粘土 (10YR2/1) 粘性強 しまり有

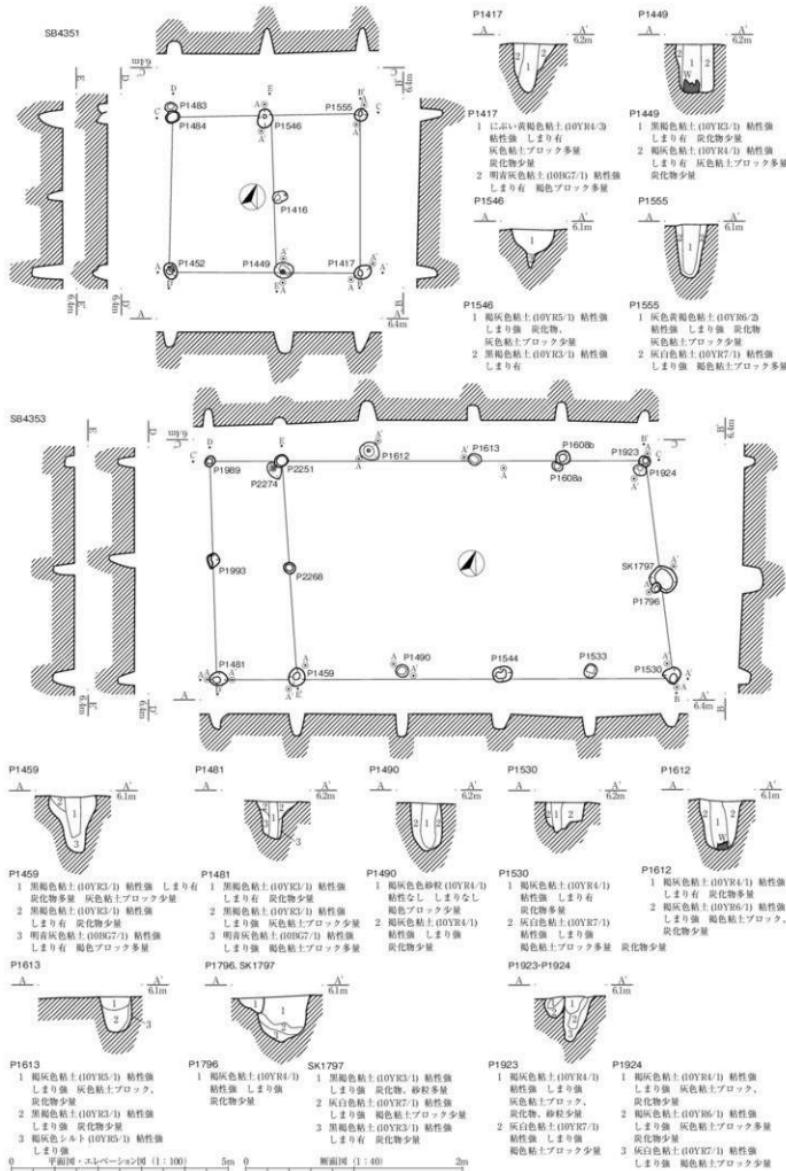
圖版 26

造構個別図5 掘立柱建物5

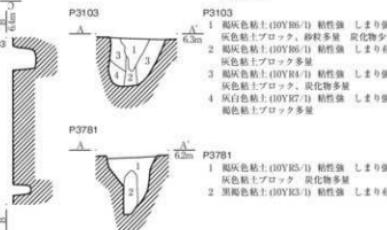
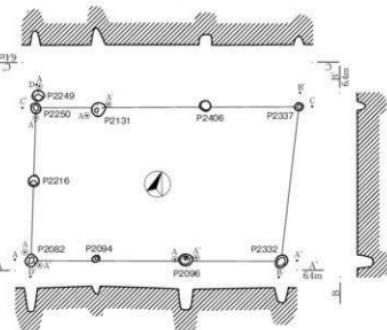
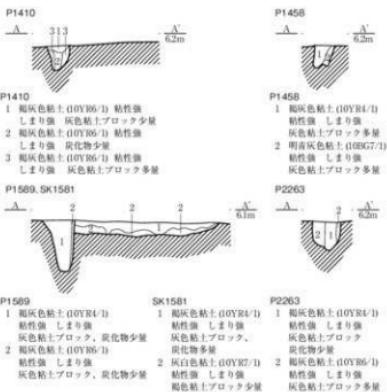
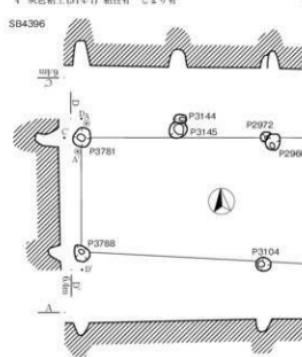
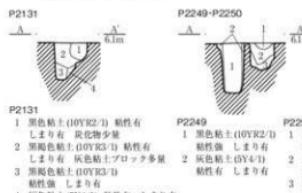
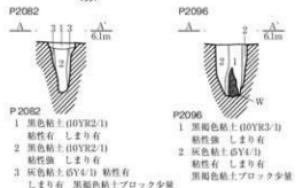
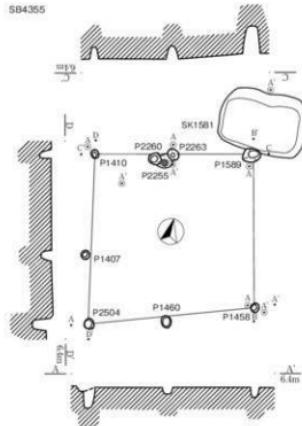


### 造構個別図6 挖立柱建物6

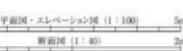
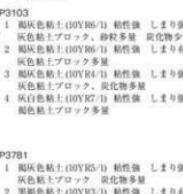
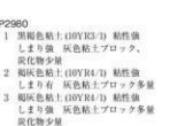
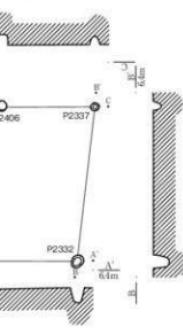
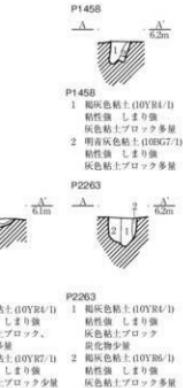
回版 27



図版 28

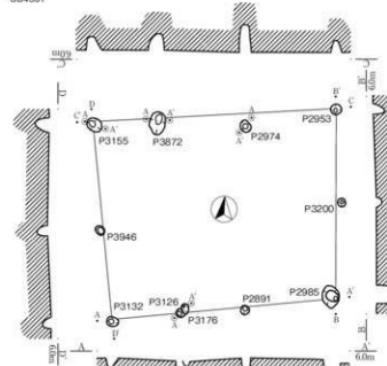


造構個別図 7 据立柱建物 7



遺構個別図 8 捩立柱建物 8

SB4397



P2974



P2974

- 1 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
灰色粘土ブロック多量  
炭化物少量
- 2 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
灰色粘土ブロック多量  
炭化物少量

P3126-P3176



P3126

- 1 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
灰色粘土ブロック多量 炭化物少量
- 2 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
灰色粘土ブロック多量 炭化物少量
- 3 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
灰色粘土ブロック多量 炭化物少量

P3155



P3155

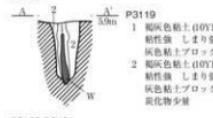
P3155

- 1 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
灰色粘土ブロック少量  
2 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
灰色粘土ブロック少量  
3 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
灰色粘土ブロック少量  
4 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
灰色粘土ブロック少量

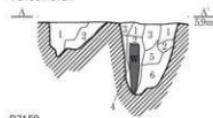
P3872

- 1 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
灰色粘土ブロック少量  
2 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
灰色粘土ブロック少量  
3 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
灰色粘土ブロック少量  
4 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
灰色粘土ブロック少量

P3119



P3159-P3124



P3159

- 1 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
炭化物少量
- 2 明青灰色粘土 (IORYG7-I) 粘性強 しまり強  
褐色粘土ブロック多量 炭化物少量

P3124

- 1 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
炭化物少量
- 2 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり有  
褐色粘土ブロック多量 灰化物少量
- 3 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり有  
褐色粘土、灰化物、砂粒少量
- 4 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
褐色粘土ブロック、炭化物多量
- 5 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
褐色粘土ブロック多量
- 6 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
褐色粘土ブロック少量

P3428



P3429

- 1 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり強  
炭化物少量 灰色粘土ブロック少量
- 2 和灰色粘土 (IORY4-I) 粘性強 しまり有  
炭化物少量
- 3 灰白色粘土 (IORY7-I) 粘性強 しまり強  
褐色粘土ブロック少量

P3430-P3431



P3430

- 1 和灰色粘土 (IORY6-II) 粘性強 しまり強  
灰色粘土ブロック少量
- 2 和灰色粘土 (IORY6-II) 粘性強 しまり強  
炭化物多量 灰色粘土ブロック多量
- 3 和灰色粘土 (IORY6-II) 粘性強 しまり有  
炭化物多量 灰色粘土ブロック少量
- 4 从白色粘土 (IORY7-I) 粘性強 しまり強  
褐色粘土ブロック少量

P3431

- 1 和灰色粘土 (IORY6-II) 粘性強 しまり強  
灰色粘土ブロック多量
- 2 和灰色粘土 (IORY6-II) 粘性強 しまり強  
炭化物多量 灰色粘土ブロック少量

P3450

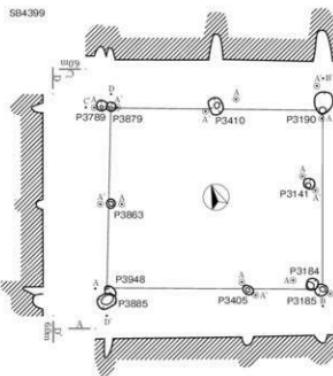
- 1 黑褐色粘土 (IORY3-I) 粘性強 しまり有  
褐色粘土ブロック、炭化物多量
- 2 和灰色粘土 (IORY3-I) 粘性強 しまり強  
褐色粘土ブロック、炭化物多量
- 3 黑褐色粘土 (IORY3-I) 粘性強 しまり強  
炭化物多量 灰色粘土ブロック少量
- 4 明青灰色粘土 (IORYG7-I) 粘性強  
しまり有 灰化物少量

0 平面図・スケーリング図 (1:100)

5m 0 断面図 (1:40)

2m

図版 30



P3405

- 1 黒灰色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり強 腐化物多量  
灰岩粘土ブロック多量  
2 明青灰色粘土 (0BG7-1) 粘性強  
しまり強 腐化物少量

P3410

- 1 黒灰色粘土 (0YR3-1) 粘性強  
しまり有 腐化物多量  
灰岩粘土ブロック少量  
2 明青灰色粘土 (0BG4-1) 粘性強  
しまり強 腐化物多量  
灰岩粘土ブロック少量  
3 明青灰色粘土 (0BG6-1) 粘性強  
しまり強 腐化物多量  
灰岩粘土ブロック少量

P3406

- 1 黒灰色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり強 腐化物多量  
灰岩粘土ブロック多量  
2 明青灰色粘土 (0BG7-1) 粘性強  
しまり強 腐化物少量

P3141

- 1 黒灰色粘土 (0YR3-1) 粘性強  
しまり強 腐化物多量  
灰岩粘土ブロック少量  
2 明青灰色粘土 (0YR6-1) 粘性強  
しまり強 腐化物少量  
3 明青灰色粘土 (0BG7-1) 粘性強  
しまり強 腐化物多量  
灰岩粘土ブロック少量

P3190

- 1 黒灰色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり有 腐化物少量  
2 明青灰色粘土 (0BG7-1) 粘性強  
しまり有 腐化物少量  
3 黑褐色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり強 腐化物少量

造構個別図 9 据立柱建物 9

P3184-P3185

- 1 黒灰色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり強 腐化物少量  
灰岩粘土ブロック少量  
2 明青灰色粘土 (0BG7-1) 粘性強  
しまり強 腐化物少量  
3 黑褐色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり強 腐化物少量  
4 白色粘土 (0YR8-1) 粘性強  
しまり強 腐化物少量  
5 黑褐色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり有 腐化物少量  
6 黑褐色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり有 腐化物少量

- 1 黒灰色粘土 (0YR3-1) 粘性強  
しまり強 腐化物少量  
2 明青灰色粘土 (0BG7-1) 粘性強  
しまり有 腐化物少量  
3 黑褐色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり強 腐化物少量  
4 黑褐色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり有 腐化物少量  
5 黑褐色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり有 腐化物少量  
6 黑褐色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり有 腐化物少量

P3663

- 1 黒灰色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり有 腐化物少量  
2 明青灰色粘土 (0BG7-1) 粘性強  
しまり有 腐化物少量  
3 黑褐色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり有 腐化物少量  
4 黑褐色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり有 腐化物少量  
5 黑褐色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり有 腐化物少量  
6 黑褐色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり有 腐化物少量

P3165

- 1 黒灰色粘土 (0YR4-1)  
粘性強 しまり強  
灰岩粘土ブロック、腐化物多量

P3193-P3194

- 1 黒灰色粘土 (0YR4-1) 粘性強  
しまり強 灰岩粘土ブロック多量  
腐化物少量  
2 明青灰色粘土 (0BG7-1) 粘性強  
しまり強 灰岩粘土ブロック多量

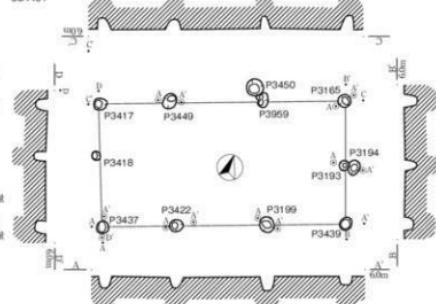
P3199

- 1 黑褐色粘土 (0YR3-1)  
粘性強 しまり強  
灰岩粘土ブロック少量  
2 黑褐色粘土 (0YR6-1)  
粘性強 しまり強  
灰岩粘土ブロック多量

- 1 黑褐色粘土 (0YR4-1)  
粘性強 しまり強  
灰岩粘土ブロック少量  
2 黑褐色粘土 (0YR6-1)  
粘性強 しまり強  
灰岩粘土ブロック少量

- 1 黑褐色粘土 (0YR4-1)  
粘性強 しまり強  
灰岩粘土ブロック少量  
2 黑褐色粘土 (0YR6-1)  
粘性強 しまり強  
灰岩粘土ブロック少量

SB4401



P3422

- 1 黑褐色粘土 (0YR4-1)  
粘性強 しまり強  
灰岩粘土ブロック、腐化物少量  
2 黑褐色粘土 (0YR6-1)  
粘性強 しまり強  
灰岩粘土ブロック少量

P3427

- 1 黑褐色粘土 (0YR4-1)  
粘性強 しまり強  
灰岩粘土ブロック多量  
2 黑褐色粘土 (0BG7-1)  
粘性強 しまり強  
灰岩粘土ブロック少量

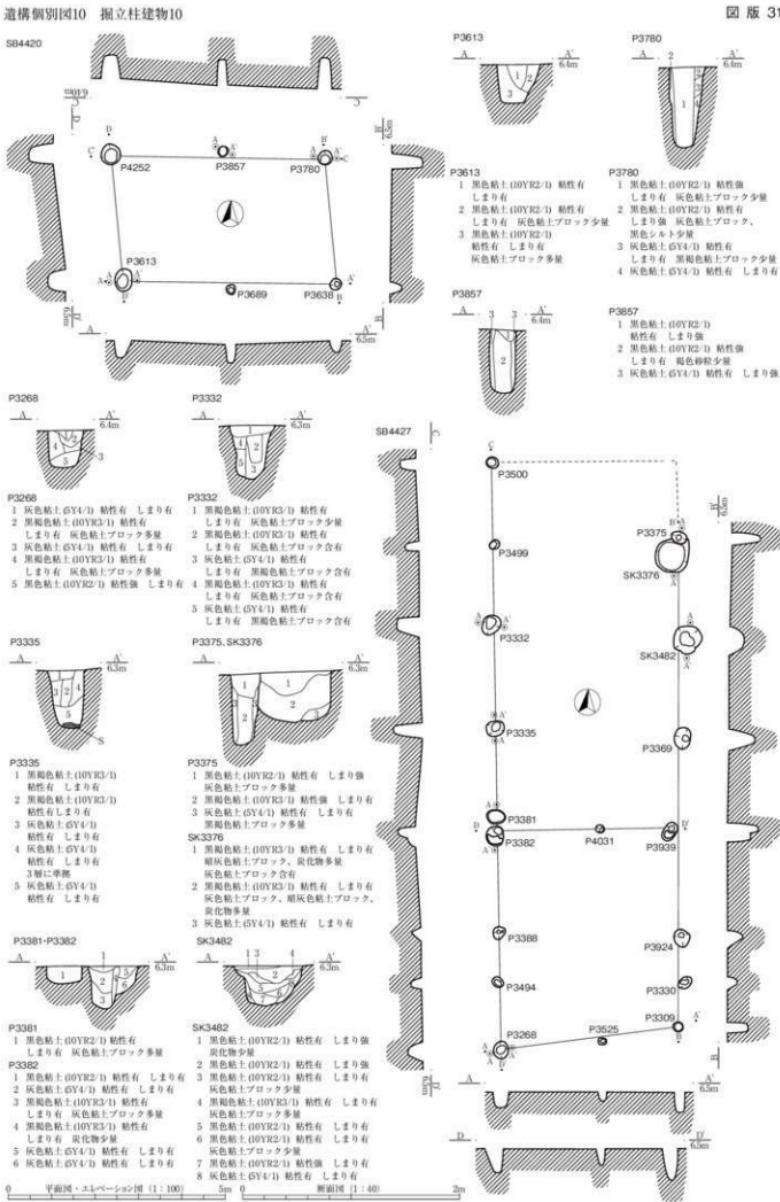
P3437

- 1 黑褐色粘土 (0YR4-1)  
粘性強 しまり強  
灰岩粘土ブロック少量  
2 黑褐色粘土 (0BG7-1)  
粘性強 しまり強  
灰岩粘土ブロック少量

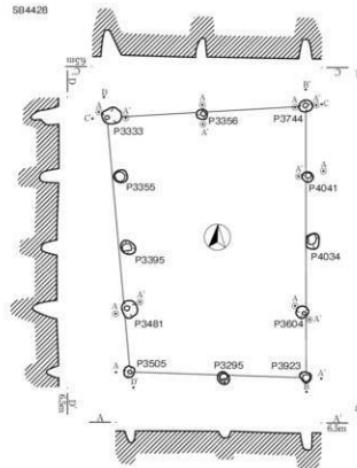
P3449

- 1 黑色粘土 (0YR2-1) 粘性強  
しまり有  
2 黑色粘土 (0YR2-1) 粘性有  
しまり有  
0 平面図・エレベーション図 (1 : 100) 5m  
0 断面図 (1 : 40) 2m

回版 31



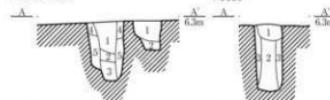
図版 32



P3604  
1 黒色粘土 (0YR2-1) 粘性有 しまり強  
しまり強 黒色シルト少量  
2 黒色粘土 (0YR2-1) 粘性強 しまり有  
3 黑色粘土 (0YR2-1) 粘性強 しまり有

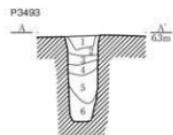
P3481  
1 黒色粘土 (0YR2-1) 粘性有 しまり強  
2 黑色粘土 (GYU-1) 粘性強 しまり有  
3 黑色粘土 (GYU-1) 粘性有 しまり有  
4 黑色粘土 (GYU-1) 粘性有 しまり有

P3369-P3370



P3369  
1 黑色粘土 (0YR2-1) 粘性有 しまり有  
黒色粘土ブロック少量  
2 黑色粘土 (GYU-1) 粘性有 しまり有  
黑褐色粘土ブロック多量  
3 黑色粘土 (GYR3-1) 粘性強 しまり有  
灰色粘土ブロック多量  
4 黑色粘土 (GYR3-1) 粘性有 しまり有  
黑色粘土ブロック多量  
5 黑色粘土 (GYU-1) 粘性有 しまり有  
黑褐色粘土ブロック少量

P3370  
1 黑色粘土 (0YR2-1) 粘性有 しまり強  
灰色粘土ブロック多量  
2 黑色粘土 (GYU-1) 粘性有 しまり有  
黑褐色粘土ブロック少量

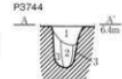


P3493  
1 黑色粘土 (0YR2-1) 粘性有 しまり強  
黑色シルト少量  
2 黑色粘土 (0YR3-1) 粘性有 しまり有  
灰色粘土ブロック少量  
3 黑色粘土 (0YR3-1) 粘性有 しまり有  
灰色粘土ブロック少量  
4 黑色粘土 (0YR3-1) 粘性強 しまり有  
灰色粘土少量  
5 黑色粘土 (0YR3-1) 粘性強 しまり有  
灰色粘土ブロック多量  
6 黑色粘土 (GYU-1) 粘性有 しまり有

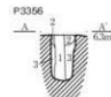
造構個別図11 挖立柱建物11



P3333  
1 黒色粘土 (0YR2-1) 粘性有 しまり強  
2 黑色粘土 (0YR2-1) 粘性有 しまり有  
灰色粘土ブロック少量  
3 黑色粘土 (GYU-1) 粘性強 しまり有  
4 黑色粘土ブロック少量  
5 黑色粘土 (GYU-1) 粘性有 しまり有  
黑褐色粘土ブロック少量



P3744  
1 黑色粘土 (0YR2-1) 粘性有 しまり有  
2 黑色粘土 (0YR2-1) 粘性強 しまり有  
3 黑色粘土 (GYU-1) 粘性有 しまり有  
4 黑色粘土 (GYU-1) 粘性有 しまり有

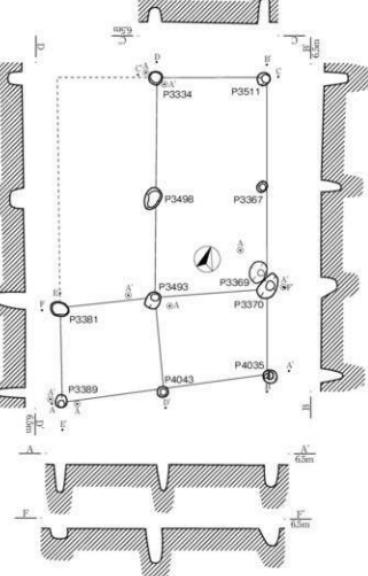


P3356  
1 黒色粘土 (0YR2-1) 粘性有 しまり有  
2 黑色粘土 (0YR2-1) 粘性有 しまり有  
3 黑色粘土 (GYU-1) 粘性強 しまり有  
4 黑色粘土 (GYU-1) 粘性有 しまり有  
5 黑色粘土 (GYU-1) 粘性有 しまり有



P4041  
1 黒色粘土 (0YR2-1) 粘性有 しまり有  
2 黑色粘土 (0YR2-1) 粘性強 しまり有  
3 黑色粘土 (GYU-1) 粘性有 しまり有

SB4429



0 平面図・スケーリング図 (1:100) 5m 0 断面図 (1:40) 2m

造構別図12 捕食柱建物12

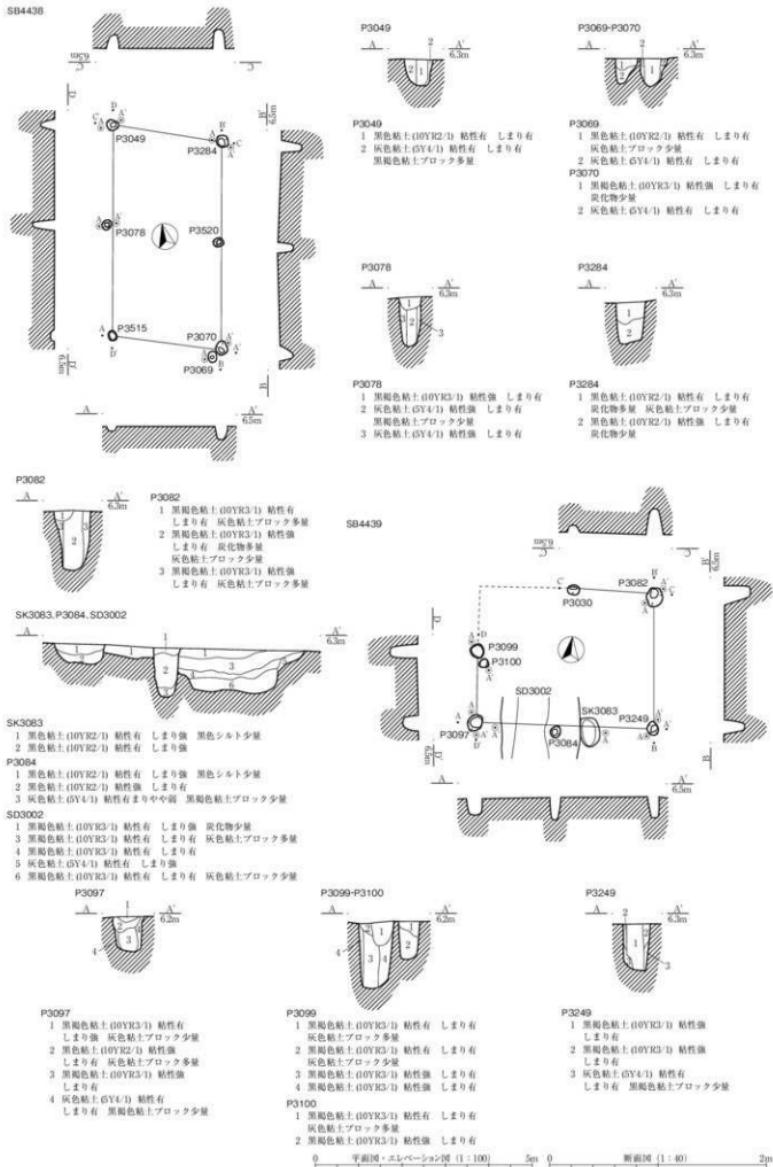
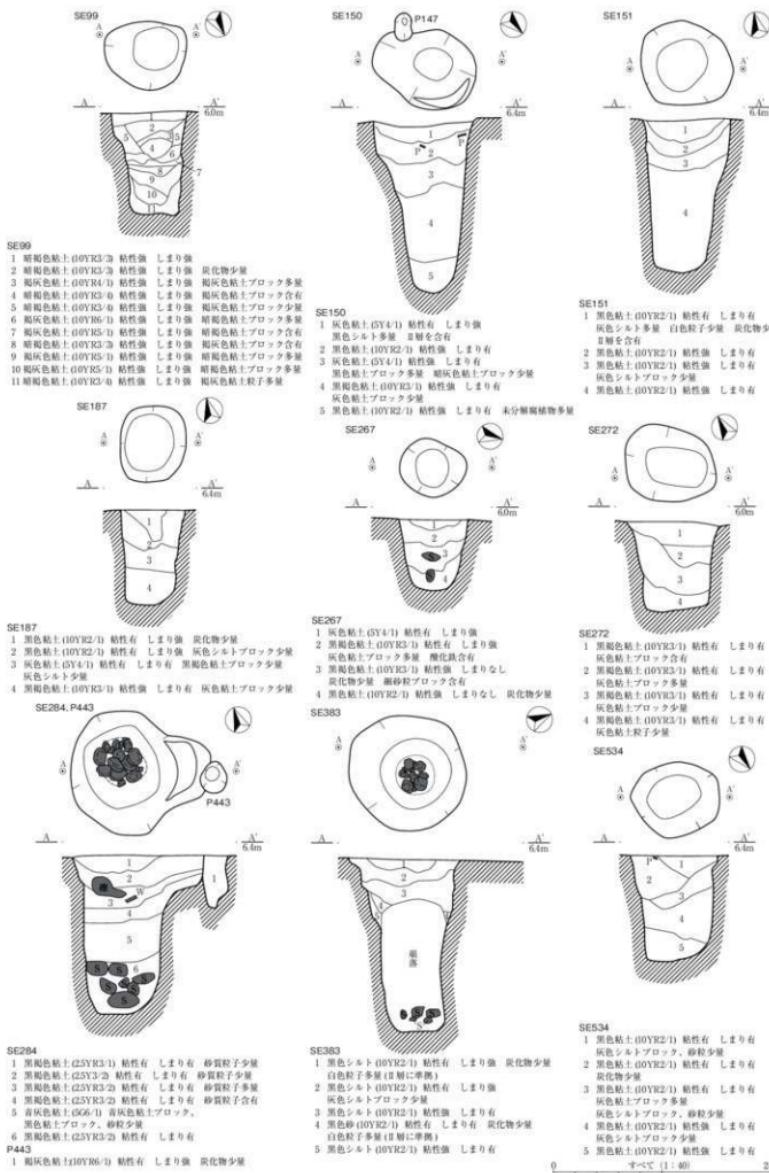
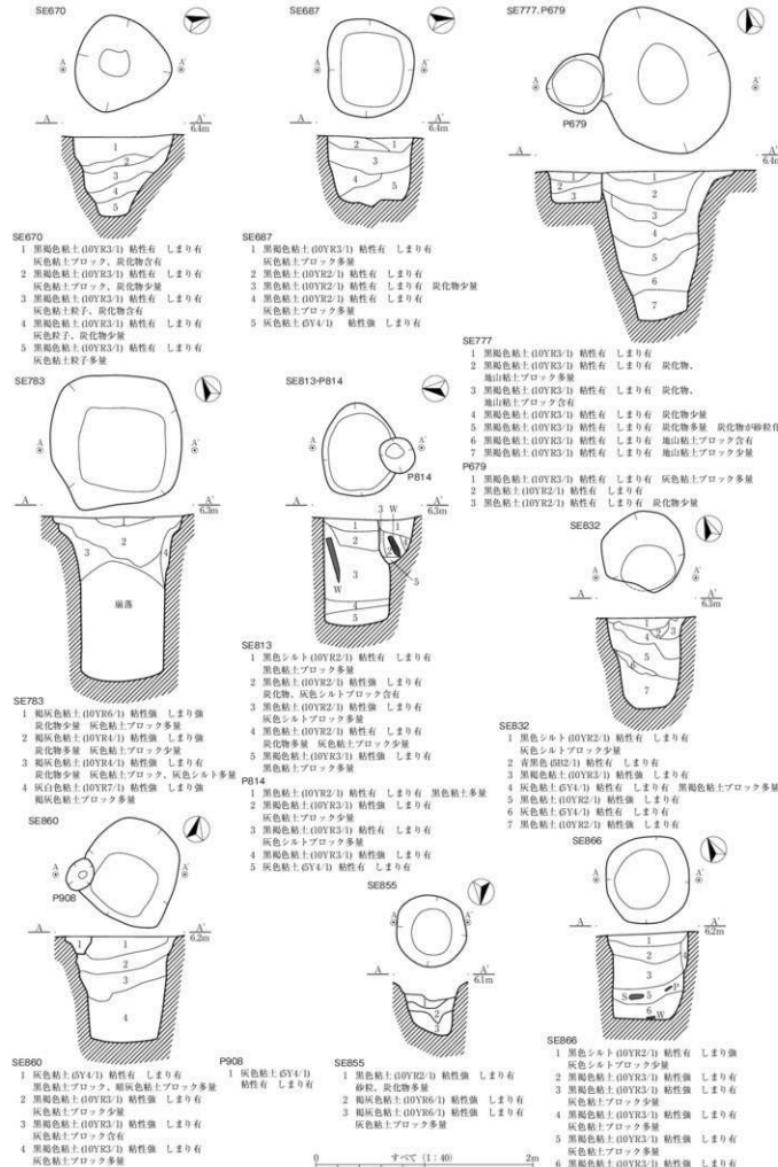


圖 版 34



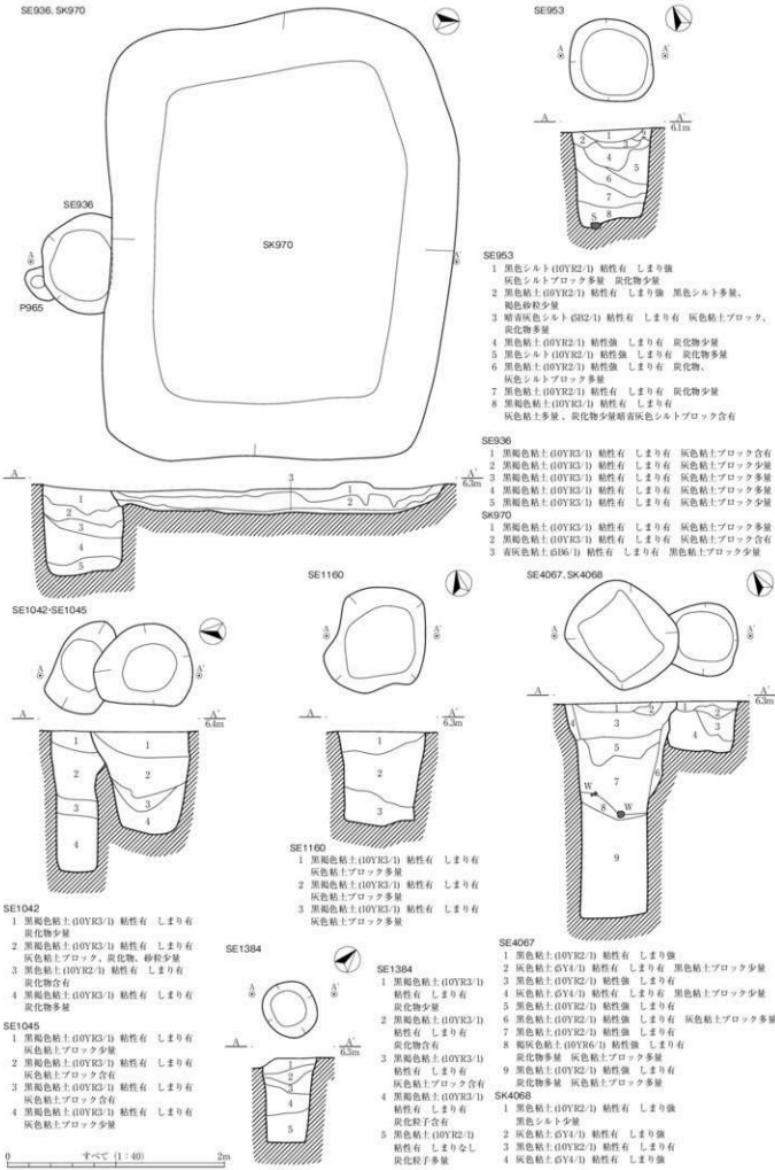
遺構個別図14 井戸2



0 すべて (1:40) 2m

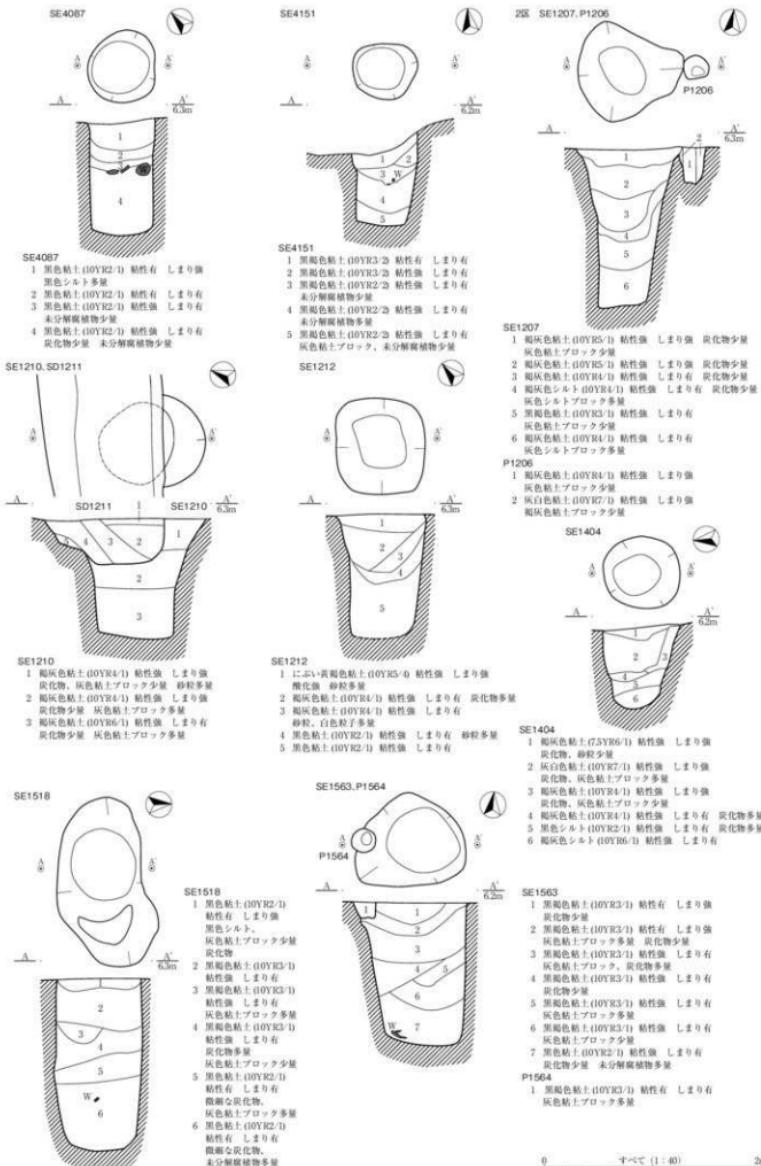
図版 36

遺構個別図15 井戸3



遺構個別図16 井戸4

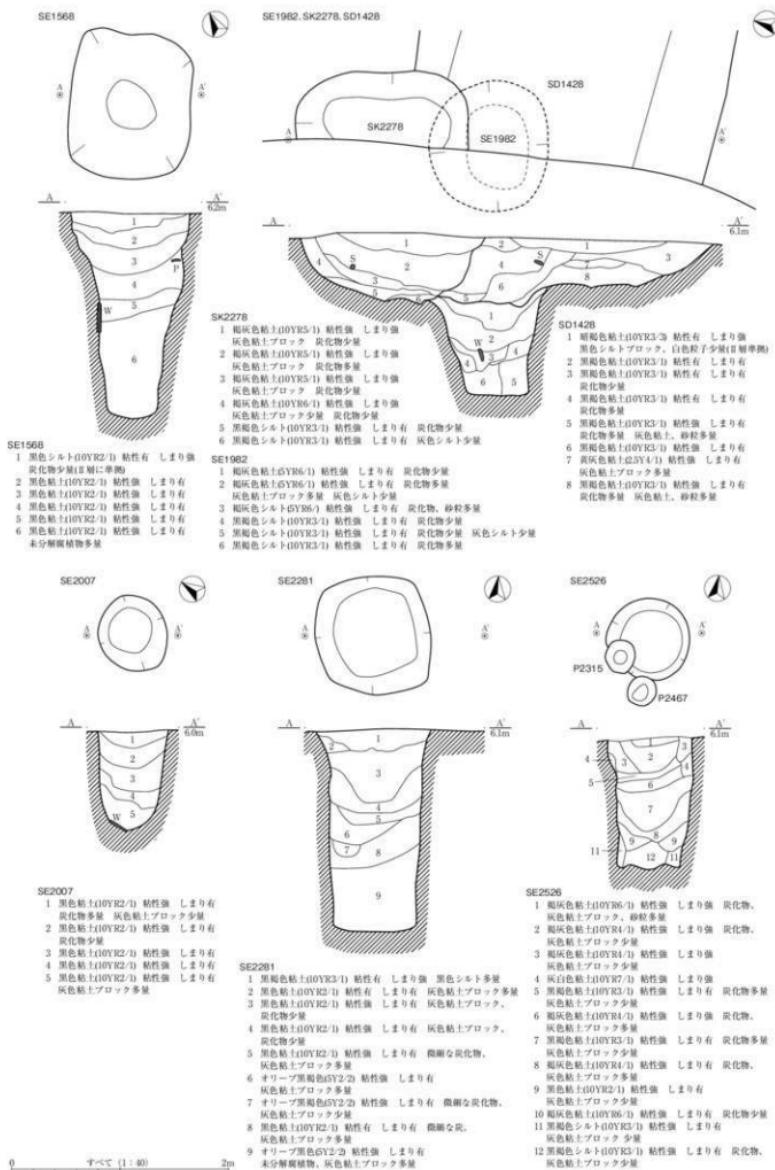
図版 37



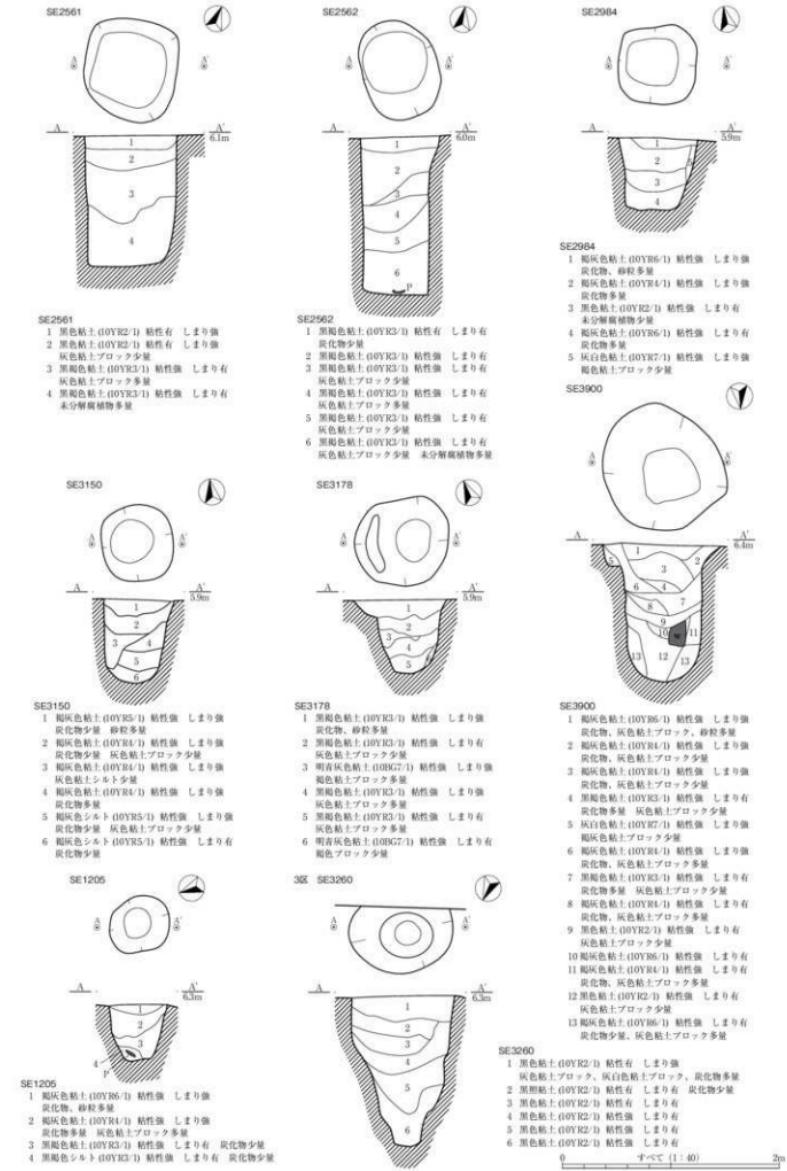
0 すべて (1:40) 2m

図版 38

遺構個別図17 井戸5

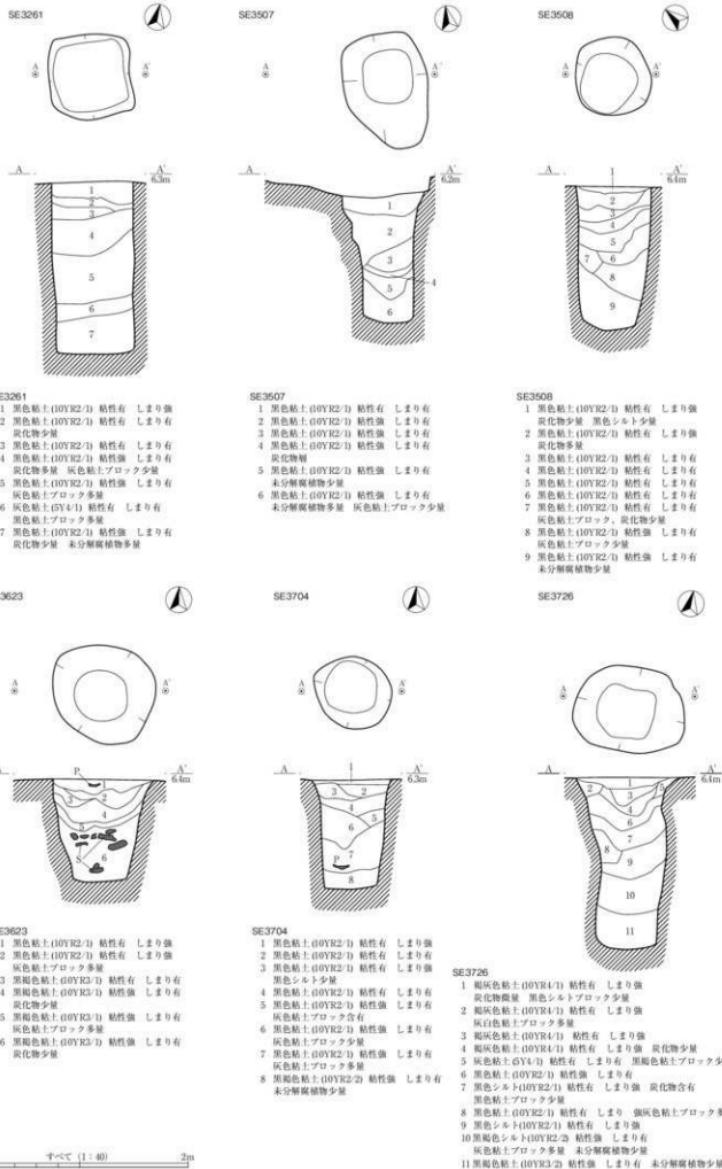


道構別図18 井戸6



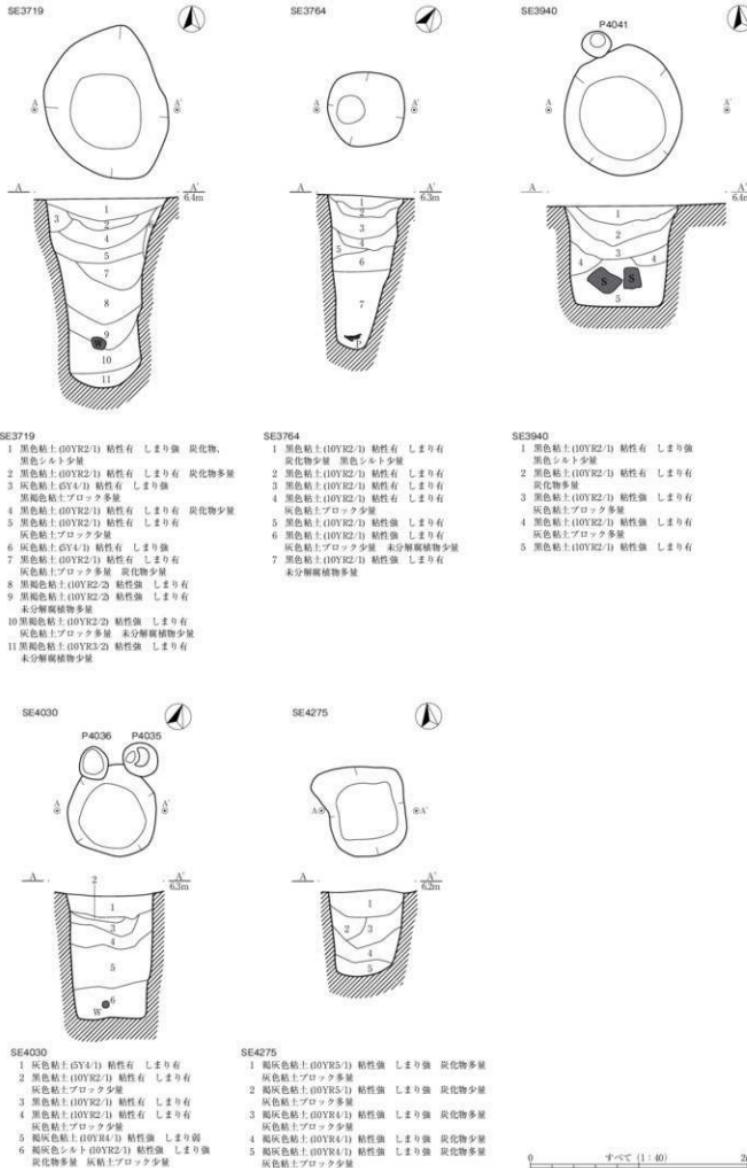
図版 40

遺構個別図19 井戸 7



遺構個別図20 井戸8

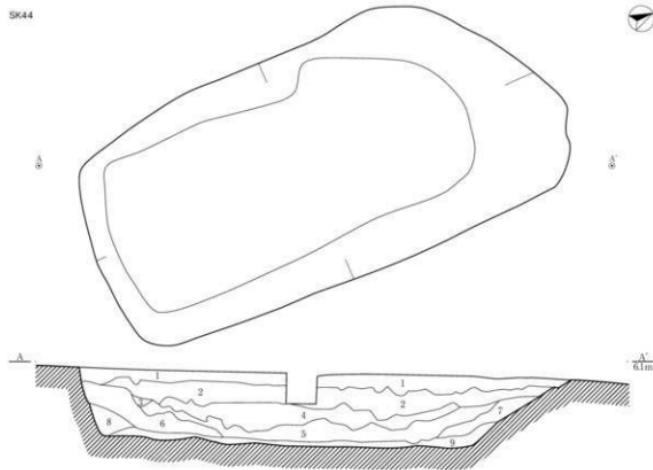
図版 41



図版 42

遺構個別図21 土坑1

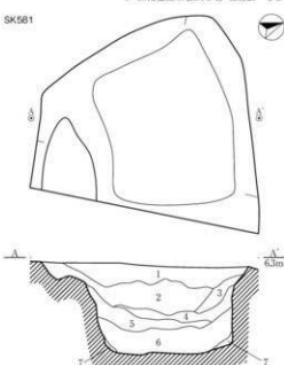
SK44



SK44

1. 黒褐色粘土 (SU-1) 粘性強 しまり強 黒褐色粘土ブロック、灰褐色粘土ブロック多量、灰褐色シルトブロック多量
2. 黑褐色粘土 (SU-1) 粘性有 しまり強 黑褐色粘土ブロック、灰褐色粘土ブロック多量、灰褐色シルト大ブロック多量
3. 黄褐色粘土 (LSY6-2) 粘性強 しまり強 黄褐色粘土ブロック、黒褐色粘土ブロック多量
4. 黑褐色粘土 (DYE2-1) 粘性強 しまり強 黑褐色粘土ブロック、灰褐色粘土ブロック多量
5. 黑褐色粘土 (DYE3-1) 粘性強 しまり強 黑褐色粘土
6. 黑褐色粘土 (SU-1) 粘性強 しまり有 黑褐色粘土ブロック少量
7. 黑褐色粘土 (SU-1) 粘性強 しまり有 黄褐色粘土ブロック多量、黒褐色粘土ブロック、灰褐色粘土ブロック少量
8. 黑褐色粘土 (SU-1) 粘性強 しまり有 黄褐色粘土ブロック、黒褐色粘土ブロック、灰褐色粘土ブロック少量
9. 黑褐色粘土 (LSY3-2) 粘性強 しまり有

SK581

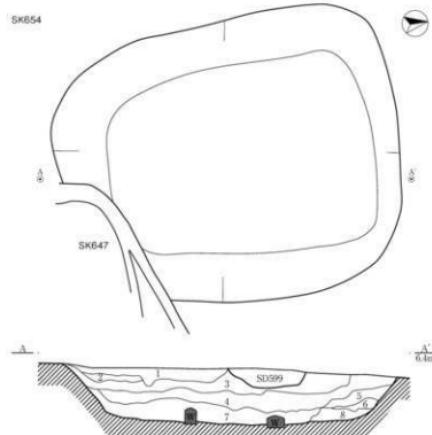


SK581

1. にじみ 黄褐色 (DYE1-1) 粘性強 しまり強 淡化物、
2. 黑褐色粘土 (DYE4-1) 粘性強 しまり強 黑褐色粘土ブロック、
3. 黄褐色粘土 (DYE2-1) 粘性強 しまり有 黄褐色粘土ブロック、
4. 黄褐色粘土 (DYE4-1) 粘性強 しまり有 黄褐色粘土ブロック少量、砂粒含有
5. 黑褐色粘土 (DYE4-1) 粘性強 しまり有 黄褐色粘土少量、砂粒含有
6. 黑褐色粘土 (DYE2-1) 粘性強 しまり有 黄褐色粘土多量
7. 青灰色粘土 (DYE7-1) 粘性強 しまり有 青灰色粘土ブロック多量

すくべ (1:40) 2m

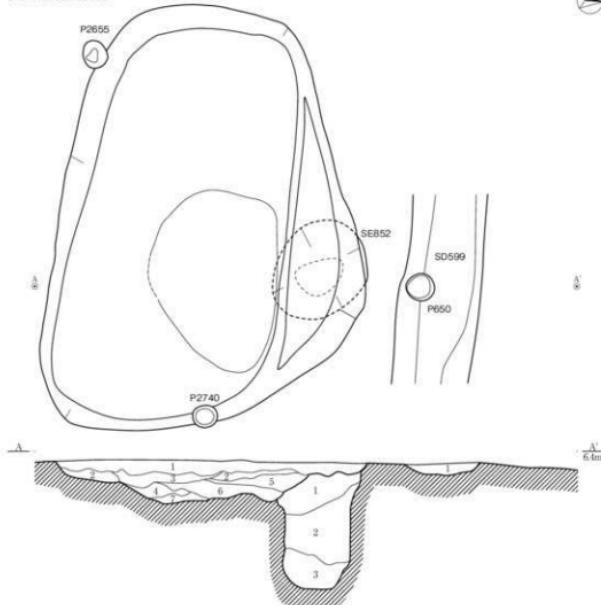
SK654



SK654

1. 黑褐色泥質 (DYE4-2) 粘性強 しまり有 淡化物少量 砂粒多量
2. 黑褐色泥質 (DYE4-2) 粘性なし しまり有 淡化物少量
3. 黄褐色粘土 (DYE4-1) 粘性強 しまり有 淡化物少量、黒褐色粘土ブロック多量 砂粒少量
4. 黑褐色粘土 (DYE4-1) 粘性強 しまり有 淡化物、黒褐色粘土ブロック少量
5. 黑褐色粘土 (DYE4-1) 粘性強 しまり有 淡化物少量 砂粒多量
6. 黑褐色粘土 (DYE3-7) 粘性強 しまり有 黄褐色粘土ブロック多量
7. 黑褐色粘土 (DYE3-7) 粘性強 しまり有 淡化物、未分解植物、砂粒多量
8. 黄褐色粘土 (DYE3-7) 粘性強 しまり有 黄褐色ブロック少量

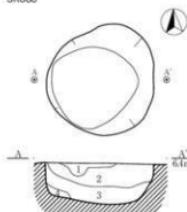
SK647, SEB52, SD599



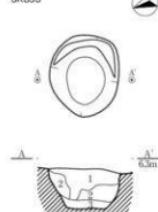
## SK647

- 1 開灰色粘土 (OYR2-1) 粘性なし しまりなし 砂粒含む
- 2 黒灰色粘土 (OYR4-1) 粘性強 しまり弱 灰白色粘土ブロック多量 腐化物少量
- 3 黑灰色粘土 (OYR4-1) 粘性強 しまり強 腐化物多量 灰白色粘土ブロック少量
- 4 青灰色粘土 (OYR6-1) 粘性強 しまり弱 灰白色粘土ブロック少量
- 5 黑灰色粘土 (OYR6-1) 粘性強 しまり弱
- 6 黒灰色粘土 (OYR4-1) 粘性強 しまり弱 腐化物多量 灰色粘土ブロック少量
- 7 黑灰色粘土 (OYR4-1) 粘性強 しまり弱 灰色粘土ブロック少量 腐化物少量

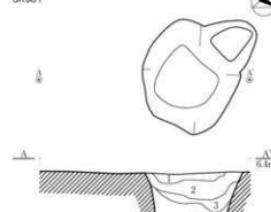
## SK658



## SK653



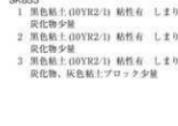
## SK981



## SK688



## SK853



## SK981

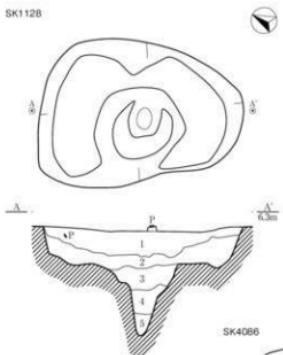
- 1 黑褐色粘土 (OYR3-1) 粘性有 しまり有 腐化物少量
- 2 黑褐色粘土 (OYR2-1) 粘性有 しまり有 腐化物少量
- 3 黑褐色粘土 (OYR2-1) 粘性有 しまり有 腐化物、灰色粘土ブロック少量
- 4 黑色粘土 (OYR2-1) 粘性強 しまり有 腐化物少量
- 5 黑色粘土 (OYR2-1) 粘性強 しまり有 腐化物、灰色シートブロック少量

0 すくべて [1:40] 2m

圖 版 44

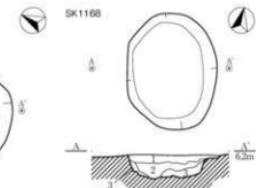
遺構個別圖23 土坑3

SK1128

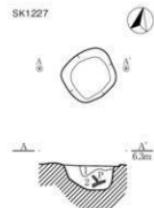


SK112B

- 1 黒褐色粘土(0YR3/1) 粘性有 しまり強  
灰褐色粘土ブロック多量 硬化物少量
  - 2 灰色粘土(SY4/1) 粘性有 しまり強  
黒褐色粘土ブロック
  - 3 黑褐色粘土(0YR3/1) 粘性強 しまり有  
地山粘土ブロック少量
  - 4 黑褐色粘土(0YR3/1) 粘性強 しまり有  
硬化物多量
  - 5 屋敷粘土(SY4/1) 粘性弱 しまり有

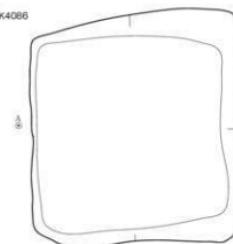


SK1168  
1 黒色粘土 (0YR2/1) 粘性有 しまり強  
黒色シルト多量  
2 黒色粘土 (0YR2/1) 粘性有 しまり強  
3 黒色粘土 (0YR2/1) 粘性有 しまり強  
EGR-1000-1000-1000



SK1227

- 1 黒褐色粘土 (10YR3/3) 粘性有 しまり有  
砂粒含有  
2 黑褐色粘土 (10YR3/3) 粘性有 しまり有  
灰黑色粘土ブロック 多量

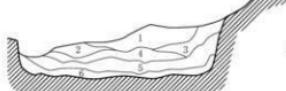


A-3



SKA000

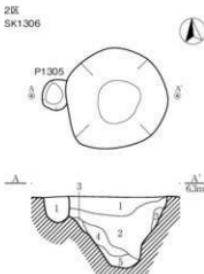
- SK4066  
 1 黒褐色粘土 (0YR3-1)  
 粘性強 しまり有  
 2 黒褐色粘土 (0YR3-1)  
 粘性強 しまり有  
 3 黑褐色粘土 (0YR3-1)  
 粘性強 しまり有  
 4 黑褐色粘土 (0YR3-1)  
 粘性強 しまり有  
 灰色粘土ブロック多  
 炭化物少  
 5 黑褐色粘土 (0YR3-1)  
 粘性強 しまり有  
 6 黑褐色粘土 (0YR3-1)



SK1435-SK1436 P1437

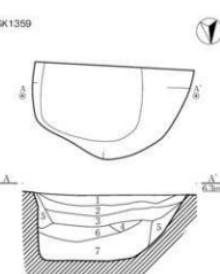


2区  
SK1306



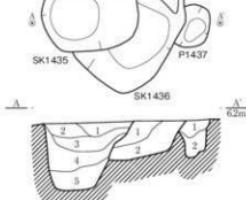
SK1206

- 1 黒褐色粘土 (10YR3/3) 粘性強 しまり強  
炭化物少量
  - 2 黒褐色粘土 (10YR3/3) 粘性強 しまり有  
灰色粘土ブロック多量 炭化物少量
  - 3 黒褐色粘土 (10YR3/3) 粘性強 しまり有  
炭化物少量
  - 4 黑褐色色シルト (10YEC3-1) 粘性強 しまり有  
炭化物多量 灰色粘土ブロック多量
  - 5 黑褐色色シルト (10YEC3-1) 粘性強 しまり有



SK1350

- SK351  
1 黒色シルト(HOY2'1) 柔性有 しまり強 水化物少量  
2 黒色粘土(HOY2'2) 柔性強 しまり有 水化物。  
  黒色シルトブロック、砂粒少量  
3 黑色粘土(HOY2'3) 柔性強 しまり有 水化物。  
  黒色シルトブロック、砂粒、ホワイトシルトブロック少量  
4 灰色粘土(HOY3'1) 柔性強 しまり有 砂粒少量  
5 灰色粘土(HOY3'2) 柔性強 しまり有  
  黒陶器土ブロック量  
6 黑色粘土(HOY3'3) 柔性強 しまり有 水化物多量  
7 黑色陶土(HOY3'4) 柔性強 しまり有 水化物多量



SK1435

- 1 黒褐色粘土(10YR3/1) 粘性有 しまり有  
灰色粘土ブロック多量

2 黒褐色粘土(10YR3/1) 粘性有 しまり有

3 黒褐色粘土(10YR3/1) 粘性強 しまり有  
炭化物少量

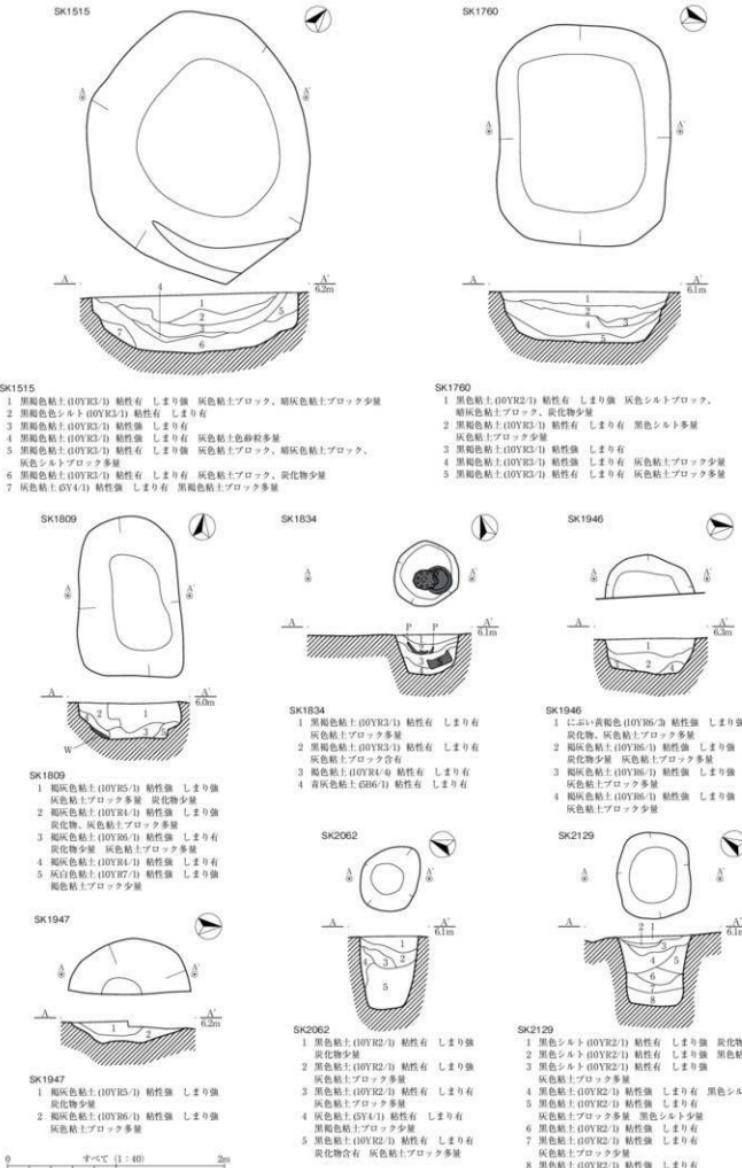
灰色

- 5 黒褐色粘土(10YR3/1) 粘性強 しまり有  
SK1436

三一集

- 1 黑褐色粘土(10YR3/1) 粘性強 しまり有  
灰白色粘土ブロック、褐灰色粘土ブロック多量

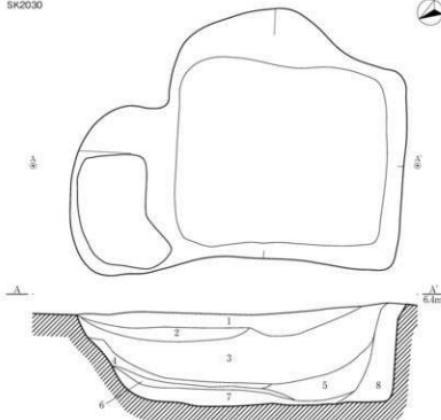
2 黑褐色粘土(10YR3/1) 粘性強 しまり有



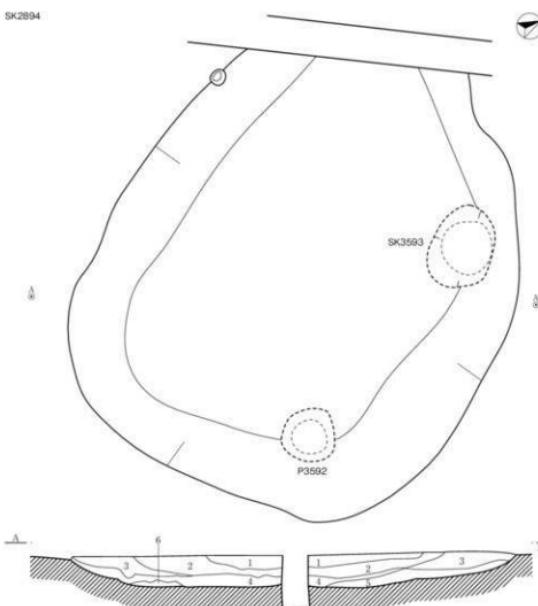
0 すてて [1:40] 2m

図版 46

SK2030

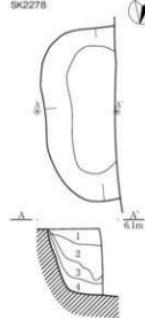


SK2894

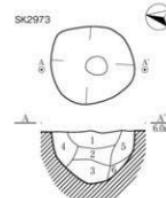


遺構個別図25 土坑5

SK2278



SK2973

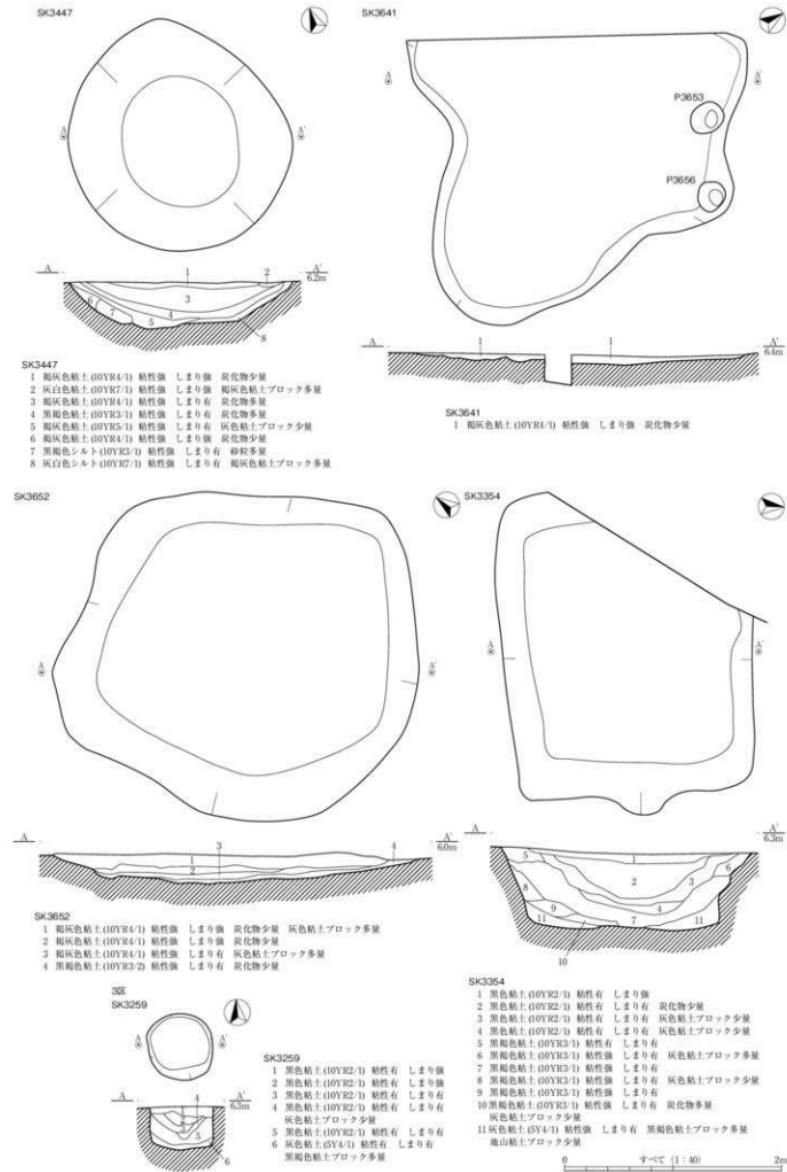


SK2899



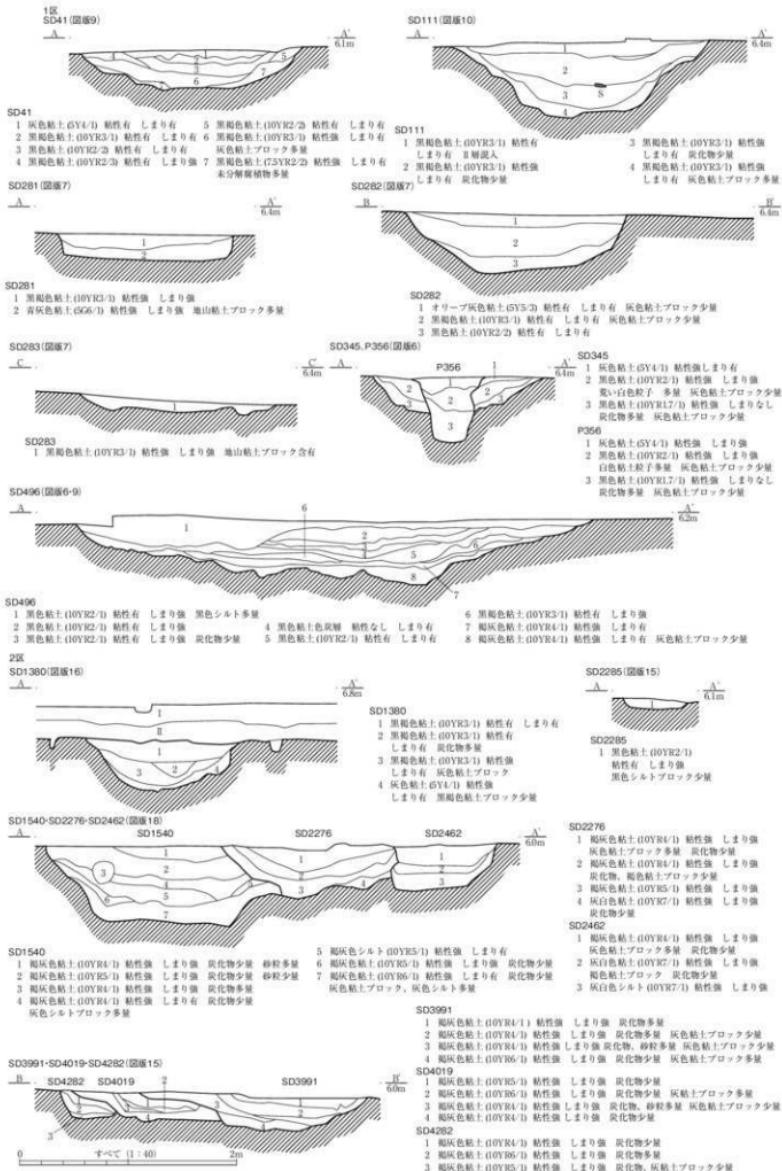
造構個別図26 土坑6

図版 47



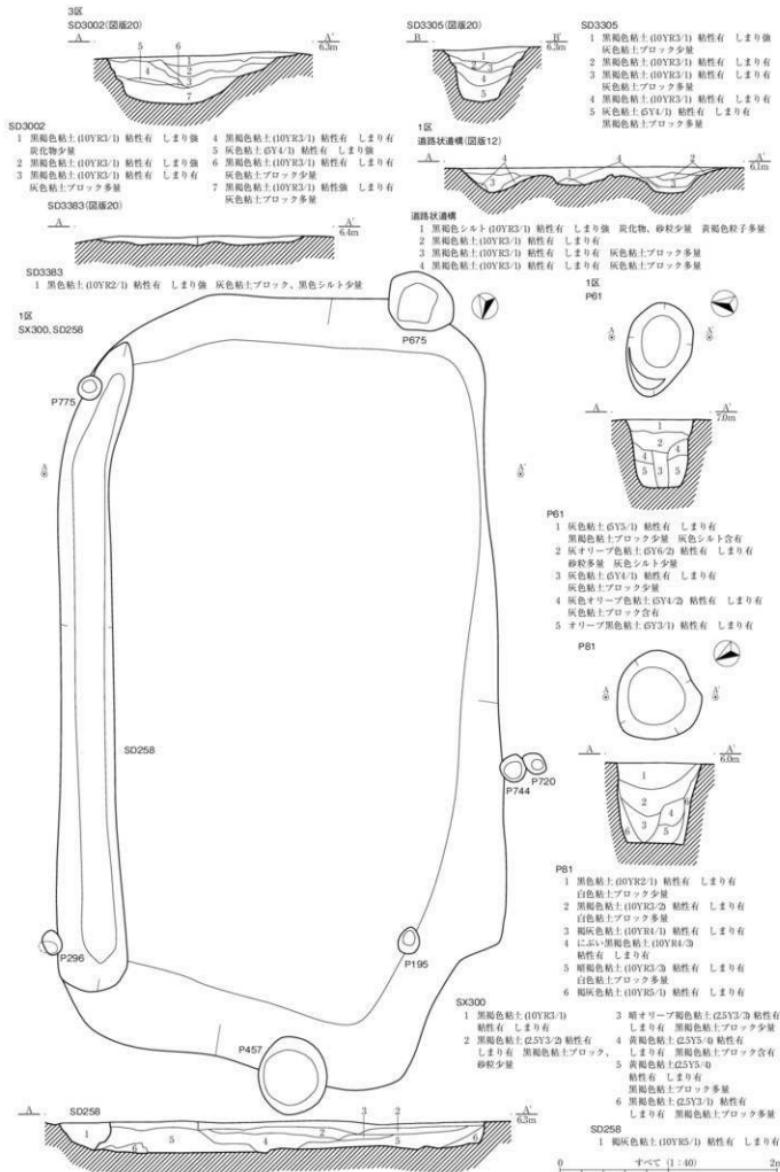
図版 48

造構個別図27 溝1



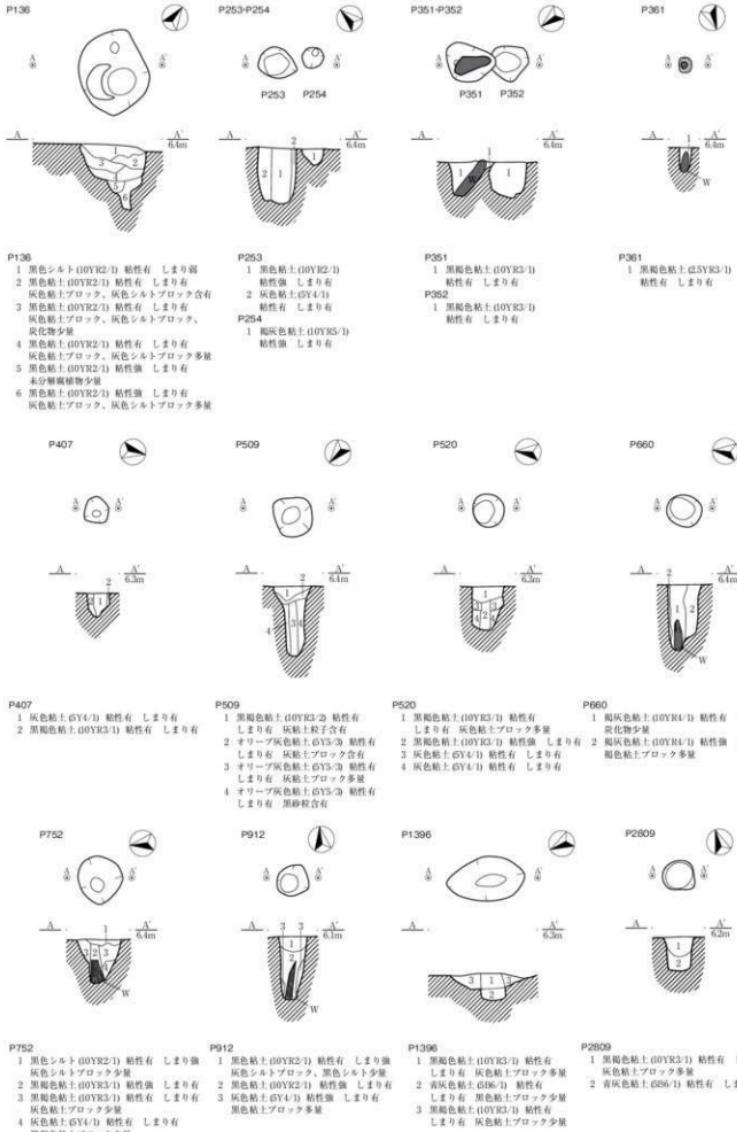
遺構個別図28 溝2, 道路状遺構、性格不明遺構、ピット1

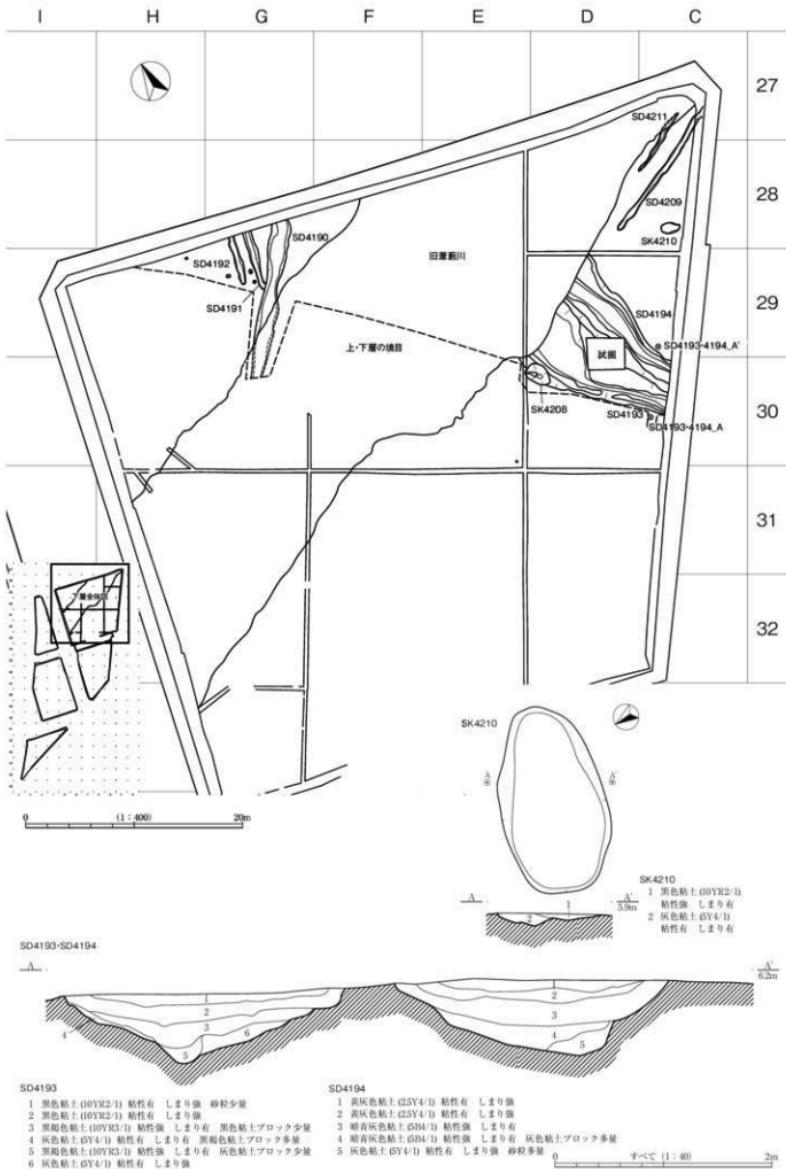
圖版 49



圖版 50

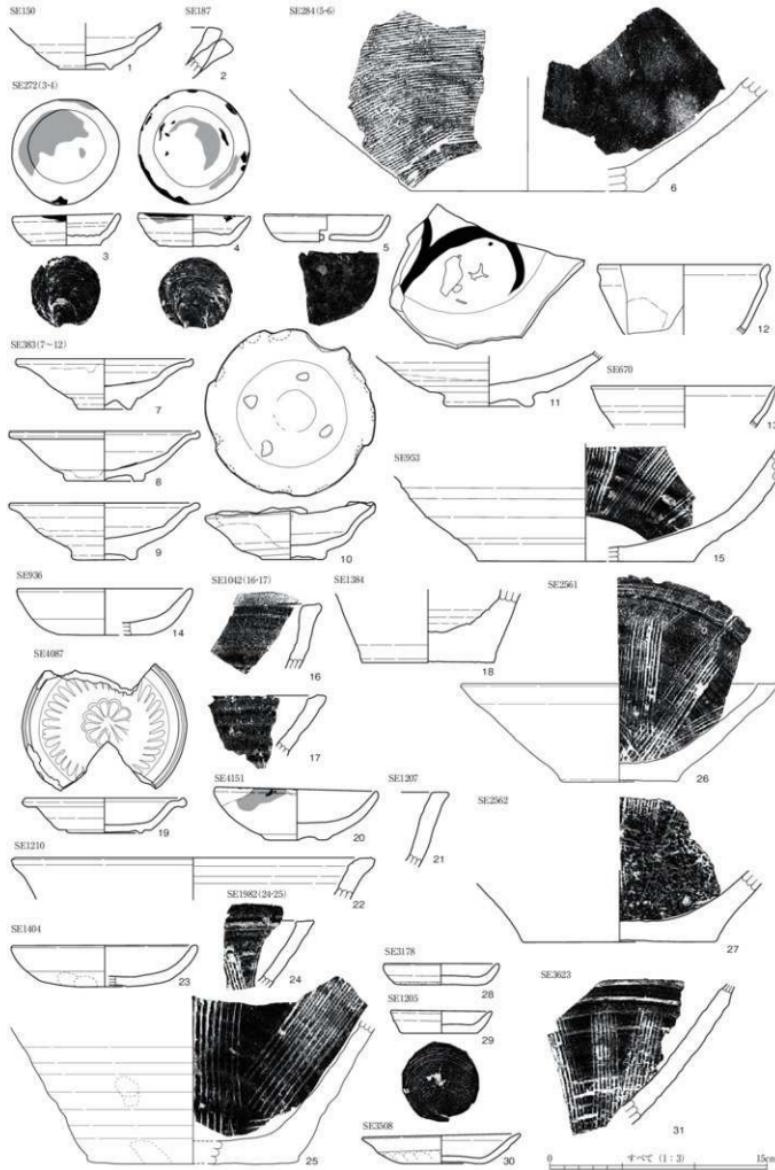
遺構個別図29 ピット2

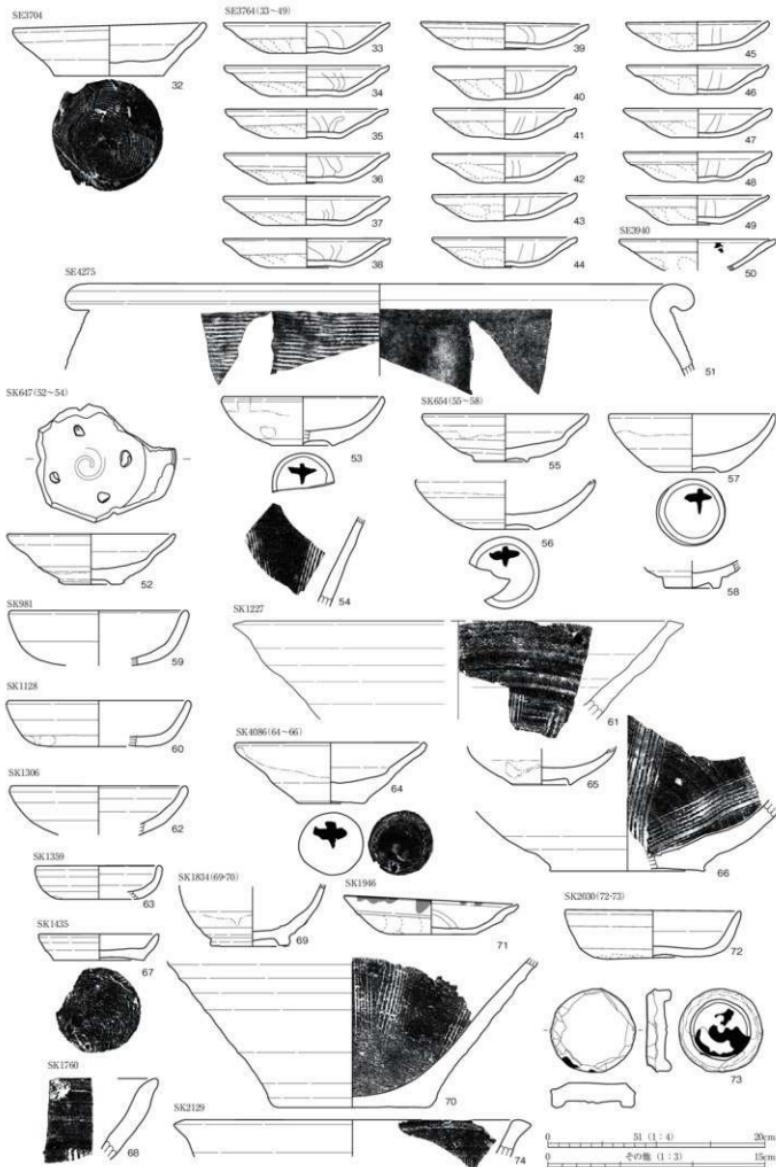




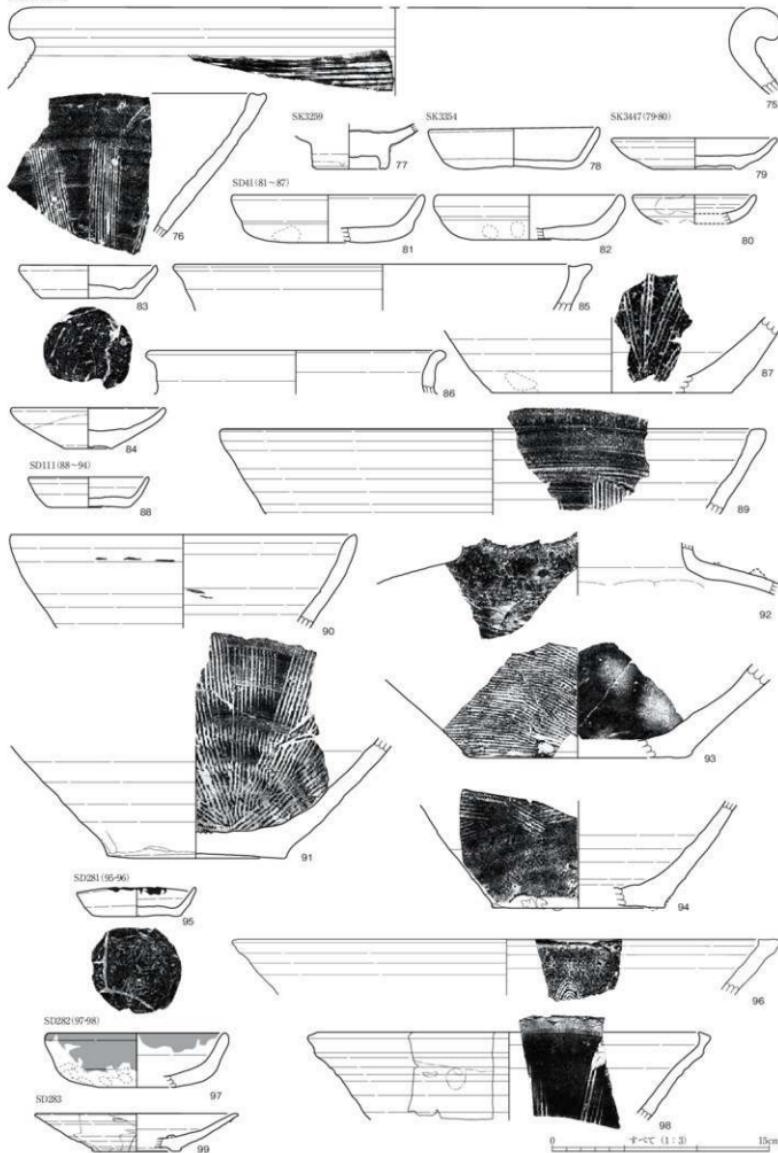
図版 52

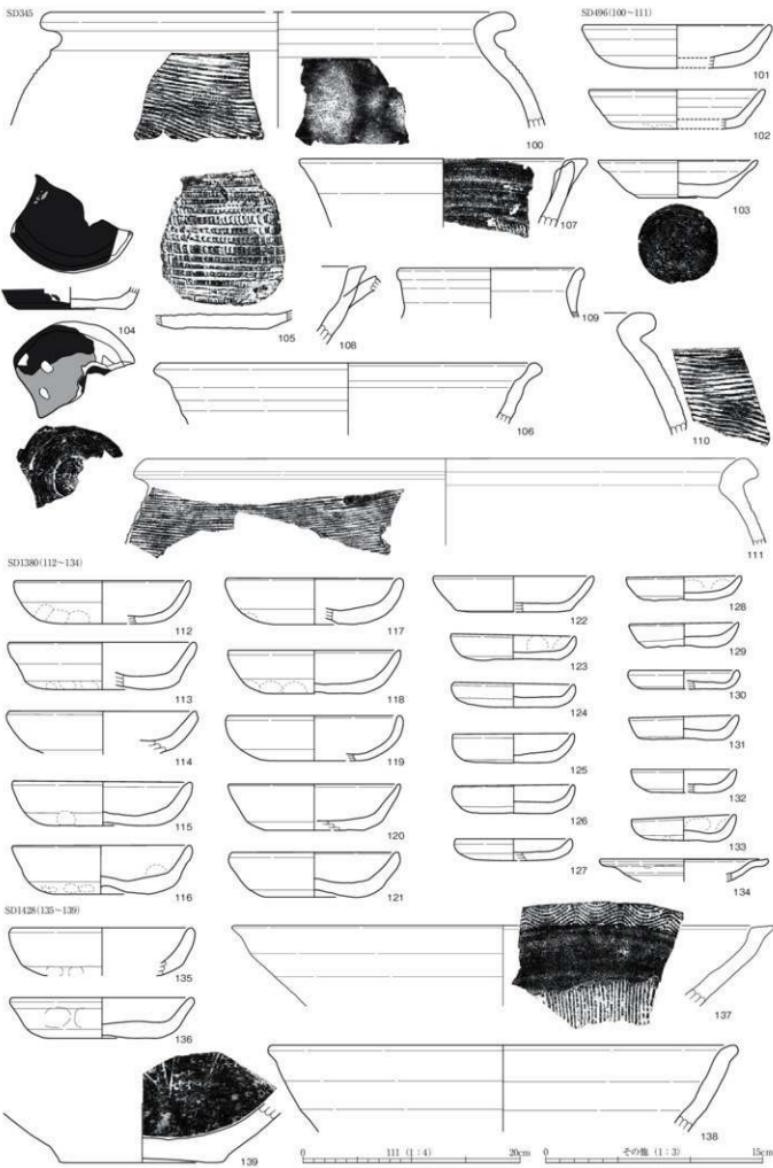
土器・陶磁器類 1





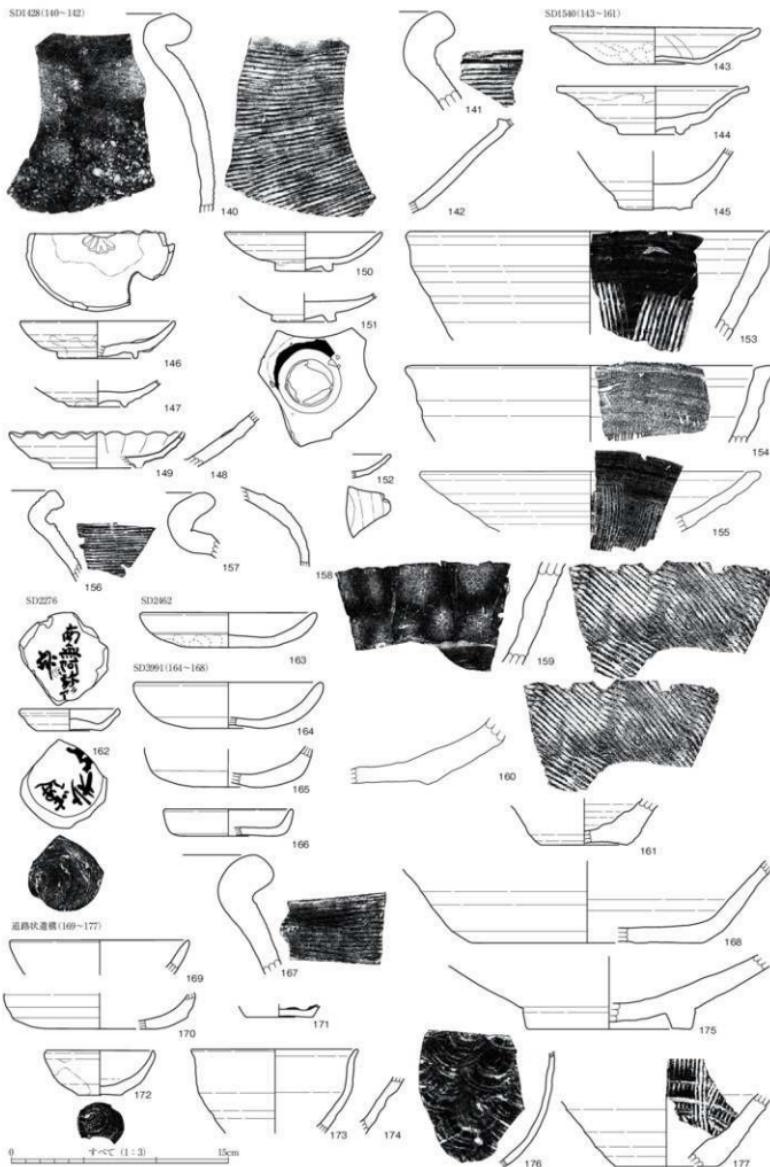
SK2973(75-76)

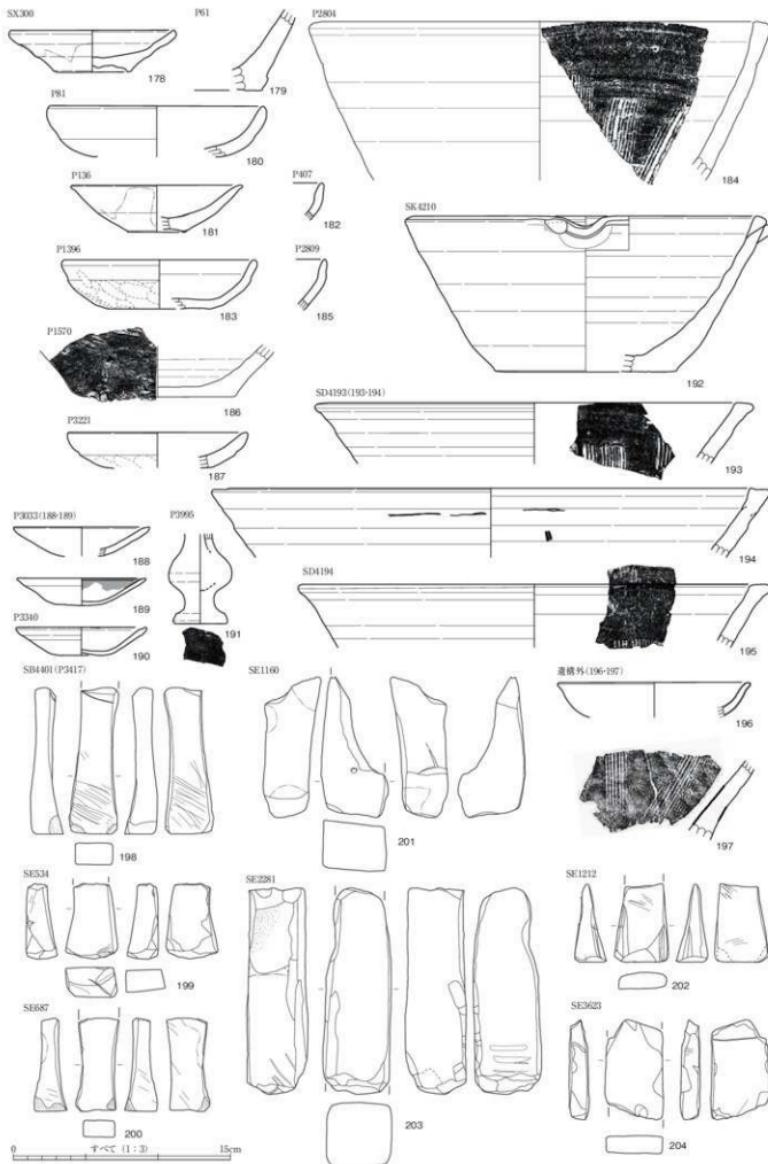




図版 56

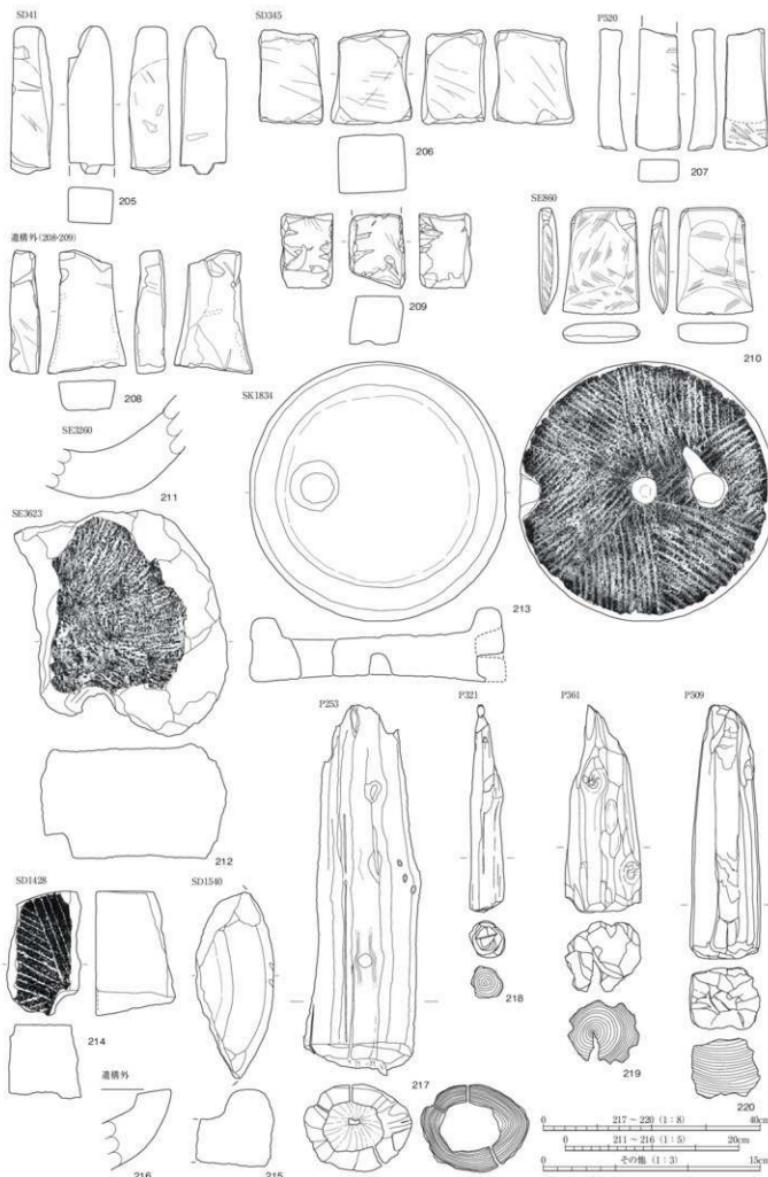
土器・陶磁器類 5





図版 58

石製品2(砥石・磨製石斧・石臼)、木製品1(柱柾)



0 217~220 (1:8) 40cm  
0 211~216 (1:5) 20m  
0 その他の (1:3) 15cm

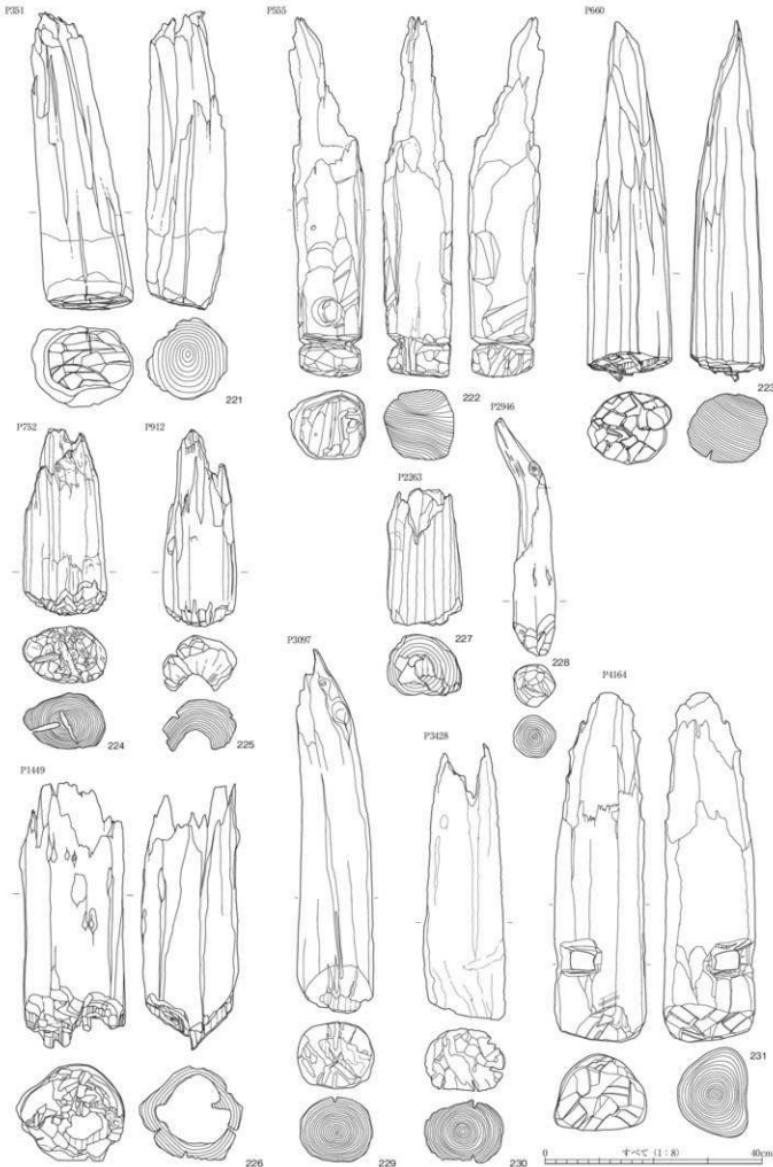
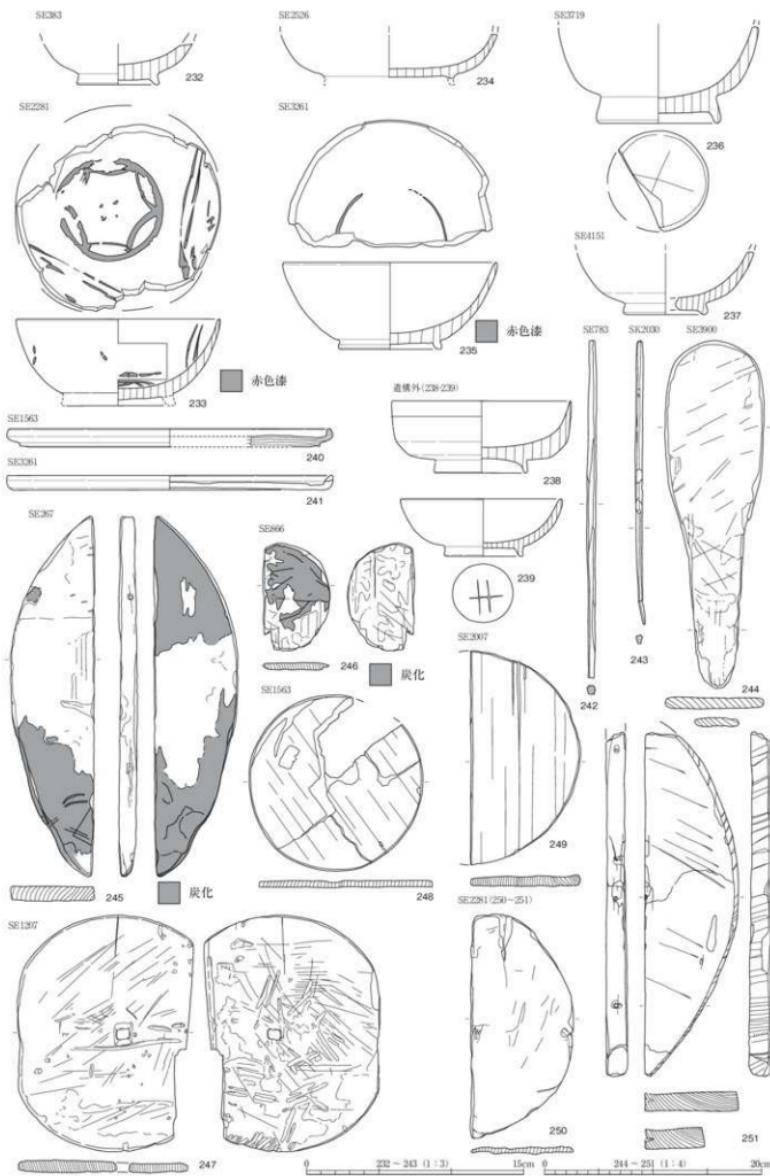
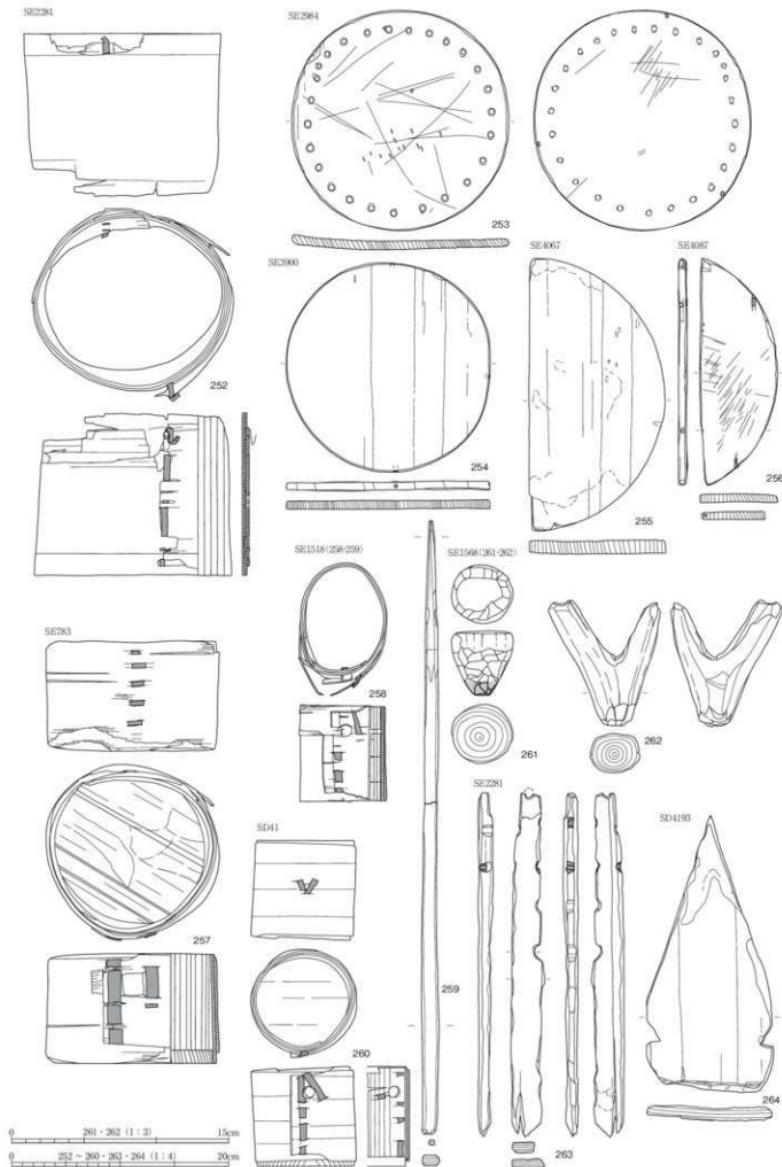


圖 版 60

### 木製品 3 (漆器椀・盤・箸・杓子・曲物)

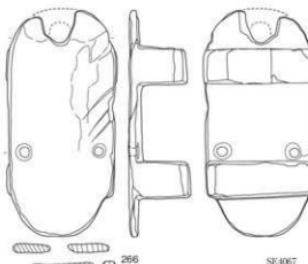
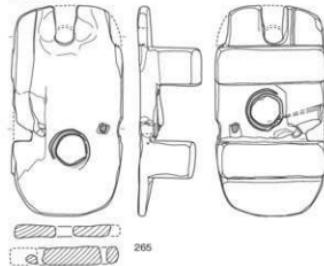




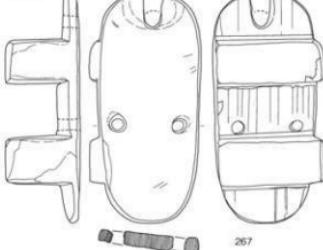
図版 62

木製品 5 (下駄・農具)

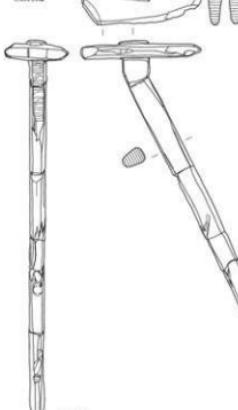
SE4066(265-266)



SE4067



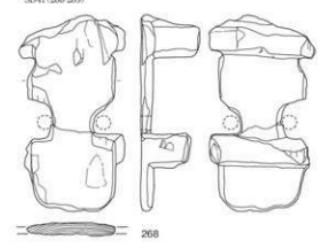
SE1982



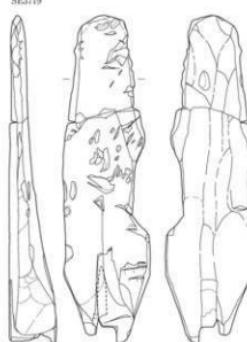
SE4067



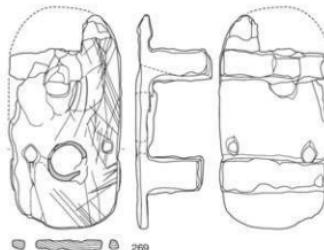
SD41(268-269)



SE3719



P3119



0

× 尺寸 (1:4)

20cm

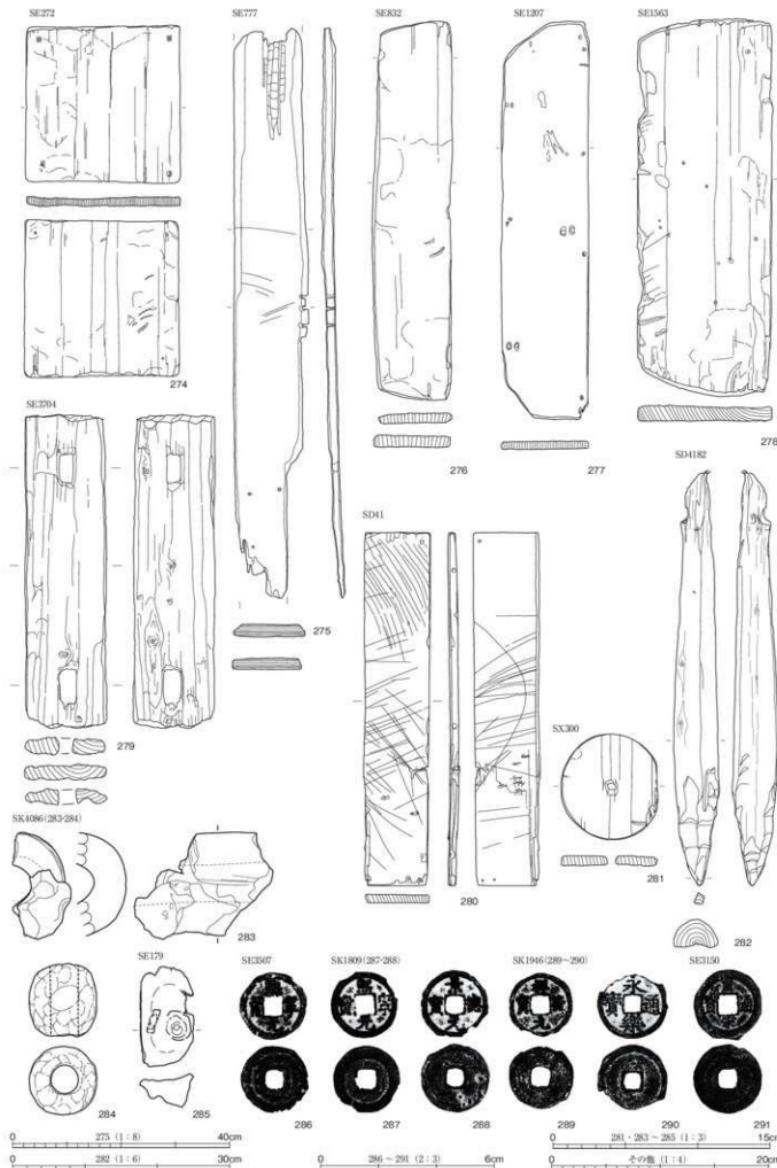
271

0

270 ~ 273 (1:8)

40cm







調査区 遺跡 北から



調査区 空撮 沢上西から(合成)



遺跡位置 一般財団法人日本地図センター発行 1947(昭和22)年11月11日 米軍撮影



基本層序 西から



2区 SB4345 完掘 北西から



2区 SB4345 完掘 北東から



SE3764 出土遺物



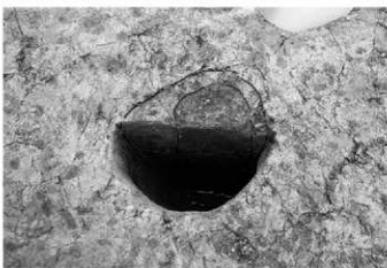
1区 SB4301・SB4306 西から



1区 SB4301 P380 セクション 北から



1区 SB4301 P471 セクション 南から



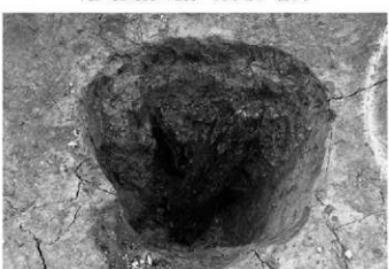
1区 SB4301 P942 セクション 西から



1区 SB4306 P259 セクション 西から



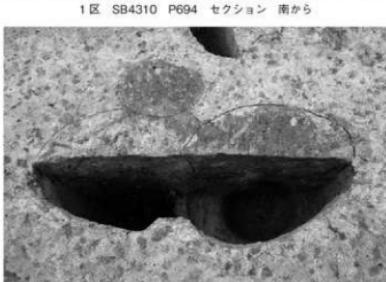
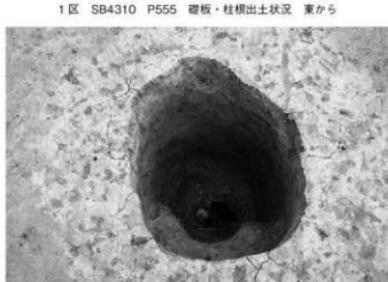
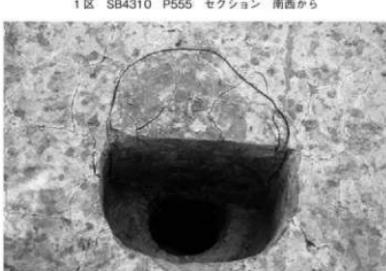
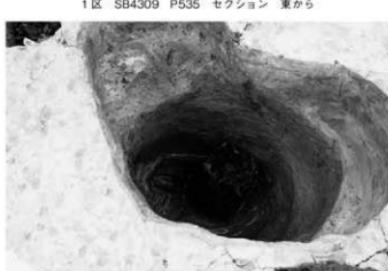
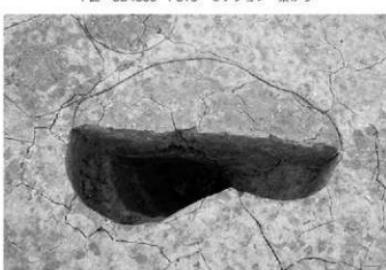
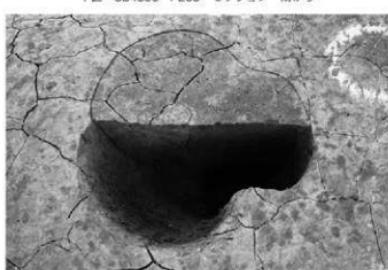
1区 SB4306 P321 セクション 東から

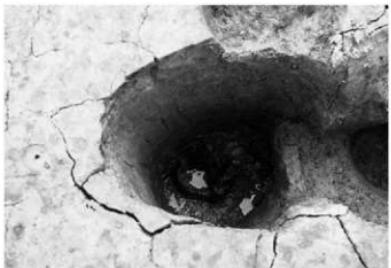


1区 SB4306 P321 柱根出土状況 東から



1区 SB4309・SB4310 西から

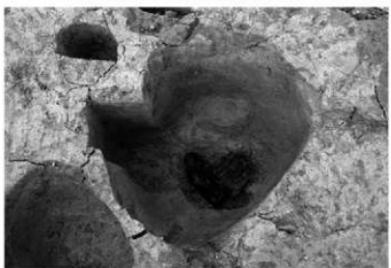




1区 SB4310 P712 柱根出土状況 西から



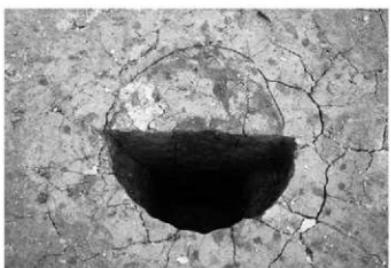
1区 SB4310 P728 セクション 東から



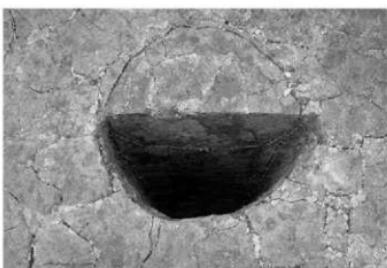
1区 SB4310 P728 柱根出土状況 東から



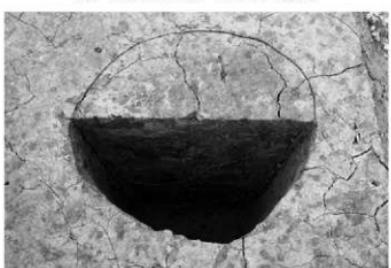
1区 SB4314 P952 セクション 西から



1区 SB4314 P1102 セクション 南から



1区 SB4314 P1192 セクション 東から



1区 SB4316 P1111 セクション 南から



1区 SB4316 P1131 セクション 南から



1区 SB4316 P1137 セクション 南から



1区 SB4316 P1190 セクション 西から



1区 SB4325 P491 セクション 南から



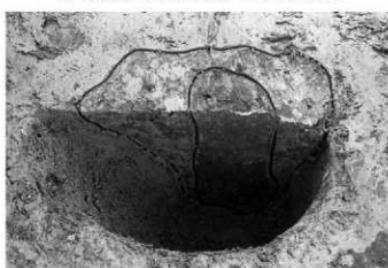
1区 SB4325 P4063 セクション 東から



1区 SB4325 P4078・P4079 セクション 北から



1区 SB4325 P4079 柱根出土状況 北から



1区 SB4326 P419 セクション 東から



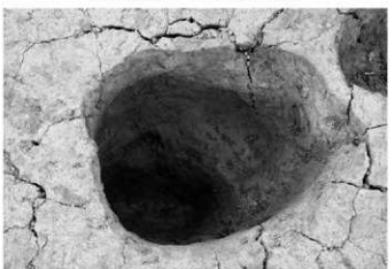
1区 SB4326 P495 セクション 東から



2区 SB4345-1・2 掘出状況 北から



2区 SB4345-1 P1297 セクション 南から



2区 SB4345-1 P1297 実掘 南から



2区 SB4345-1 P1350・P1351 セクション 西から



2区 SB4345-1 P1366・P1368 セクション 東から



2区 SB4345-2 P1342 セクション 南から



2区 SB4345-2 P1364 セクション 南から



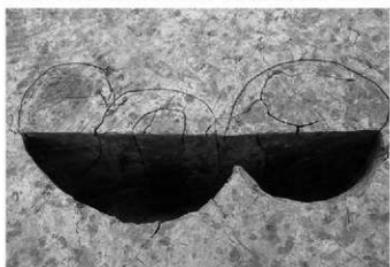
2区 SB4345-2 P1378・P1379 セクション 西から



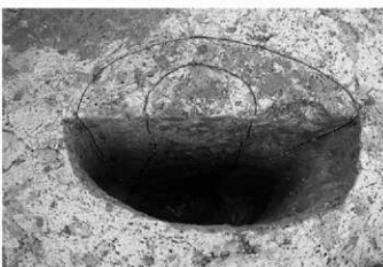
2区 SB4348・SB4351・SB4353・SB4355 検出状況 北から



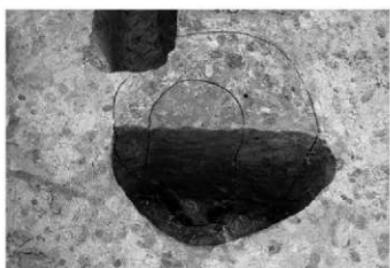
2区 SB4348 P1270 セクション 南から



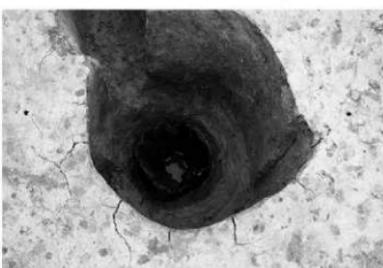
2区 SB4348 P1323・P1324・P1325 セクション 南から



2区 SB4351 P1417 セクション 東から



2区 SB4351 P1449 セクション 東から



2区 SB4351 P1449 柱根出土状況 東から



2区 SB4351 P1555 セクション 西から



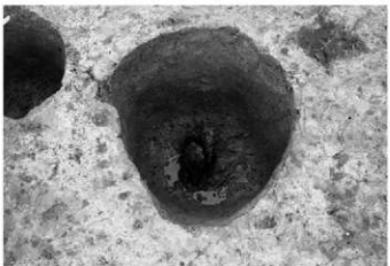
2区 SB4353 P1481 セクション 南から



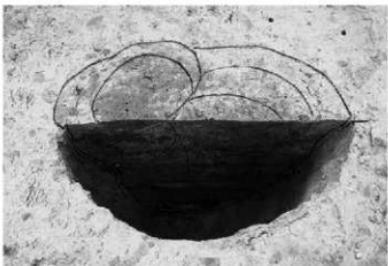
2区 SB4353 P1530 セクション 東から



2区 SB4353 P1612 セクション 東から



2区 SB4353 P1612 柱根出土状況 東から



2区 SB4353 P1923・P1924 セクション 西から



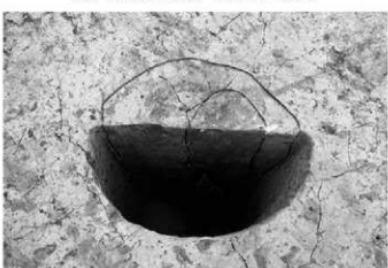
2区 SB4355 P1589 セクション 東から



2区 SB4355 P2263 セクション 西から

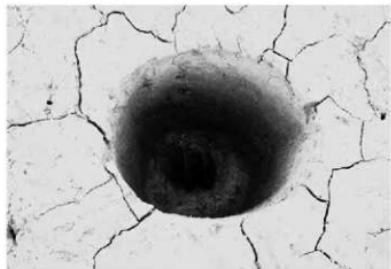


2区 SB4369 P2082 セクション 南から



2区 SB4369 P2096 セクション 南東から

図版 73



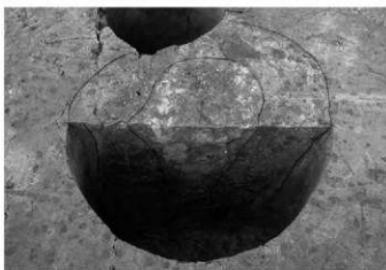
2区 SB4369 P2096 セクション 南東から



2区 SB4369 P2250 セクション 西から



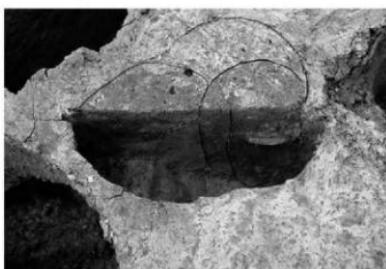
2区北 全景 南東から



2区 SB4396 P3103 セクション 東から



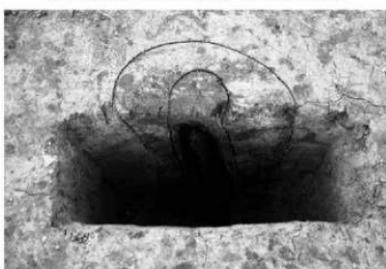
2区 SB4396 P3781 セクション 西から



2区 SB4397 P3126・P3176 セクション 南から



2区 SB4397 P3872 セクション 西から



2区 SB4398 P3119 セクション 南から

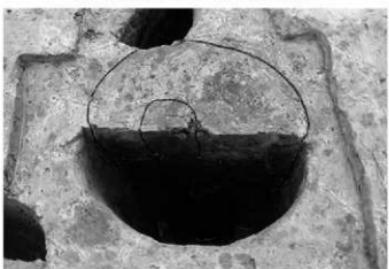
2区掘立柱建物 4



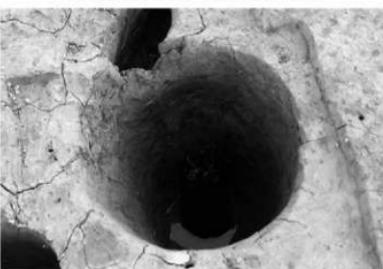
2区 SB4398 P3428 セクション 南から



2区 SB4398 P3428 柱根出土状況 南から



2区 SB4398 P3450 セクション 北西から



2区 SB4398 P3450 柱根出土状況 北西から



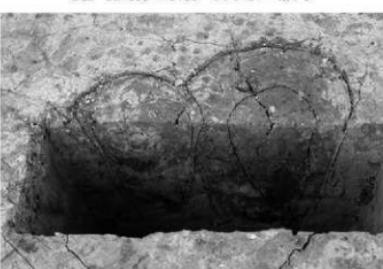
2区 SB4399 P3141 セクション 西から



2区 SB4399 P3190 セクション 東から



2区 SB4399 P3410 セクション 北から



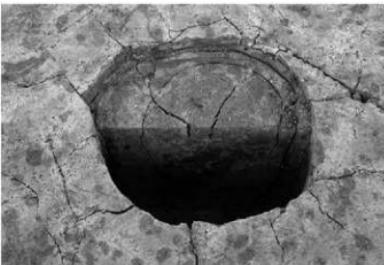
2区 SB4401 P3193・P3194 (SB4398) セクション 南から

図版 75

2区掘立柱建物 6、3区掘立柱建物 1



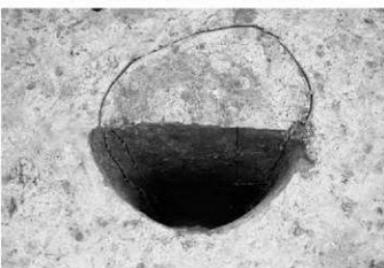
2区 SB4401 P3199 セクション 南から



2区 SB4401 P3437 セクション 東から



3区 全景 東から



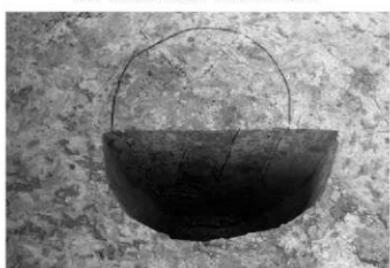
3区 SB4420 P3780 セクション 南から



3区 SB4420 P3857 セクション 南から



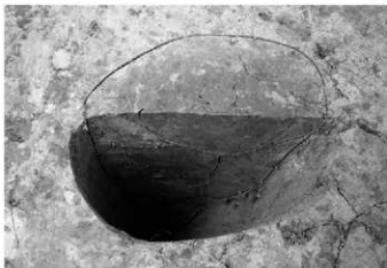
3区 SB4427 P3332 セクション 南から



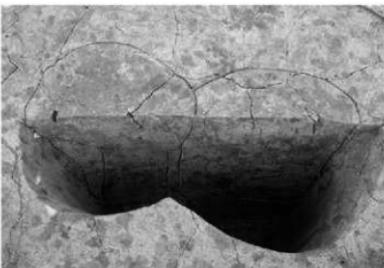
3区 SB4427 P3335 セクション 東から



3区 SB4427 P3382 セクション 西から



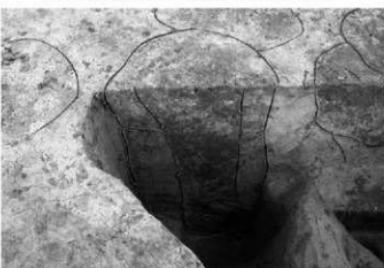
3区 SB4428 P3333 セクション 南から



3区 SB4428 P3744・P3743 セクション 南から



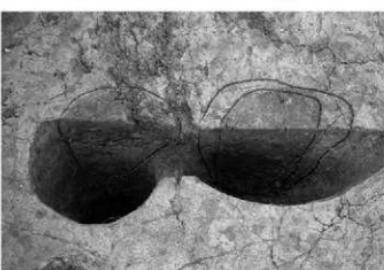
3区 SB4428 P3481 セクション 南から



3区 SB4429 P3369 セクション 南西から



3区 SB4429 P3493 セクション 北から



3区 SB4438 P3069・P3070 セクション 南東から



3区 SB4438 P3078 セクション 南から



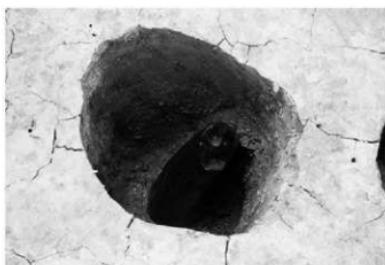
3区 SB4439 P3082 セクション 東から

図版 77

3区掘立柱建物3、1区井戸1



3区 SB4439 SK3083・P3084・SD3002 セクション 北から



3区 SB4439 P3097 柱根出土状況 西から



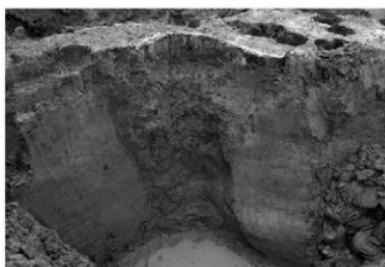
1区 SE99 セクション 北から



1区 SE99 完掘 西から



1区 SE150 セクション 北東から



1区 SE150 完掘 南西から



1区 SE151 セクション 南から



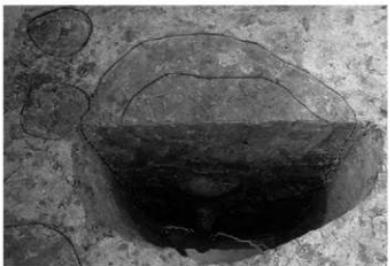
1区 SE151 完掘 南から



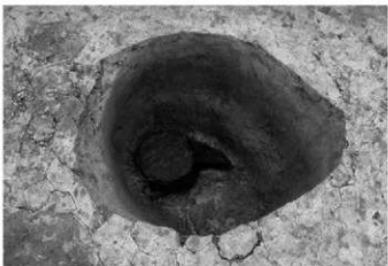
1区 SE187 セクション 南から



1区 SE187 完成 南から



1区 SE267 セクション 東から



1区 SE267 遺物出土状況 東から



1区 SE272 セクション 北から



1区 SE272 完成 東から



1区 SE284 セクション 南から



1区 SE284 碓出土状況 南から



1区 SE284、P443 完掘 南から



1区 SE383 セクション 東から



1区 SE383 完掘 東から



1区 SE534 セクション 北から



1区 SE534 遺物出土状況 北から



1区 SE534 完掘 北から



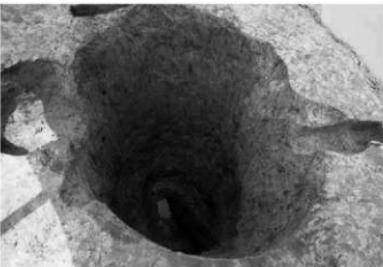
1区 SE670 セクション 東から



1区 SE687 セクション 東から



1区 SE777 セクション 南から



1区 SE777 完成 南から



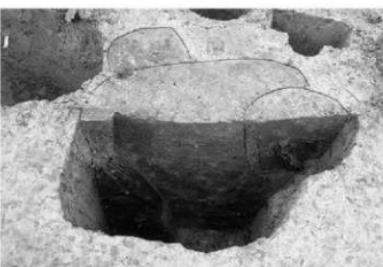
1区 SE783 セクション 南から



1区 SE783 遺物出土状況 南から



1区 SE783 完成 南から



1区 SE813、P814 セクション 西から



1区 SE813、P814 完成 西から



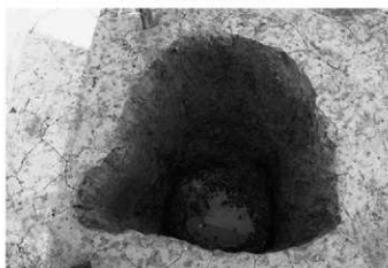
1区 SE832 セクション 南から



1区 SE832 完掘 南から



1区 SE860, P908 セクション 南から



1区 SE860, P908 完掘 南から



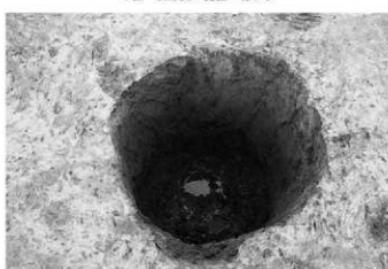
1区 SE855 セクション 北から



1区 SE855 完掘 北から



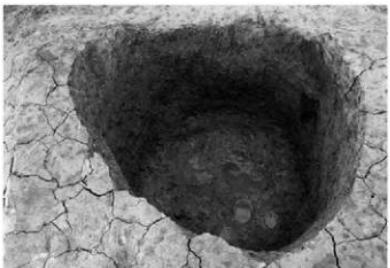
1区 SE866 セクション 南から



1区 SE866 完掘 南から



1区 SE936 セクション 東から



1区 SE936 完掘 南から



1区 SE953 セクション 南から



1区 SE953 完掘 南から



1区 SE1045 セクション 西から



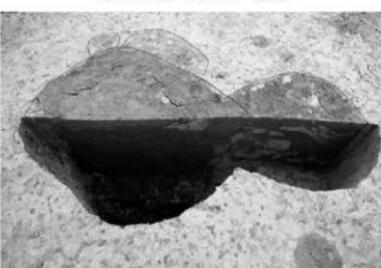
1区 SE1045 完掘 南から



1区 SE1160 セクション 南から



1区 SE1384、P1395 完掘 東から



1区 SE4067、SK4068 セクション 南から

図版 83

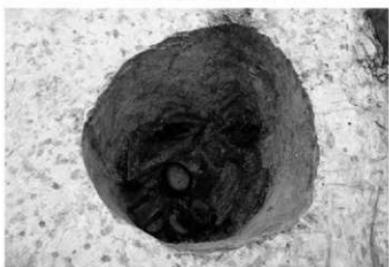
1区井戸7、2区井戸1



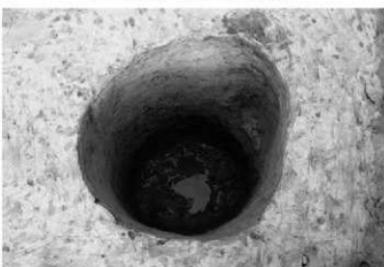
1区 SE4067 実掘 南から



1区 SE4087 セクション 南西から



1区 SE4087 遺物出土状況 南西から



1区 SE4087 実掘 南西から



1区 SE4151 セクション 南から



1区 SE4151 実掘 南から



2区 SE1207 セクション 南から



2区 SE1207 実掘 南から



2区 SE1210, SD1211 セクション 西から



2区 SE1210 完掘 西から



2区 SE1212 セクション 南西から



2区 SE1212 完掘 南西から



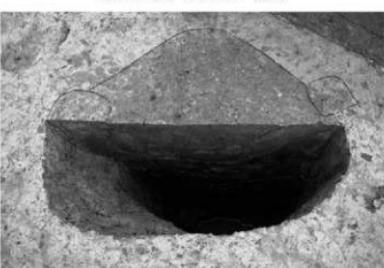
2区 SE1404 セクション 西から



2区 SE1518 セクション 東から



2区 SE1518 完掘 東から



2区 SE1563, P1564 セクション 南から



2区 SE1563、P1564 実掘 南から



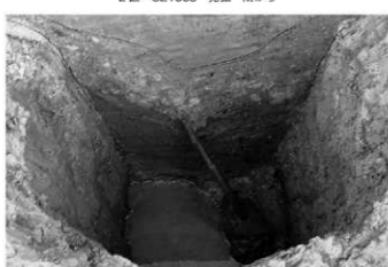
2区 SE1568 セクション 南から



2区 SE1568 実掘 南から



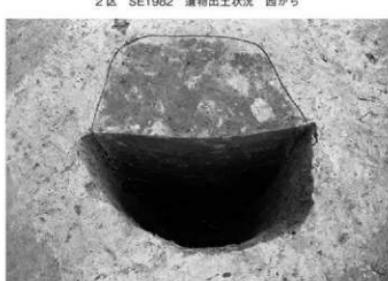
2区 SE1982 セクション 西から



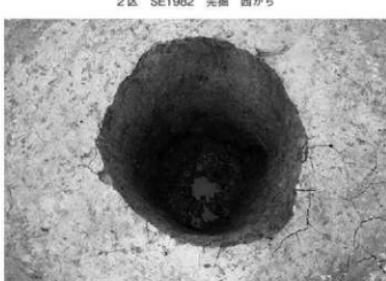
2区 SE1982 漢物出土状況 西から



2区 SE1982 実掘 西から



2区 SE2007 セクション 南西から



2区 SE2007 実掘 南西から



2区 SE2281 セクション 南から



2区 SE2281 遺物出土状況 南から



2区 SE2281 遺物出土状況2 南から



2区 SE2526 完掘 南から



2区 SE2561 セクション 南東から



2区 SE2561 完掘 南東から



2区 SE2562 セクション 南から



2区 SE2562 完掘 南から



2区 SE2984 セクション 南から



2区 SE2984 遺物出土状況 南から



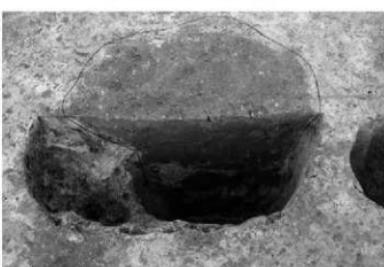
2区 SE2984 完整 南から



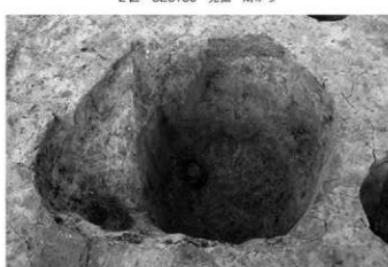
2区 SE3150 セクション 南から



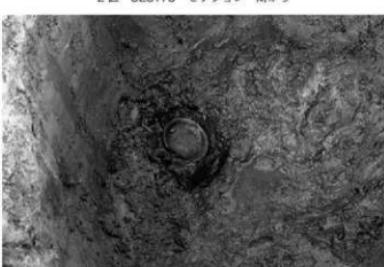
2区 SE3150 完整 南から



2区 SE3178 セクション 南から



2区 SE3178 完整 南から



2区 SE3178 遺物出土状況 南から



2区 SE3900 セクション 北から



2区 SE3900 完掘 北から



2区 SE1205 セクション 西から



2区 SE1205 完掘 西から



3区 SE3260 セクション 北から



3区 SE3261 セクション 南から



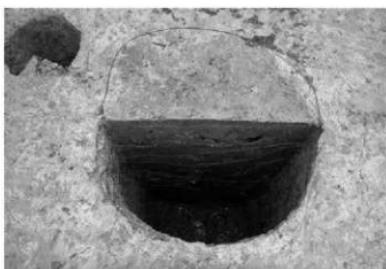
3区 SE3261 完掘 南から



3区 SE3507 セクション 南から



3区 SE3507 完掘 南から



3区 SE3508 セクション 南西から



3区 SE3508 完掘 南西から



3区 SE3623, SD3624 セクション 南から



3区 SE3623 破出土状況 南から



3区 SE3623 完掘 南から



3区 SE3704 セクション 南から



3区 SE3704 潜出状況 南から



3区 SE3726 セクション 南から



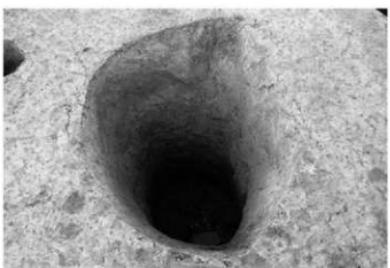
3区 SE3726 完掘 南から



3区 SE3719 セクション 南から



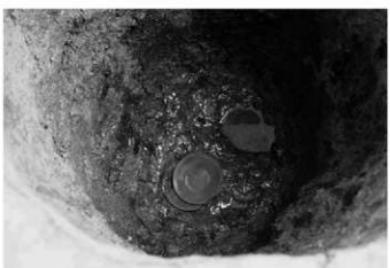
3区 SE3719 遺物出土状況 南から



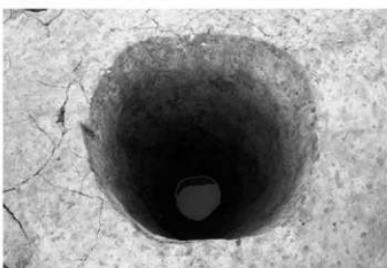
3区 SE3719 完掘 南から



3区 SE3764 セクション 南東から



3区 SE3764 遺物出土状況 南東から



3区 SE3764 完掘 南東から

図版 91

3区井戸4、1区土坑1



3区 SE3940 セクション 南から



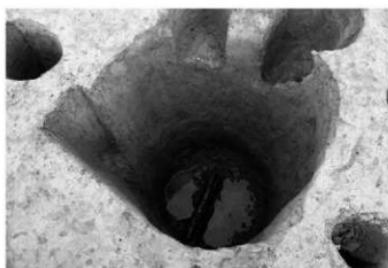
3区 SE3940 遺物出土状況 南から



3区 SE3940 完掘 南から



3区 SE4030 セクション 南から



3区 SE4030 完掘 南から



3区 SE4275 セクション 南から



1区 SK44 セクション 南東から



1区 SK44 完掘 東から



1区 SK651 セクション 東から



1区 SK651 完成 東から



1区 SK654 セクション 東から



1区 SK654 完成 東から



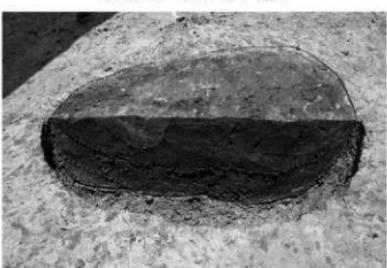
1区 SK647 セクション1 南から



1区 SK647 セクション2 南から



1区 SK647 完成 東から



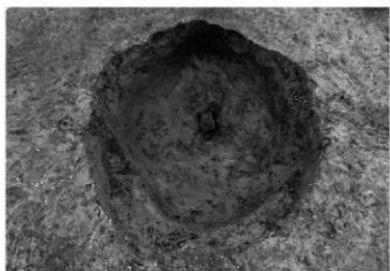
1区 SK688 セクション 南から



1区 SK688 完掘 南から



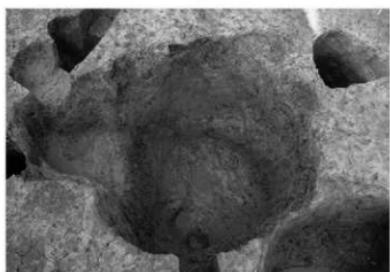
1区 SK853 セクション 西から



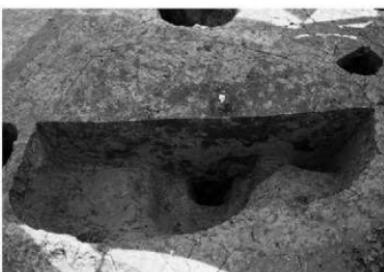
1区 SK853 完掘 西から



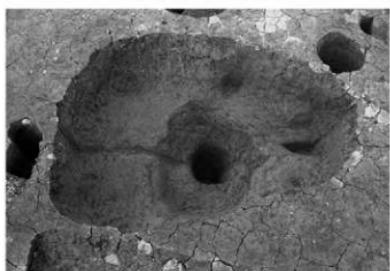
1区 SK981 セクション 東から



1区 SK981 完掘 南から



1区 SK1128 セクション 南西から



1区 SK1128 完掘 南西から



1区 SK1168 セクション 南東から



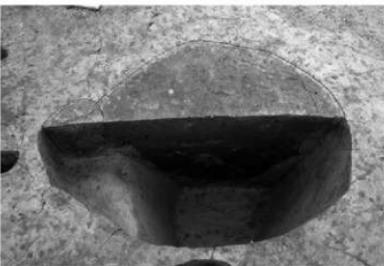
1区 SK1227 セクション 東から



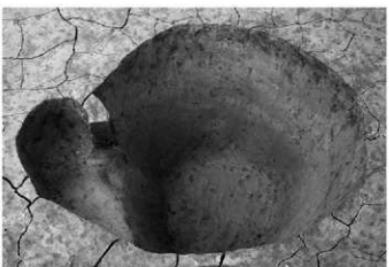
1区 SK4086, SD41, SD496 セクション 東から



1区 SK4086 完掘 東から



2区 SK1306, P1305 セクション 南から



2区 SK1306, P1305 完掘 南から



2区 SK1359 セクション 北から



2区 SK1435・SK1436, P1437 セクション 東から



2区 SK1435 完掘 東から



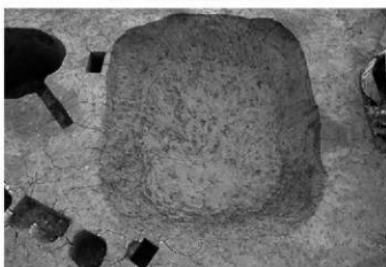
2区 SK1515 セクション 南東から



2区 SK1515 実掘 南東から



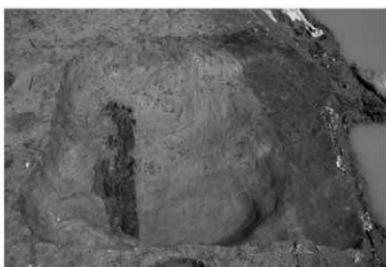
2区 SK1760 セクション 東から



2区 SK1760 実掘 東から



2区 SK1809 セクション 南から



2区 SK1809 実掘 南から



2区 SK1834 セクション 南から



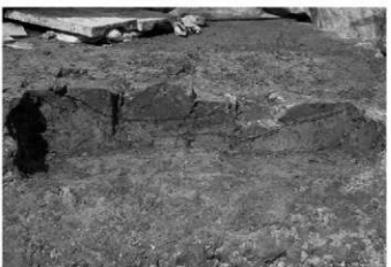
2区 SK1834 残物出土状況 南から



2区 SK1946 セクション 東から



2区 SK1946 完掘 東から



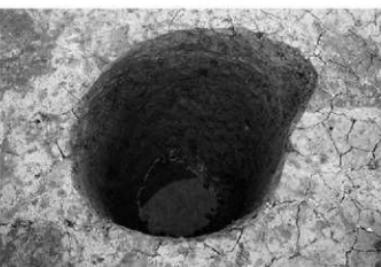
2区 SK1947 セクション 東から



2区 SK1947 完掘 東から



2区 SK2062 セクション 西から



2区 SK2062 完掘 西から



2区 SK2129 セクション 南西から



2区 SK2129 完掘 南西から



2区 SK2030 セクション 西から



2区 SK2030 遺物出土状況 南から



2区 SK2030 完整 南から



2区 SK2278 セクション 北から



2区 SK2278 完整 西から



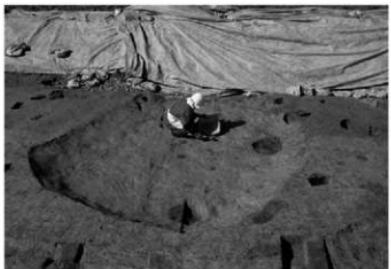
2区 SK2973 セクション 西から



2区 SK2973 完整 西から



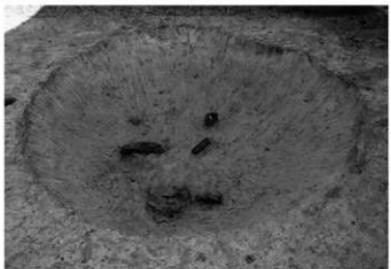
2区 SK2894 セクション 東から



2区 SK2894 完掘 東から



2区 SK3447 セクション 南から



2区 SK3447 完掘 南から



2区 SK3641 セクション 東から



2区 SK3641 完掘 東から



2区 SK3652 セクション 西から



3区 SK3259 セクション 南から



3区 SK3259 遺物出土状況 南から

図版 99

3区土坑2、1区溝1



3区 SK3354 セクション 東から



3区 SK3354 実掘 東から



1区 SD41 セクション 西から



1区 SD41 遺物出土状況 東から



1区 SD111 セクション 西から



1区 SD111 遺物出土状況 西から



1区 SD281 セクション 南から



1区 SD282 セクション 北から



1区 SD283 セクション 南から



1区 SD345, P356 セクション 東から



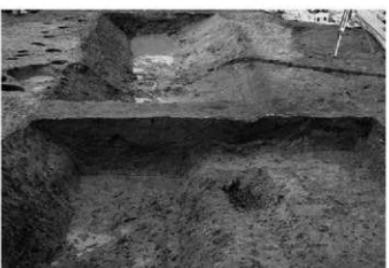
1区 SD496 セクション 北から



2区 SD1380 セクション 北から



2区 SD2285 セクション 南から



2区 SD1540・SD2276・SD2462 セクション 南から



2区 SD1540・SD2276・SD2462 完掘 南から



2区 SD3991・SD4019・SD4282 完掘 南から

図版 101

2区溝 2、3区溝、1区道路状造構



2区 SD3991・SD4019・SD4282 完成 南から



3区 SD3002 セクション 南東から



3区 SD3305 セクション 南から



3区 SD3383 セクション 西から



1区 道路状造構 セクション 南から



1区 道路状造構 完成 南から



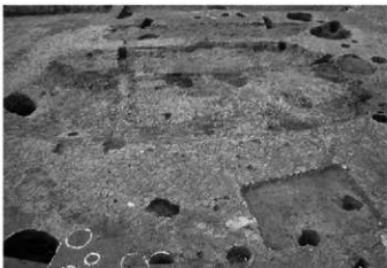
1区 道路状造構 完成 北から



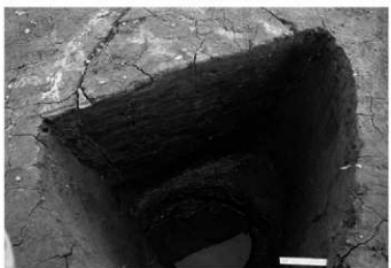
1区 道路状造構 完成 東から



1区 SX300 完掘 北から



1区 SX300 完掘 西から



1区 P61 セクション 西から



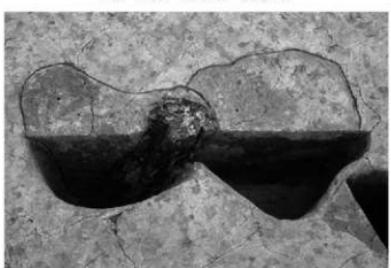
1区 P81 セクション 西から



1区 P136 セクション 南西から



1区 P253 セクション 南西から



1区 P351 セクション 北西から



1区 P361 セクション 北から



1区 P407 セクション 東から



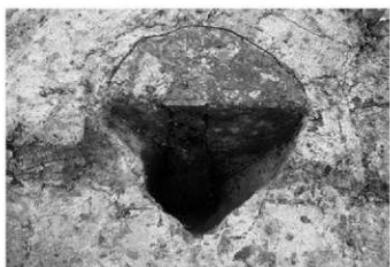
1区 P509 セクション 北から



1区 P520 セクション 西から



1区 P660 セクション 西から



1区 P752 セクション 西から



1区 P912 セクション 南から



1区 P1396 セクション 西から



1区 P2622・P2623 セクション 南西から



1区 P2809 セクション 南から



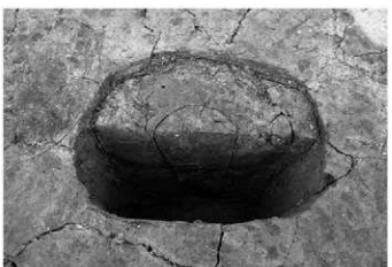
1区 P3221 セクション 西から



1区 P4164 セクション 南から



2区 P1570 セクション 南から



2区 P2946 セクション 南から



2区 P3995 セクション 北から

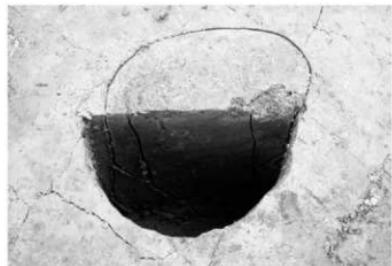


3区 P3033 セクション 南から

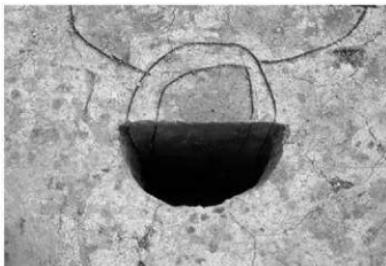


3区 P3097 セクション 西から

図版 105



3区 P3249 セクション 南東から



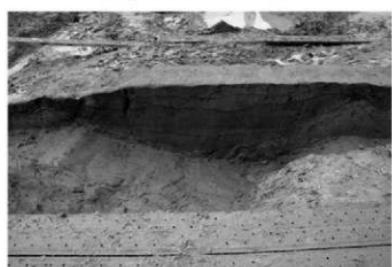
3区 P3340 セクション 北西から



1区下層 SK4210 セクション 西から



1区下層 SD4193 セクション 東から



1区下層 SD4194 セクション 東から



1区下層 SD4193・SD4194 実地 東から

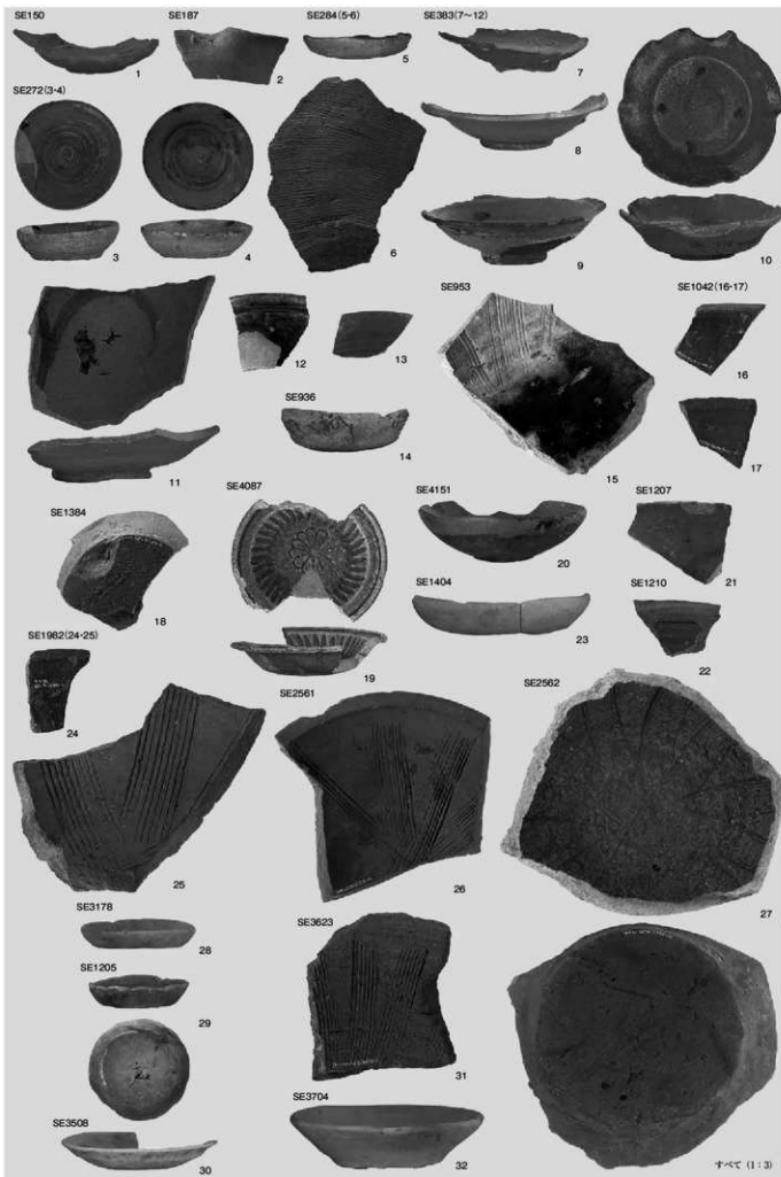


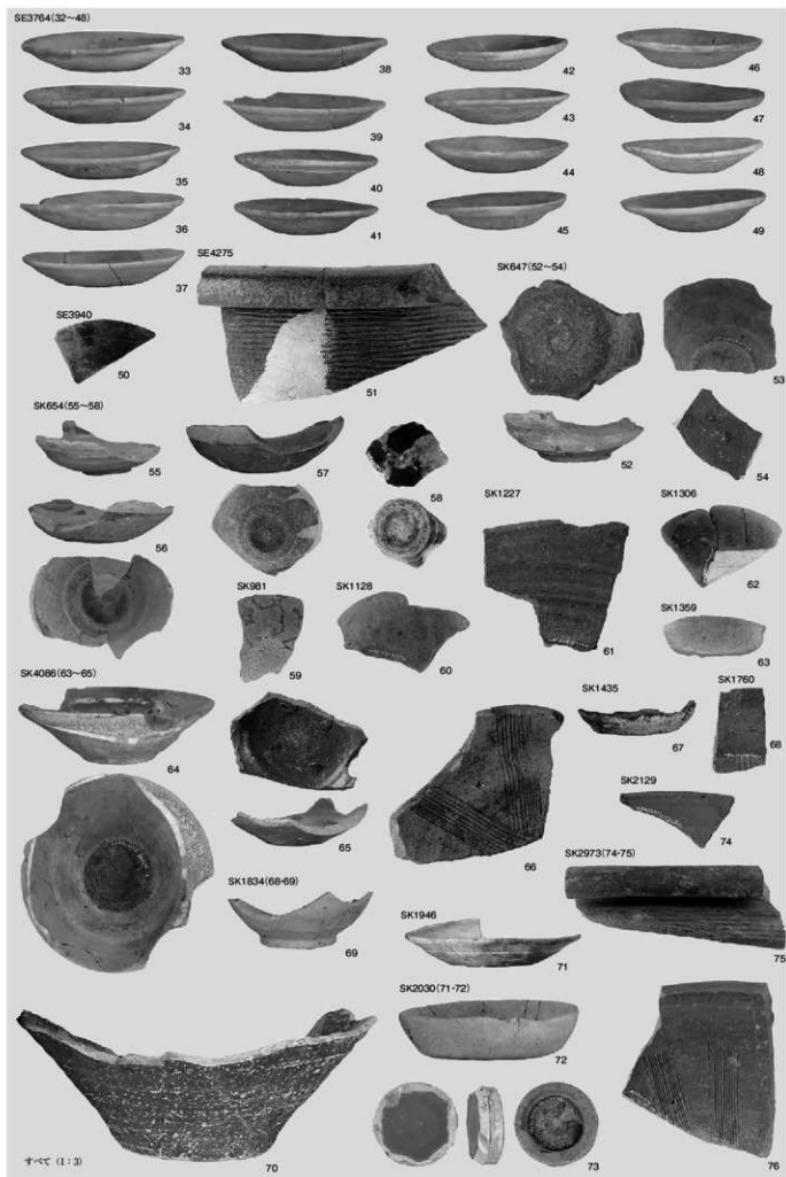
1区下層 全景 北西から

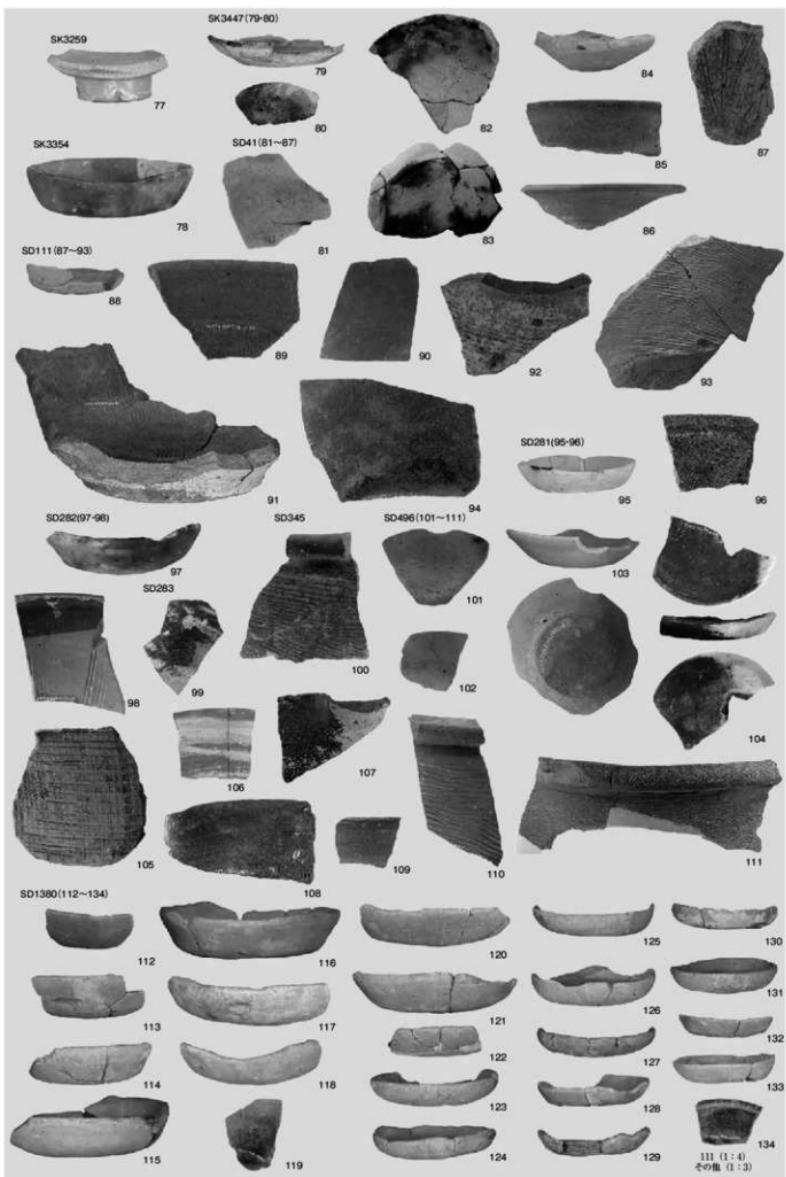


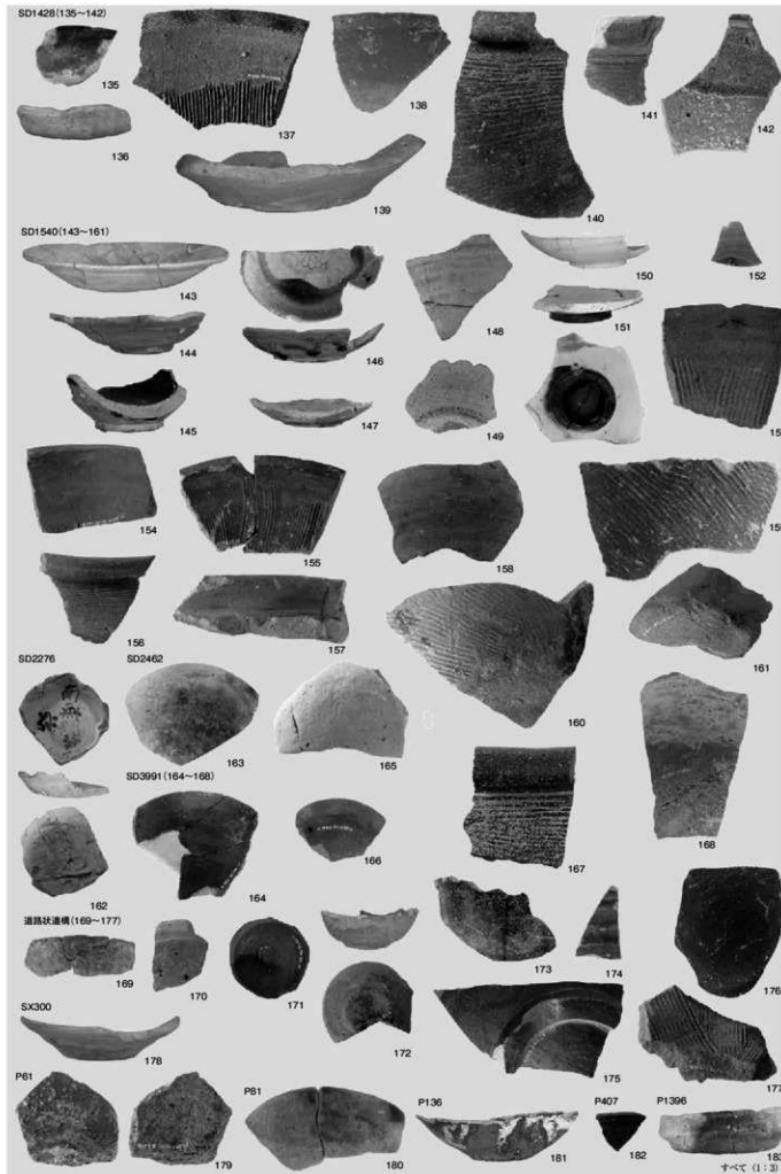
現地説明会の様子 東から

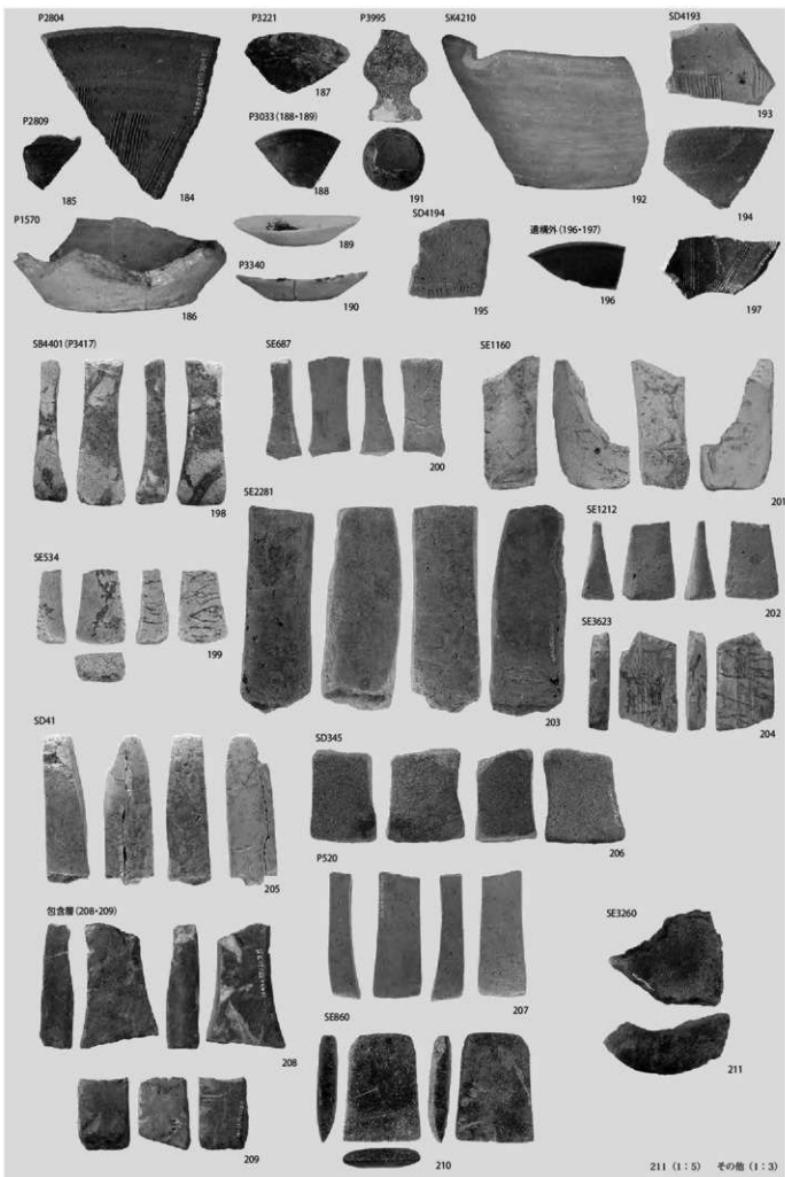
3区ピット、1区下層遺構

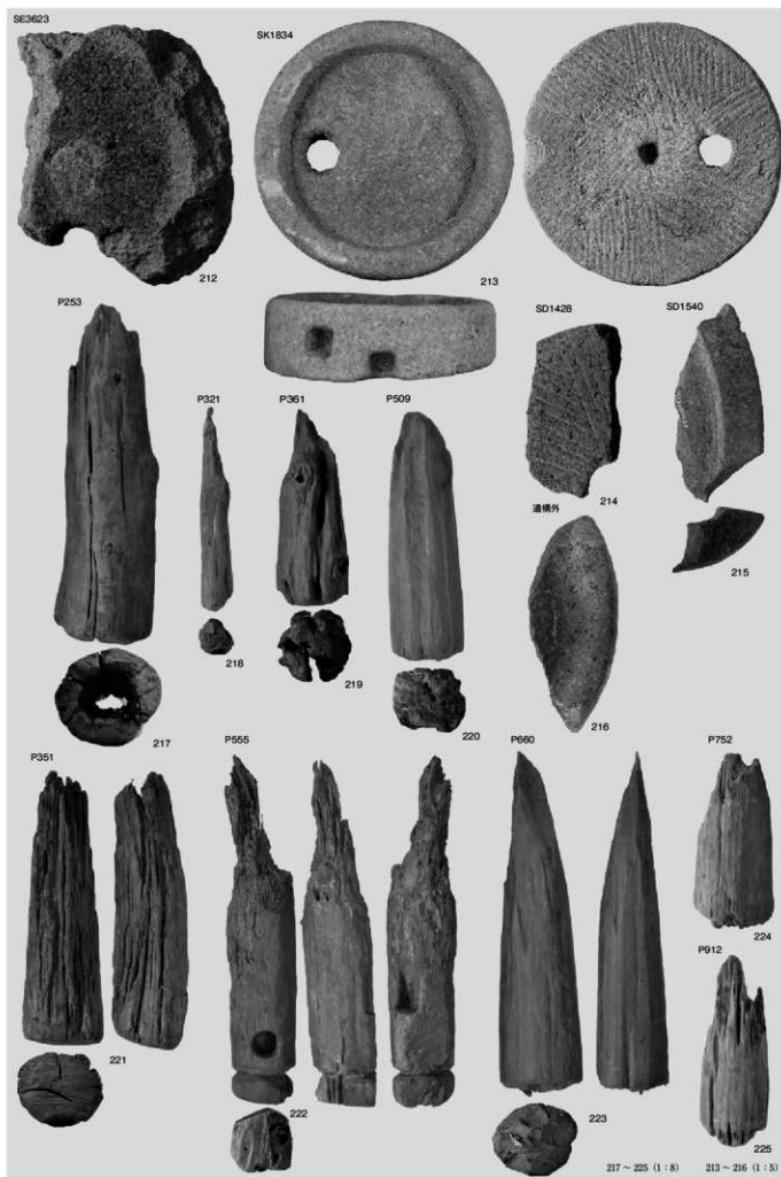


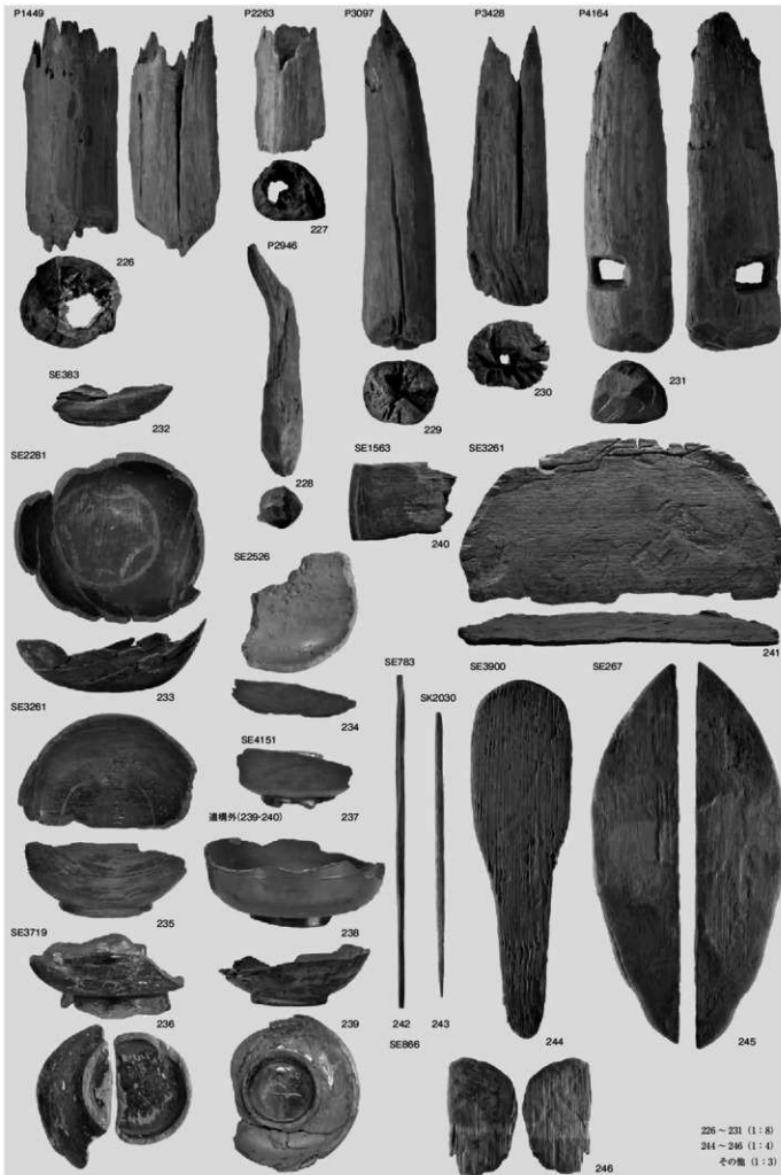


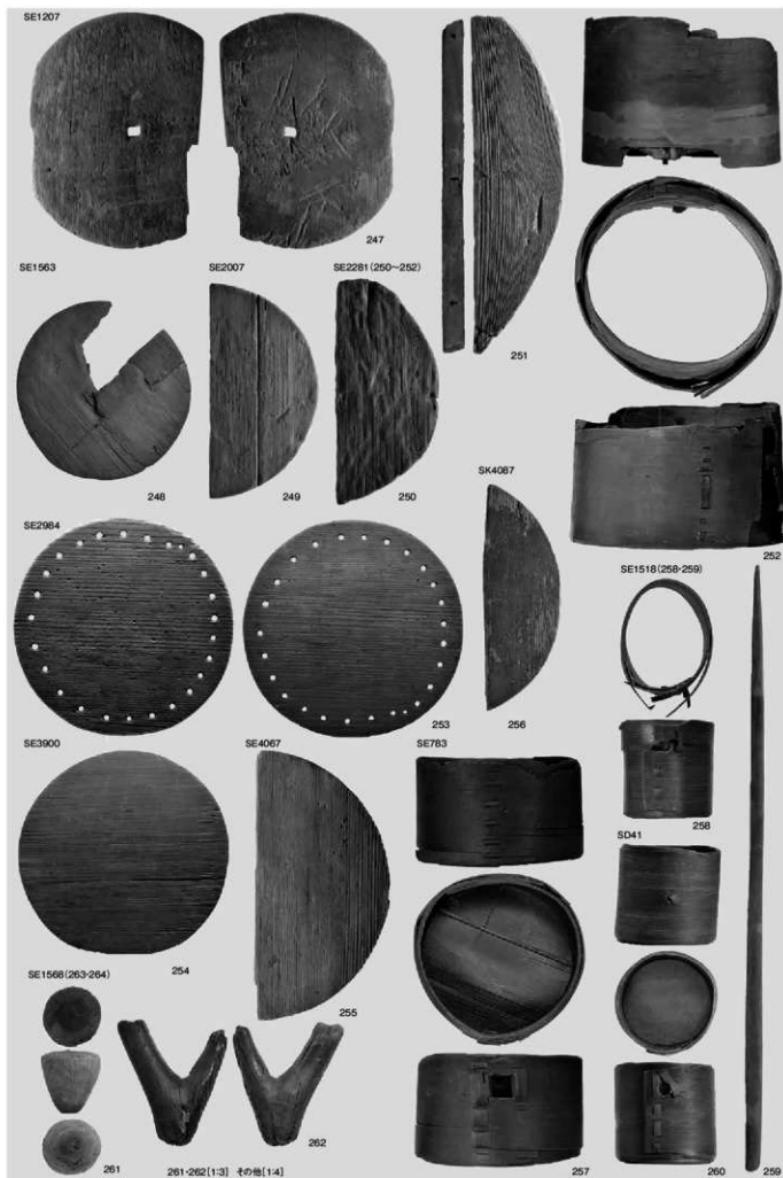


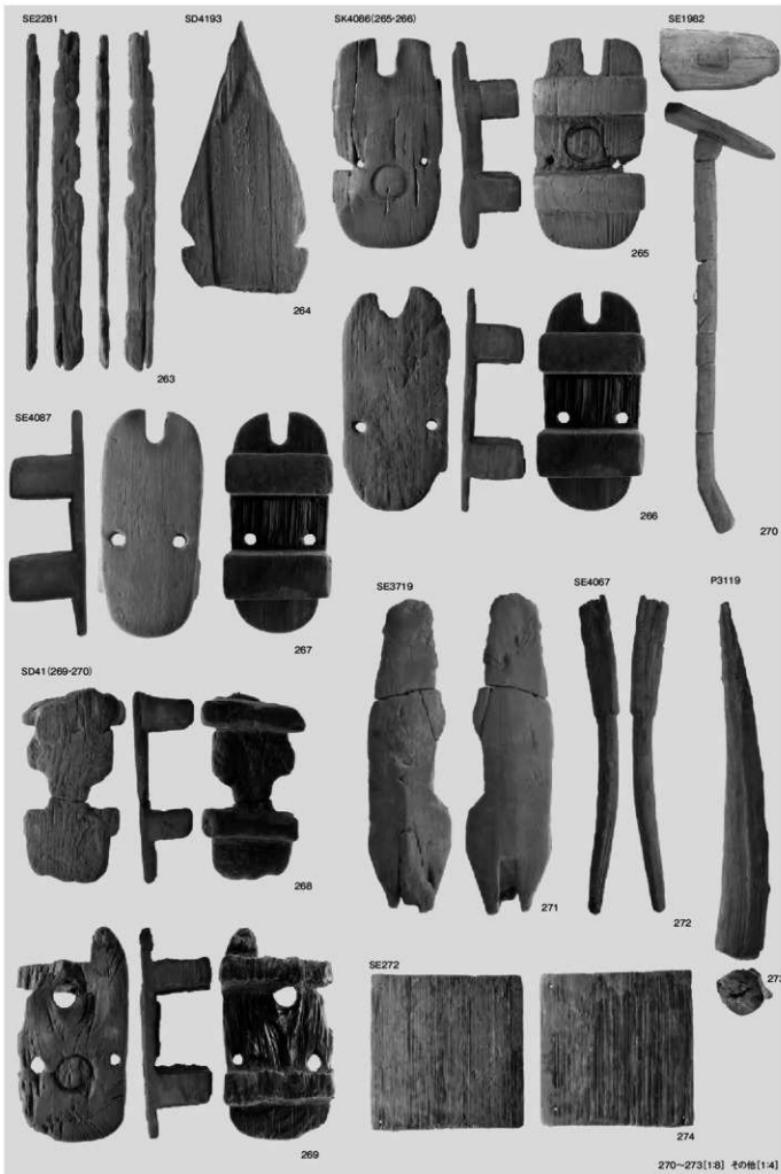




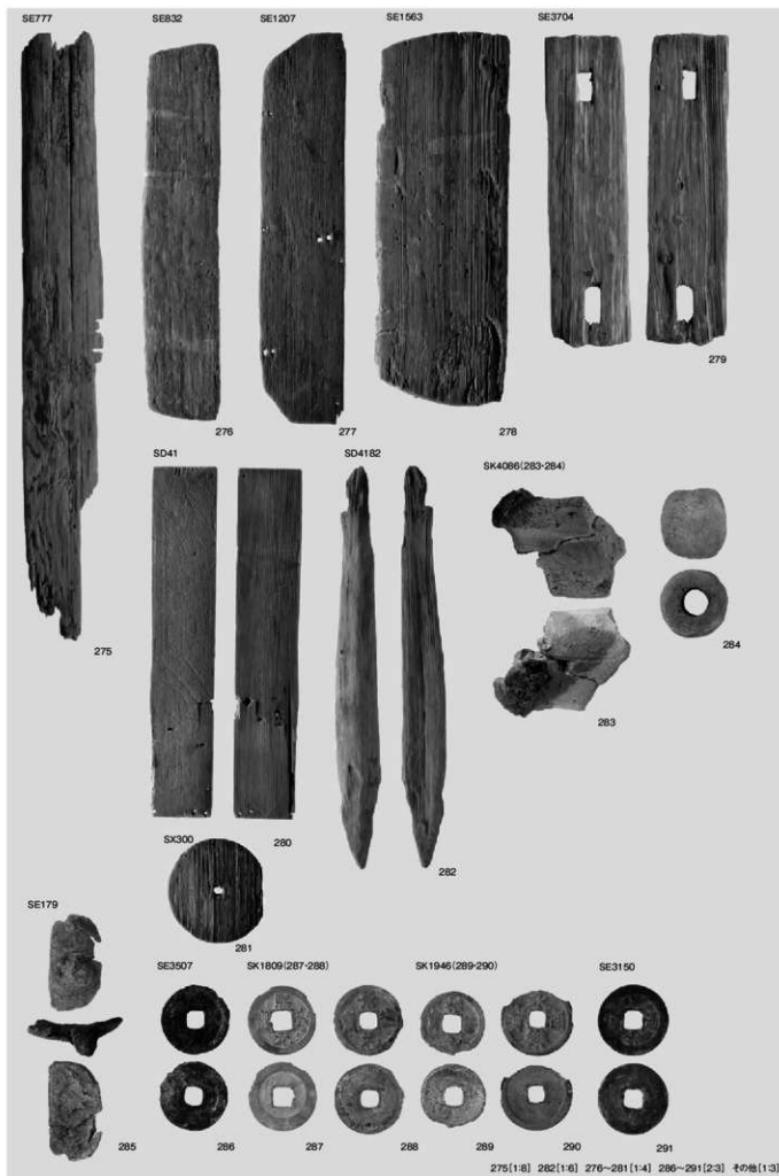








270~273[1:8] その他[1:4]



## 報告書抄録

ふりがな	おかえいせき いち					
書名	丘江遺跡I					
副書名	一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書					
卷次	XV					
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書					
シリーズ番号	第275集					
編集著者名	今井昭久（株式会社吉田建設）・春日真実・山崎忠良（公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団） パリノ・サーヴェ株式会社					
編集機関	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団					
所在地	〒956-0845 新潟県新潟市秋葉区金津93番地1 TEL 0250 (25) 3981					
発行年月	西暦2018(平成30)年3月30日					
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 道路番号	北緯 東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
丘江遺跡	新潟県柏崎市 田塚ほか	15205 1010	37° 21' 59"	138° 35' 04"	20140414 ~ 20141227	9,750 一般国道8号柏崎バイパス建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
丘江遺跡	遺物 包蔵地	弥生時代 中期～ 古墳時代 前期		弥生土器・磨製石斧	遺物が散発的に出土した。	
	集落・ 生産域	中世 近世	掘立柱建物、 井戸、土坑、 畑作溝、溝、 ビット、水田	土師質土器、輸入陶磁器、国産陶 磁器、石製品、木製品、土製品、 金属製品		
要約	丘江遺跡は、柏崎平野北西部、鶴石川左岸の沖積地上に立地する。調査の結果、中・近世（13～17世紀）の遺構・遺物を検出した。主体は14世紀中葉～後半・16世紀後半～17世紀前半である。遺構は、区画溝によって掘立柱建物や井戸・土坑を計画的に配置する様子が窺える。遺物は土師質土器、珠 織焼、唐津焼の出土が目立つ。中には、「南無阿弥陀口」・「妙法口」と記された土師質土器皿が出土するなど宗教関連の遺物も存在する。このような調査結果から、当遺跡は地域における拠点で、有力な在地勢力が所在する集落であった可能性がある。					

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第275集  
一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書XV  
丘江遺跡 I

2018(平成30)年3月29日印刷 編集・発行 新潟県教育委員会  
2018(平成30)年3月30日発行 〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1  
電話 025(285)5511  
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団  
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1  
電話 0250(25)3981  
FAX 0250(25)3986  
印刷・製本 株式会社 文化  
〒954-0057 新潟県見附市新町3丁目6番14号  
電話 0258(62)0558

## 新潟県埋蔵文化財調査報告書 第275集『丘江遺跡Ⅰ』 正誤表

2022年3月追加

頁	位置	誤	正
42	上から8・9行目	土鍤（図版63・115 283) 283は土鍤で…	土鍤（図版63・115 284) 284は土鍤で…
42	上から10・11行目	羽口（図版63・115 284) 284は羽口で…	羽口（図版63・115 283) 283は羽口で…